

# 序

東日本大震災から10年が経過した令和3年度は、未だ多くの子どもたちが避難先の学校で学習活動が続けるなど、震災に起因する課題が山積しています。さらに、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、学習活動や学校行事等で多くの制約があった年でもありました。

一方で、ICT環境の整備や研修の充実に取り組むとともに、地域コーディネーターの配置による地域課題探究活動の充実を図り、さらには震災の記憶と教訓の継承に向けた体験活動や「語り部」活動を推進するなど、子どもたちにとってより良い教育環境の充実と本県の課題そのものをテーマとした学びの充実に努めてきたところです。

このような中、県教育委員会では、「頑張る学校応援プラン」に掲げた5つの主要施策を推進しました。さらに令和3年12月には本県教育の基本方針となる「第7次福島県総合教育計画」（令和4年度～令和12年度）とその年次計画である「学びの変革推進プラン」を策定するとともに、令和4年1月には魅力ある学校づくりを進めるため、「県立高等学校改革後期実施計画」（令和6年度～令和10年度）を策定しました。福島の良いを大切に「福島ならではの」教育を掲げるとともに、多様な人々との対話や協働を大切にしながら、福島に誇りを持ち、社会や地域を創造できる人材の育成を目指して、「学びの変革」を推進していくことにしました。

さて、本教育年報は、令和3年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望できる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいているところです。

今後も本書が、教育施策を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

令和4年12月

**福島県教育委員会**

※ 本書は、旧字体等（機種依存文字）が用いられている場合、常用漢字で表記しています。また、敬称は省略しています。



# 教育年報目次

## 第1章 教育行政の概観

1 令和3年度の本県教育の概要	1
2 「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組	1
3 新しい県立高校改革計画の概要	5
4 福島県地域学校活性化推進構想の概要	8

## 第2章 教育行政

第1節	教育委員会	11
	1 教育委員会	11
	2 審議事項	11
第2節	教育庁組織	14
第3節	企画調整	15
	1 教職員現職教育計画の策定	15
	2 調整事務	15
第4節	広報・広聴	16
	1 教育委員会だより	16
	2 教育年報	16
	3 福島県の教育	16
	4 ふくしま教育ニュース	16
	5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙	17
	6 記者発表及び資料提供（投げ込み）件数	18
	7 教育フォーラム	19
	8 「ふくしま教育の日」啓発推進事業	19
	9 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト	19
第5節	調査統計	19
	1 学校統計要覧	19
	2 地方教育費調査（一般統計）	19
	3 子供の学習費調査（一般統計）	19
	4 進路状況等に関する調査	19
	5 社会教育調査（基幹統計）	20
第6節	教職員の給与	20
	1 諸手当関係	20
第7節	附属機関等	21
	1 福島県社会教育委員の会議	21
	2 福島県文化財保護審議会	22
第8節	市町村教育委員会	23
	1 概要	23
	2 組織	23
	3 令和3年度市町村教育委員会援助指導の概要	24
第9節	職員団体との話合い	24
	1 福島県教職員組合	24
	2 福島県高等学校教職員組合	24
	3 福島県立高等学校教職員組合	24
	4 福島県学校事務労働組合	25
第10節	審査請求事件及び訴訟事件	25
	1 審査請求事件	25
	2 訴訟事件	25

第11節	公益法人等の指導等並びに公益信託の状況	26
	1 公益法人等	26
	2 公益信託	26
第12節	表彰及び叙勲	26
	1 教育・文化関係表彰	26
	2 文部科学大臣表彰	27
	3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲	27
第13節	奨学育英	29
	1 福島県奨学資金	29
	2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度	29

### 第3章 教育財政

第1節	令和3年度決算	31
	1 歳入	31
	2 歳出	32
第2節	学校教育施設	34
	1 県立学校	34
	2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）	36
第3節	産業教育設備整備事業	37
	1 産業教育施設・設備の整備	37
第4節	理科教育振興法補助事業	37
	1 理科設備	37
	2 算数・数学特別設備	37
第5節	情報処理設備整備事業	37
	1 県単独事業	37
第6節	体育施設	38
	1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）	38
	2 社会体育施設整備費補助	38

### 第4章 教育の情報化

第1節	基盤整備	39
第2節	人材の育成・活用	39

### 第5章 義務教育

第1節	概要	41
第2節	学校管理	41
	1 児童生徒数・学級数と教職員定数	41
	2 教職員人事・任用	44
	3 教育職員免許状の授与状況	44
	4 学校の設置及び統廃合	45
	5 学校防火	45
	6 へき地対策	46
第3節	学校教育	48
	1 概要	48
	2 現職教育	50
	3 教育課程	52
	4 学力向上等	53
	5 道徳教育	53

6	特別活動	54
7	生徒指導・進路指導	54
8	幼稚園教育	55
9	へき地教育	55
10	環境教育	56
11	教科用図書	56
12	教育研究団体	58
第4節	国際化・科学技術の進展等への対応	61
1	中学生・高校生の科学・技術研究論文	61
2	中学生・高校生の国際理解・国際交流論文	62

## 第6章 高等学校教育

第1節	概要	63
第2節	学校管理	65
1	生徒数と教職員数	65
2	教職員人事・任用	70
3	学校の設置及び統廃合 - 公立高等学校の設置・廃止等(令和4年度) -	73
第3節	学校教育	74
1	概要	74
2	現職教育	80
3	教育課程	81
4	学力向上対策等	82
5	生徒指導・進路指導	83
6	学校行事	83
7	産業教育	84
8	学校訪問	84
9	県立学校学校教育指導委員	85
10	教科用図書	85
11	教育研究団体	85
第4節	文化活動の振興	87
1	文化活動の振興	87

## 第7章 特別支援教育

第1節	概要	91
第2節	学校管理	91
1	児童生徒数と教職員定数	91
2	特別支援学校及び特別支援学級の実態	94
3	教職員人事・任用	96
第3節	学校教育	97
1	概要	97
2	現職教育	99
3	教育課程(特別支援学校教育課程運営改善講座)	100
4	訪問教育	101
5	生徒指導・進路指導	101
6	特別活動	102
7	学校訪問	102
8	県立学校学校教育指導委員	102
9	就学指導	102
10	教科用図書	103
11	教育研究団体	103

## 第8章 体育・健康

第1節	概要	105
	1 学校体育の充実	105
	2 学校保健・学校安全の充実	105
	3 食育の推進	105
	4 学校給食の充実	106
第2節	表彰	106
	1 体育関係	106
	2 学校保健・学校安全関係	106
	3 学校給食関係	109
第3節	学校体育	109
	1 学校体育関係各種研修	109
	2 福島県高等学校体育連盟	110
	3 福島県中学校体育連盟	112
第4節	学校保健・学校安全	113
	1 学校保健・学校安全研修会等	113
	2 児童・生徒の健康管理費補助	113
	3 福島県学校保健会	113
	4 独立行政法人日本スポーツ振興センター	113
第5節	学校給食	114
	1 学校給食に関する研修会	114
	2 学校給食用パン品質調査	114
	3 食育等に関する研修会等	115
	4 学校給食関係の国庫助成実績	115

## 第9章 社会教育

第1節	概要	117
	1 社会教育一般	117
	2 地域コミュニティの再生	117
	3 家庭教育	117
	4 青少年教育	117
	5 成人教育	117
	6 子どもの読書活動推進	117
	7 ユネスコ活動	117
	8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業	117
第2節	社会教育一般	118
	1 社会教育推進体制の充実	118
	2 社会教育施設の整備充実	118
	3 社会教育関係職員の研修	118
	4 社会教育研究集会	118
	5 社会教育指導員の設置	118
	6 社会教育主事の市町村派遣	119
	7 社会教育研修会	119
	8 福島県公民館研究集会	119
	9 社会教育職員研修派遣	119
	10 出版資料	119
第3節	地域コミュニティの再生	119
	1 地域学校協働本部事業	119
	2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業	120
第4節	家庭教育	120
	1 地域でつながる家庭教育応援事業	120

第5節	青少年教育	121
	1 福島県地域学校協働本部	121
	2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業	122
第6節	成人教育	123
第7節	子どもの読書活動推進	123
	1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト	123
第8節	ユネスコ活動	124
	1 ユネスコ協会事務局一覧	124
	2 福島県ユネスコ活動研修会	124
第9節	チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業	124
	1 ふくしまキッズパワーアップ事業	124
	2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業	124
	3 心のケアが必要な子どもを対象とした事業	125
第10節	公民館等社会教育施設	125
	1 公民館を除く主な社会教育施設	125
	2 文化施設の整備充実	130
第11節	福島県立図書館	130
	1 概要	130
	2 資料の収集・整理	131
	3 館内奉仕	133
	4 館外奉仕	136
	5 図書館協力	137
第12節	福島県立美術館	139
	1 概要	139
	2 美術品の収集・保存	139
	3 展示事業	140
	4 調査研究事業	143
	5 教育普及事業	143
	6 館外連携	145
	7 施設・設備の整備	146
第13節	福島県立博物館	146
	1 概要	146
	2 資料収集事業	146
	3 保存管理事業	147
	4 展示事業	148
	5 調査研究事業	151
	6 教育普及事業	154
	7 文化財・自然資料レスキュー	161
	8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト	162
	9 ライフミュージアムネットワーク	162
	10 三の丸からプロジェクト	163
第14節	福島県自然の家	164
	1 概要	164
	2 教育目標及び基本的視点	164
	3 新型コロナウイルスの影響	165
第15節	福島県郡山自然の家	165
	1 概要	165
	2 施設・設備の概要	166
	3 利用状況	166
	4 企画事業	166
第16節	福島県会津自然の家	170
	1 概要	170
	2 施設・設備の概要	171
	3 利用状況	171

	4 企画事業	171
第17節	福島県いわき海浜自然の家	173
	1 概要	173
	2 施設・設備の概要	175
	3 利用状況	176
	4 企画事業	176

## 第10章 文化財

第1節	文化財保護体制の充実	179
	1 指定文化財保護体制の充実（文化財パトロール）	179
	2 文化財保護指導者研修会	179
	3 市町村文化財保護担当者会議	179
第2節	埋蔵文化財の保護の充実	179
	1 埋蔵文化財保護体制	179
	2 開発事業地内の保護対策	179
	3 令和3年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況	180
	4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修	180
	5 埋蔵文化財保護普及活動	180
	6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業	180
	7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数	181
	8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査	181
	9 令和3年度 試掘・確認調査	182
	10 令和3年度 発掘調査	182
第3節	文化財保存助成の充実	183
	1 文化財保存助成事業	183
	2 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）	183
	3 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）	184
第4節	文化財の保護と公開の推進	185
	1 第63回北海道・東北ブロック民俗芸能大会	185
	2 文化財保護強調週間の実施	185
	3 文化財防火デーの実施	185
第5節	銃砲刀剣類の登録状況	185
	1 登録審査委員	185
	2 登録審査会の実施状況	185
	3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況	185
第6節	福島県文化財センター白河館の運営状況	186
	1 入館者数	186
	2 入館者の内訳と傾向	186
	3 団体利用者の内訳と傾向	186
	4 情報発信事業の利用者	187
	5 資料管理業務	187
	6 研修事業の状況	187
	7 体験学習事業の状況	188
	8 講演会・講習会	189
	9 常設展事業	189
	10 企画展事業	189
	11 ボランティア運営事業	189
	12 市町村への技術支援の状況	189
	13 その他	189



## 第11章 福利厚生

[教職員の健康管理・福利厚生事業]

第1節	概要	191
第2節	事業実績	191
	1 教職員の健康管理	191
	2 保健事業	193
	3 厚生事業	194
第3節	貸付事業	196
	1 共済組合	196
第4節	宿泊・保養施設	196
第5節	児童手当（特例給付を含む）	196
第6節	財産形成貯蓄制度	196

[福利給付事業]

第7節	概要	196
第8節	短期給付	197
	1 共済組合	197
	2 互助会	197
第9節	長期給付	198
	1 恩給	198
	2 退職手当	198
	3 年金	199

## 第12章 福島県教育センター

第1節	概要	201
	1 調査・研究事業	201
	2 研修事業	201
	3 情報教育事業	201
	4 教育相談事業	201
	5 教育図書・資料事業	201
第2節	調査・研究事業	202
	1 調査・研究	202
	2 長期研究員制度による研究	203
第3節	研修事業	203
	1 研修講座の概要	203
	2 研修講座	205
	3 指導主事派遣等	208
第4節	情報教育事業	208
	1 研修講座の概要	208
	2 施設利用概況	209
第5節	教育相談	209
	1 対象別	209
	2 区分別	209
	3 地区別来所相談件数	209
	4 月別相談件数・回数	209
第6節	教育図書・資料事業	209
	1 教育図書・教育資料の収集	209
	2 教育資料の刊行	209

## 第13章 福島県特別支援教育センター

第1節	概要	211
	1 教育相談事業	211
	2 教職員研修事業	211
	3 プロジェクト研究・教育研究事業	211
	4 教育図書・資料の収集・提供事業	212
	5 広報・啓発事業	212
	6 情報教育事業	212
第2節	教育相談事業	212
	1 相談対象	212
	2 形態	212
	3 現状と課題	212
第3節	教職員研修事業	213
	1 教職員の研修講座	213
第4節	プロジェクト研究・教育研究事業	215
	1 プロジェクト研究	215
	2 教育研究	216
	3 長期研究員制度による研究	217
第5節	教育図書・資料の収集・提供事業	217
	1 教育図書・資料の収集・整理	217
第6節	広報・啓発事業	218
	1 所報「特別支援教育」(74号)	218
	2 研究紀要「第35号」	218
第7節	情報教育事業	218
	1 ICT活用支援	218
	2 情報機器活用	218
	3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実	218

# 第1章 教育行政の概観

## 1 令和3年度の本県教育の概要

東日本大震災、原子力発電所事故から10年が経過してもなお、多くの子どもたちが県内外への避難生活を続けているなど厳しい状況が続いているが、富岡支援学校の双葉郡内での再開に向けて整備を進めるなど、本県教育の復興に向けて着実に取り組んだ。また、今後の県立学校の在り方を方向付けるため、「県立高等学校改革前期実施計画」に基づく改革懇談会を開催するとともに、令和4年1月には「県立高等学校改革後期実施計画」を策定したほか、第二次福島県特別支援学校全体整備計画に基づく特別支援学校の整備を進めた。

このような中、県教育委員会においては、平成29年3月に策定し、令和3年3月に一部改定した教育政策の骨太の方針「頑張る学校応援プラン」に掲げた主要施策を戦略的に推進し、本県教育の充実を図った。新型コロナウイルス感染症の影響により延期されていた福島県総合計画が令和3年10月に策定されたことに伴い、部門別計画である第7次福島県総合教育計画を令和3年12月に策定した。本計画では、福島の良さを大切に「福島ならではの」教育を進めるとともに、それを実現するため、一方通行の画一的な授業から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」を掲げ、その年次計画として「学びの変革推進プラン」を策定し、当該年度に具体的に実施する取組を明らかにした。

学習内容の定着度や学力の伸びの把握、学習に対する意識や生活状況を調べる2回目(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)の「ふくしま学力調査」を実施し、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図った。

GIGAスクール構想により義務教育段階における1人1台端末の整備が進み、新時代の学びを支えるICT活用プロジェクトでは、ICTを活用した探究的な学びや情報モラル教育を実現するために研究実践を行った。その環境で学んだ中学生が高校に進学することを踏まえ、高校段階での個人所有端末の導入に向けた制度設計や無線LAN環境整備、モデル校での活用事例の研究等を行った。さらに、全ての県立学校にICT支援員を配置し、ICT機器の活用支援やメンテナンス支援を行った。

震災や復興に関する地域課題探究学習の実施及び成果の発信等を行う「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」を新たに実施し、震災に関わる風化防止、風評払拭につなげた。「ふくしま創生人財育成事業」については、会津地区の県立高校2校に加え、県南地区1校に地域コーディネーターを配置し、人材ネットワークバンクによる地域人材活用の仕組みの構築等を進めるなど、地域課題探究活動の充実を図った。また、コミュニティ・スクールを県立高校3校に加え、新たに3校に設置するなど、福島県地域学校活性化推進構想に掲げる地域との連携・協働を進めた。

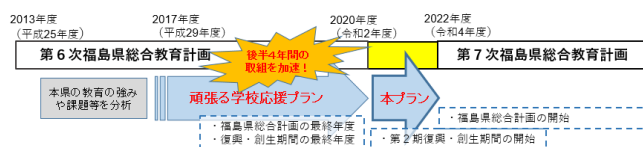
一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学

びの保障に向けた取組の必要性が高まるとともに、各種行事・研修等が中止又はオンラインへの代替になるなど、大きな影響があった。

## 2 「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組

### (1) 「頑張る学校応援プラン」

#### ア 性質



第6次福島県総合教育計画の後半4年間の取組を加速させるべく、教育政策の骨太の方向性と必要な主要施策を厳選して打ち出したもの。

なお、第7次福島県総合教育計画が策定中であることを踏まえ、切れ目なく施策を展開するための指針として、1年限りの取扱いとし、次期総合教育計画を見据えながら一部改定した。

#### イ 特徴

本県の教育をめぐる現状について、データによる分析を行い、本県の強みや課題を「見える化」した。

課題等に応じた有効な「手立て」として5つの主要施策を掲げ、戦略的に実行することとした。

#### ウ 主要施策及び対応する主な取組

##### 主要施策1 学力向上に責任を果たす

- 取組1 ふくしま学力調査やリーディングスキルテストを用いた学力向上
- 取組2 「授業スタンダード」による授業力の向上
- 取組3 苦手分野の指導の充実、教員の指導力の向上
- 取組4 学力向上と生徒の志の育成につなげる高校入試(ふくしま中高接続改革)
- 取組5 SDGsの視点も活用した、探究的な学びによる学力向上
- 取組6 ICTを活用した新しい時代にふさわしい教育

##### 主要施策2 教員の指導力、学校のチーム力の最大化

- 取組1 学校における達成目標や特色の明確化
- 取組2 多忙化解消アクションプランの推進
- 取組3 同僚間で学び合うアクティブ・ラーナーとしての教員へ
- 取組4 教員研修の質的充実
- 取組5 教職員志願者の確保

##### 主要施策3 地域と共にある学校

- 取組1 福島県地域学校活性化推進構想の推進
- 取組2 県立高校へのコミュニティ・スクールの設置
- 取組3 地域課題探究活動の推進

#### **主要施策4 ふくしまの未来に向けた創造的復興教育**

- 取組1 元気な福島の発信と震災の教訓の継承
- 取組2 福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成
- 取組3 12市町村の特色ある教育(学校再開支援チーム)
- 取組4 「変革者たれ！」ふたば未来学園の中高一貫教育
- 取組5 小高産業技術高校における小高ならではの教育
- 取組6 「新」双葉地区教育構想の推進

#### **主要施策5 学びのセーフティネットの構築**

- 取組1 子どもたちの心のケアの充実
- 取組2 健康長寿に向けた子どもたちの健康教育の推進
- 取組3 家庭の経済状況等に関わらない学びの環境整備
- 取組4 特別支援教育の環境の充実
- 取組5 スマートフォン・インターネットとのつきあい方

### (2) 「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組

#### **主要施策1 学力向上に責任を果たす**

##### **継続 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業**

学習内容の定着度や学力の伸びの把握、学習に対する意識や生活状況を調べる2回目(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)の「ふくしま学力調査」を実施し、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図った。

##### **継続 「ふくしま活用力育成シート」実践事業**

児童生徒の思考力・判断力・表現力等の活用力の育成状況を把握し、日々の授業改善に活用できる「ふくしま活用力育成シート」を、小学4年生から中学2年生を対象に、8月、11月の年間2回に渡りホームページに掲載した。

##### **一部新 ふくしまの学校キラリ学力向上推進事業**

「教科担任制」「タテ持ち」の実施による教員の指導力向上や授業の質的改善、研究協力校での読解力向上に関する指導法の確立やカリキュラムの開発に取り組むなど、教育実践拠点校(キラリ校)が、各学校の魅力化・特色化を図りながら、学力向上に向けた取組への支援を行った。

##### **新規 ふくしま外国語教育創生事業**

教員の英語力向上と授業改善を図る英語担当教員ネクストステージ事業を実施した。小中のつながりを意識した指導の充実と児童生徒の英語力向上を目指して小中英語パートナーシップ事業を実施した。

##### **新規 英語教育改善推進事業**

4技能のバランスのとれた英語力育成のため、学びの過程を可視化することによる学習サイクルを構築し、自律した英語学習者を育成するとともに、教員の英語力・指導力の向上を図り生徒の英語力向上を推進した。

##### **継続 英語でつなぐ復興の架け橋支援事業**

本県の復興を担うグローバルな人材を育成するため、高校の海外研修の旅費の一部を支援する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により渡航を中止した。英語プレゼンテーションコンテストは予定通り実施した。

##### **継続 語学指導等を行う外国青年招致事業**

県立学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、訪問による指導を行い、生徒の英語コミュニケーション能力の向上や、国際理解の深化を図った。

##### **継続 オールふくしま学力向上推進事業**

難関大学への進学を志望する生徒を対象とする合同学習会の開催や、各校における理数教育や思考力等を育む取組を支援することで、高校生の学力向上を推進した。

##### **継続 少人数教育推進事業**

小学校、中学校において30人学級、30人程度学級編制に必要な教員を配置した。

##### **継続 ふくしまの未来をひらく読書のカ プロジェクト**

県内各地域で活躍できる読書活動支援者を育成することにより、より良い読書環境づくりを進めた。

##### **継続 未来へはばだけ！イノベーション人材育成事業**

福島の復興に資する地域に根ざした新たな産業を創出する人材育成のため、「福島イノベーション・コースト構想」による児童生徒へのキャリア教育を加味した理数教育の推進を図った。

##### **新規 持続可能な社会に向けた産業教育充実事業**

学校と地域企業が連携し、地域課題の解決を図る取組やインターンシップ、ロボット製作等を通して、生徒の職業観、勤労観の醸成、生徒の主体的な進路選択の能力と態度を育成した。

##### **継続 ふくしまで生活基盤を築くための高校生支援事業**

生徒面談や講話などを通して、社会人として自立するためのサポートを行った。また、県外に避難している高卒就職希望者の帰還を支援するため、求人情報等の提供を行った。

##### **継続 ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業**

医療に携わることで復興や社会に貢献したいと考える高校生の夢を実現させるため、地域医療現場の体験学習等を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

##### **継続 GIGAスクール構想実現事業**

県立学校に無線LAN環境を導入するとともに、義務教育段階の児童生徒1人1台端末の整備を行った。

##### **一部新 新時代の学校におけるICT環境研究開発事業**

新学習指導要領及び新時代の学びに必要なICT環境の整備を進めるため、指導力向上開発校を中心に指導法の開発・検証や事例の蓄積を行った。

##### **継続 教育用コンピュータ整備事業**

情報化教育を実践するため、県立高等学校に教育用コンピュータを整備した。

##### **新規 新時代の学びを支えるICT活用プロジェクト**

一人一台端末整備後の授業充実を目指す「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」、児童生徒の情報モラルの醸成を目指す「次世代のためのメディアリテラシー育成事業」を両輪で展開し、実践例を普及した。

## **主要施策2 教員の指導力、学校のチーム力の最大化**

### **継続 新任校長・副校長・教頭・主幹教諭研修会**

学校管理、学習指導、生徒指導等に関する諸問題について、教職員のリーダーとして全校的視野に立つ指導力の深化を図る研修を行った。

### **一部新 福島スクール・サポート・スタッフ事業**

小学校90校、新型コロナウイルス感染対策として小・中・高・特別支援学校580校へスクール・サポート・スタッフを配置した。学習プリントの印刷等教員の補助業務や消毒作業等を担い、勤務時間の削減等に寄与した。

### **継続 部活動指導員配置促進事業**

適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を推進するため、部活動指導員を中学校に75名、高校に72名を配置し、担当する教員の支援及び部活動の質的向上を図った。

### **一部新 統合型校務支援システム整備事業**

情報セキュリティの向上や、調査書の電子化への対応など、学習成績を含む児童生徒の個人情報等を一元管理するシステムの運用を継続した。

### **継続 県立学校IT環境整備事業**

県立学校等へのMicrosoft Office等の包括ライセンスの提供を継続した。

### **継続 優秀教職員による学校のチーム力向上事業**

優秀教職員に表彰された教職員を対象に、研修会や先進校視察等に参加させ、個々の教員が持つ長所の更なる伸長を図るとともに、研修成果を広く普及させた。

### **継続 教職員の資質向上に向けた研修の充実**

今日的な教育課題や教職員のライフステージに応じた研修を体系的・計画的に行い、教職員の資質向上を図った。

### **継続 教員研修の充実**

特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室、特別支援教育コーディネーター等の教員を対象に、より専門的な研修を実施し、指導力の向上を図った。

### **継続 児童生徒の体力向上推進事業**

幼稚園の教員に対し、体育授業等における指導力向上のための研修を行った。

### **継続 学校すこやかプラン**

児童生徒の現代的健康課題を解決するため、地域の保健関係機関や保護者との効果的な連携を図り、支援体制の整備充実や健康教育担当教員の資質向上に係る研修会を行った。

### **継続 校長・教頭のためのマネジメント講座**

校長及び教頭の管理職としての資質を向上させ、学校経営、運営面での体制を強化する研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

### **継続 優秀教職員表彰制度**

学習指導や生徒指導等において、日常的に努力を積み重ね顕著な成果を挙げている教職員を表彰し、教職員の志気を高め、教育活動全体の活性化を図った。

## **主要施策3 地域と共にある学校**

### **一部新 地域学校協働本部事業**

地域の窓口となる「地域コーディネーター」の配置と学校の窓口となる地域連携担当教職員を任命し、地域と学校の連携・協働のもと、社会全体で子どもたちの成長を支える体制づくりを促進した。

### **継続 福島県地域学校協働本部事業**

学校支援ボランティアの登録と活動のコーディネート等を進め、地域で教育を支える仕組み作りを進めた。

### **継続 学校評議員制度の導入の促進**

保護者や地域住民等の意向を把握・反映させ、学校経営を改善し、開かれた学校づくりを進めるため、学校評議員制度の導入を促進した。

### **継続 学校評議員による学校関係者評価の実施**

保護者や地域住民等の意向を把握・反映させ、学校経営を改善することにより開かれた学校づくりを進めた。

### **継続 学校評価の充実**

市町村立学校が教育活動の成果等について適切に説明責任を果たし、学校経営を改善することにより、開かれた学校づくりを進めるため、学校評価の適切な実施と効果的な活用を促進した。

### **継続 地域でつながる家庭教育応援事業**

P T Aと連携して親自身が学ぶ機会を充実させたほか、企業と連携して地域の家庭教育推進を働きかけた。

### **継続 県立高校コミュニティ・スクール推進事業**

これまで導入した3校に加え、新たに導入した3校において、教職員、地域住民対象の研修会や講演会、生徒対象のワークショップを開催した。

### **継続 ふくしま創生人財育成事業**

全県立高校で地域課題探究活動を推進するため、ふくしま創生サミットや社会貢献活動コンテストを開催した。また、モデル事業として、県南・会津地区の拠点校3校に「地域コーディネーター」を配置し、該当校の探究学習を充実させたほか、県立高校19校を指定し特色ある様々な教育活動を支援した。

### **新規 統合校魅力化発信強化事業**

新たに開校する統合校において、国内外へ向けた地域の魅力・特色の発信や地域住民との地域課題解決についての意見交換を実施した。

## **主要施策4 ふくしまの未来に向けた創造的復興教育**

### **新規 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業**

震災や復興に関する地域課題探究活動の実施とその成果の発信を行う「実践校」に27校を指定して支援するとともに、「実践校」の代表生徒による交流会や、他県高校生との交流会、教員による県伝承館研修等を実施した。

### **継続 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業**

子どもたちが充実した自然体験活動等を行う機会を通し、心身共に健康で豊かな人間性を育成するとともに、社会体験活動を通して、主体的に復興に寄与するたくましい子どもたちの育成を図る取組を支援した。

### 一部新 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

人と人との関わりの中で感じた思いや願い、震災からの更なる復興などを綴った十七音の作品を募集し、県内外に広く発信した。

### 継続 オリンピック・パラリンピック教育推進事業

各学校で、オリンピック・パラリンピック教育を実施し、県全体の機運醸成を図るとともに、スポーツの価値や国際・異文化の理解等の多面的な教育を通じて児童生徒の育成を図った。

### 継続 道徳教育総合支援事業・人権教育開発事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

大震災の経験を踏まえ、「いのち」「家族愛」「郷土愛」等について系統的に学ぶため、福島県独自の読み物資料の活用促進や、ゲストティーチャーの派遣を行った。

人権意識を培うため幅広い観点から実践的な研究を行い、指導方法等の改善及び充実を図った。

### 継続 福島イノベーション人材育成支援事業

福島イノベーション・コースト構想推進機構に委託し、対象校と企業・大学等との連絡調整や課題等に対する相談・助言、成果発表会、生徒間交流会を実施した。

### 一部新 福島イノベーション人材育成実践事業

構想を担う人材育成のため、新たな教育プログラムの実施に必要な環境を整備し、大学や企業、自治体と連携し、魅力あるプログラムを実践した。

### 新規 福島イノベーション人材育成事業

浜通り地区に限らず、県内全域において構想に関わる企業等と専門高校が連携し、産業人材の育成を組織的に展開した。

### 継続 福島県教育復興推進事業

「ふるさと創造学」を始めとする双葉郡8町村の小中学校での教育活動を、双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局と連携し支援した。ふたば未来学園中学校・高校及び南相馬地域高校において、外部講師の招へい、講演会や研修授業、フィールドワーク等の教育活動を支援した。

### 継続 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

ふたば未来学園高校が企業や大学等と連携し、地域の課題解決に向けた探究活動と海外研修を体系的に位置づけた質の高いカリキュラムの開発・実践に取り組んだ。海外研修は、国内代替研修として実施した。

### 一部新 ふたば未来学園運営管理事業

ふたば未来学園高等学校の寮及び食堂の施設を運営するための事業を行った。

### 継続 双葉地区教育構想（国際人育成プラン）

震災からの復興に向けて国際社会に貢献できるグローバル人材の育成等を図るため、スポーツ交流事業や国際理解事業に取り組む予定であったが、スポーツ交流事業は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止した。国際理解事業は実施した。

### 継続 学校改革推進事業

高校の統合、募集停止等に係る関係者からの意見を聴く機会とするための懇談会を開催したほか、中高一貫教育を推進するための協議会の開催、交流授業や地域理解教育等を行った。

## 主要施策5 学びのセーフティネットの構築

### 継続 不登校・いじめ等対策総合推進事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

東日本大震災・原発事故以降、不登校等生徒指導上の諸課題やいじめ等の問題行動の原因が複合化・多様化しており、学校と関係機関が連携・協力できる体制を整え、効果的な援助体制の充実を図った。

### 継続 教育相談推進事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの派遣、24時間電話相談体制の整備など、子どもたちの心や生活のケアに当たった。

### 継続 スクールカウンセラー活用事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

大震災で被災した高校生等の心のケアや、生徒指導の諸課題の未然防止と的確な対応、SNSを活用した相談体制の整備などを行った。また、震災の影響で安定した生活環境や学習環境を取り戻せていない生徒に対して、心のサポートに資する学習支援を実施した。

### 継続 復旧・復興の基盤づくりのための教員配置

震災で被災した児童生徒に対し、日常的な心のケアやきめ細かな学習支援をするための教員を配置した。

### 新規 ふくしまっ子健康マネジメントプラン

震災後の子どもたちの体力低下や肥満傾向児出現率の増加などの健康課題を解決するため、自分手帳の活用や体育専門アドバイザー、栄養教諭等の派遣により、運動能力の向上や食育等による健康増進に向けた取組を行った。

### 継続 未来キッズ生き生き事業

自然の家において、フィールドアスレチック等を活用した様々な体験活動を楽しめる事業を開催し、自然体験や体を動かすことの魅力を伝え、運動不足解消や体力増進につなげた。

### 継続 ふくしまから はじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業

元気なふくしまっ子を育むため、関係部局等と連携して、学校、家庭、地域が一体となった食育推進体制を整備した。

### 継続 学校給食安全・安心対策推進事業

学校給食の食材に対する保護者等の不安を軽減し、学校給食の一層の安全・安心を確保するため、放射性物質検査を実施した。

### 継続 被災児童生徒等就学支援事業

東日本大震災による被災や、原子力発電所の事故により避難している児童生徒、及び台風19号により被災した児童生徒に就学支援を行った。

### 継続 高校等奨学資金貸付事業

経済的理由により就学困難と認められる高校生等に奨学資金の貸与を行った。

### 継続 大学等奨学資金貸付事業

経済的理由により修学困難と認められる大学生等に奨学資金の貸与を行った。また、大学等へ入学しようとする生徒へ入学一時金の貸与を行った。

## 継続 高校等奨学資金給付事業

低所得世帯の高校生等の授業料以外の教育費負担を軽減するため、奨学資金を給付した。

## 継続 特別支援学校特別支援教育就学奨励費

特別支援学校に就学する幼児児童生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じて必要な費用を交付した。

## 継続 夜間中学調査・研究事業

義務教育未修了者の就学機会、不登校等で通学できなかった既卒者への学びなおしの機会、外国籍の方への就学機会の確保のため、設置を目的とした調査研究を行った。

## 継続 長寿命化事業

老朽化が進んでいる県立学校・特別支援学校の校舎等の大規模改修、天井等の落下防止対策を行った。

## 一部新 特別支援学校整備事業

特別支援学校への入学希望者の増加による教室の過密化や遠距離通学による負担軽減を図るため、学校や分校を設置し、教育環境の充実を図った。

## 一部新 県立特別支援学校学習環境整備事業

特別支援学校の学習環境整備のため、新たな施設の供用開始に伴う物品の整備を行った。

## 一部新 未来へつなぐ子育て・教育充実事業

特別な支援を必要とする子どもたちの就学前から学校卒業後までの切れ目のない支援体制構築のため、小・中学校等や関係機関との連携強化を図りながら養育や教育に関する相談体制の充実を図った。

## 継続 夢に向かってテクノチャレンジ事業

特別支援学校高等部に在籍する生徒の自立と社会参加を促すため、「特別支援学校作業技能大会」を開催した。

## 継続 高等学校学習支援推進事業

学習の遅れや東日本大震災による環境の変化への不応等が見られる発達障がい等のある生徒が多く在籍する高等学校に学習支援員を配置し、生徒の特性に応じた手厚い学習支援を行った。

## 継続 身体に障がいのある生徒に対する支援事業

肢体不自由等の重度の障がいのある生徒が在籍する高等学校に対し、介助員を配置した。

## 継続 特別支援学校における医療的ケア実施事業

障がいの重度・重複化に伴い医療的ケアを必要とする児童生徒等が、健康で安全・安心な学校生活を送ることができるよう医療的ケアを実施し、保護者の負担を軽減した。

## 新規 安積中高一貫校整備事業

全県的な中高一貫教育を展開するため、安積高校内に併設型の中学校の整備を進めている。

## 3 新しい県立高校改革計画の概要

これまで県教育委員会では、1997年（平成9年）6月に「県立高等学校改革計画第一次まとめ」（以下、「一次まとめ」という。）、1999年（平成11年）3月に「県立高等学校改革計画第二次まとめ」（以下、「二次まとめ」という。）を策定

し、すべての県立高等学校における男女共学化や学校規模の適正化、学校・学科の適正配置、新しいタイプの定時制単位制高等学校の配置などの取組を進めてきた。

「一次まとめ」及び「二次まとめ」が策定された後も、グローバル化や高度情報化が進展し、産業構造や就業構造の変化等が急速に進む中で、高等学校教育には、多様化する生徒の進路希望への対応、キャリア教育の充実、地域との連携の一層の推進などが求められてきた。

さらに、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災及び原子力災害などにより、児童生徒数の減少が震災前の予測を大きく上回り、今後10年間で中学校卒業見込者は約5,300人減少することが見込まれており、教育を取り巻く様々な状況は、「二次まとめ」の策定時から大きく、急激に変化している。そこで、今後の急激な社会情勢の変化も考慮しながら長期的な改革の方向性を示し、計画的かつ着実に改革を推進する必要性が生じてきた。

このような中、県教育委員会は、福島県学校教育審議会に対して、2016年（平成28年）5月、「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」諮問を行い、部会を含めて10回にわたる審議の後、2017年（平成29年）6月に答申を受けた。この答申を踏まえ、県教育委員会では、県立高等学校改革を着実に推進するために、「一次まとめ」及び「二次まとめ」の取組・現状や成果・課題を土台として、今後10年間の県立高等学校改革の方向性を示す基本計画（長期計画）を2018年（平成30年）5月に策定し、併せて、再編整備の具体的な対象校名を含む前半5年間の実施計画（短期計画）を2019年（平成31年）2月に、後半5年間の実施計画（短期計画）を2022年（令和4年）1月に策定した。

### (1) 県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）

#### ア 基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくり」

#### イ 計画の概要

上記の理念をもとに、高等学校における学びを通じて、地域に軸足を置きながら多様な主体と関わり、自己のアイデンティティと郷土への誇りを育み、生徒一人一人の志を実現させることができるよう、教育の質を向上させることとし、そのために、各高等学校の新たな在り方を検討し、再編整備と特色化を図る中で、より良い教育環境を提供することによって、生徒一人一人の資質や能力を向上させることのできる魅力ある高等学校づくりを推進することを目標に、以下の4つの基本方針と17の取組に沿って高等学校教育の充実を図ることとした。

#### 基本方針1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む高等学校教育の推進

- (1) 生き抜く力を支える確かな学力の向上に向けた取組の推進
- (2) 豊かなこころを育成する取組の推進
- (3) 体力の向上や健康増進に向けた取組の推進
- (4) 様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育

成する取組の推進

- (5) 地域と連携し、地域の特色を生かした学校づくりの推進

#### 基本方針2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

- (6) 多様な学習機会の充実
- (7) 中高一貫教育の推進
- (8) 学びのセーフティネットの推進
- (9) 一人一人の夢を実現させる教育力の向上

#### 基本方針3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

- (10) 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模
- (11) 望ましい学校規模への再編整備の推進
- (12) 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- (13) 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- (14) きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- (15) 学校の特色化と情報発信

#### 基本方針4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の向上

- (16) 過疎・中山間地域の学習機会の確保
- (17) 過疎・中山間地域における教育環境の向上

### (2) 県立高等学校改革前期実施計画（2019年度～2023年度）

#### ア 県立高等学校改革前期実施計画策定の趣旨

本計画は、県立高等学校改革基本計画を実効的、計画的に推進し、計画の理念を具現化するために、より具体的な高等学校改革の方向性と再編整備の具体的な対象校を含む前期5年間の方向性を示したものである。

策定に当たっては、第6次福島県総合教育計画の後半4年間における取組を重点化した「頑張る学校応援プラン」との整合性を図るとともに、基本計画の4つの基本方針に沿って、本県の高等学校全体の在り方を示した上で、各地区の中学校卒業見込者数の今後の推移、近年の各高等学校の志願動向や中学3年生の進路希望等を考慮した。また、各高等学校が所在する地域の実状や本県で求められる人材育成の観点等も考慮し、すべての県立高等学校の今後5年間の方向性を示すこととした。

#### イ 計画の概要

##### ○ 本県の高等学校教育の質的向上に向けた取組の推進

- (1) 学力の向上を目指した取組の推進
- (2) 様々な課題に果敢に取り組み、社会に貢献する自立した人材の育成
- (3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進
- (4) 生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育の推進
- (5) 地域とともにある学校づくりの推進
- (6) 安心して学ぶことのできる環境の支援
- (7) 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進
- (8) 高等学校における特別支援教育の推進
- (9) ICT機器を活用した教育の充実
- (10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置

##### ○ 社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり

###### (1) 県立高等学校の再編整備案

以下の再編整備案を公表した。

【統合】25の対象校に係る12の統合案

梁川・保原、二本松工業・安達東、須賀川・長沼、白河実業・塙工業(併せて修明高校への農業科の集約)、喜多方・喜多方東、耶麻農業・会津農林、大沼・坂下、田島・南会津、湯本・遠野、小名浜・いわき海星、相馬東・新地、保原(定時制)・福島中央

【分校の募集停止】2校の募集停止案

安積高等学校御館校、修明高等学校鮫川校

###### (2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置

川俣、湖南、猪苗代、西会津、川口、只見(湖南、西会津、川口は平成30年度に先行実施)

###### (3) 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校の特色化

様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する教育活動の推進や、多様な学習内容の確保及び教育の質の向上の観点から、すべての県立高校を「進学指導拠点校」「進学指導重点校」「キャリア指導推進校」「地域協働推進校」「職業教育推進校」「定時制・通信制高校」の6つの学校群のいずれかに位置づけ、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動を展開できるよう、前期計画期間中の各校の改革の方向性を示した。

### (3) 県立高等学校改革後期実施計画（令和6年度～令和10年）

#### ア 県立高等学校改革後期実施計画策定の趣旨

本計画は、県立高等学校改革基本計画の理念を具現化するために、県立高等学校改革の内容や再編整備の具体的な対象校等について5年単位の実施計画（短期計画）を前期・後期に分けて策定することとしたうち、後期5年間（令和6～10年度）の具体的な取組を示したものである。策定に当たっては、令和3年12月に策定した第7次福島県総合教育計画を踏まえている。

#### イ 計画の概要

##### ○ 本県の高等学校教育の質的向上に向けた取組の推進

後期計画においても、前期計画と同様に、基本計画に示した4つの基本方針を具現化し、社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0の時代に必要な資質・能力を身につけた人材の育成を目指して、「福島ならではの教育の充実を図ることとした。

- (1) 学力の向上を目指した取組の推進
- (2) 様々な課題に果敢に取り組み、社会に貢献する自立した人材の育成
- (3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進
- (4) 生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育の推進
- (5) 地域とともにある学校づくりの推進
- (6) 安心して学ぶことのできる環境の支援



- (7) 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進
- (8) 高等学校における特別支援教育の推進
- (9) ICT機器を活用した教育の充実
- (10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置

**○ 社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり**

- (1) 県立高等学校の再編整備案  
以下の再編整備案を公表した。  
【統合】8の対象校に係る4の統合案  
福島西・福島北、船引・小野  
平商業・四倉、いわき総合・好間
- (2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置  
石川
- (3) 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校の特色化  
前期計画に引き続き後期計画においても、すべての県立高校を6つの学校群のいずれかに位置づけ、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動が展開できるよう、後期計画期間中の各校の改革の方向性を示した。※特色化のため探究科などの特色ある学科の設置を推進する。

**(4) 中高一貫教育後期実施計画**

**ア 中高一貫教育後期実施計画策定の趣旨**

中高一貫教育は、中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的、継続的な教育課程及び学習環境のもとで一貫した教育を行うことにより、生徒一人一人の能力・適性、幅広い年齢集団の中での様々な活動により社会性や豊かな人間性を育てていくとともに、学校選択の幅を拡大することを目指して、1999年（平成11年）4月に制度化された。

本県においては、福島県学校教育審議会答申（2001年（平成13年）12月）及び第5次福島県長期総合教育計画（2001年（平成13年）3月）に基づき、本県の教育目標を達成するための施策のひとつである「学びの環境づくり」の一環として、中高一貫教育の導入にかかる基本的な考え方や、中高一貫教育校の形態、配置計画等を示すものとして、2003年（平成15年）3月に「中高一貫教育実施計画」（以下、「前期実施計画」という。）を策定した。

「前期実施計画」に基づき、中高一貫教育校の配置については、広い県土を持つ本県において、児童、生徒、保護者が希望に応じて選択することができるよう配慮し、第5次福島県長期総合教育計画の目標年次である2010年度（平成22年度）までの期間を前期とし、併設型中高一貫教育校として会津学鳳高等学校に併設中学校を開設したほか、連携型中高一貫教育校を東白川郡塙町（塙工業高等学校）、南会津郡南会津町（田島高等学校）、相馬市（相馬東高等学校）に配置した。「前期実施計画」の期間後、東日本大震災・原子力災害等の影響により後期実施計画の策定は中断していたが、震災等の発生に伴う復

興・再生に向けた取組を進めていく中、ふたば未来学園高等学校及び併設中学校を開設するとともに、県内4地区において連携型中高一貫教育を推進してきた。

このような中、県教育委員会は、「6年間を通じた計画的・継続的な教育をより魅力的・効果的に展開する特色ある中高一貫教育に関する取組を充実するべきである」との、福島県学校教育審議会答申（2017年（平成29年）6月）を受け、2018年（平成30年）5月に策定した「県立高等学校改革基本計画」の基本方針及び2019年（平成31年）2月に策定した「県立高等学校改革前期実施計画」に基づき、これまでの本県の中高一貫教育の成果や今般の社会情勢を踏まえ、改めて本県における今後の併設型及び連携型中高一貫教育の在り方についての方向性を示すものとして、「中高一貫教育後期実施計画」（以下「後期実施計画」という。）を2020年（令和2年）2月に策定した。

**イ 中高一貫教育に関する基本的な考え方**

- (ア) 「後期実施計画」の策定に当たっては、福島県学校教育審議会答申（2017年（平成29年）6月）を尊重し、「県立高等学校改革前期実施計画」（2019年（平成31年）2月）等との整合性を図る。
- (イ) これまでの中高一貫教育校での取組を踏まえ、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応できる新たな中高一貫教育校を検討する。
- (ウ) 新たな中高一貫教育の実施形態の選択に当たっては、中高一貫教育校の教育理念や地域の実情等を考慮して柔軟に対応する。
- (エ) 連携型中高一貫教育校については、県立高等学校改革の動向等を踏まえながら、より良い在り方について引き続き検討する。
- (オ) 中高一貫教育については、本県の未来を担う人材育成の観点から、その在り方について引き続き検討していく。

**ウ 計画期間**

計画期間は、2018年（平成30年）に策定した「県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）」に合わせて、2019年度（令和元年度）から2028年度（令和10年度）までとする。

**エ 配置計画**

**○ 新たな併設型中高一貫教育校の設置**

新たな併設型中高一貫教育校を設置するに当たっては、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応する必要がある、難関大学への進学実績が豊富である高等学校へ併設することが重要である。また、公共交通機関の利便性の良さにより児童生徒の志願がより広範囲から可能であることや、施設整備が可能となる敷地面積を有することなどの点を踏まえる。

さらに、これまで併設型中高一貫教育校を会津と浜通りに配置しており、地域のバランスを踏まえ、今後、全県的な中高一貫教育を展開するためには、中通りへの設置が必須である。以上のことを総合的に判断し、

県立高等学校改革に取り組んでいる現状に鑑み、既設の安積高等学校に県立中学校を 2025 年度（令和 7 年度）（予定）に併設することとする。

併設中学校は、安積高等学校の同一敷地内に設置することとし、6 年間を見通した教育課程に基づく教育活動などを適切に展開するために必要な施設、設備等を整備する。また、募集定員については、一定の人数を確保しつつ、周辺の市町村立中学校への影響を踏まえ、1 学級 30 名の 2 学級編制とし、通学区域を県下一円とする。

接続する高等学校は、将来の多様な大学への進路希望に対応が可能となるよう、単位制による「普通科」とし、併設中学校と同様に通学区域を県下一円とする。

これらを踏まえ、以下のとおり設置することとした。

（仮称）福島県立安積中学校・高等学校

- ・ 開校（予定） 2025 年度（令和 7 年度）
- ・ 設置場所 福島県立安積高等学校（郡山市）
- ・ 生徒募集定員 中学校 60 名（2 学級）
- ・ 通学区域 県下一円

#### ○ 連携型中高一貫教育校

これまで東白川郡塙町、南会津郡南会津町、相馬市及び双葉郡に配置していた連携型中高一貫教育校については、以下の点を踏まえるとともに、「県立高等学校改革前期実施計画」の再編整備の状況を踏まえ、連携の新たな仕組みづくりを進め、連携先の中学校の拡充を図ることとした。

- ・ 中学校及び高等学校の連携の柱となる特色ある教育活動を展開するために活用可能な地域の自然環境等の教育資源の状況。
- ・ 対象となる高等学校の教育課程や学科の特色。
- ・ 中学校・高等学校双方において生徒、教員の人的交流等による連携活動をより緊密に行うための中学校と高等学校の立地状況。
- ・ 各中学校から対象となる高等学校への入学者数の状況。
- ・ 地域バランス等。

## 4 福島県地域学校活性化推進構想の概要

少子化や過疎化、核家族化などが進行し、地域コミュニティの希薄化や分断により、地域や家庭の教育力が低下しており、東日本大震災及び原子力発電所事故の影響がこれらに拍車をかける状況となっている。このような中、地域が学校を支援するという従来の一方の関係だけでなく、学校も地域に貢献していくことで、地域と学校が強固なパートナーシップを構築し、社会に開かれた教育課程を実施しながら、地域づくりと一体となった社会総がかりによる教育の実現を目指すために、「福島県地域学校活性化推進構想」を平成 31 年 2 月に策定した。令和 2 年度から、県立高校 3 校（湖南高校、西会津高校、川口高校）に加えて、令和 3 年度には新たに 3 校（川俣高校、猪苗代高校、只見高校）へコミュニティ・スクール

を導入するとともに、県南・会津地区の県立高校 3 校に地域コーディネーターを配置するなど、地域と学校の連携・協働を推進した。

#### (1) 構想が目指すもの

- ・ 地域の大人と子どもが交流する場を意図的に設け、子どもの社会性や郷土愛などを育むとともに、大人も子どもから学び、互いに育ち合うことのできる体制を構築する。
- ・ 体験活動などで地域が学校を支援し、ボランティア活動などで学校も地域に貢献する、双方向で連携・協働する活動を通して、学校教育の充実と併せて学校を核とした地域の活性化を推進する。
- ・ 教科書だけでなく、ふるさと学習や地域を学びのフィールドとした探究活動など、地域と連携した教科横断的な学習を取り入れながら、社会に開かれた教育課程を編成する。
- ・ 障がいのあるなしに関わらず、地域で安心して子どもたちが学び、保護者が子どもを育てることができ環境の実現を図る。

#### (2) 構想を進めるための 4 本柱（12 の方策）

##### **ア 地域に根ざした学校運営**

###### (7) 学校評議員制度の活用

学校外の地域住民等を構成員とする学校評議員制度を活用し、保護者や地域の意向を把握し、協力を得ることで地域に根ざした教育活動を推進する。

###### (4) コミュニティ・スクールの導入促進

学校や地域の実状に応じて地域住民等が構成員の学校運営協議会を設置し、地域と一体となった学校づくりを進める。県立学校へのコミュニティ・スクールの導入を進める。

###### (9) 学校を核とした地域との連携

副校長や主幹教諭の設置、地域住民のスクール・サポート・スタッフや部活動指導員への就任で、学校の組織体制を強化し、地域との連携の強化による地域ぐるみの教育体制を構築する。

##### **イ 地域と学校の協働活動**

###### (7) 地域学校協働活動の推進

地域学校協働本部事業にかかる研修会を実施し、地域連携担当教職員やコーディネーターの養成と資質向上、それに携わるボランティア等の拡大及び学校の理解促進を図る。

###### (4) 地域コーディネーターの機能充実

地域側の窓口として地域コーディネーターの配置を促進し、地域と学校の協働活動を効率的に展開する。

###### (9) 地域連携担当教職員の任命

学校側の窓口となる地域連携担当教職員を 2019 年度からすべての公立学校において任命し、学校の組織体制の整備、担当者の研修を実施する。

##### **ウ 地域の課題解決に向けた創造的復興教育**

###### (7) 地域課題探究活動の推進

アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を図り、「総合的な探究の時間」等において、地域が抱え

る課題等をテーマに課題解決型学習を県立高等学校で実施する。

#### (イ) 地域との連携による県立高等学校の特色化

教科横断的な教育課程の編成、生徒会活動や部活動における地域との連携等、県立高等学校改革に合わせた学校の特色化を進め、魅力ある県立高等学校づくりを地域と連携しながら進める。

#### (ウ) 福島県地域学校協働本部によるマッチング

学校と地域が双方向で連携・協働するためのマッチング調整を行う「福島県地域学校協働本部」の仕組みを新たに構築し、地域課題探究活動や地域学校協働活動の充実を図る。各地方振興局の協力を得ながら調整し、創造的復興教育を進める。

### **エ 地域で共に学び、共に生きる特別支援教育**

#### (ア) インクルーシブ教育システムの推進

障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図り、障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システムを進める。

#### (イ) 地域支援センターによる切れ目のない支援

2018年度から全ての県立特別支援学校に地域支援センターを設置して、障がいのある子どもに対する就学前から卒業後までの切れ目のない支援体制を構築し、学校種間、市町村や関係機関との連携を支援する。

#### (ウ) 地域との連携による自立と社会参加の促進

特別支援教育体制促進協議会の活性化や企業と連携した実習の充実、作業技能大会の開催等、障がいのある子どもたちの地域における自立と社会参加の促進を支援する。

### (3) 構想を進める体制

#### ・ 福島県地域学校活性化推進会議

構想の理念を共有し、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら構想を推進するため、教育委員会を始めとする地域の多様な関係機関の代表者が、構想の推進に向けた意見交換等を行うための組織。

#### ・ 地域と学校の活性化推進会議

構想の進捗状況の確認や構想の推進のための意見交換等を行うための会議。



## 第2章 教育行政

### 第1節 教育委員会

#### 1 教育委員会

令和3年12月24日付けで正木好男委員が再任され、同日付で教育長職務代理者に指名された。

職名	氏名	就任年月日	職業	備考
教育長	鈴木 淳一	平成31年 4月1日 (2期目)		福島市
委員 教育長職務代理者 (R3.12.24～)	正木 好男	令和3年 12月24日 (2期目)	会社 顧問	いわき市
委員	吉津 健三	令和元年 12月27日	弁護士	郡山市
委員	成澤 勝蔵	令和2年 10月19日	自営業	会津若松市
委員 教育長職務代理者 (R2.10.19 ～R3.12.23)	浅川 なおみ	平成31年 4月1日 (2期目)	ピアノ 教室 主宰	白河市
委員	大村 雅恵	令和2年 10月19日	会社 代表 取締役 社長	福島市

#### 2 審議事項

##### 4月定例会(R3.4.23)

- 審議事項
  - (1) 教職員の懲戒処分について
  - (2) 令和4年度福島県公立学校教員採用予定者数について
  - (3) 教育長臨時代理による処理の承認について
  - (4) 退職手当の支給制限の変更について
- 報告事項
  - (1) 令和3年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
  - (2) 令和3年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜の結果について
  - (3) 訴訟判決について
  - (4) 訓告処分等について
- 協議事項
  - (1) 第二次福島県立特別支援学校全体整備計画における令和4年度開校の伊達地区特別支援学校について

##### 5月定例会(R3.5.20)

- 審議事項

- (1) 福島県立図書館協議会委員の任免について
- (2) 福島県社会教育委員の任免について
- (3) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (4) 教職員の懲戒処分について

#### ○ 報告事項

- (1) 令和4年度使用教科用図書の採択等に関する答申について
- (2) 訓告処分等について

##### 6月定例会(R3.6.21)

#### ○ 審議事項

- (1) 令和3年度6月補正予算案(教育委員会関係部分)について
- (2) 福島県立特別支援学校条例の一部を改正する条例案について
- (3) 教職員の懲戒処分について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 令和4年度使用教科用図書調査研究資料について
- (7) 退職手当の支給制限について

#### ○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

#### ○ 協議事項

- (1) 第7次福島県総合教育計画中間整理案について

##### 7月定例会(R3.7.9)

#### ○ 審議事項

- (1) 教職員の懲戒処分について

#### ○ 報告事項

- (1) 福島県いじめ問題対策委員会による調査について
- (2) 訓告処分等について

##### 8月定例会(R3.8.23)

#### ○ 審議事項

- (1) 令和2年度福島県教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について
- (2) 福島県立特別支援学校学則の一部を改正する規則について
- (3) 教職員の懲戒処分について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 令和3年度福島県指定文化財の指定に係る諮問について
- (8) 福島県指定重要無形文化財保持団体の認定の解除等に係る諮問について
- (9) 令和4年度使用県立中学校の教科用図書の採択について
- (10) 令和4年度使用県立特別支援学校小学部・中学部の教科用図書の採択について

- (1) 教育職員免許状の取上げについて
- (2) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (3) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (4) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

**9 月定例会 (R3. 9. 15)**

○ 審議事項

- (1) 令和4年度福島県立中学校入学者選抜について
- (2) 令和4年度福島県立高等学校入学者選抜について
- (3) 令和4年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜について
- (4) 令和3年度9月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 令和3年度教育・文化関係表彰について
- (8) 教育職員免許状の取上げについて
- (9) 令和4年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び令和4年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

**10 月定例会 (R3. 10. 15)**

○ 審議事項

- (1) 令和4年度福島県立学校生徒募集定員について
- (2) 福島県立図書館協議会委員の任命について
- (3) 令和4年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について
- (4) 令和3年度教育・文化関係表彰について
- (5) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (6) 令和4年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

**11 月定例会 (R3. 11. 26)**

○ 審議事項

- (1) 第7次福島県総合教育計画について
- (2) 福島県指定重要文化財の指定について
- (3) 令和3年度12月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (4) 工事請負契約の一部変更案について
- (5) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 教職員の懲戒処分について
- (8) 教職員の懲戒処分について
- (9) 教職員の懲戒処分について

- (10) 令和3年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について

- (11) 令和3年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞の受賞者について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

○ 協議事項

- (1) 県立高等学校改革後期実施計画素案について

**12 月定例会 (R3. 12. 23)**

○ 審議事項

- (1) 福島県教育委員会文書等管理規則の一部を改正する規則について
- (2) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
- (3) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 教育職員免許状の取上げについて
- (8) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

- (1) 生徒一人一台端末環境について
- (2) 福島県教育委員会会計年度任用職員の分限処分について
- (3) 訓告処分等について
- (4) 調停について

○ 協議事項

- (1) 県立高等学校改革計画における令和5年度統合校について

**1 月定例会 (R4. 1. 24)**

○ 審議事項

- (1) 福島県教育委員会文書等管理規則の一部を改正する規則について
- (2) 福島県指定重要文化財の指定の解除に係る諮問について
- (3) 県立高等学校改革後期実施計画について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 教職員の懲戒処分について
- (8) 令和3年度教育・文化関係表彰について
- (9) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (10) 令和4年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について
- (11) 令和4年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について
- (12) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

- (1) 令和4年度人事異動（教員系）について
- (2) 訓告処分等について

## 2月定例会(R4.2.10)

### ○ 審議事項

- (1) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
- (2) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
- (3) 福島県立高等学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について
- (4) 令和4年度当初予算案（教育委員会関係部分）について
- (5) 福島県立高等学校条例の一部を改正する条例案について
- (6) 不動産の取得案について
- (7) 教職員の懲戒処分について
- (8) 教職員の懲戒処分について

### ○ 報告事項

- (1) 教職員多忙化解消アクションプランⅡについて
- (2) 県立特別支援学校高等部生徒一人一台端末環境について
- (3) 訓告処分等について

### ○ 協議事項

- (1) 令和4年度人事異動（教員系）について

## 臨時会(R4.2.25)

### ○ 審議事項

- (1) 校長及び教員としての資質の向上に関する指標〔第2版〕について
- (2) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (3) 令和4年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長（教員系）の人事について
- (4) 令和4年度市町村公立学校長の人事について
- (5) 令和4年度県立学校長の人事について

### ○ 報告事項

- (1) 令和4年度教育庁及び教育機関の主要職員（教員系）の人事について
- (2) 令和4年度市町村公立学校副校長及び教頭の人事について
- (3) 令和4年度県立学校副校長及び教頭の人事について
- (4) 令和5年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について

## 3月定例会(R4.3.23)

### ○ 審議事項

- (1) 学びの変革推進プランについて
- (2) 福島県指定文化財の指定について
- (3) 福島県指定重要文化財の指定の解除について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 教職員の懲戒処分について
- (8) 教職員の懲戒処分について
- (9) 教職員の懲戒処分について
- (10) 教科用図書選定審議会委員の任命について
- (11) 令和4年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長の人事について

- (12) 令和4年度市町村公立学校長の人事について
- (13) 令和4年度県立学校長の人事について
- (14) 令和3年度教育・文化関係表彰について

### ○ 報告事項

- (1) 令和4年度教育庁及び教育機関の職員の人事について
- (2) 令和4年度市町村公立学校教職員の人事について
- (3) 令和4年度県立学校教職員の人事について
- (4) 訓告処分等について

## 第2節 教育庁組織

政策監 本田 伸雄  
 教育次長（業務） 丹野 純一  
 県立高校改革監 菅野 崇  
 教育庁参事（人事・企画） 助川 浩一

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長	高瀬 智美
	庁主幹兼副課長	草野 博行
	庁企画主幹兼副課長	田母神 賢一
財務課	課長	渡部 誠二
	主幹兼副課長	長島 和則
施設財産室	室長	渡邊 昌明
	主幹	木元 正幸
職員課	課長	二瓶 博昭
	主幹兼副課長	原田 大輔
	主幹	菅野 与彦
福利課	課長	穂住 由勝
	主幹兼副課長	高橋 美恵子
社会教育課	課長	渋川 卓也
	主幹兼副課長	新井 里美
	主幹	関 忠昭
文化財課	課長	本田 智枝
義務教育課	課長	石幡 良子
	主幹兼副課長	情野 貴之
	主幹	川井 孝寿
	主幹	佐藤 敏宏
高校教育課	課長	平澤 洋介
	主幹兼副課長	平野 茂之
	主幹	高橋 喜智
	主幹	亀田 光弘
県立高校改革室	室長	小林 寿宣
特別支援教育課	課長	郷家 俊哉
	主幹兼副課長	根本 健一
	主幹	柳沼 徹
健康教育課	課長	佐藤 隆宏
	主幹兼副課長	坂詰 康
	主幹	鈴木 哲

## 教育事務所

教育事務所	所長・次長名	課長名
県北	所長	長谷川 浩文
	次長(総)	佐藤 裕一郎
	次長(業)	小野 真教
県中	所長	板橋 竜男
	次長(総)	松崎 孝一
	次長(業)	橋本 一弥
県南	所長	鈴木 正和
	次長(総)	固山 博之
	次長(業)	小野 聡
会津	所長	横山 修
	次長(総)	曳地 敏治
	次長(業)	原 孝行
南会津	所長	西牧 泰彦
	次長(総)	本多 智洋
	次長(業)	栗木 孝直
相双	所長	塙 広治
	次長(総)	佐藤 繁光
	次長(業)	武口 隆行
いわき	所長	菊池 淳一
	次長(総)	山口 聖一
	次長(業)	大内 克之

## 所管教育機関等

教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	佐藤 秀美	次長 宍戸 喜孝 総務管理部長(兼) 宍戸 喜孝 研究・研修部長 猪俣 一教
		主幹兼事務長 長沢 智司 企画事業部長 鈴木 龍也
福島県立図書館	岡崎 拓哉	副館長 島田 淳
福島県立美術館	長根由里子	副館長心得 堀 宜雄
福島県立博物館	鈴木 晶	副館長 川延 安直



## 第3節 企画調整

### 1 教職員現職教育計画の策定

#### (1) 福島県公立学校教職員現職教育計画

教職員現職教育担当者会議を開催し、令和4年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について、策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

#### (2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第1回	3.6.4	自治会館 8階 801 会議室	○「令和4年度教職員現職教育計画」作成方針について ○「令和4年度教職員現職教育計画」作成に当たっての具体的計画案及び検討事項について ○「令和4年度教職員現職教育計画」作成関係日程について
第2回	3.9.6	書面開催 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため)	○「令和4年度教職員現職教育計画」作成に当たっての具体的計画案及び検討事項について ○第1回会議からの継続協議事項について ○「令和4年度教職員現職教育計画」作成日程について

#### (3) 構成員

教育総務課

企画主幹兼副課長、主任主査、管理主事

社会教育課

主幹、主任社会教育主事、社会教育主事

義務教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

健康教育課

主幹、主任指導主事、指導主事

特別支援教育課

主幹兼副課長、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

高校教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

教育センター

研究・研修部長、主任指導主事、指導主事

特別支援教育センター

企画事業部長、主任指導主事

## 2 調整事務

### (1) 教育庁内企画・調整事務

- ア 総合教育計画に関する連絡調整
- イ 県教委重点施策に関する連絡調整
- ウ 県教委点検・評価に関する連絡調整
- エ 県重点事業に関する連絡調整
- オ 県重点施策評価に関する連絡調整
- カ 政府予算対策に関する連絡調整
- キ 双葉地区教育構想推進事業に関する連絡調整

### (2) 知事部局との調整事務

- ア 総務部  
行財政改革推進本部、総合教育会議、風評・風化プロジェクトチーム、内部統制推進本部会議
- イ 危機管理部  
安全で安心な県づくり推進連絡会議、国土強靱化地域計画推進連絡会議
- ウ 企画調整部  
県総合計画・復興計画関係、施策評価関係、県重点事業関係、政府予算対策活動関係、過疎・中山間地域経営戦略本部会議、電子社会推進本部会議、政策調整会議、新生ふくしま復興推進本部会議、福島イノベーション・コースト構想推進本部会議、地産地消推進会議、地域創生・人口減少対策本部会議、復興対策推進プロジェクトチーム
- エ 生活環境部  
ユニバーサルデザイン推進本部会議、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成庁内推進会議、野生鳥獣被害対策庁内連絡会議、環境・エネルギー施策推進庁内連絡会議
- オ 保健福祉部  
障がい者施策推進会議、子育て支援推進本部会議
- カ 商工労働部  
商業まちづくり推進調整会議
- キ 農林水産部  
ふくしま植樹祭実行委員会、ふくしま県産木材利用推進会議
- ク 警察本部  
福島県被害者等支援連絡協議会

## 第4節 広報・広聴

### 1 教育委員会だより

#### (1) 編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

#### (2) 内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育委員名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧

#### (3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ

イ 部数 4,000部

#### (4) 配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

#### (5) 発行時期

4月に発行

### 2 教育年報

#### (1) 編集方針

令和2年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

#### (2) 内容

令和2年度の本県教育行政の実績

#### (3) 規格・部数

ア 規格 A4判 218ページ

イ 部数 140部

#### (4) 配布対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

### 3 福島県の教育

#### (1) 編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配布し、本県教育に対する理解を図る。

#### (2) 内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

#### (3) 規格・部数

ア 規格 A4判 8ページ カラー

イ 部数 950部

#### (4) 配布対象

教育機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

### 4 ふくしま教育ニュース

#### (1) 編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。7月・11月の年2回発行した。

#### (2) 内容

ア 第56号(7月発行)

生徒一人一台端末の導入による学びの変革

ふくしま創生サミット

令和4年4月開校の統合校について

須賀川創英館高等学校

会津西陵高等学校

いわき湯本高等学校

相馬総合高等学校

ふくしま新世高等学校

ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業募集

中学生・高校生の科学・技術研究論文「野口英世賞」募集

中学生・高校生の国際理解・国際交流論文「朝河貫一賞」募集

福島県文化財センター白河館(まほろん)企画展の案内

ふくしま子どもSNS相談

ダイヤルSOS等相談窓口のお知らせ

イ 第57号(11月発行)

一人一人のがんばりを認める「ふくしま学力調査」

第7次福島県総合教育計画に関する教育公聴会

第7回ビブリオバトル福島県大会地区予選会

令和3年度ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト

第9回特別支援学校作業技能大会

いじめ防止ラウンドテーブル

「イノベントウ」開発成果報告と県庁販売会

健康マネジメントプラン事業における「自分手帳」活用

「ふくしま活用力育成シート」問題にチャレンジ!

ダイヤルSOS等相談窓口のお知らせ

#### (3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ カラー

イ 部数 第56号 225,000部

第57号 225,000部

#### (4) 配布対象

県内公立学校の全保護者、県外に避難している児童生徒の保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

## 5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
教育総務課	福島県の教育	本県教育の実情及び教育行政の要点を図式化して表示	1	A 4	8	950	教育機関への来訪者、教育関係機関等
	教育委員会だより	県教育長あいさつ、教育施策及び予算、県教育委員名簿、県教育庁新陣容、組織及び電話番号	1	A 4	4	4,000	県内公立学校、私学団体連合会、教育関係機関等
	教育年報	前年度の県教育行政の実績	1	A 4	218	140	市町村教委、教育関係機関等
	ふくしま教育ニュース	県教育委員会の教育行政施策、実績、事業のお知らせ等	2	A 4	4	第56号 225,000 第57号 225,000	県内公立学校の全保護者・教職員、教育関係機関等
福利課	ふくしま福利だより	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A 4	16 12	各 22,500	全教職員(5月、7月) 全教職員(11月、2月)
教育課 社会	社会教育	社会教育に関する情報、活動状況の取りまとめ	1	A 4	10	—	Webサイトに掲載
健康教育課	子どもが作る地場産物活用健康レシピ	「ふくしまっ子ごはんコンテスト」で最優秀賞を獲得した作品を掲載	1	A 4	2	150,000	学校、福島県食育応援企業団
	元気大賞BOOK	各校での体力向上に向けた取組の紹介	1	A 4	91	900	学校、関係機関
	オリパラ教育成果報告冊子	オリパラ教育推進校の取組の紹介	1	A 4	14	8,000	学校、関係機関
	なわとびコンテストチラシ	なわとびコンテストの内容等の周知	1	A 4	1	8,000	学校、関係機関
教育センター	要 覧	教育センターについての沿革、設置の趣旨、組織、予算、事業内容を掲載	1	A 4	20	160	教育関係機関等
	所報ふくしま「窓」	教育関係者の提言や県内教員の教育研究等についての紹介及び教育センターからの案内	2	A 4	8	—	Webサイトに掲載
	研究紀要	研究の成果をとりまとめて刊行し、本県学校教育の向上に資する	1	A 4	86	1,000	学校、教育関係機関等
	リーフレット	小・中学校初任者研修メンター方式による校内研修について Vol.2	1	A 4	4	2,000	学校、教育関係機関等
	リーフレット	児童生徒の資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントについて	1	A 4	4	4,000	学校、教育関係機関等
特別支援教育センター	リーフレット	事業内容・研修講座名等	1	A 5	4	100	来所者 Webサイトに掲載
	所報特別支援教育	センターの取組や国内外の教育動向等	1	A 4	30	200	関係機関
	要 覧	沿革、事業体系、事業概要、施設・設備	1	A 4	15	50	関係機関
	研究紀要	調査研究・教育研究及び長期研究員の個人研究の成果報告	1	A 4	70	120	関係機関 Webサイトに掲載

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
図 書 館	館 報 あ づ ま	図書館業務の広報	1	A 4	6	500	図書館・関係機関
	福島県立図書館要覧	県立図書館の概況	1	A 4	22	—	Webサイトに掲載
	福島県郷土資料情報	郷土文献の研究情報誌	1	A 4	57	100	図書館・関係機関 Webサイトに掲載
美 術 館	県立美術館年報	前年度の事業実績	1	A 4	56	500	関係機関
	ミュージアムカレンダー	年間事業紹介	1	B 5		32,000	関係機関、来館者等
	美術館ニュース ART INFORMATION	企画展・普及事業等の案内	6	A 4 三折		各 11,000	関係機関、来館者等
	研 究 紀 要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	B 5	79	600	関係機関
博 物 館	県立博物館年報	前年度の事業実績	1	A 4	103	400	関係機関
	県立博物館紀要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A 4	135	500	関係機関
	広報紙なじよな	行事予定、企画展案内、講演要旨等	6	A 2 四折	4	各 20,000	学校、関係機関
	企画展ポスター・リーフレット	企画展 2 回分・次年度企画展 1 回分	3	ポスターB 2 リーフレットA4 A 3 変形二折		8,100 105,000 50,000	学校、関係機関 関係機関、来館者等
	年間催し物案内	主催行事などの紹介	1	220×400 観音折り		45,000	関係機関、来館者等
自 然 の 家	企画事業案内（郡山）	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	1	—	Webサイトに掲載
	リーフレット（会津）	施設案内・プログラム紹介	1	A 4	4	—	Webサイトに掲載
	し お ね（いわき）	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	4	1,900	関係機関
白 文 化 財 河 セ ン タ ー 館	年 報	沿革、事業の概要、入館者統計、予算等	1	A 4	34	500	関係機関
	まほろん通信	イベントの内容、体験学習	4	A 4	4	各 4,000	関係機関、利用者等
	研 究 紀 要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A 4	108	500	関係機関

## 6 記者発表及び資料提供(投げ込み)件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者発表	-	-	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-	4
記者レクチャー	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2
資料提供	25	27	18	31	25	28	36	36	39	49	66	103	483

## 7 教育フォーラム

### (1) タイトル

令和3年度教育公聴会

「第7次福島県総合教育計画」中間整理について  
～これからの福島の教育を考える～

### (2) 主催

福島県教育委員会

### (3) 目的

県民各層との対話を通して、多様化している県民の意向を積極的かつ多角的に把握し、県民と一体となった開かれた教育を推進するために実施した。

今年度は、福島県の教育行政の基本指針となる「第7次福島県総合教育計画」の策定に向け、中間整理についての意見を中学生、高校生、保護者代表、一般公募の方が教育委員、教育長、第7次福島県総合教育計画策定懇談会委員に発表した。

### (4) 開催日時

中通り地区：令和3年8月16日（月）13:00～15:00

会津地区：令和3年8月17日（火）13:00～15:00

浜通り地区：令和3年8月20日（金）13:00～15:00

### (5) 会場

中通り地区：ビッグパレットふくしま及び各学校等

会津地区：教育委員会及び各学校等

浜通り地区：教育委員会及び各学校等

### (6) 開催形態

意見発表者による発表・質疑応答

※オンライン開催

### (7) 出席者

ア 中学生 7名

郡山市立第二中学校、白河市立表郷中学校、郡山支援学校中等部、会津若松市立第三中学校、南会津町立館岩中学校、いわき市立湯本第二中学校、広野町立広野中学校

イ 高校生 8名

福島西高校、安積高校、郡山萌世高校、会津学鳳高校、川口高校、小名浜海星高校、ふたば未来学園高校、相馬農業高校

ウ 小・中・高・特別支援学校の保護者代表 9名

エ 一般公募 2名

オ 福島県教育委員会

浅川 なおみ（県教育委員会委員）

正木 好男（県教育委員会委員）

吉津 健三（県教育委員会委員）

成澤 勝蔵（県教育委員会委員）

大村 雅恵（県教育委員会委員）

鈴木 淳一（県教育委員会教育長）

本田 伸雄（政策監）

丹野 純一（教育次長）

高瀬 智美（教育総務課長）

カ 第7次福島県総合教育計画策定懇談会委員

谷 雅泰（国立大学法人福島大学副学長（座長））

黒川 佳子（あさか開成高等学校長）

齋藤 雄一郎（株式会社三和製作所代表取締役）

丹野 香須美（福島県文化財保護審議会委員）

## 8 「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日（11月1日）及びふくしま教育週間（11月1日～7日）を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組が実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけた。なお、新型コロナウイルス感染拡大を受け、大幅な予定変更も想定されたため、福島県教育委員会ウェブサイトへの実施計画の掲載は見合わせた。

## 9 「県庁にみんなの声を届けよう！」プロジェクト

子どもたちの郷土愛を育み、将来の復興の担い手としての意識を喚起することを目的として、子どもたちが知事や教育長等の前で発表する機会を設けているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により中止した。

## 第5節 調査統計

令和3年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

### 1 学校統計要覧

令和3年5月1日現在で調査した「学校基本調査」（指定統計13号）の調査結果及び県独自に実施している進路状況等に関する調査結果に基づき、学校数、児童生徒数、教職員等の基本的事項や県内の中学生・高校生の進路状況等を収録した「学校統計要覧」を作成し、県教委ホームページで公開した。

### 2 地方教育費調査（一般統計）

この調査は、令和2会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連における県及び市町村（教育事務組合を含む。）から支出された経費並びに授業料等の収入実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

### 3 子供の学習費調査（一般統計）

この調査は、子どもを公立または私立の学校に通わせている保護者が、子どもの学校教育及び学校外活動のために支出した経費並びに世帯の年間収入の実態をとらえることを目的に文部科学省が実施したものである。

### 4 進路状況等に関する調査

この調査は、中学校、義務教育学校及び高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の

適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

## 5 社会教育調査（基幹統計）

この調査は、社会教育行政に必要な社会教育に関する基本的事項を明らかにすることを目的として、文部科学省が実施したものである。

## 第6節 教職員の給与

令和3年度の教職員の給与改定については、令和3年10月7日の県人事委員会給与勧告に基づき、諸手当について、令和3年11月県議会臨時会及び令和4年2月県議会定例会において、給与条例の一部改正が提案され、議決・公布された。その概要は、次のとおりである。

### 1 諸手当関係

#### (1) 通勤手当（令和4年4月1日適用）

自動車等交通用具使用者の手当額が次のとおり改められた。

片道の 自動車等の 使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動 機付きの交通用具
2km以上 4km未満	2,600円	2,000円
4km以上 6km未満	3,900円	2,000円
6km以上 8km未満	5,300円	2,700円
8km以上 10km未満	6,600円	3,300円
10km以上 12km未満	7,900円	4,000円
12km以上 14km未満	9,200円	4,600円
14km以上 16km未満	10,500円	5,300円
16km以上 18km未満	11,900円	6,000円
18km以上 20km未満	13,200円	6,600円
20km以上 22km未満	14,500円	7,300円
22km以上 24km未満	15,800円	7,900円
24km以上 26km未満	17,100円	8,600円
26km以上 28km未満	18,500円	9,300円
28km以上 30km未満	19,800円	9,900円
30km以上 32km未満	21,100円	10,600円
32km以上 34km未満	22,400円	11,200円
34km以上 36km未満	23,700円	11,900円
36km以上 38km未満	25,100円	12,600円
38km以上 40km未満	26,400円	13,200円
40km以上 45km未満	29,300円	14,700円
45km以上 50km未満	32,100円	16,100円
50km以上 55km未満	34,900円	17,500円
55km以上 60km未満	37,300円	18,700円
60km以上 65km未満	39,400円	19,700円

片道の 自動車等の 使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動 機付きの交通用具
65km以上 70km未満	42,500円	21,300円
70km以上 75km未満	45,500円	22,800円
75km以上 80km未満	48,500円	24,300円
80km以上 85km未満	51,600円	25,800円
85km以上 90km未満	54,600円	27,300円
90km以上 95km未満	57,600円	28,800円
95km以上	60,700円	30,400円

#### (2) 期末・勤勉手当（令和3年12月1日適用）

支給割合が次のとおり改められた。

##### ◎一般職員

	区分	6月期		12月期		年間支給割合	
		6月期	12月期	6月期	12月期	計	計
改正前	期末手当	1.25ヶ月	1.25ヶ月	2.50ヶ月	計		
	勤勉手当	0.95ヶ月	0.95ヶ月	1.90ヶ月	4.40ヶ月		
改正後 (3年度)	期末手当	1.25ヶ月	1.10ヶ月	2.35ヶ月	計		
	勤勉手当	0.95ヶ月	0.95ヶ月	1.90ヶ月	4.25ヶ月		
(4年度)	期末手当	1.175ヶ月	1.175ヶ月	2.35ヶ月	計		
	勤勉手当	0.95ヶ月	0.95ヶ月	1.90ヶ月	4.25ヶ月		

##### ◎特定幹部職員

	区分	6月期		12月期		年間支給割合	
		6月期	12月期	6月期	12月期	計	計
改正前	期末手当	1.05ヶ月	1.05ヶ月	2.10ヶ月	計		
	勤勉手当	1.15ヶ月	1.15ヶ月	2.30ヶ月	4.40ヶ月		
改正後 (3年度)	期末手当	1.05ヶ月	0.90ヶ月	1.95ヶ月	計		
	勤勉手当	1.15ヶ月	1.15ヶ月	2.30ヶ月	4.25ヶ月		
(4年度)	期末手当	0.975ヶ月	0.975ヶ月	1.95ヶ月	計		
	勤勉手当	1.15ヶ月	1.15ヶ月	2.30ヶ月	4.25ヶ月		

## 第7節 附属機関等

### 1 福島県社会教育委員の会議

#### 根拠法令

社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに福島県社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期に関する条例（昭和24年福島県条例第56条）

#### 目的

社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行ったりし、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

#### (1) 福島県社会教育委員

任期 令和2年6月20日～令和4年6月19日

区分	氏名	役職名	備考
学校教育関係者	小林 雄	小学校長会（大玉村立玉井小学校長）	
	土屋 好二	中学校長会（白河市立白河南中学校長）	
	味原 正美	高等学校長協会（福島県立会津学鳳高等学校長）	
社会教育関係団体の関係者	佐藤 義孝	福島県公民館連絡協議会会長	
	中島 功	福島県市町村社会教育委員連絡協議会顧問	
	田代 悦子	福島県PTA連合会母親代表理事	
	齋藤 七重	福島県婦人団体連合会副会長・理事	
	山岸 敦子	ガールスカウト福島県連盟長	
	齋藤 雄一郎	福島県商工会連合会	副議長
	佐藤 靖弘	一般社団法人福島県総合型スポーツクラブ連絡協議会理事長	
家庭教育関係者	星 尚子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事	
学識関係者	木暮 照正	福島大学地域創造支援センター教授	議長
	前川 直哉	福島大学教育推進機構高等教育企画室特任准教授	
	本多 環	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授	
公募	千葉 登美子	NPO法人ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会	
	須藤 基子	鏡石町教育委員会学校教育相談員	

#### (2) 定例会の開催

##### ア 第1回定例会

(ア) 日時 令和3年10月7日(木) ※オンライン会議

##### (イ) 内容

##### a 報告事項

令和3年度社会教育に関する主要施策・事業及び進捗状況について

##### b 審議事項

本県における社会教育推進の在り方について

##### イ 第2回定例会

(ア) 日時 令和4年2月24日(木) ※オンライン会議

##### (イ) 内容

##### a 報告事項

令和3年度社会教育関係事業報告について  
令和4年度社会教育関係主要施策・事業(案)について

##### b 審議事項

本県における社会教育の在り方について

## 2 福島県文化財保護審議会

### (1) 福島県文化財保護審議会委員

任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日

氏名	所属等	担当分野	備考
阿部 俊夫	(元)郡山女子大学短期大学部准教授・地方史研究協議会	古文書・歴史資料	副会長
荒木 志伸	山形大学基盤教育院准教授・東北史学会・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
歌川 史哲	いわき市アンモナイトセンター研究員・日本古生物学会 日本地質学会	天然記念物(地質鉱物・古生物)	
遠藤 ゆり子	淑徳大学教授・東北史学会・日本古文書学会 東国戦国史研究会・地方史研究協議会・歴史学研究会	古文書(中世)・書跡・典籍	
狩野 勝重	(元)日本大学教授・工学博士・日本建築学会・ 伝統建築文化推進協議会・文化財景観保全調査室(個人事務所)	建造物・伝統的建造物群	
佐藤 琴	山形大学学術研究院准教授・美術史学会・国際浮世絵学会	絵画	
鈴木 俊行	公益財団法人福島県都市公園・緑化協会福島空港公園事務所長・ 樹木医学会・日本造園学会・日本桜学会	天然記念物(植物)	会長
高橋 あけみ	仙台市博物館副館長・美術史学会・漆工史学会・茶の湯文化学会	工芸品・染織	
竹原 明秀	岩手大学教授・日本生態学会・植生学会・日本植物学会	天然記念物(植生)	
丹野 香須美	東北福祉大学兼任講師・いわき市文化財保護審議会委員・ 広野町文化財保護審議会委員・日本民俗学会・ 日本社会科教育学会・福島県民俗学会	有・無形民俗文化財	
辻 秀人	東北学院大学教授・日本考古学協会・福島県考古学会・ 全日本博物館学会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
塘 忠顕	福島大学教授・日本動物学会・日本昆虫学会・日本発生生物学会	天然記念物(動物)	
藤井 英二郎	千葉大学名誉教授・日本庭園学会・日本造園学会	史跡・名勝(庭園)	
守谷 早苗	東北史学会・国史談話会・福島県史学会	歴史資料	
若林 繁	(元)東京家政大学教授・美術史学会	彫刻	

### (2) 会議

#### ア 第1回審議会

(ア) 期日 令和3年9月13日(月)

(イ) 場所 福島県西庁舎3階 教育委員室

(ウ) 内容

- a 福島県指定文化財候補諮問案件等の審議
- b 報告事項

#### イ 第2回審議会

(ア) 期日 令和4年2月7日(月)

(イ) 場所 福島県西庁舎3階 教育委員室

(ウ) 内容

- a 福島県指定文化財候補諮問案件等の審議
- b 新たな県指定文化財の候補について
- c 県指定文化財の解除について



## 第8節 市町村教育委員会

### 1 概要

本県の市町村教育委員会数は、令和3年5月1日現在、13市46町村1組合の計60である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

### 2 組織

令和3年5月1日現在、県内各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

教育委員会名	職務代理者	教育長			
県北(8)			会津(13)		
福島市	佐藤 玲子	古関 明善	会津若松市	松本 健男	寺木 誠伸
伊達郡川俣町	高橋 友憲	佐久間裕晴	耶麻郡磐梯町	宮森 優治	(空席)
伊達市	菅野千恵子	菅野 善昌	耶麻郡猪苗代町	小檜山清一郎	宇南山忠明
伊達郡桑折町	柴田 宣広	会田 智康	喜多方市	荒明恵美子	大場 健哉
伊達郡国見町	高橋 幸子	菊地 弘美	耶麻郡北塩原村	斎藤 弘幸	鈴木 力雄
二本松市	佐藤 英之	丹野 学	耶麻郡西会津町	平野マチ子	江添 信城
安達郡大玉村	伊藤 忠和	佐藤 吉郎	河沼郡会津坂下町	井関 栄一	鈴木 茂雄
本宮市	谷 明子	松井 義孝	河沼郡湯川村	遠藤 弘	佐原 健一
県中(12)			河沼郡柳津町	鈴木 礼	神田 順一
郡山市	阿部 垂巳	小野 義明	大沼郡会津美里町	小関れい子	(空席)
須賀川市	阿部 昭光	森合 義衛	大沼郡三島町	阿部 和彦	佐藤 孝信
岩瀬郡鏡石町	力丸 次雄	渡部 修一	大沼郡金山町	長谷川恵一	滝沢 敬樹
岩瀬郡天栄村	小針 克彦	久保 直紀	大沼郡昭和村	齊藤加津代	安藤 哲朗
石川郡石川町	郷 隆	小玉 陽彦	南会津(5)		
石川郡玉川村	大木 孝行	鈴木 文雄	南会津郡南会津町	渡部 謙一	星 英雄
石川郡平田村	遠藤 嘉行	有賀 真道	南会津郡下郷町	白石 光史	湯田 嘉朗
石川郡浅川町	近藤 源悦	真田 秀男	南会津郡檜枝岐村	平野 公樹	平野 好道
石川郡古殿町	矢内 忠徳	渡邊 宏文	南会津郡只見町	菅家 貞子	渡部 公三
田村市	渡邊 世子	飯村 新市	南会津郡地方広域市町村圏組合	湯田 嘉朗	星 英雄
田村郡三春町	渡辺 勉	添田 直彦	相双(12)		
田村郡小野町	先崎 慎也	(空席)	相馬郡新地町	高崎 義典	佐々木孝司
県南(9)			相馬市	宗形 明子	福地 憲司
白河市	高橋 顕	芳賀 祐司	南相馬市	渡辺 金作	大和田博行
西白河郡西郷村	勝又千賀子	鈴木 且雪	相馬郡飯館村	佐藤 眞弘	遠藤 哲
西白河郡中島村	長田 富雄	面川 三雄	双葉郡浪江町	水谷 由克	笠井 淳一
西白河郡矢吹町	藤井 義男	鈴木 健生	双葉郡葛尾村	東海林幸敏	小野田敏之
西白河郡泉崎村	草野 太郎	鈴木 一正	双葉郡双葉町	山本真理子	館下 明夫
東白川郡棚倉町	八槻 浩子	荒川 文雄	双葉郡大熊町	松岡 保夫	木村 政文
東白川郡塙町	大縄 剛	秦 公男	双葉郡富岡町	鈴木 文子	岩崎 秀一
東白川郡矢祭町	佐川 幸信	片野 宗和	双葉郡川内村	井出 裕子	秋元 正
東白川郡鮫川村	阿久津光市	武藤 誠	双葉郡檜葉町	宇佐神正道	青木 洋
			双葉郡広野町	渡辺 昇	根本 修行
			いわき(1)		
			いわき市	馬目 順一	水野 達雄

### 3 令和3年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

#### (1) 令和3年度福島県市町村教育委員会教育長会議

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 令和3年4月12日(月)
- ウ 会場 本庁舎5階 正庁
- エ 出席者 市町村教育委員会教育長 58名
- オ 内容  
令和3年度教育庁各課(室)・所の重点施策の説明

#### (2) 令和3年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

- ア 主催 福島県市町村教育委員会連絡協議会  
福島県教育委員会
- イ 期日 令和3年11月17日(水)
- ウ 会場 本庁舎5階 正庁
- エ 参加者 令和2年11月18日以降に就任された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員23名
- オ 内容
  - 講話
    - ・演題 「教育委員に期待するもの」
    - ・講師 福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一
  - 講話
    - ・演題 「教育委員に求められる構えと職責」
    - ・講師 元福島県市町村教育委員会連絡協議会副会長 藤田 克彦
  - 講義
    - ・演題 「教育委員会の組織と運営について」
    - ・講師 福島県教育庁職員課管理主事 高橋 哲郎

## 第9節 職員団体との話し合い

令和3年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話し合いのうち、主なものは次のとおりである。

### 1 福島県教職員組合

#### (1) 令和3年4月27日

- ア 退職手当の減額措置について
- イ 再任用教諭の賃金・諸手当・労働条件の改善について
- ウ 公務貢献制度昇給の年齢制限について
- エ 高速道路の利用基準について
- オ 臨時的任用の着任状況について
- カ 代替者措置及び震災復興加配について
- キ 多忙化解消について
- ク 特別支援教育の現状と問題点について

#### (2) 令和3年11月5日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 不妊治療休暇について
- ウ 育休代替職員の確保について
- エ 学校事務職員の初任者の実務研修について

- オ 再任用職員の処遇改善について
- カ 教職員の多忙化解消について
- キ 校務支援システムについて
- ク 同一疾病での病気休暇の取得要件について

#### (3) 令和3年11月17日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 再任用主任主査について
- ウ 育休代替職員の確保について
- エ 再任用制度について
- オ 学校事務職員の初任者の実務研修について
- カ 教職員の多忙化解消について
- キ 勤務時間の客観的な把握について
- ク アクションプランⅡと小学校の特設クラブについて
- ケ 特別支援学級の1学級あたりの人数について

## 2 福島県高等学校教職員組合

#### (1) 令和3年4月28日

- ア 県立高等学校改革計画について
- イ 特別支援教育の環境整備について
- ウ 充実した教育環境について
- エ 教職員の諸手当について
- オ 教職員の多忙化解消について
- カ 教員免許更新について
- キ 休暇・休業制度について

#### (2) 令和3年11月4日

- ア 月例給及び期末・勤勉手当について
- イ 県立高等学校改革前期計画について
- ウ 高校及び特別支援学校の教育振興・充実について
- エ 特別支援教育の環境整備について
- オ 児童生徒の充実した教育環境について
- カ 定年延長について
- キ 高速道路利用について

#### (3) 令和3年11月18日

- ア 高校及び特別支援学校の教育振興・充実について
- イ 児童生徒の充実した教育環境について
- ウ 定年延長について
- エ 諸手当について
- オ 多忙化解消及び勤務環境の改善について
- カ 休暇・休業制度について
- キ 特別支援教育の環境整備について

## 3 福島県立高等学校教職員組合

#### (1) 令和3年4月28日

- ア アクションプランⅡと土曜講座について
- イ 振休の取得について
- ウ 多忙化解消について
- エ 特別支援教育について
- オ 人事交流について
- カ ハラスメントに関する対応について
- キ エアコンの費用負担について

**(2) 令和3年11月4日**

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 学校施設について
- ウ ハラスメント防止について
- エ 病気休暇の運用について
- オ 県立高校改革について
- カ 多忙化解消について
- キ 職場環境の改善について
- ク 震災に係る教育について

**(3) 令和3年11月18日**

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 職場環境の改善について
- ウ 人事異動について
- エ 震災に係る教育について
- オ 多忙化解消について

**4 福島県学校事務労働組合**

**(1) 令和3年4月27日**

- ア 学校事務の共同連携と主任主査の拡大について
- イ 公務貢献について
- ウ 定年延長について
- エ 事務強化加配等について
- オ 再任用職員の任用等について

- カ 学校事務職員の多忙化解消について
- キ 任期付職員・臨時的任用職員について
- ク 超過勤務手当について

**(2) 令和3年11月5日**

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 主任主査の昇任について
- ウ 公務貢献について
- エ 定年延長について
- オ 再任用職員について
- カ 共同連携の業務負担軽減について
- キ 学校事務職員の採用年齢の上限引き上げについて
- ク 任期が3年未満で採用された任期付職員について
- ケ 支給要件を満たす旅費の一部未払いについて
- コ 標準法定数に満たない配置状況について

**(3) 令和3年11月17日**

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 赴任旅費の着後手当について
- ウ 定数関係の確認について
- エ 再任用職員及び任期付職員の任用等について
- オ 再任用短時間勤務の労働時間について
- カ 年休の繰越について
- キ 事務職員の超勤及び業務範囲について

**第10節 審査請求事件及び訴訟事件**

**1 審査請求事件**

令和4年3月31日現在、審査請求事件として審理中のものはない。

**2 訴訟事件**

令和4年3月31日現在、訴訟事件として係属中のものは1件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
安全な場所で教育を受ける権利の確認等請求控訴事件	令 3. 3.15	安全な場所で教育を受けることができる権利の確認等	県内住民 多数	係属中

## 第 11 節 公益法人等の指導等並びに公益信託の状況

### 1 公益法人等

令和 4 年 3 月 31 日現在、県教育委員会の所管に属する公益法人等は 49 法人である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、収支予算書等の提出を求めた。

法人ごとの内訳は下表のとおり。

法人種別	所管する法人数	令和 3 年度に公益法人又は一般法人に移行した法人数
公益財団法人	25	0
公益社団法人	2	0
一般財団法人	18	0
一般社団法人	3	0
特例民法法人	1	—
計	49	0

### 2 公益信託

令和 4 年 3 月 31 日現在、県教育委員会の所管に属する公益信託は 3 件である。

なお、令和 3 年度新たに引き受けを許可した公益信託はない。

## 第 12 節 表彰及び叙勲

令和 3 年度教育・文化関係表彰式は、11 月 1 日(月)とうほう・みんなの文化センター、令和 4 年 2 月 3 日(木)キョウワグループ・テルサホールにおいて、それぞれ行われる予定であったが、どちらも新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は、10 月 27 日(水)文部科学省講堂、また、教育者表彰式は 12 月 17 日(金)文部科学省講堂において行われた。

### 1 教育・文化関係表彰

#### (1) 地方教育行政功労者(5名)

(前)伊達市教育委員会委員	高野 保夫
(前)二本松市教育委員会委員 郡山市教育委員会教育長	柘 智美 小野 義明
(前)矢吹町教育委員会委員 新地町教育委員会教育長	水戸 勘十 佐々木孝司

#### (2) 学校教育功労者(15名)

福島市立福島第三小学校長	佐藤 秀美
福島市立福島第一中学校長	佐藤 浩哉
二本松市立二本松南小学校長	佐藤 則之
須賀川市立第一小学校長	永瀬 功一
会津若松市立謹教小学校長	石本 浩一
耶麻郡猪苗代町立猪苗代小学校長	秦 尚志
南会津郡南会津町立田島小学校長	高橋 弘之
いわき市立中央台東小学校長	林 和樹
いわき市立小名浜第一小学校長	坂本 貴洋
いわき市立勿来第一中学校長	森 義彦
福島県立橘高等学校長	加藤 知道
福島県立安積黎明高等学校長	湯田 重哉
福島県立磐城高等学校長	吉田 強栄
福島県立磐城桜が丘高等学校長	佐竹 正徳
福島県立視覚支援学校長	橋本 淳一

#### (3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者(3名)	
(前)福島県立博物館長	赤坂 憲雄
郡山家庭教育を支援する会会長	津田 智
福島県婦人団体連合会副会長	石川 美知
イ 功績顕著な団体・施設(3団体・3施設)	
(社会教育団体)	
福島市立飯野中学校父母と教師の会	
郡山市立熱海小学校父母と教師の会	
南会津郡南会津町立田島小学校父母と教師の会	
(社会教育施設)	
福島市三河台学習センター	
国見町公民館	
須賀川市大東公民館	

#### (4) 文化財保護関係

ア 文化財保護功労者(2名)	
三島町文化財保護審議会会長	角田 伊一
(元)いわき市文化財保護審議会委員	木暮 幸雄

#### (5) 学校体育・学校保健関係

ア 学校保健功労者(3名)	
(元)双葉郡浪江町立津島小学校学校医	玉井 康裕
(元)いわき市立上遠野小学校他学校医	葉田野 博
福島県立須賀川桐陽高等学校学校歯科医	大内 道男
イ 功績顕著な団体(1団体)	
飯豊地区安全ボランティア	

#### (6) へき地教育関係

ア へき地教育功労者(1名)	
田村市立瀬川小学校長	湯浅伸二郎
イ 功績顕著な団体(2団体)	
耶麻郡猪苗代町立東中学校	
南会津郡南会津町立館岩中学校	

**(7) 特別支援教育関係**

ア 特別支援教育功労者(1名)

福島県立いわき支援学校長 曾川 孝規

**(8) 永年勤続関係**

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校長	19	11	6		36
教頭、副校長	27	13	17		57
教員等	249	165	196		610
教育庁				22	22
計	295	189	219	22	725

**(9) 特別功績者**

ア 児童・生徒(団体)の部(7団体)

- 白河市立白河第一小学校特設器楽クラブ
- 郡山市立郡山第一中学校合唱部
- 郡山市立郡山第二中学校管弦楽部
- いわき市立平第三中学校キャリア教育推進委員会
- 福島県立郡山高等学校合唱部
- 福島県立ふたば未来学園高等学校男子バドミントン部
- 福島県立いわき光洋高等学校放送委員会

イ 優秀教職員の部(23名)

福島市立福島第三小学校	教諭	浦山かおる
郡山市立金透小学校	教諭	近藤 和哉
白河市立白河第三小学校	主幹教諭	伊藤 恭一
西郷村立熊倉小学校	教諭	永島 恵子
棚倉町立棚倉小学校	教諭	小松 光恵
会津若松市立謹教小学校	教諭	遠藤奈緒美
南会津町立桧沢小学校	教諭	蒲倉 藍
いわき市立好間第一小学校	養護教諭	渡邊 佳子
伊達市立月館学園中学校	教諭	北 藍
二本松市立二本松第一中学校	教諭	佐藤 祐子
田村市立船引中学校	教諭	大東ゆかり
石川町立石川中学校	教諭	小林 修
中島村立中島中学校	教諭	上野 美紀
会津若松市立第一中学校	栄養教諭	渡部由布香
広野町立広野中学校	教諭	西崎 仁
いわき市立中央台南中学校	教諭	宮崎 美穂
郡山市立西田学園義務教育学校	教諭	白井 孝拓
福島県立安積黎明高等学校	教諭	根本 靖彦
福島県立白河旭高等学校	教諭	小澤 恵子
福島県立会津学鳳高等学校	教諭	菅家 奈未
福島県立会津学鳳高等学校	教諭	武藤小夜子
福島県立小高産業技術高等学校	実習講師	鈴木 一郎
福島県立遠野高等学校	教諭	鈴木 拓也

ウ 若手教職員奨励の部(2名)

相馬市立日立木小学校	教諭	大田 洋平
福島県立福島工業高等学校	教諭	鈴木 将仁

エ 優秀教職員(団体)の部(2団体)

棚倉町立棚倉小学校教職員  
大熊町立熊町小学校、大野小学校、大熊中学校教職員

**2 文部科学大臣表彰**

**(1) 地方教育行政功労者表彰(5名)**

郡山市教育委員会委員	今泉 玲子
(前)南相馬市教育委員会委員	大石 力彌
金山町教育委員会委員	長谷川恵一
(前)国見町教育委員会教育長	岡崎 忠昭
(前)いわき市教育委員会教育長	吉田 尚

**(2) 教育者表彰(3名)**

福島市立福島第三小学校長	佐藤 秀美
福島市立福島第一中学校長	佐藤 浩哉
福島県立橘高等学校長	加藤 知道

**3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲**

**(1) 令和3年春の叙勲**

ア 瑞宝小綬章	山ノ内壽太郎(教育功労 元福島県立磐城高等学校長)
	近藤 猛(教育功労 元福島県立橘高等学校長)
イ 瑞宝双光章	平田 州一(教育功労 元福島市立福島第一小学校長)
	関本 征司(教育功労 元浪江町立浪江小学校長)
	栗林 正樹(教育功労 元白河市立白河第一小学校長)
	野崎 修司(教育功労 元福島市立三河台小学校長)
	木幡 清明(教育功労 元南相馬市立原町第二小学校長)
	佐藤 玄(教育功労 元会津若松市立謹教小学校長)

**(2) 令和3年秋の叙勲**

ア 瑞宝小綬章	杉 昭重(教育功労 元福島県立安積黎明高等学校長)
	日下部文紀(教育功労 元福島県立相馬高等学校長)
	玉川 一郎(教育功労 元福島県立郡山東高等学校長)
イ 瑞宝双光章	工藤 博(教育功労 元郡山市立芳山小学校長)
	芳賀 忠夫(教育功労 元会津若松市立鶴城小学校長)
	小野 俊夫(教育功労 元会津若松市立第二中学校長)
	高梨 忍(教育功労 元南相馬市立原町第一中学校長)
	堀川 利夫(教育功労 元相馬市立中村第一中学校長)

**(3) 高齢者叙勲(令和3年4月1日~令和4年3月1日発令)**

ア 瑞宝小綬章(教育功労)	鈴木 三雄(元福島県立会津農林高等学校長)
	菅野 一雄(元福島県立相馬農業高等学校長)
イ 瑞宝双光章(教育功労)	大西 進(元猪苗代町立東中学校長)
	小野 恒夫(元浅川町立浅川中学校長)
	馬場 純(元会津高田町立尾岐小学校長)
	山野 宣夫(元いわき市立磐崎中学校長)
	小林喜代春(元三島町立宮下中学校長)
	齋藤 精二(元福島市立烏川小学校長)
	芳賀 末男(元いわき市立平第四小学校長)
	薄井 勇一(元矢吹町立中畑小学校長)
	佐藤 光良(元原町市立大甕小学校長)
	鈴木 進(元鮫川村立渡瀬小学校長)

古川 保夫 (元会津坂下町立坂下小学校校長)  
渡部 芳加 (元飯館村立上郷小学校校長)  
佐藤 啓二 (元会津坂下町立第二中学校校長)  
阿部 昭生 (元福島市立岳陽中学校校長)  
坂本 善一 (元棚倉町立棚倉小学校校長)  
志賀 三郎 (元いわき市立好間第一小学校校長)  
長谷川修二 (元会津本郷町立本郷第一小学校校長)  
平原 武男 (元白河市立白河第二小学校校長)  
星 芳昭 (元田島町立田島小学校校長)  
今野昭八郎 (元鹿島町立上真野小学校校長)  
佐久間英夫 (元福島市立湯野小学校校長)  
渡部 壯一 (元原町市立高平小学校校長)  
兼子 和男 (元磐梯町立磐梯中学校校長)  
塩 正守 (元いわき市立小川中学校校長)  
仲井 政守 (元いわき市立赤井小学校校長)  
中潟 崇雄 (元福島市立清水小学校校長)  
半田 三郎 (元東和町立上太田小学校校長)  
深谷 巖 (元古殿町立田口小学校校長)  
八巻 嘉男 (元白河市立東北中学校校長)  
伊東 圭一 (元北塩原村立第一中学校校長)  
境野 啓二 (元福島市立野田中学校校長)  
八巻 信光 (元梁川町立堰本小学校校長)  
大槻 邦雄 (元相馬市立向陽中学校校長)  
押部 光男 (元金山町立本名小学校校長)  
鈴木 茂 (元安達町立渋川小学校校長)  
増子 一雄 (元郡山市立行健第二小学校校長)  
弓田 忠男 (元会津若松市立城北小学校校長)  
古関 良一 (元福島市立平石小学校校長)  
難波 繼男 (元郡山市立安積第二中学校校長)  
西間木 清 (元福島県立平商業高等学校校長)  
岡田 貞夫 (元福島市立野田小学校校長)  
上遠野清志 (元いわき市立小名浜第三小学校校長)  
佐藤 正良 (元福島市立吉井田小学校校長)  
田村賢一郎 (元西郷村立熊倉小学校校長)  
中山 一夫 (元いわき市立御厩小学校校長)  
藤田 正雄 (元矢吹町文化財保護審議会会長)  
三浦 仁 (元塩川町立塩川小学校校長)  
青砥 照男 (元郡山市立永盛小学校校長)  
阿部 昌雄 (元富岡町立富岡第一小学校校長)  
中山 智夫 (元船引町立船引中学校校長)  
二階堂正三 (元いわき市立上遠野中学校校長)  
針金 作次 (元いわき市立小名浜第一小学校校長)  
水戸 昇 (元喜多方市立第二中学校校長)

#### (4) 死亡叙位・叙勲

《令和3年度》

ア 正五位

渡邊 貞綱 (元福島県立双葉高等学校校長)

イ 従五位・瑞宝小綬章

佐藤 登彦 (元福島県立郡山高等学校校長)

莊原 吉代 (元福島県立長沼高等学校校長)

園部 進 (元福島県立相馬農業高等学校校長)  
丹藤 茂 (元福島県立会津高等学校校長)  
ウ 従五位・瑞宝双光章  
菅野 宏明 (元福島県立石川養護学校校長)  
岩部 一道 (元郡山市立高倉小学校校長)  
エ 従五位  
齋藤 久 (元福島県立福島商業高等学校校長)  
星 重良 (元浪江町立浪江中学校校長)  
佐藤 重雄 (元福島県立盲学校校長)  
土屋 重憲 (元猪苗代町立猪苗代中学校校長)  
古川 保夫 (元会津坂下町立坂下小学校校長)  
永山 理吉 (元福島県立磐城農業高等学校校長)  
栗城 讓 (元会津坂下町立第一中学校校長)  
石井 弘喜 (元大越町立上大越小学校校長)  
大友 鍊一 (元福島県立磐城高等学校校長)  
オ 正六位・瑞宝双光章  
高橋 和行 (元三春町立中郷小学校校長)  
猪越 勝芳 (元いわき市立長倉小学校校長)  
近藤 博之 (元福島市立飯坂小学校校長)  
鈴木 季一 (元船引町立船引小学校校長)  
芳賀 進 (元会津若松市立一箕中学校校長)  
佐藤 茂夫 (元相馬市立向陽中学校校長)  
黒沼 淳子 (元会津若松市立門田小学校校長)  
渡邊 智 (元いわき市立錦中学校校長)  
富岡 光司 (元いわき市立白水小学校校長)  
吉田 直重 (元郡山市立高野小学校校長)  
三浦 哲夫 (元福島市立北沢又小学校校長)  
星 佐益 (元会津坂下町立坂下小学校校長)  
千葉 榮 (元安達町立下川崎小学校校長)  
鈴木 充子 (元いわき市立勿来第一小学校校長)  
佐藤 敏夫 (元相馬市立大野小学校校長)  
山ノ内ワグリ (元会津若松市立東山小学校校長)  
遠藤 忠宏 (元本宮市立岩根小学校校長)  
鷲 理一 (元福島市立清水中学校校長)  
渡部 清 (元猪苗代町立翁島小学校校長)  
車田 政美 (元石川町立石川小学校校長)  
片寄 秀雄 (元いわき市立平第三小学校校長)  
カ 正六位  
大越 弘 (元西会津町立新郷小学校校長)  
小川 盛夫 (元会津高田町立第二中学校校長)  
渡邊 秋男 (元郡山市立日和田小学校校長)  
立川 光平 (元喜多方市立熊倉小学校校長)  
松坂 昭造 (元大玉村立大山小学校校長)  
獨鈷 元夫 (元会津若松市立湊中学校校長)  
佐藤 徳重 (元いわき市立平第三小学校校長)  
佐藤 公基 (元福島市立蓬萊東小学校校長)  
長谷川和夫 (元会津若松市立第六中学校校長)  
馬場 昭 (元下郷町立旭田小学校校長)  
佐藤 十次 (元福島県立田村高等学校校長)  
猪狩 勝雄 (元いわき市立中央台北中学校校長)

須藤 信立（元熱塩加納村立熱塩小学校校長）  
 遠藤 松義（元新地町立尚英中学校校長）  
 小松 眞（元いわき市立平第五小学校校長）  
 平野 長一（元会津坂下町立川西小学校校長）  
 荒川 登（元小高町立小高小学校校長）  
 小井戸雅典（元いわき市立平第三中学校校長）  
 近藤 昌好（元西郷村立熊倉小学校校長）  
 小柳 昭三（元三春町立沢石小学校校長）  
 國分 一夫（元本宮町立本宮小学校校長）  
 佐藤 學（元新鶴村立新鶴小学校校長）  
 芳賀 忠夫（元会津若松市立鶴城小学校校長）

キ 従六位・瑞宝双光章

金澤 隆夫（元郡山市立金透小学校校長）  
 荒 孝一（元相馬市立日立木小学校校長）  
 草野 拓郎（元いわき市立平第六小学校校長）  
 遠藤 仁人（元泉崎村立泉崎第一小学校校長）  
 但野 正博（元鹿島町立鹿島小学校校長）

ク 従六位

穂積 友大（元白河市立白河第一小学校校長）  
 小野 賢男（元いわき市立湯本第三中学校校長）  
 金成 宗明（元福島市立福島第三中学校校長）  
 吉岡 榮一（元いわき市立平第一小学校校長）  
 山本 毅（元いわき市立平第一小学校校長）  
 西間木 薫（元福島県立盲学校校長）

ケ 正七位・瑞宝双光章

遠藤 功一（元相馬市立中村第一小学校校長）  
 新田 一（元いわき市立大浦小学校校長）  
 高木 仁（元いわき市立江名中学校校長）

コ 正七位

鈴木 信光（元福島市立福島第三小学校校長）

サ 従七位・瑞宝単光章

羽田 晃（元福島市立渡利中学校校長）

## 第13節 奨学育英

### 1 福島県奨学資金

#### (1) 貸与金額

区 分	貸 与 月 額		
高等学校	国公立	自宅	18,000 円
		自宅外	23,000 円
	私立	自宅	30,000 円
		自宅外	35,000 円
高等専門学校	18,000 円		
大 学	国公立	35,000 円	
	私立	40,000 円	
入学一時金 (H25～)	(一括貸与) 500,000 円		

#### (2) 令和3年度の貸与状況

##### ア 募集期間

###### (7) 在学採用

令和3年4月入学以降～6月30日

###### (4) 震災特例採用

令和3年5月1日～7月31日

##### イ 奨学生決定

###### (7) 在学採用

令和3年8月18日（高等学校）

令和3年8月18日（大学・高等専門学校）

###### (4) 震災特例採用

令和3年9月1日

##### ウ 貸与状況

区 分	継続貸与	新規貸与		計
		応募者	貸与者	
高等学校 (うち震災特例)	85 人 ( 0 人)	128 人 (70 人)	124 人 (70 人)	209 人 ( 70 人)
大 学 高等専門学校	181 人	66 人	57 人	238 人
大学等 入学一時金	—	27 人	24 人	24 人
計	266 人	221 人	205 人	471 人

## 2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程 修学資金貸与制度

#### (1) 貸与月額

##### 定時制課程

1～4学年 14,000 円

##### 通信制課程

1～4学年 14,000 円

#### (2) 令和3年度の貸与状況

学 年 別	定時制	通信制	計
1 年 生	0 人	0 人	0 人
2 年 生	1 人	0 人	1 人
3 年 生	0 人	0 人	0 人
4 年 生	2 人	0 人	2 人
計	3 人	0 人	3 人





## 第 3 章 教育財政

### 第 1 節 令和 3 年度決算

#### 1 歳入

##### (1) 一般会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
分 担 金 及 び 負 担 金		0	0.0
	負 担 金	0	0.0
使 用 料 及 び 手 数 料		4,234,900	9.4
	使 用 料	4,126,495	9.1
	手 数 料	108,405	0.2
国 庫 支 出 金		34,772,470	76.9
	国 庫 負 担 金	27,695,856	61.3
	国 庫 補 助 金	6,971,154	15.4
	委 託 金	105,460	0.2
財 産 収 入		221,041	0.5
	財 産 運 用 収 入	32,137	0.1
	財 産 売 払 収 入	188,904	0.4
寄 附 金		121,100	0.3
	寄 附 金	121,100	0.3
繰 入 金		1,668,996	3.7
	特 別 会 計 繰 入 金	0	0.0
	基 金 繰 入 金	1,668,996	3.7
諸 収 入		394,055	0.9
	預 金 利 子	0	0.0
	貸 付 金 元 利 収 入	9,613	0.0
	受 託 事 業 収 入	128,884	0.3
	収 益 事 業 収 入	59,228	0.1
	雑 入	196,330	0.4
県 債		3,733,100	8.3
	県 債	3,733,100	8.3
計		45,145,662	100.00

## (2) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
国庫支出金		0	0.0
	国庫補助金	0	0.0
繰入金		45,535	10.0
	一般会計繰入金	39,055	8.6
	基金繰入金	6,480	1.4
繰越金		80,176	17.6
	繰越金	80,176	17.6
諸収入		330,167	72.4
	預金利子	7	0.0
	貸付金元利収入	327,928	71.9
	雑収入	2,232	0.5
財産収入		110	0.0
	財産運用収入	110	0.0
計		455,988	100.0

## 2 歳出

## (1) 県予算に占める教育費

(単位：千円)

区分	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
県予算	1,258,513,526	100.0	1,717,652,330	100.0	1,476,282,529	100.0
教育費	224,180,776	17.9	223,336,524	13.0	218,205,851	14.8
教育委員会所管分	189,560,208	15.1	188,946,671	11.0	184,497,946	12.5
知事部局所管分	34,620,568	2.8	34,389,853	2.0	33,707,905	2.3
教育委員会所管分総務費	0	0.0	3,406	0.0	3,406	0.0
教育委員会所管分災害復旧費	21,196	0.0	1,105,717	0.1	445,705	0.0

(最終予算額及び決算額には繰越分を含む)

## (2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

(単位：千円)

区分(款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総務費	0	0.0	3,406	0.0	3,406	0.0
総務管理費	0	0.0	3,406	0.0	3,406	0.0
諸費	0	0.0	3,406	0.0	3,406	0.0
教育費	189,560,208	100.0	188,946,671	99.4	184,497,946	99.8
教育総務費	28,653,599	15.1	28,046,585	14.8	27,234,001	14.7
教育委員会費	10,143	0.0	10,143	0.0	8,423	0.0
事務局費	4,487,089	2.4	4,308,568	2.3	4,258,287	2.3
財務管理費	2,070,672	1.1	2,081,059	1.1	1,824,398	1.0
義務教育指導費	1,553,080	0.8	1,363,043	0.7	1,201,505	0.6
教職員福利厚生費	19,223,960	10.1	18,441,585	9.7	18,254,890	9.9
育英費	527,955	0.3	329,728	0.2	282,496	0.2

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
恩給及び退職年金費	42,784	0.0	39,609	0.0	37,804	0.0
教育センター費	727,373	0.4	1,461,666	0.8	1,355,648	0.7
特別支援教育センター費	10,543	0.0	11,184	0.0	10,550	0.0
小学校費	57,445,381	30.3	56,434,143	29.7	56,345,996	30.5
教職員費	57,445,381	30.3	56,434,143	29.7	56,345,996	30.5
中学校費	36,838,376	19.4	36,531,898	19.2	36,442,835	19.7
教職員費	36,838,376	19.4	36,531,898	19.2	36,442,835	19.7
高等学校費	44,981,932	23.7	46,874,774	24.6	44,658,064	24.2
教職員費	33,889,746	17.9	33,628,275	17.7	33,537,207	18.1
高等学校指導費	642,506	0.3	594,589	0.3	506,842	0.3
高等学校管理費	9,435,573	5.0	9,631,082	5.1	8,655,990	4.7
施設等整備費	542,916	0.3	2,210,331	1.1	1,508,789	0.8
農業高等学校実習費	192,064	0.1	190,443	0.1	186,229	0.1
水産高等学校実習費	206,243	0.1	179,367	0.1	178,056	0.1
28~31ふたば未来学園中学・高校整備費	17,955	0.0	393,250	0.2	37,998	0.0
3~6安積中高一貫校整備費	54,929	0.0	47,437	0.0	46,953	0.1
特別支援学校費	18,628,100	9.8	18,253,563	9.7	17,206,913	9.3
特別支援学校費	2,308,877	1.2	2,424,333	1.3	1,856,212	1.0
教職員費	14,211,367	7.5	13,859,627	7.3	13,827,407	7.5
2~4伊達地区特別支援学校整備費	1,986,056	1.0	1,854,883	1.0	1,446,607	0.8
3~6双葉地区特別支援学校整備費	121,800	0.1	114,720	0.1	76,687	0.0
社会教育費	2,277,541	1.3	2,188,102	1.2	2,078,335	1.1
社会教育総務費	351,943	0.2	301,215	0.2	256,384	0.1
図書館費	76,261	0.1	76,241	0.0	75,571	0.0
自然の家費	496,216	0.3	484,329	0.3	472,804	0.3
文化振興費	1,000	0.0	3,000	0.0	3,000	0.0
文化財保護費	331,326	0.2	322,432	0.2	300,947	0.2
美術館費	269,079	0.1	270,274	0.1	258,776	0.1
博物館費	435,401	0.2	408,258	0.2	399,875	0.2
文化財センター費	316,315	0.2	322,353	0.2	310,978	0.2
保健体育費	735,279	0.4	617,606	0.2	531,802	0.3
保健体育総務費	280,212	0.1	272,363	0.1	266,248	0.1
学校保健費	360,018	0.2	250,486	0.1	184,068	0.1
体育振興費	95,049	0.1	94,757	0.0	81,486	0.1
災害復旧費	21,196	0.0	1,105,717	0.6	445,705	0.2
文教施設災害復旧費	21,196	0.0	1,105,717	0.6	445,705	0.2
公立文教施設災害復旧費	21,196	0.0	1,105,717	0.6	445,705	0.2
計	189,581,404	100.0	190,055,794	100.0	184,947,057	100.0

## (3) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	455,460	100.0	333,223	100.0	314,684	100.0
奨学資金貸付事業費	455,460	100.0	333,223	100.0	314,684	100.0
貸付金	437,439	96.0	315,503	94.7	297,835	94.6
償還金	200	0.1	200	0.1	0	0.0
事務費	17,820	3.9	17,519	5.2	16,849	5.4
一般会計繰出金	1	0.0	1	0.0	0	0
計	455,460	100.0	333,223	100.0	314,684	100.0

## 第2節 学校教育施設

## 1 県立学校

## (1) 学校建設の概要

令和3年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が74.4%、鉄骨その他造が23.8%と非木造建物が98.2%を占めており、木造建物が1.8%となった。

別表 県立学校建物の現況 (R3.5.1) [確定値]

区分		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
		m <sup>2</sup>	%	m <sup>2</sup>	%	m <sup>2</sup>	%	m <sup>2</sup>	%
校舎	R	7,586	100.0	669,118	85.6	93,433	93.7	770,137	86.6
	S	0	0.0	97,327	12.5	4,294	4.3	101,621	11.4
	W	0	0.0	15,265	2.0	2,001	2.0	17,266	1.9
	計	7,586	100.0	781,710	100.0	99,728	100.0	889,024	100.0
体育館	R	1,297	100.0	32,981	18.0	5,855	49.1	40,133	20.5
	S	0	0.0	148,937	81.5	6,059	50.9	154,996	79.1
	W	0	0.0	937	0.5	0	0.0	937	0.5
	計	1,297	100.0	182,855	100.0	11,914	100.0	196,066	100.0
寄宿舍	R	0	0.0	11,846	60.8	3,577	66.7	15,423	62.1
	S	0	0.0	7,628	39.2	62	1.2	7,690	31.0
	W	0	0.0	0	0.0	1,721	32.1	1,721	6.9
	計	0	0.0	19,474	100.0	5,360	100.0	24,834	100.0
計	R	8,883	100.0	713,945	72.6	102,865	87.9	825,693	74.4
	S	0	0.0	253,892	25.8	10,415	8.9	264,307	23.8
	W	0	0.0	16,202	1.6	3,722	3.2	19,924	1.8
	計	8,883	100.0	984,039	100.0	117,002	100.0	1,109,924	100.0

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

双葉、浪江、浪江津島校、富岡、双葉翔陽、相馬農業飯館校、富岡支援

※構成比率は小数点第2位以下四捨五入

※特別支援学校には視覚・聴覚支援学校面積を含む。

**(2) 令和3年度事業実績****ア 高等学校施設整備事業**

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
長寿命化事業	8	安積、郡山北工業、岩瀬農業、白河実業、 修明、光南、福島工業、いわき海星	千円 1,069,405	千円 0	千円 962,000	千円 107,405
県立高等学校 再編整備事業	21	保原高校外 20 校	千円 537,831	千円 0	千円 494,770	千円 43,061
安積中高一貫校 整備事業	1	安積高校	千円 46,954	千円 0	千円 46,954	千円 0
ふたば未来学園 中学校・高等学校 整備事業	2	ふたば未来学園中学校、高等学校	千円 3,245	千円 0	千円 3,245	千円 0
合 計	32		1,657,435	0	1,506,969	150,466

**イ 特別支援学校施設整備事業**

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
長寿命化事業	3	大笹生支援、猪苗代支援、須賀川支援	千円 533,229	千円 0	千円 479,700	千円 53,529
特別支援学校 整備事業	4	だて支援、双葉支援(仮称)、安達支援(仮称)、 南会津支援(仮称)	千円 1,736,204	千円 232,121	千円 1,427,604	千円 76,479
合 計	7		2,269,433	232,121	1,907,304	130,008

## 2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

### (1) 構造物保有面積

令和3年5月1日現在 [確定値]

区分	小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園		
	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	
校舎	R	1,401,470	97	871,560	96	2,273,030	97	2,528	70	32,022	29
	S	27,806	2	20,706	2	48,512	2	1,090	30	44,124	40
	W	19,011	1	14,838	2	33,849	1	0	0	34,275	31
	計	1,448,287	100	907,104	100	2,355,391	100	3,618	100	110,421	100
屋内運動場	R	154,702	44	137,165	54	291,867	48	391	94	0	0
	S	193,382	55	114,066	45	307,448	51	26	6	0	0
	W	3,161	1	1,762	1	4,923	1	0	0	0	0
	計	351,245	100	252,993	100	604,238	100	417	100	0	0
寄宿舎	R	65	100	1,821	85	1,886	85	0	0	0	0
	S	0	0	148	7	148	7	0	0	0	0
	W	0	0	172	8	172	8	0	0	0	0
	計	65	100	2,141	100	2,206	100	0	0	0	0
計	R	1,556,237	86	1,010,546	87	2,566,783	87	2,919	72	32,022	29
	S	221,188	12	134,920	12	356,108	12	1,116	28	44,124	40
	W	22,172	1	16,772	1	38,944	1	0	0	34,275	31
	計	1,799,597	100	1,162,238	100	2,961,835	100	4,035	100	110,421	100

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

大熊町、双葉町

※構成比率は小数点以下四捨五入

※各町村立学校の面積等においては、施設台帳管理システムにて入力された内容を参照した。

※義務教育学校については、前期課程専用部分は小学校に、後期課程専用部分は中学校に、共用部分は各々按分して計上した。

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分実績額）

令和3年度

区分	単年度		国庫債務負担行為	
	学校数	負担金及び 交付金 (千円)	学校数	負担金及び 交付金 (千円)
校舎の 新增築	1	21,120	2	170,734
統合	1	16,268	1	826,334
不適格建物 の改築	2	27,683	—	—
大規模 改造	71	298,399	—	—
地震補強	4	78,741	—	—
危険改築	6	322,918	—	—
防災機能 強化	4	67,597	—	—
太陽光 発電等	1	2,494		
長寿命化 改良	11	918,001		
計	(延べ校数) 101	1,753,221	(延べ校数) 3	997,068

※対象学校種別：幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校等

第3節 産業教育設備整備事業

1 産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図った。

令和3年度における実施状況は次のとおりである。

設備

(1) 県単独事業

老朽設備の整備 109,746千円

第4節 理科教育振興法補助事業

令和3年度の設備現有状況は次のとおりである。

1 理科設備

学校規模別設備現有状況

令和4年3月31日現在

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有 率
高校Ⅰ	80	9,049,164,000	1,121,368,550	12.4
高校Ⅱ	0	0	0	—
小計	80	9,049,164,000	1,121,368,550	12.4
視覚支援学校	1	154,432,000	5,484,760	3.6
聴覚支援学校	4	155,914,000	9,545,514	6.1
特別支援学校	18	591,836,578	37,076,999	6.3
小計	23	902,182,578	52,107,273	5.8

2 算数・数学特別設備

学校規模別設備現有状況

令和4年3月31日現在

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有 率
高校Ⅰ	80	207,637,000	71,777,580	34.6
高校Ⅱ	0	0	0	—
小計	80	207,637,000	71,777,580	34.6
視覚支援学校	1	3,523,000	42,400	1.2
聴覚支援学校	4	5,863,000	616,445	10.5
特別支援学校	18	22,890,000	4,605,870	20.1
小計	23	32,276,000	5,264,715	16.3

※規模別の高校Ⅰは学級数合計が27学級以下、

高校Ⅱは学級数合計が28学級以上の学校が対象となり、現在は28学級以上の学校は無い。

第5節 情報処理設備整備事業

令和3年度における事業実施状況は次のとおりである。

1 県単独事業

(1) 教育用コンピュータの整備

県立高校 79校（リース・保守） 354,823千円

## 第6節 体育施設

### 1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

令和3年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

#### (1) 水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	面積(m <sup>2</sup> )	交付金額(千円)
会津若松市	行仁小学校	—	2,451
白河市	白河第二中学校	81	5,339

#### (2) 中学校武道場

設置者名	施設名	面積(m <sup>2</sup> )	交付金額(千円)
伊達市	霊山小学校	93	4,162
白河市	白河第二中学校	113	5,437

### 2 社会体育施設整備費補助

令和3年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

#### (1) 地域スポーツセンター

設置者名	施設名	面積(m <sup>2</sup> )	交付金額(千円)
南相馬市	南相馬市民プール	33	59,451
南相馬市	南相馬市スポーツセンター	3,794	33,337
国見町	国見町上野台運動公園上野台体育館	—	814
天栄村	天栄村屋内スポーツ運動場	—	11,110

#### (2) 地域武道センター

設置者名	施設名	面積(m <sup>2</sup> )	交付金額(千円)
該当なし			

#### (3) 社会体育施設耐震化

設置者名	施設名	面積(m <sup>2</sup> )	交付金額(千円)
該当なし			



## 第4章 教育の情報化

### 第1節 基盤整備

県立学校、図書館、美術館及び博物館等の教育関係機関が専用イントラネット及び電子メール等のインターネットサービスを利用できるよう、平成11年度から「うつくしま教育ネットワーク」、平成28年度から「ふくしま教育クラウドサービス」を運用し利便性の維持・向上を図っている。

平成30年度からは県立教育機関向けのネットワーク「FACE (Fukushima Advanced Cloud network for Education)」の運用を開始した。

Webシステムについては、情報発信の強化と作業の効率化を図るため、福島県のWebシステム及びNetCommons3を活用したCMS(コンテンツ・マネジメント・システム)により運用し、県立学校を含む教育庁機関及び希望する市町村教育機関のWebサイトによる情報公開を支援した。

県立学校の教職員が校務に使用するパソコンについては、平成21年度までに、県立学校に対して教員1人1台に相当するパソコンの配備を行っていた。平成29年度から令和元年度までにWindows7のサポート期限到来に備え、5,892台の更新・配備を行った。

また、新学習指導要領及び新時代の学びに必要なICT環境の整備として、令和2年度から3年度にかけて、各県立学校に高速大容量通信及び無線LANネットワークの整備、指導教員に対して1人1台の指導用端末の整備、各県立高校の普通教室に大型提示装置の整備を行った。

県立学校では、情報セキュリティの向上、調査書の電子化への対応等のための統合型校務支援システム及び出勤簿等の電子化のための勤怠管理システムを、令和2年度に整備した。また市町村立学校については、令和元年に「市町村立学校統合型校務支援システムの在り方検討協議会」において、市町村向けの県推奨システムを決定しており、市町村ごとに判断の上、令和2年度より整備している。

#### 過去10年間の県立学校校務用パソコンの整備状況

年度	教職員PC配備実績
H24	1,395台 ※1
H25	814台 ※1
H26	0台
H27	0台
H28	228台 ※2
H29	2,517台 ※3
H30	1,767台 ※3
R1	1,608台 ※3
R2	0台
R3	0台

※1 WindowsXPのサポート終了に伴う更新等

※2 Windows Vistaサポート終了に伴う更新等

※3 Windows7サポート終了に伴う更新

#### 学校の基盤整備状況(小・中・高・特別支援学校)

項目	福島県	全国平均
教育用PC1台当たりの児童生徒数	1.0人	0.9人
校務用PCの整備率	125.8%	125.4%
普通教室のLAN整備率	90.4%	94.8%
普通教室の大型提示装置整備率	77.6%	83.6%
インターネット接続率(100Mbps以上)	95.8%	96.6%
統合型校務支援システムの整備率	71.6%	81.0%

文部科学省調べ(令和3年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(R4.3現在)(確定値))

### 第2節 人材の育成・活用

すべての教員がコンピュータを操作でき、コンピュータを用いて指導できることを目指して、研修の充実を図っている。

また、整備されたICT環境を有効に活用し、各学校でICTを利活用した教育の進展を支援するために、全ての県立学校にICT支援員を配置した。支援内容として、ICT機器の活用支援やメンテナンス支援を担った。指導力向上開発校、県立高校改革対象校、特別支援学校と県立中学校には週1回の支援を行い、それ以外の県立高校には月1回の支援を行った。

#### 人材の育成状況

項目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	83.9%	87.5%
授業にICTを活用して指導する能力	69.0%	75.3%
児童・生徒のICT活用を指導する能力	72.9%	77.3%
情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力	83.3%	86.0%

文部科学省調べ(令和3年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(R4.3現在)(確定値))



## 第5章 義務教育

### 第1節 概要

今年度は、県内の小・中学校児童生徒の学力の向上を図るため、「『ふくしま活用力育成シート』実践事業」、「『学びのスタンダード』推進事業」、「一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業」及び「理数教育優秀教員活用事業」を実施した。少人数教育充実のために、30人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。なお、「理数コンテスト事業」における、算数・数学ジュニアオリンピックは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

生徒指導関係では、「ピュアハートサポートプロジェクト」の一環として、教育センターに学校教育相談員を配置し、電話相談等を実施した。また、小学校132校、中学校207校、義務教育学校6校に文部科学省事業による緊急スクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。

さらに、教育相談研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

### 第2節 学校管理

#### 1 児童生徒数・学級数と教職員定数

##### (1) 小学校

年度	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3
本校	479	472	468	458	452	444	436	428	417	401
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	5	5	5	5	5	5	7	7	6	6
計	484	477	473	463	457	449	443	435	423	407
前差	△11	△7	△4	△10	△6	△8	△6	△8	△12	△16

##### (2) 令和3年度の学級数別学校数(小学校) ※休校が4校(分校1校含む)あり、0学級になる(5/1時点)。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	73	185	103	33	4	398
分室	—	—	—	—	—	—
分校	5	—	—	—	—	5
計	78	185	103	33	4	403
構成比	19	46	26	8	1	100

##### (3) 中学校 ※平成19年度から県立中学校を含む。

年度	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3
本校	236	232	229	224	223	221	219	219	216	211
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	—	—	—	—	—	—	2	2	2	2
計	236	232	229	224	223	221	221	221	218	213
前差	△1	△4	△3	△5	△1	△2	0	0	△3	△5

(4) 令和3年度の学級数別学校数(中学校) ※休校が2校あり、0学級になる(5/1時点)。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	83	74	41	10	1	209
分 室	—	—	—	—	—	—
分 校	2	—	—	—	—	2
計	85	74	41	10	1	211
構成比	40	35	19	5	1	100

(5) 義務教育学校 ※令和3年度は義務教育学校が3校新設された。

年 度	30	R元	R2	R3
本 校	1	2	3	6
計	1	2	3	6
前 差	1	1	1	3

(6) 令和3年度の学級数別学校数(義務教育学校)

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	—	4	2	—	—	6
計	—	4	2	—	—	6
構成比	0	67	33	0	0	100

(7) 公立幼稚園の設置状況

年 度	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3
園 数	201	193	191	184	166	154	149	133	128	123
園児数	8,646	8,320	8,005	7,590	6,603	6,205	6,197	6,010	5,505	5,029

(8) 小学校児童数・学級数の推移

小学校の児童数は昭和34年度が最高で、その後は減少を続けてきた。昭和52年度を境に児童数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和60年度を境に児童数が再び減少傾向にあり、学級数も学級編制基準の改善にもかかわらず少しずつ減少している。令和3年度は微増となった。

年 度	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3
単 式	4,301	4,197	4,103	4,019	3,883	3,814	3,716	3,615	3,172	3,190
複 式	204	203	215	209	225	201	199	207	201	179
特別支援	350	377	403	440	492	537	595	636	659	690

年 度	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3
児 童	102,095	99,339	96,776	94,686	92,449	90,657	88,781	86,521	85,862	85,017
学 級	4,855	4,777	4,721	4,668	4,600	4,552	4,510	4,458	4,032	4,059

(9) 中学校生徒数・学級数の推移

中学校の生徒数は昭和 37 年度が最高となり、その後は減少を続けてきた。昭和 56 年度を境に生徒数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和 63 年度より再び減少傾向にある。

年 度	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3
単 式	2,079	2,050	1,997	1,953	1,861	1,792	1,729	1,670	1,409	1,399
複 式	8	8	8	8	12	11	12	14	14	11
特別支援	203	218	233	248	254	267	295	308	310	306

年 度	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3
生 徒	56,922	56,262	54,929	53,608	52,194	50,306	48,473	46,992	45,758	45,050
学 級	2,290	2,276	2,238	2,209	2,127	2,070	2,036	1,992	1,733	1,716

(10) 義務教育学校児童生徒数・学級数の推移

年 度	30	R元	R2	R3	年 度	30	R元	R2	R3
単 式	13	20	21	58	児童・生徒	280	432	492	1,411
複 式	0	0	3	3	学 級	17	25	32	74
特別支援	4	5	8	13					

(11) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

年 度		25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4
小 学 校	教 員	7,028	6,979	6,944	6,850	6,812	6,752	6,707	6,634	6,587	6,532
	事 務 職 員	466	468	467	458	455	443	433	415	408	396
	充 指 導 主 事	23	25	26	27	29	29	28	29	30	29
	補 充 教 職 員	293	332	321	309	257	260	251	236	222	232
	県単独負担教員	171	170	141	155	153	162	153	167	156	158
学校栄養職員	124	125	123	121	121	122	118	119	124	122	
中 学 校	教 員	4,399	4,324	4,337	4,241	4,240	4,127	4,075	4,040	3,977	3,905
	事 務 職 員	227	228	229	244	241	230	219	208	209	211
	充 指 導 主 事	40	38	35	40	40	39	40	39	39	39
	補 充 教 職 員	150	143	167	167	163	132	124	117	103	97
	県単独負担教員	161	160	151	143	144	134	136	118	110	108
学校栄養職員	65	67	69	70	74	72	67	66	65	65	
市 立 特 別 支 援 学 校	教 員	46	41	39	32	30	30	60	64	59	63
	事 務 職 員	2	2	2	2	2	2	4	4	4	4
	補 充 教 職 員	13	13	7	6	6	7	7	6	6	5
	県単独負担教員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校栄養職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

## 2 教職員人事・任用

### 令和3年度人事異動方針

教育に対する県民の期待と要望に応え、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するとともに、東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故からの復興に向けた取組を進め、本県教育の一層の充実と向上発展を目指すためには、適正な人事配置により各学校の教職員組織及び教育庁職員組織を活性化し、教職員の志気の高揚を図らなければならない。

本委員会は、この実現のため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

### I 基本方針

- 1 全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果及び行政効果の向上を図る。
- 2 教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る。
- 3 厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図る。
- 4 教育に対する県民の信頼と期待に応えるため、事の公平性・公正性・透明性の確保に一層努める。
- 5 新型コロナウイルス感染症拡大の防止並びに東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴う様々な課題に適切に対応するための教員配置等を継続し、復興に向けた取組を進める。

### II 重点

#### 1 市町村立学校関係

- (1) 教育の充実を図るため、有能適格な教職員の採用に努めるとともに有為な人材を登用する。

教職員組織の充実と均衡を図るため、計画的な異動を推進する。

- (2) 特別支援教育及びへき地教育の充実を図るため、適任者を配置するとともに適正な異動を行う。
- (3) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性に鑑み、適任者を厳選し、適所に配置する。

#### 2 令和3年度公立小・中学校人事(令和4年3月末公表)

##### (1) 異動件数

異動件数 3,086 件(前年度 3,118 件) で 32 件の減少となった。

##### (2) 採用について

本年度は 410 名(小学校教諭 271 名、中学校教諭 111 名、養護教諭 16 名、事務職員 12 名、栄養職員 0 名)を新規に採用した。

##### (3) 異動について

各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。

また、東日本大震災後の児童・生徒の学力向上や心のケアに配慮するとともに、警戒区域等において臨時休業中の学校の再開を視野に入れた教職員配置に努め、相対地区で臨時休業中の学校の教職員については、被災した児童生徒を受け入れている学校に兼務加配として配置した。

#### (4) 昇任について

ア 管理職への昇任は校長 88 名(小学校 69 名、中学校 19 名、前年度比 11 名減)、教頭 101 名(小学校 67 名、中学校 31 名、義務教育学校 3 名、特別支援学校 0 名、前年度比 15 名減)、計 189 名で、前年度より 26 名減少した。

イ 副校長は小学校 5 名、中学校 3 名、義務教育学校 7 名の計 15 名を、主幹教諭は小学校 27 名、中学校 18 名(県立中 2 名を含む)、義務教育学校 4 名の計 49 名を登用した。

ウ 女性教員の管理職登用に意を用いた。小学校長 43 名、中学校長 5 名、小学校教頭 61 名、中学校教頭 18 名に加え、主幹教諭 14 名を登用した。

エ 教頭の昇任は受考者 198 名に対し、101 名で昇任率は 51.0%となっている。

#### (5) 退職について

ア 令和3年度末の退職者数は 677 名で前年度に比べ 63 名の増である。

イ 退職者の内訳は定年退職者 517 名、勸奨による退職者 71 名、普通退職者 89 名となっている。

ウ 退職者中、校長は 101 名(小学校 67 名、中学校 33 名、特別支援学校 1 名)、教頭は 19 名となっている。

## 3 教育職員免許状の授与状況

令和3年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で 1,722 件あり前年度より 92 件増となっている。

普通免許状は、前年度より 53 件増で 1,511 件、臨時免許状は 40 件増で 210 件、特別免許状は 1 件授与を行った。

普通免許状のうち令和3年度大学卒業者の占める割合は、約 75.9%で、1,147 件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	14件
同 一種免許状	139件
同 二種免許状	43件
中学校教諭専修免許状	23件
同 一種免許状	259件
同 二種免許状	11件
高等学校教諭専修免許状	27件
同 一種免許状	347件
幼稚園教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	80件
同 二種免許状	418件
特別支援学校教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	35件

同	二種免許状	84件
養護教諭専修免許状		0件
同	一種免許状	1件
同	二種免許状	12件
栄養教諭専修免許状		0件
同	一種免許状	10件
同	二種免許状	7件
特別支援学校自立活動教諭一種免許状		0件
高等学校教諭特別免許状		1件
小学校助教諭免許状		132件
中学校助教諭免許状		26件
高等学校助教諭免許状		36件
幼稚園助教諭免許状		5件
特別支援学校助教諭免許		6件
特別支援学校自立教科助教諭免許状		0件
養護助教諭免許状		5件

#### 4 学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中・義務教育学校の設置・廃止

	廃止(令和4.3.31)	設置(令和4.4.1)
小 学 校	福島市立東湯野小学校	白河市立大信小学校
	伊達郡川俣町立福田小学校	双葉郡富岡町立富岡小学校
	伊達郡川俣町立富田小学校	双葉郡檜葉町立檜葉小学校
	伊達郡川俣町立川俣南小学校	
	伊達郡川俣町立飯坂小学校	
	石川郡石川町立沢田小学校	
	白河市立信夫第一小学校	
	白河市立信夫第二小学校	
	白河市立大屋小学校	
	双葉郡浪江町立津島小学校	
	双葉郡大熊町立熊町小学校	
	双葉郡大熊町立大野小学校	
	双葉郡富岡町立富岡第一小学校	
	双葉郡富岡町立富岡第一小学校三春校	
	双葉郡富岡町立富岡第二小学校	
双葉郡富岡町立富岡第二小学校三春校		
双葉郡檜葉町立檜葉南小学校		
双葉郡檜葉町立檜葉北小学校		

中 学 校	福島市立立子山中学校	耶麻郡猪苗代町立猪苗代中学校
	耶麻郡猪苗代町立猪苗代中学校	双葉郡富岡町立富岡中学校
	耶麻郡猪苗代町立吾妻中学校	
	耶麻郡猪苗代町立東中学校	
	双葉郡浪江町立津島中学校	
	双葉郡大熊町立大熊中学校	
	双葉郡富岡町立富岡第一中学校	
	双葉郡富岡町立富岡第一中学校三春校	
	双葉郡富岡町立富岡第二中学校	
	双葉郡富岡町立富岡第二中学校三春校	
義務教育学校		双葉郡大熊町立学び舎ゆめの森

#### 5 学校防火

学校火災は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

- ・ 学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
- ・ 木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
- ・ 児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

令和3年度の学校火災は、市町村立小・中・義務教育学校・特別支援学校における発生が1件で、前年度より1件増加した。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

令和3年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

##### (1) 令和3年度公立小・中・義務教育学校・特別支援学校防火診断項目

- ア 防火体制について
- イ 警備員、代行員の勤務状況について

- ウ 火気関係設備及び取り扱い状況について
- エ 電気設備について
- オ 消防用設備及びその管理について
- カ その他

- ・諸表簿の管理状況
- ・毒劇物・危険物等薬品の保管状況

**(2) 学校防火診断の実施と活用**

ア 各学校における防火診断に係る報告を集約し、実施状況や課題を確認した。

イ 学校事故防止対策研究協議会は開催できなかったが、各教育事務所から、防火診断の結果や実際の学校火災事例等をもとに、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・義務教育学校・特別支援学校に指導した。  
 ※ 平成21年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

**6 へき地対策**

**(1) へき地学校の状況**

ア へき地学校

教育事務所	級地	4級		3級		2級		1級		準1級		特地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
小学校	県北					1		1						13		15	0
	県中					2		3	1	1	1		1	20		26	3
	県南							1						8		9	0
	会津					3		4			1			6		14	0
	南会津					7		1						6		14	0
	相双					3		1						3		7	0
	いわき					2		2			1			7	1	12	1
	計	0	0	0	0	18	0	13	1	3	1	0	1	63	1	97	4
中学校	県北					1								8		9	0
	県中					2		2			1			9		14	0
	県南							1						4		5	0
	会津					1		4			1			6		12	0
	南会津					4								3		7	0
	相双					3		1						1		5	0
	いわき					2		2			1			4		9	0
	計	0	0	0	0	13	0	10	0	3	0	0	0	35	0	61	0
総計	0	0	0	0	31	0	23	1	6	1	0	1	98	1	158	4	
		0	0	0	0	31	0	24	0	7	0	1	99	0	162	0	

イ 特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数(休校中も含む)

級地	小学校									中学校									合計																	
	学校数			児童数			学級数			教職員数			学校数			生徒数			学級数			教職員数			学校数			児童生徒数			学級数			教職員数		
	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	18	0	18	478	0	478	61	0	61	211	0	211	13	0	13	283	0	283	31	0	31	196	0	196	31	0	31	761	0	761	92	0	92	407	0	407
1級	13	1	14	907	9	916	78	2	80	244	5	249	10	0	10	440	0	440	40	0	40	217	0	217	23	1	24	1347	9	1356	118	2	120	461	5	466
準1	3	1	4	159	0	159	13	0	13	38	0	38	3	0	3	234	0	234	12	0	12	50	0	50	6	1	7	393	0	393	25	0	25	88	0	88
特地	0	1	1	0	7	7	0	2	2	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	7	7	0	2	2	0	4	4
教育事務所指定	63	1	64	5123	7	5130	402	2	404	1026	3	1029	35	0	35	3107	0	3107	177	0	177	721	0	721	98	1	99	8230	7	8237	579	2	581	1747	3	1750
合計	97	4	101	6667	23	6690	554	6	560	1519	12	1531	61	0	61	4064	0	4064	260	0	260	1184	0	1184	158	4	162	10731	23	10754	814	6	820	2703	12	2715



## (2) へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、また、複式学級も多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

### ア へき地教育の人事行政

「平成 29 年度人事異動方針」第 1 の 2 において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第 6 次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本として掲げ、これを受けて平成 29 年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項第 2 の 2 の (1) において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」こととし、へき地と各地域との計画的な異動の推進を図った。

### (ア) へき地異動の地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

○ A 地域 市の中心部で比較的交通の便のよい地区及び桑折町、国見町、鏡石町、石川町、浅川町、三春町、小野町、棚倉町、塙町、会津坂下町、会津美里町、富岡町の中心部の学校

○ B 地域 A 及び C 地域以外の学校

○ C 地域 へき地の学校(人事委員会・教育事務所指定の学校)

### (イ) 異動基準

a へき地学校勤務については次の基準による。

○ へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。

○ へき地学校勤務については、別表 1 による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表 2 による。

○ すでに、へき地学校勤務満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、2 年以上とする。

別表 1 (教員のへき地校勤務年数)

級別	教育事務 所指定の へき地	人事委員会指定へき地				
		特・ 準 1 級地	1 級地	2 級地	3 級地	4 級地以上
勤続 年数	4 年以上	3 年以上		2 年以上		

別表 2 (教員のへき地校勤務年数)

会津ブロック外出身者の 会津ブロックへき地 勤務年数 (新採は含まない)	へき地級地別	
	教育事務所指定	特・準 1 級地、 1 級地以上
	3 年以上	2 年以上

### b 他管内へき地等への計画的異動

小学校・中学校等に勤務する教員のうち、学習指導等実績のある優秀な教員を選考して、他管内へき地等の学校に計画的に異動させ、その教育実践を通して、県内全域の教育の振興・充実を図ることとした。異動先での勤務期間は 3 年以上である。また、異動先での勤務期間を良好な成績で勤務した者については、教頭昇任選考筆頭試験の一部(指導関係)を免除する施策もあわせて実施した。

### イ へき地学校教職員の経済的優遇策

人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。

#### ○ へき地手当等の支給

勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のとおり支給される。

級地	手当額	支給割合
4 級地	(給料の月額+教職調整額 +扶養手当)×支給割合	20/100
3 級地		16/100
2 級地		12/100
1 級地		8/100
準 1 級地		4/100

(注) 給料の月額=給料月額+給料の調整額

#### ○ へき地手当に準ずる手当

へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等(人事委員会指定)へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。

#### ・異動日から 5 年間

(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×4%

#### ・5 年を経過した後の 1 年間

(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×2%

### ウ へき地学校教職員の配置に対する特別措置

へき地教育振興法第 4 条の 2 項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへき地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

## (3) 今後の問題点

### ア へき地学校の教職員配置の改善を図ること。

へき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にへき地に配置していく必要がある。

また、へき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実に引き続き努力する必要がある。

### イ 都市・平地とへき地との人事異動を推進すること。

へき地学校勤務未了者を解消するため、これまでも計画的に平地、へき地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

平成22年3月に策定した本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第6次福島県総合教育計画」(平成25年3月改定)では、「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念に、

- ① 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
- ② 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
- ③ 豊かな教育環境の形成

の3つの基本目標のもと、令和元年度の成果を踏まえるとともに、引き続き、震災後の本県学校教育分野の復興に適切に対応するため、事業を展開してきた。

特に、「知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成」「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」「豊かな教育環境の形成」を、重視する3つの観点として、学校教育の推進を図ってきた。

#### (2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、各市町村教育委員会指導主事等(下表)によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数 (学校教育課長を含む)	11	12	9	11	6	11	6	66
市町村教育委員会 指導主事等数	27	34	10	13	4	18	22	128

#### (3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、資質・能力の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教育課程の改善・充実、学習指導と生徒指導の充実に努めた。

ア 教育内容・方法の改善充実に努めた。

- (ア) 「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。
- (イ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研修に努めた。
  - 指導担当者研究協議会
  - 主任指導主事等会議
  - 学力向上担当指導主事会議
  - 生徒指導担当指導主事会議
  - 各教科等担当指導主事事前協議会
  - ふくしま教育創造コンソーシアム
- (ウ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。

- 対象者 各校長・教頭及び教務主任等のうちから各校1名参加

(エ) 福島県小・中学校教育研究会を共催し、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。

(ウ) 各種研究学校(地区)を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。

- 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等

- ・ 人権教育開発事業 ほか

- 県教育委員会による研究指定校

- ・ ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクトほか

イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。

(ア) 小学校、中学校初任者研修の実施

(イ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施

(ウ) 中央研修講座への派遣

(エ) 長期研修生(内地留学)の派遣

(オ) 教育研究団体に対する援助と指導

(カ) 教職員研究論文の募集

ウ 免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ア) 中学校免許外教科担任教員研修会

エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ア) 幼稚園等新規採用教員研修

(イ) 幼稚園等中堅教諭等資質向上研修

(ウ) 幼稚園教育理解推進事業中央協議会

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインによる開催

(エ) 幼稚園教育課程研究協議会(県内6地区開催)

(オ) 幼児教育実技研修会(県内4地区開催)

オ 生徒指導の充実に努めた。

(ア) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実・改善に努めた。

- 不登校・いじめ等対策域別研修会

(県内7地区開催)

(イ) ピュアハートサポートプロジェクトを実施した。

いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。

○ 教育相談体制の充実

- ・ スクールカウンセラー等活用事業
- ・ 緊急時カウンセラー派遣事業

- ・ 学校教育相談員(教育センターに配置)

- ・ スクールソーシャルワーカー派遣事業

- ・ ふくしま24時間子どもSOS

- ・ サポートティーチャー派遣事業

- ・ ふくしま子どもLINE相談

- 道徳教育の充実

- ・ 道徳教育総合支援事業

- ・ 道徳教育推進校による実践研究(県内7地区)

- 教育相談専門研修及び関係機関との連携強化

カ 社会の変化に対応した教育の充実に努めた。

(7) 情報化社会への対応

○ 学校におけるコンピュータ等の整備(市町村教委)

(イ) 国際化への対応

○ 語学指導等を行う外国青年招致事業の実施

○ 141名の外国J E T青年の受入れ(99名を市町村教育委員会が配置)

#### (4) 県立中学校入学者選抜

ア 基本方針

「令和4年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校(以下「中学校」という。)入学者選抜は、志願者の意欲・能力・適性等を総合的にみる選抜(以下「一般選抜」という。)によって行う。ただし、ふたば未来学園中学校においては、スポーツ選抜を行うことができる。選抜に当たっては、適性検査等の結果及び小学校の校長から提出される調査書を資料として総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

(7) 一般選抜

a 一般選抜は、各中学校の特色に配慮しつつ、各中学校の教育を受けるに足る意欲・能力・適性等を総合的に判断する選抜とし、すべての中学校で実施する。一般選抜には、その募集定員の中に各校の特色に応じて地域枠を設けることができる。なお、地域枠の選抜方法の内容は、一般選抜と同じとする。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 適性検査1

問題発見・解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校における教育において身に付けた総合的な力をみる。

(b) 適性検査2

与えられた課題について考えたことや感じたことなどを文章等で表現する力をみる。

(c) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(d) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況をみる。

(e) その他

志願者の目的意識や地域への思い等について確認するため、志願理由書を用いることを可能とする。

(イ) スポーツ選抜

a スポーツ選抜は、運動能力や、中学校が行おうとする教育への意欲や態度、適性等を総合的にみて判断する選抜とし、ふたば未来学園中学校において実施する。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 実技検査

中学校が求める生徒像に応じて内容を定めて実施し、運動能力をみる。

(b) 作文

与えられた課題について考えたことや感じたことなどを定められた文字数でまとめ、表現する力をみる。

(c) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(d) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況をみる。

(e) 志願理由書

志願者の目的意識や小学校での各種大会の成績等をみる。

(ウ) 入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。

a 一般選抜は、まず、適性検査1及び適性検査2の成績の合計並びに調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とし、次にその他の者については、適性検査1及び適性検査2の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

ただし、学校の特色に応じて、上記によらず適性検査1及び適性検査2の成績、調査書の記載事項並びに志願理由書及び面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定することを可能とする。

b スポーツ選抜は、志願理由書、実技検査及び作文の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

(エ) 選抜結果については、志願者に通知するものとする。

(フ) 入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月7日	第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
7月12日	第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
8月24日	県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出
9月30日	入学者選抜実施要綱説明会(県北・県中・県南地区)実施
10月1日	入学者選抜実施要綱説明会(会津・南会津地区)実施
10月3日	入学者選抜実施要綱説明会(相双・いわき地区)実施
10月16日	令和4年度入学者募集定員決定
12月6日～12月10日	出願書類受付

1月8日 一般選抜・スポーツ選抜  
 1月18日 選抜結果通知書の発送  
 1月19日～1月25日 入学確約書提出  
 1月26日～2月1日 欠員補充

会津若松市立第四中学校 浅野 純平  
 1月17日(月)～1月21日(金)  
 田村市立船引中学校 根本竜太郎  
 福島市立杉妻小学校 佐藤 悠  
 ◇4～8年目教員育成研修  
 6月7日(月)～6月11日(金)  
 伊達市立桃陵中学校 佐藤 峻一  
 浅川町立浅川小学校 原 智子

## 2 現職教育

### (1) 教職員等中央研修

#### ア 趣旨

各地域において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ 主催 独立行政法人教職員支援機構

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 オンライン研修

オ 期間及び参加者

#### ◇校長研修

6月14日(月)～6月18日(金)

郡山市立高瀬小学校 石井 研也

9月6日(月)～9月10日(金)

相馬市立磯部中学校 高瀬 永志  
 教育センター 猪俣 一教

11月8日(月)～11月12日(金)

南会津町立田島第二小学校 白井 秀行

#### ◇副校長・教頭等研修

8月2日(月)～8月6日(金)

棚倉町立棚倉小学校 中野久美子  
 喜多方市立第三中学校 齋藤 和久  
 教育センター 郡司 幸一

10月18日(月)～10月22日(金)

福島市立北信中学校 佐藤 裕子

#### ◇中堅教員研修

6月28日(月)～7月2日(金)

須賀川市立白方小学校 有馬 伸枝  
 白河市立白河第五小学校 白岩 博樹  
 白河市立白河中央中学校 多田 早苗

7月26日(月)～7月30日(金)

会津若松市立湊小学校 鬼多見理佳  
 新地町立福田小学校 高井 康友  
 郡山市立橘小学校 芳賀 裕

8月16日(月)～8月20日(金)

二本松市立二本松第三中学校 齋藤 裕貴  
 郡山市立安積第二中学校 加藤 行宣

1月24日(月)～1月28日(金)

教育センター 今野 信孝

#### ◇次世代リーダー育成研修

6月21日(月)～6月25日(金)

会津若松市立鶴城小学校 室井 彩織

8月23日(月)～8月27日(金)

本宮市立岩根小学校 菅野 健彦

### (2) 各種研修会

ア 福島県公立学校長研修会地区別研修会(公立小・中・特別支援学校長、県立学校長)

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数

※ 新型コロナウイルス対策により、開催方法は管内で異なる。

○ 県北 7月13日(火) 151名

【東和文化センター】

○ 県中 7月7日(水)

【たまかわ文化体育館】168名

○ 県南 7月28日(水)

【塙農林勤労福祉会館】60名

○ 会津 6月8日(火)

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催。

○ 南会津 6月22日(火)

【南会津町御蔵入交流館】27名

○ 相双 6月16日(水)

【万葉ふれあいセンター】56名

○ いわき 8月23日(月)

【いわき市総合教育センター】

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部参集、一部オンラインとした。

イ 市町村立小・中・特別支援学校新任校長・副校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

4月22日(木) 小学校73名

5月6日(木) 中学校32名

(エ) 講師 義務教育課課長 石幡 良子 他

ウ 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

4月27日(火) 小学校81名

5月10日(月) 中学校34名

(エ) 講師 義務教育課主幹 川井 孝寿 他

エ 新任主幹教諭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

5月13日(木) 小学校10名 中学校6名

(エ) 講師 義務教育課主幹 川井 孝寿 他

オ 校長のためのマネジメント講座

- (ア) 主催 福島県教育委員会
- (イ) 会場 福島県教育センター
- (ウ) 期間・参加人数
- (エ) 講師
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

カ 教頭のためのマネジメント講座

- (ア) 主催 福島県教育委員会
- (イ) 会場 福島県教育センター
- (ウ) 期間・参加人数
- (エ) 講師
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

キ 公立小・中学校5年経験者研修・中堅教諭等資質向上研修

- (ア) 5年経験者研修
- 主催 福島県教育委員会
- 期間・会場
- (小) 1班：6月9日(水)、11日(金)  
2班：6月15日(火)、17日(木)  
教育センター
- (中) 1班：10月6日(水)  
2班：10月18日(月)  
教育センター
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小学校は2日に、中学校は1日に短縮して実施した。

- 参加人数 小学校93名 中学校46名
- 講師 義務教育課管理主事 遠藤 裕一 他

(イ) 中堅教諭等資質向上研修

- 主催 福島県教育委員会
- 期間・会場
- (小) 6月21日(月)、23日(水)  
教育センター
- (中) 9月28日(火)
- 参加人数 小学校67名 中学校44名
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小学校は2日に短縮して実施。中学校は、資料代替とした。
- 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授  
教育センター指導主事等

ク 2年次教員フォローアップ研修

- 主催 福島県教育委員会
- 期間・会場
- (小) 1班：6月29日(火)  
2班：7月30日(金)
- (中) 6月30日(水)  
教育センター

ケ 公立小・中学校初任者研修

- (ア) 校内における研修 120時間以上  
各学校で年間を通じて計画し、実施する。
- (イ) 校外における研修 22日間

a 地区別研修A

- (7日間、各教育事務所の計画による)
- ・ 一般研修 1日間
- ・ 授業研修 2日間
- ・ へき地校研修 1日間
- ・ カウンセリング研修 2日間
- ・ 特別支援学校研修 1日間

b 地区別研修B

- (9日間、各市町村教育委員会の計画による)
- ・ 一般研修 1日間
- ・ 研究発表集会等研修 5日間
- ・ 社会奉仕体験活動研修 2日間
- ・ 他校種園参観研修 1日間

c 宿泊研修

- ・ 磐梯青少年交流の家 3日間
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、所属校で実施した。
- ・ 教育センター 3日間  
7月27日(火) 小学校1班 72名
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1日に短縮して実施した。
- ※ 小学校2、3班及び中学校は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、所属校で研修を行った。

(ウ) 参加人数 小学校176名 中学校72名

コ 公立小・中・特別支援学校事務職員研修

- (ア) 新規採用職員研修
- ・ 対象 令和3年度新規採用者
- ・ 日数 前期1日間、後期2日間
- ・ 参加人数 17名(小学校12名、中学校5名)
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで実施

(イ) 基礎力アップ研修

- ・ 対象 採用後6年目
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 21名(小学校16名、中学校5名)
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで実施

(ウ) 応用力アップ研修

- ・ 対象 採用後10年目
- ・ 日数 1日間
- ・ 参加人数 13名(小学校8名、中学校5名)
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで実施

(エ) 実行力アップ研修

- ・ 対象 採用後14年目
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 3名
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで実施

(f) 新任係長研修会

- ・ 対象 新任の主任主査
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 13名

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで実施

サ 事務職員研修(小・中学校)

- 主催 独立行政法人教職員支援機構
- 期間 小学校：6月14日(月)～6月18日(金)  
中学校：9月6日(月)～9月10日(金)
- 参加人数 4名(小学校3名、中学校1名)
- 実施方法 オンライン研修

(3) 教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

ア 上越教育大学

- (f) 令和3年4月1日～令和5年3月31日
- 喜多方市立塩川中学校教諭 飯田 陽香  
只見町立朝日小学校教諭 荒井 久徳

イ 福島大学

- (f) 令和3年4月1日～令和5年3月31日
- 本宮市立白沢中学校教諭 阿部 聡子  
郡山市立行健小学校教諭 中野 幸恵  
田村市立芦沢小学校教諭 若菜 孝之  
三春町立岩江小学校教諭 富田 邦彦  
中島村立滑津小学校教諭 山田百合子  
喜多方市立高郷中学校教諭 井上 夏美  
葛尾村立葛尾中学校教諭 市川 竜朗

(4) 令和3年度産業・情報技術等指導者養成研修(中学校)

教 科	技術・家庭
氏 名	佐瀬 千恵
職 名	教諭
所 属	会津若松市立第五中学校
研修方法	オンライン研修
研修期間	8月2日～8月4日

(5) 教育研究奨励

- ア 名称 福島県教職員研究論文
- イ 主催 福島県教育委員会
- ウ 応募資格 福島県公立幼稚園・小・中(義務教育学校を含む。)・高・特別支援学校等教職員等
- エ 審査委員  
福島大学学校臨床支援センター教授 宗形 潤子  
川俣町教育委員会学校教育指導主事 高橋 正之  
元福島県公立学校退職校長会副会長 金澤 武男
- オ 応募数 37点
- カ 入賞者

(f) 特選

氏 名・学校名	所 属
棚倉町立棚倉小学校	団 体
只見町立朝日小学校	団 体
喜多方市立第一中学校	団 体
教諭 鈴木のぞみ	福島県立平支援学校

(i) 入選

氏 名・学校名	所 属
田村市立都路小学校	団 体
塙町立塙小学校	団 体
教諭 長谷川 徹	相馬市立中村第一中学校
教諭 稲毛 光司	福島市立平野小学校
寄宿舎職員 泉 大介	福島県立平支援学校
養護教諭 渡邊 舞香	相馬市立日立木小学校
教諭 今川 吉晃	福島県立猪苗代高等学校
教諭 渡部久美子	福島県立遠野高等学校

(g) 奨励賞

氏 名・学校名	所 属
本宮市立白岩小学校	団 体
副主査 泉田 洋介	郡山市立富田東小学校

3 教育課程

(1) 令和3年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

〈令和3年度福島県小学校教育課程研究協議会〉

ア 主催 福島県教育委員会

イ 実施期間

- 県北域内 9月9日(木)
- 県中域内 9月9日(木)
- 県南域内 9月8日(水)
- 会津域内 9月27日(月)
- 南会津域内 9月9日(木) 小中合同
- 相双域内 9月17日(金)
- いわき域内 9月9日(木)

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

エ 参加者数 459名

〈令和3年度福島県中学校教育課程研究協議会〉

ア 主催 福島県教育委員会

イ 実施期間

- 県北域内 8月31日(火)
- 県中域内 9月16日(木)
- 県南域内 8月31日(火)
- 会津域内 10月5日(火)
- 南会津域内 9月9日(木) 小中合同
- 相双域内 9月9日(木)
- いわき域内 9月15日(水)

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

エ 参加者数 299名

## 4 学力向上等

### (1) ふくしまの学校“キラリ”学力向上推進事業

ア ふくしまの学校“キラリ”学力向上推進事業

イ AI時代を生き抜く読解力向上事業

ウ ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業

### (2) 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業

ア ふくしま学力調査

イ ふくしま学力調査研究委員会

ウ ふくしま学力調査問題検討委員会

エ 埼玉県教委とのワーキンググループ、連携協議会

### (3) 「ふくしま活用力育成シート」実践事業

### (4) 未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業

ア 理数教育優秀教員活用事業

イ ふくしまスーパーサイエンススクール事業

ウ 理数コンテスト事業

エ 先端技術体験事業

### (5) 少人数教育推進事業

学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、ティーム・ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制等の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人一人に行き届き、きめ細かな指導や評価ができる体制を作る。

○ 30人程度学級

○ 30人学級編制（小1、小2、中1）

### (6) 新時代の学びを支えるICT活用プロジェクト

ア ふくしま「未来の教室」授業充実事業

イ 次世代のためのメディアリテラシー育成事業

### (7) ふくしま外国語教育創生事業

ア 英語担当教員ネクストステージ事業

イ 小中英語パートナーシップ事業

## 5 道徳教育

### (1) 道徳教育

ア 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修

(ア) 主催 指導者養成研修（NITS オンライン研修）  
独立行政法人教職員支援機構

(イ) 期日

①令和3年8月2日～31日

②令和3年12月1日～28日

氏名	勤務先	職名
佐々木 徹	伊達市立月館学園中学校	校長
田中 朗裕	郡山市教育委員会	指導主事
青木 美央	郡山市立芳山小学校	教諭
五十嵐真由美	下郷町立江川小学校	校長
小澤 建二	相双教育事務所	指導主事
泉 翔子	いわき市総合教育センター	指導主事
鈴木 裕一	福島県立好間高等学校	教諭
岡田 征之	白河市立大屋小学校	教頭
川島 淳	金山町立金山中学校	教頭
田中 知	県中教育事務所	指導主事

イ 小学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「他者との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む授業の充実」

(イ) 主催

福島県小学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

喜多方市立関柴小学校

令和3年10月15日

ウ 中学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「人間としての生き方についての考えを深める道徳の学びはどうすればよいか」

(イ) 主催

福島県中学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### (2) 道徳教育総合支援事業

ア 趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教育の充実を図る。

イ 福島県道徳教育推進協議会

年2回開催（6月8日、2月9日）

ウ 道徳教育地区別推進協議会

各事務所で設定、1回開催

エ 道徳教育推進校

小学校3校、中学校3校、高等学校1校

オ 「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会

各事務所で設定、1回開催

カ 道徳教育リーフレット等の作成

「道徳のとびら」（保護者、地域住民及び教職員向け）、  
「道徳のかけ橋」「道徳の礎」（教職員向け）

### (3) 人権教育

#### ア 人権教育研究開発事業

##### ○ 趣旨

人権意識を培うための学校教育の在り方について幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。

##### ○ 推進地域

広野町(広野町教育委員会) 子ども園・小・中学校(1園2校)

##### ○ 研究テーマ

互いのよさを尊重し、新たな価値観を創り上げる子どもの育成～子どもの「感」でつくる教育活動の推進を通して～

##### ○ 研究期間

令和2・3年度

#### イ 人権教育指導者養成研修(NITS オンライン研修)

##### ○ 主催 独立行政法人教職員支援機構

##### ○ 期日 令和3年6月8日～10日

##### ○ 会場 独立行政法人教職員支援機構

##### ○ 参加者 広野町立広野中学校 教諭 横山 孝 広野町立広野小学校 教諭 奥井 翔太

### (4) 「モラル・エッセイ」コンテスト

#### ア 趣旨

モラルやマナー、いのち、家族、人との絆など、心温まるちょっといいお話、今伝えたいメッセージ等を募集し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの道徳的実践力を養うとともに、県民一丸となって「生きる力」を身に付ける機会とする。

#### イ 応募期間 令和3年7月9日～9月9日

#### ウ 応募数

中学校	1091点
高等学校	32点
一般	6点

#### エ 受賞者

##### 【中学校】

最優秀賞	いわき市立小名浜第二中学校	3年	木村友織香
優秀賞	南会津町立荒海中学校	3年	星 綾乃
	いわき市立小名浜第二中学校	1年	小泉つばさ
	二本松市立東和中学校	3年	菅野 心花

##### 【高等学校】

最優秀賞	県立会津農林高等学校	3年	大竹 美保
優秀賞	県立会津農林高等学校	1年	長良 遥香
	県立好間高等学校	3年	鈴木 綺音

##### 【一般】

最優秀賞	会津若松市在住	大竹 英子
優秀賞	二本松市在住	嶋原 美紀

## 6 特別活動

### (1) 県小学校教育研究会特別活動部会

#### ア 主催 県小学校教育研究会

#### イ 研究主題

様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方

#### ウ 県研究協議会

##### ○ 会場 南相馬市立上真野小学校

##### ○ 期日 令和3年10月22日

##### ※ オンライン開催

### (2) 県中学校教育研究会特別活動部会

#### ア 主催 県中学校教育研究会

#### イ 研究主題

学校の創意工夫を生かし、深い学びを通してよりよい人間関係を築こうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。

#### ウ 県研究協議会

##### ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 7 生徒指導・進路指導

### (1) 生徒指導

#### ア 生徒指導研究推進協議会(オンライン開催)

国立教育政策研究所主催

##### ○ 期日 令和3年7月16日

##### ○ 参加者

県教育庁義務教育課	主任指導主事	吉川 武彦
福島市教育委員会	指導係長	菅野 浩智
郡山市教育委員会	指導主事	江井 宏之
いわき市教育委員会	主任指導主事	草野 秀一
	指導主事	教間 浩行

#### イ 生徒指導基幹研修(オンライン開催)

##### ○ 期日 令和3年5月18日～5月20日

##### ○ 参加者

会津若松市立第四中学校	教諭	佐藤 富之
郡山市立郡山第三中学校	教諭	添田 勇司

#### ウ 教育相談基幹研修

##### ○ 期日 令和3年6月2日～6月4日

##### ○ 会場 独立行政法人教職員支援機構

##### ○ 参加者

郡山市立穂積小学校	教諭	小林 靖寛
いわき市総合教育センター	指導主事	岩本 和典
県教育庁県中教育事務所	指導主事	石井 里香

### (2) 進路指導・キャリア教育

#### ア キャリア教育指導者養成研修

##### ○ 期日 令和3年9月15日～17日

##### ○ 参加者

いわき市総合教育センター 指導主事 吉川 功一

##### ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催



## 8 幼稚園教育

令和3年度公立幼稚園数は、123園で、学級数は325学級であった。幼児数減少により、少人数保育になっているところもある。県全体の公立幼稚園における、1学級あたりの平均園児数は、15.5人である。

幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育委員会、福島県国公立幼稚園・こども園協議会及び公益社団法人福島県私立幼稚園連合会等の協力を得て、次の事業を実施した。

### (1) 幼稚園教育課程研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 県北域内 12月14日(火)  
県中域内 12月13日(月)  
県南域内 1月13日(木)  
会津・南会津域内 10月1日(金)  
相双域内 10月6日(水)  
いわき域内 12月20日(月)

#### ウ 内容

- 講義「幼稚園における実効性ある学校評価の実施について」
- 演習・協議「遊びの見取りと保育の展開」

エ 参加者数 171名(7地区合計)

### (2) 幼児教育実技研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 会津地区 7月26日(月)  
県中・県南地区 7月27日(火)  
県北地区 7月29日(木)  
浜通り ※感染拡大のため中止

#### ウ 内容

- 動画視聴研修「乳幼児期の砂遊び」
- 講義「コロナ禍における保育と子育て支援」  
講師 福島県認定こども園協会長 古渡 一秀 氏
- 協議「幼児の遊びと絵本」

エ 受講者 延べ211名(3地区合計)

### (3) 福島県幼稚園等新規採用教員研修

- ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会
- イ 期日 年間
- ウ 内容・日数・会場
- 園内研修…10日(勤務園)
    - ・内容…①基礎的素養 ②学級経営 ③教育課程・指導計画 ④幼児理解・評価 ⑤連携
  - 園外研修…10日
    - ・地区別研修…3日(各教育事務所)
    - ・参観研修…3日  
先進的研究実践幼稚園参観(1日)  
保育所、認定こども園参観(1日)  
小学校参観(1日)
    - ・宿泊研修…2泊3日(県教育センター)
      - ※ 新型コロナウイルス感染症対策により集合研修を中止し、資料及び課題代替により実施
    - ・選択研修…1日  
福島大学附属幼稚園研究公開、福島県幼児教育実技

研修会 等への参加

エ 参加者 研修対象者 公立57名 私立95名 計152名

### (4) 幼稚園等中堅教諭等資質向上研修

- ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会
- イ 期日 年間
- ウ 日数・内容・会場
- 園内研修…7日以上
    - ・保育力の向上に関する研修(3日以上)
    - ・教育課題の解決に向けた実践に関する研修(2日以上)
    - ・パイオニア研修(2日以上)
  - 園外研修…5日以上
    - ・悉皆研修…4日  
共通研修(1日)(各教育事務所)  
保育専門研修(1泊2日)(県教育センター)
      - ※ 新型コロナウイルス感染症対策により集合研修を中止し、資料及び課題代替により実施
    - ・社会体験研修(1日)(社会体験を行う各施設等)
    - ・選択研修…1日以上  
大学附属幼稚園の研究公開、特別支援教育センターにおける専門研修 等への参加

エ 参加者 研修対象者 公立7名 私立0名 計7名

### (5) 幼児教育指導者養成研修

- ア 期日 令和3年12月1日(水)～12月28日(火)の期間中の任意の3日間  
(指定期間において、オンライン研修により開催)
- イ 参加者
- |             |            |
|-------------|------------|
| 義務教育課       | 指導主事 米屋真由美 |
| 義務教育課       | 指導主事 瀬川満美子 |
| いわき市こどもみらい部 | 指導教諭 吉田友紀子 |
| 郡山市教育委員会    | 技査 和泉みゆき   |

## 9 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校98校で24.3%、中学校60校で29.3%を占め、小・中学校総数に対して26%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

### (1) 複式学級担当教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 令和3年5月25日(火)
- ウ 会場 福島県教育センター
- エ 講師 小学校教諭他
- オ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため資料代替

### (2) 中学校免許外教科担当教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 令和3年5月12日(水)
- ウ 会場 福島県教育センター
- エ 講師 中学校教諭他
- オ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため資料代替

### (3) 全国へき地教育研究大会

結成70周年記念全国へき地教育研究大会宮崎大会

- ア 主催 文部科学省、全国へき地教育研究連盟  
宮崎県教育委員会 他
- イ 期日 令和3年10月28日(木)～10月29日(金)
- ウ 会場 全体会 宮崎市民文化ホール  
分散会 宮崎市民文化ホール  
分科会 宮崎県内8会場

エ 研究主題

#### ○ 大会主題

「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる  
子どもの育成」～へき地・複式・小規模校の特性を生かし  
た学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

オ 新型コロナウイルス感染拡大防止のためハイブリッド開催

### (4) 福島県へき地・小規模学校教育研究会

平成22年度末に福島県へき地・小規模学校教育研究会が  
解散している。

## 10 環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要

があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さを理解させるように努めている。

### (1) 「尾瀬サミット」小・中学生3県交流事業「尾瀬子どもサミット」

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 11 教科用図書

### (1) 令和4年度使用教科用図書の採択

公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、小学校用教科用図書、中学校用教科用図書、学校教育法附則第9条図書を採択した。

ア 教科用図書選定審議会

(ア) 委員 16名

(イ) 任期 令和3年4月1日～令和3年8月31日

(ロ) 開催期日 第1回 令和3年4月20日

第2回 令和3年5月25日

(エ) 会場 第1回 杉妻会館

第2回 杉妻会館

イ 教科書展示会

令和3年6月11日から14日間、県内21の会場で開催した。会場及び来会者は次の表のとおりである。

教科書センター (展示会場)	採択地区名	展示教科書 (該当に○印)			展示会場設置場所 (該当に○印)			来会者 総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター(福島市立図書館)	福島地区	○			○			34
伊達教科書センター(伊達市立図書館)	川俣・伊達・安達地区		○		○			37
二本松教科書センター(二本松市文化センター)	〃		○		○			37
郡山教科書センター(郡山市教育研修センター)	郡山地区	○			○			30
須賀川教科書センター(文化の森てんえい)	岩瀬地区		○			○		4
〃 (須賀川市中央図書館)	〃		○		○			41
石川教科書センター(石川中学校)	石川地区		○		○			19
三春教科書センター(常葉公民館)	田村地区		○		○			18
〃 (三春小学校)	〃		○		○			43
〃 (小野町 文化の館)	〃		○		○			9
西白河教科書センター(白河市立図書館)	西白河・東白川地区	○			○			64
東白川教科書センター(棚倉町立図書館)	〃	○			○			46
会津若松教科書センター(会津若松市歴史資料センター)	会津地区	○			○			3
喜多方教科書センター(喜多方第一小学校)	〃	○			○			3
会津坂下教科書センター(坂下南小学校)	〃	○			○			3
南会津教科書センター(南会津町役場)	〃		○		○			18
南会津教科書センター(南会津中学校)	〃		○			○		2
相馬教科書センター(相馬市教育研究実践センター)	相馬地区	○			○			66
双葉教科書センター(富岡町文化交流センター)	双葉地区		○		○			33
いわき教科書センター(いわき市総合教育センター)	いわき地区	○			○			68
県立図書館			○				○	
合計 (展示会場21箇所) (採択地区11地区)		9	12		18	2	1	578

ウ 令和4年度使用小学校教科書採択一覧（採択3年目）

種目 採択地区	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	保健	英語	道徳
福島	東書	東書	東書	帝国	東書	啓林館	東書	教芸	日文	開隆堂	東書	東書	学研
川俣・伊達・安達	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書	東書	学研
郡山	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	開隆堂	学研	東書	学研
田村	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	光村	光文
岩瀬	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	光村	光文
西白河・東白川	光村	光村	東書	帝国	東書	教出	東書	教出	開隆堂	東書	東書	東書	光文
会津	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	学研
相馬	光村	光村	東書	帝国	教出	東書	東書	教芸	日文	東書	東書	東書	光文
双葉	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書	東書	光文
いわき	光村	東書	教出	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	東書

エ 令和4年度使用中学校教科書採択一覧（採択2年目）

種目 採択地区	国語	書写	社会 (地理的 分野)	社会 (歴史的 分野)	社会 (公民的 分野)	地図	数学	理科	音楽 (一般)	音楽 (器楽 合奏)	美術	保健 体育	技術 ・家庭 (技術)	技術 ・家庭 (家庭)	英語	道徳
福島	光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書	光村
川俣・伊達・安達	光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
郡山	光村	光村	帝国	帝国	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書	東書
田村	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
岩瀬	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
石川	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	開隆堂	東書	日文
会津	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書	日文
相馬	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	開隆堂	東書	東書
双葉	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書	東書
いわき	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	教出

**(2) 教科用図書無償給与**

令和3年度も義務教育諸学校的全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。また、令和4年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適正かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期 日	会 場	参集範囲
令和4年2月10日	県北教育事務所	県 北
令和4年2月15日	郡山合同庁舎	県 中
令和4年2月16日	白河合同庁舎	県 南
令和4年2月2日	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	会 津
令和4年2月3日	南会津合同庁舎	南会津
令和4年2月7日	南相馬合同庁舎	相 双
令和4年2月8日	いわき合同庁舎	いわき

**1 2 教育研究団体**

**(1) 福島県国公立幼稚園・こども園協議会**

ア 研究主題（令和3年度）

共通協議主題	新型コロナウイルス感染症対策にも配慮した幼稚園の活動
協議主題2	カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施する学校評価について
協議主題4	小学校教育との接続に向けた教育課程や指導方法の工夫について

イ 組織及び財政の状況

- 会 長 千葉 桂子（福島大学附属幼稚園長）
- 会員数 667名
- 令和3年度予算額 2,498,539円  
上記のうち補助金 なし

ウ 主な事業

- 福島県国公立幼稚園・こども園協議会第1回委員  
(ア) 期日・会場  
令和3年4月21日(水)・福島市吾妻学習センター
- 研究主題研修会  
(ア) 期日・会場  
令和3年6月2日(水)・福島市吾妻学習センター  
(イ) 講師 県教育庁義務教育課指導主事
- 域別ブロック研修会  
県北地区 10月13日  
県中地区 10月15日 ※紙面開催  
県南地区 10月26日  
会津・南会津地区 10月13日 ※オンライン開催  
相双地区 10月29日  
いわき地区 10月28日 ※紙面開催

**(2) 福島県小学校教育研究会**

ア 基本主題（令和元年度～令和3年度）

- (ア) 「児童自らあらゆる他者と豊かにかかわり、未来社会の創り手として必要な力をはぐくむ授業の充実」

イ 各研究部研究主題

研究部	研究主題
国 語	言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める指導はどうあればよいか。
社 会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科の授業はどうあればよいか。
算 数	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、算数を学ぶ楽しさやよさを実感し、生活や学習に主体的にかかわる子どもの育成
理 科	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成する授業の充実
生活・総合	人々・社会・自然に進んでかかわり、自らの考えを生かして学び合い、深い学びを実感できる子どもの育成
音 楽	多様な音楽活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽に親しむ子どもの育成
図 画 工 作	児童一人一人が造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を発揮して、表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうことのできる図画工作科の指導
家 庭	家族の一員として日常生活の課題を解決する力を養い、家族や地域とかかわりながら、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度をはぐくむ授業の充実
体 育	体育や保健の見方・考え方を働かせる学びを通して、心と体の高まりを実感できる子どもの育成
道 徳	自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度をはぐくむ授業の充実
特 別 活 動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方

ウ 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 鈴木 哲明（郡山市立桃見台小学校）
- (イ) 会員数 5,227名
- (ウ) 令和3年度決算額 3,926,684円

エ 主な事業

○ 研究協議会

(ア) 主催 福島県小学校教育研究会

(イ) 共催 福島県教育委員会・開催地区関係市町村教育委員会

(ウ) 期日・会場

a 地区研究協議会 各地区  
各地区の計画による

b 県研究協議会 10月5日(火)～10月22日(金)  
県内11会場

(エ) 指導助言者 指導主事等

**(3) 福島県中学校教育研究会**

ア 研究主題

(ア) 基本主題

「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」

イ 各部研究主題

研究部	令和3年度の研究主題・研究副主題
国語	言葉による見方・考え方を働かせ、社会生活に生きて働く言葉の力を身に付けさせるための指導はどうすればよいか。 R3 「読むこと」の領域における指導の工夫
社会	主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成する社会科の指導はどうすればよいか。 R3 協働的な学びを通して、考えを深めさせる授業の工夫
数学	数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R3 数学のよさを実感させ、学びに向かう力、人間性等を育成する指導の工夫
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R3 思考力・判断力・表現力等を育成するための探求の過程の工夫
音楽	感性を働かせ、様々な音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導はどうすればよいか。 R3 音楽的な見方・考え方を成長させ、音楽と主体的に関わらせる学習活動の工夫
美術	造形活動を通し、多様な価値観や豊かな創造力を育むことで、自己実現の喜びを味わわせる美術教育はどうすればよいか。 R3 自己実現に向かう心を育てる手立ての工夫
保健体育	生涯を通じて心身の健康を保持増進するとともに、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか。 R3 自他の健康についての課題を発見し、解決に向けて思考を深め、よりよく解決する資質や能力を育む指導の工夫（保健分野）

研究部	令和3年度の研究主題・研究副主題
技術・家庭	技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や社会の中から主体的に問題を見出し、解決する力を育成するための指導はどうすればよいか。 R3 学びの変容を実感できる評価の工夫
英語	目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか。 R3 コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる指導の工夫
道徳	人間としての生き方についての考えを深める道徳の学びはどうすればよいか。 R3 生徒の学びの姿を見取る評価の工夫
特別活動	学校の創意工夫を生かし、深い学びを通してよりよい人間関係を築こうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。 R3 集団や社会の課題に気づき、解決に迫るための活動の工夫

ウ 組織及び財政の状況

(ア) 会長 高橋 政広 (福島市立平野中学校)

(イ) 会員数 2,828名

(ウ) 令和3年度決算額 5,414,603円

エ 主な事業

○ 研究協議会

(ア) 主催 福島県中学校教育研究会

(イ) 共催 福島県教育委員会

(ウ) 期日・会場

a 支部研究協議会 各支部  
各支部の計画による

b 県研究協議会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(エ) 指導助言者 指導主事等

**(4) 福島県小学校長会**

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 佐藤 秀美 (福島市立福島第三小学校)

(イ) 会員数 401名

(ウ) 令和3年度決算額 12,456,789円

イ 主な事業

○ 第61回東北連合小学校長会研究協議会福島大会・第50回福島県小学校長会研究協議会福島大会

(ア) 開催期日 令和3年7月1日(木)～2日(金)

(イ) 会場 とうほう・みんなの文化センター他

**(5) 福島県中学校長会**

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 佐藤 浩哉 (福島市立福島第一中学校)

(イ) 会員数 216名

(ウ) 令和3年度決算額 8,254,226円

イ 主な事業

- 令和3年度福島県中学校長会研究協議会
- (ア) 開催期日 各支会の計画による
- (イ) 会場 各支会 15 会場

**(6) 福島県公立小・中学校教頭会**

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 石井 隆博 (福島市立北沢又小学校)
- (イ) 会員数 614 名
- (ウ) 令和3年度決算額 11,402,267 円

イ 主な事業

- 令和3年度福島県公立小・中学校教頭会総会及び研修会
- (ア) 開催期日 5月11日(火)
- (イ) 会場
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙面開催

**(7) 福島県学校図書館協議会**

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 古川 次男 (郡山市立薫小学校)
- (イ) 加盟校 615 校
- (ウ) 令和3年度決算額 935,472 円

イ 主な事業

- (ア) 福島県学校図書館協議会特別研修会 (令和4年度 福島県学校図書館研究大会南会津大会プレ大会)
- (イ) 研究主題「未来を拓く 学びをひろげ、豊かな心を育む 学校図書館」
- (ウ) 開催期日 令和3年11月4日(木)

**(8) 福島県公立小中学校事務研究会**

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 加勢 法子
- (イ) 会員数 535 名
- (ウ) 令和3年度決算額 2,533,098 円

イ 主な事業

- 学校事務研修会
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 第4節 国際化・科学技術の進展等への対応

### 1 中学生・高校生の科学・技術研究論文

#### 野口英世賞募集

#### (1) 募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖 野口」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

#### (2) 応募期間

令和3年9月1日（水）～9月9日（木）

#### (3) 応募数

中学校 25点（7校）

高等学校 25点（7校）

#### (4) 審査会

令和3年10月21日（木） 自治会館 502会議室  
（審査員長）

福島大学教授 柴崎直明  
（審査員）

福島大学准教授 高安 徹

福島大学准教授 兼子伸吾

郡山女子大学准教授 影山志保

県中学校教育研究会理科部長 平野貴浩

福島成蹊中学校・高等学校校長 本田哲朗

県高等学校教育研究会理科部会長 猪俣 豊

#### (5) 受賞者

##### 【中学校】

##### ・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
最優秀賞	阿部 悠希	福島大学附属中学校	セミの抜け殻についての考察 ～未来の資源としての可能性について～
優秀賞	掃部 夏央	南会津町立田島中学校	いわき市小名浜と中之作港における魚類相の季節変化
入選	堀切 眞優	福島大学附属中学校	塩糍のひみつを探る ～塩糍はどのように甘みを生みだしているのか～
	齋藤 佑磨	ふたば未来学園中学校	ドジョウ農法の確立に向けて

##### ・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
優秀賞	福島市立吾妻中学校	「トマトのおいしさの指標を作る」 ～トマトの品種と生長段階での成分と味の変化を科学する～
	葛尾村立葛尾中学校	「葛尾中学校付近におけるタンポポのふえ方の謎を探ろう」

##### 【高等学校】

##### ・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
優秀賞	守谷 和貴	福島県立福島高等学校	磐梯山の南麓における蝶相の多様性と特性について

##### ・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
優秀賞	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探求部液状化班	液状化現象の謎を追う ～会津学鳳高校敷地内は液状化するのか～
	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探求部生物班	ハチノスツヅリガのポリエチレン分解菌についての研究
入選	福島県立福島高等学校	つかめる水を応用した瞬間冷却材の作製
	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探求部生物班	ダンゴムシの腸内セルロース分解菌の研究 ～分解能力を上げる条件の探究～

## 2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

### 朝河貫一賞募集

#### (1) 募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一 博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校（義務教育学校後期課程を含む。）・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

#### (2) 応募期間

令和3年9月1日（水）～9月9日（木）

#### (3) 応募数

中学校 18点（14校）

高等学校 20点（4校）

#### (4) 審査会

令和3年10月14日（木） 自治会館 101 会議室

（審査員長）

福島大学准教授

真歩仁 しょうん

（審査員）

社会福祉法人福島いのちの電話副理事長

玄 永 牧 子

郡山ザベリオ学園小学校英語助教諭 ランシア・アンドリュウ

福島民報社常務取締役・論説委員長 早 川 正 也

福島民友新聞社編集局次長・出版部長

佐 藤 掌

福島県中学校教育研究会国語部長 千 葉 英 一

福島県高等学校長協会普通部会長 菊 田 勇 雄

#### (5) 受賞者

##### 【中学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	大越 由香子	須賀川市立西袋中学校	3	今こそ、踏み出そう。
優秀賞	物江 みのり	郡山市立郡山第二中学校	3	過去を知り、今を生き、よりよい世界を想い描く
	西山 陽菜	会津若松市立一箕中学校	3	世界という名の友
	新田 春樹	いわき市立平第一中学校	3	世界中の人々に…
	宮澤 宏遙	いわき市立大野中学校	3	世界と自分は強くつながっているのだ
入選	原 陽菜乃	白河市立表郷中学校	2	「つかう責任」私たちにできること
	松永 楓	福島市立北信中学校	3	国境を越える「思いやりの心」を

##### 【高等学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	入岡 奈々葉	福島県立葵高校	2	イスラムを通して見たダイバーシティ
優秀賞	伏見 寧々	福島県立相馬高校	2	しなやかな国際社会をめざして
	鈴木 心渚	福島県立葵高校	2	「多様性の中で」
	滝田 汐梨	福島県立田村高校	2	Stand tall and be proud.
	阿部 愛花	福島県立田島高校	2	「造り手」の顔が見える世界
	渡部 愁羽	福島県立田島高校	2	「当たり前」にとらわれない
入選	大桃 ひなた	福島県立田村高校	2	今だからこそできること
	星 央斗	福島県立田島高校	2	“知る” ことの必要性



## 第6章 高等学校教育

### 第1節 概要

今年度は、高等学校において、アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて生徒の学力向上を図り、将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成し、教員研修及び生徒指導等に取り組んだ。

#### (1) 「ふくしま創生人材育成事業」

##### ア ふくしま創生サミットの開催

県立高等学校の生徒が地域の課題やその解決法、地域の未来像などについて意見を交換した。

##### イ 社会貢献活動コンテストの開催

復興に貢献する人材育成を目的に開催。県内の高校生が地域課題の解決に向けた取組について発表した。

##### ウ 地域コーディネーターの配置

葵高校、喜多方高校、白河旭高校に学校と地域をつなぐ人材発掘を担う地域コーディネーターをそれぞれ1名ずつ配置し、会津地区及び県南地区の高校における地域課題探究学習を支援した。

##### エ 特色ある郷土理解教育の支援

###### ○ 対象校 19校

###### ○ 各校の取組内容

###### ・生徒の基礎学力を高める取組

(ア) 学ぶ意欲や知識・判断力を高めながら、主体的に学習に取り組む態度を育む講演会やガイダンス

(イ) 課題探究力養成講座

###### ・3年間の計画的な進学指導體制の充実を図る取組

学力向上連絡協議会の開催

###### ・生徒・保護者・教員・地域をつなぐ取組

(ア) 地元企業・地域人材との連携による課題探究型ワークショップ

(イ) 地域課題探究活動

(ウ) 進路便りや年間指導計画表の作成・配布

###### ・社会人としての在り方についての理解を深める取組

(ア) 社会人としての在り方についての講演会

(イ) 職場見学会（選択）

(ウ) デュアルシステム等の実施（選択）

##### オ アクティブ・ラーナー養成研修会の開催

全県立高等学校の代表教員1名が参加し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業や地域課題探究学習における各校の取組を共有した。

#### (2) 「オールふくしま学力向上推進事業」

##### ア 大学進学のための学力向上推進事業

###### ○ 対象校 20校

###### ○ 各校の取組内容

###### ・思考力・判断力・表現力等の養成講座

###### ・教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導

###### ・生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施

###### ・社会人としての在り方についての理解を深める講話

###### ・大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習

###### ・大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）

###### ・卒業生（大学生等）による講話

###### ・保護者を交えた進学勉強会

###### ・進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布

###### ○ 研究会等の開催

###### ・学力向上のための教科指導力向上研究会

アクティブ・ラーニングの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究

・学力向上連絡協議会

アクティブ・ラーニングの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための協議

イ ふくしま高校生リーダー育成プロジェクト

○ 対象 県立高等学校1・2年生

○ 実施内容

(ア) 1年生対象：新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインとオンデマンドを活用して行った。

・大学生とのオンラインによる交流会、パネルディスカッション等

・予備校講師等による難関大合格に向けたオンデマンド授業動画の配信（国語・数学・英語）

(イ) 2年生対象：新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインとオンデマンドを活用して行った。

・大学生とのオンラインによる交流会、パネルディスカッション等

・予備校講師等による難関大合格に向けたオンデマンド授業動画の配信（国語・数学・英語）

ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

(3) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。

(4) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハートサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

(5) 「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」(新規)

ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

指定された各県立高校が、生徒に対して、伝承館等での研修や、各校で行う外部講師による震災関連授業等を実施し、語り部の人材育成につなげた。学習の成果は、各学校の創意工夫により、多様な方法で発信した。

なお、実践的な取組を行う「実践校」には、27校を指定した。

イ 県内の学校間での交流

語り部人材育成を強化する取組として、実践校の代表生徒によるオンラインを活用した交流の場を設け、語り部の披露や学習成果の情報共有を行った。

ウ 県外の学校等との交流

実践校の生徒が主にオンラインを活用して県外の高校生等と交流を行い、語り部活動を行った。

エ 震災学習のためのリーフレット(小冊子)の配布

震災当時の新聞記事等を盛り込んだ震災学習のためのリーフレットを作成し、県内の小・中・高の児童生徒に配布した。

オ 伝承館を利用した教員研修

伝承館の関係職員が講師となり、県立高校の教員及び公立小中学校の教員が、それぞれの教育機関における震災関連学習の指導方法等を習得した。

## 第2節 学校管理

### 1 生徒数と教職員数

#### (1) 県立高等学校の推移

区分		年度									
		24	25	26	27	28	29	30	元	2	3
全日制	本校	83	83	83	84	84	79	79	79	79	77
	分校	5	5	5	5	5	3	2	2	0	0
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

#### (2) 中学校卒業者の進学状況

区分	年度											
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3
卒業生(A)	21,930	20,887	20,220	19,427	19,782	18,929	18,824	18,482	17,622	17,276	16,594	15,899
進学希望者数(B)	21,305	20,219	19,659	18,873	19,150	18,215	18,232	17,817	16,990	16,638	15,872	15,029
進学者数(C)	21,529	20,467	19,835	19,072	19,388	18,548	18,487	18,130	17,314	17,019	16,295	15,583
進学志願率(B/A)	97.2%	96.8%	97.2%	97.1%	96.8%	96.2%	96.9%	96.4%	96.4%	96.3%	95.6%	94.5%
進学率(C/A)	98.2%	98.0%	98.1%	98.2%	98.0%	98.0%	98.2%	98.1%	98.3%	98.5%	98.2%	98.0%
入学率(C/B)	101.1%	101.2%	100.9%	101.1%	101.2%	101.8%	101.4%	101.8%	101.9%	102.3%	102.7%	103.7%

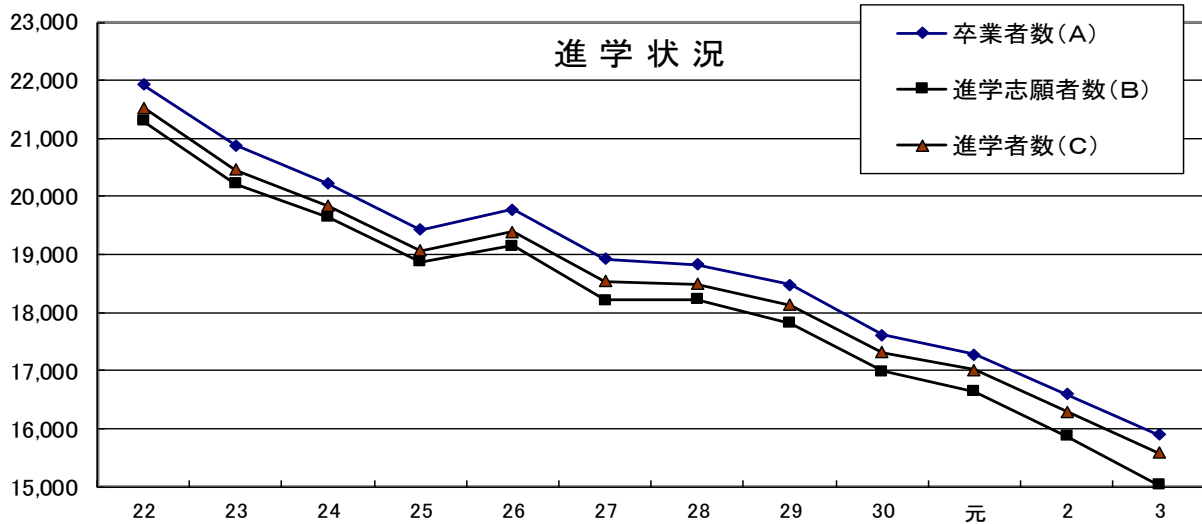
(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業者数は前年度より 695 名減少し、進学率は前年度より 0.2 ポイント減少、入学率は 1.0 ポイント上昇した。

令和 3 年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制	14,425 名 (92.6%)
高等学校定時制	200 名 (1.3%)
高等学校通信制	584 名 (3.7%)
高等学校別科	0 名 (0.0%)
高等専門学校	213 名 (1.4%)
特別支援学校高等部	161 名 (1.0%)

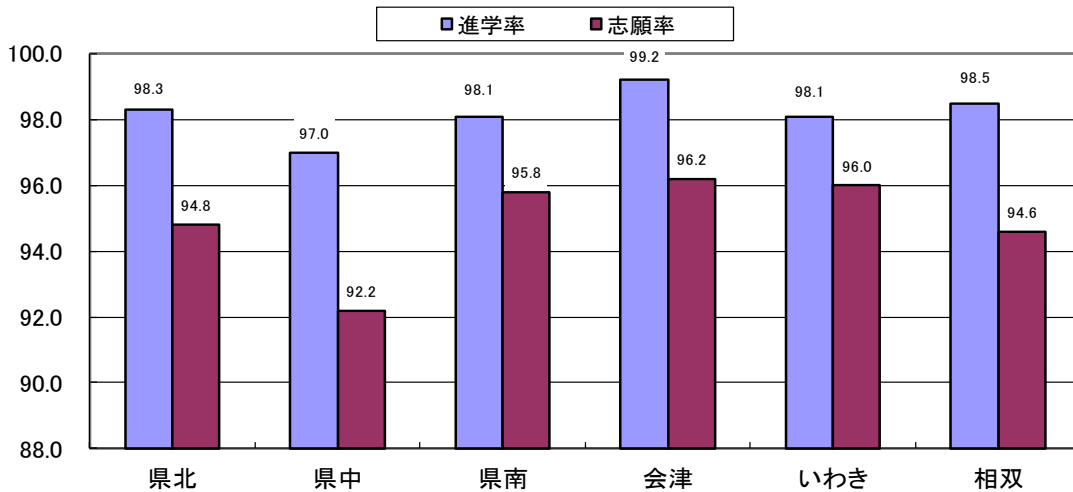
ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移



○高校進学率 (%)

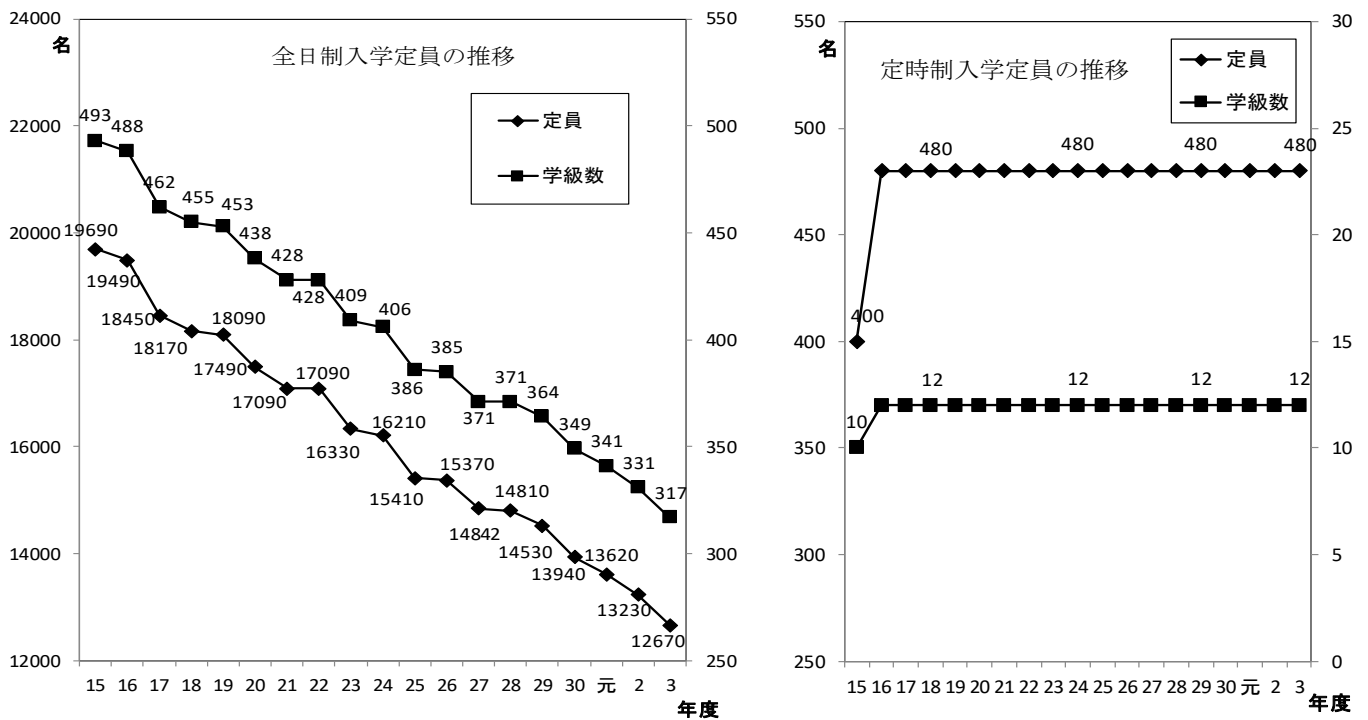
年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3
全国	97.0	97.3	97.5	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7	98.8	98.8	98.8	98.8	98.9
本県	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2	98.1	98.3	98.5	98.2	98.0

イ 地域別高校志願率・進学率



### (3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

### (4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業業者数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B定員	B/A (%)	C志願者数	C/A (%)	C/B (%)	D入学者数	D/C (%)
24	20,220	16,210	80.2	16,961	83.9	105	15,090	89.0
25	19,427	15,410	79.3	16,231	83.5	105	14,307	88.1
26	19,782	15,370	77.7	16,589	83.9	108	14,421	86.9
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	106	13,961	88.8
28	18,824	14,810	78.7	15,598	82.9	105	13,945	89.4
29	18,482	14,530	78.6	15,213	82.3	105	13,478	88.6
30	17,622	13,940	79.1	14,439	81.9	104	12,839	88.9
元	17,276	13,620	78.8	13,855	80.2	102	12,426	89.7
2	16,594	13,230	79.7	12,986	78.3	98.2	11,771	90.6
3	15,899	12,670	79.7	12,248	77.0	96.7	11,008	89.9

## (5) 県立高等学校生徒数（令和3.5.1現在）

課程 学科の区分		全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
			学年制	単位制	計			
普通科	男	8,098	103	245	348		8,446	544
	女	8,840	61	246	307		9,147	545
	計	16,938	164	491	655		17,593	1,089
農業に関する学科	男	1,235					1,235	
	女	1,305					1,305	
	計	2,540					2,540	
工業に関する学科	男	4,672	42		42		4,714	
	女	531	2		2		533	
	計	5,203	44		44		5,247	
商業に関する学科	男	1,438					1,438	
	女	2,389					2,389	
	計	3,827					3,827	
家庭に関する学科	男	6					6	
	女	39					39	
	計	45					45	
水産に関する学科	男	302				40	342	
	女	69				4	73	
	計	371				44	415	
理数に関する学科	男	177					177	
	女	142					142	
	計	319					319	
文理に関する学科	男	341					341	
	女	543					543	
	計	884					884	
国際文化に関する 学科	男	25					25	
	女	92					92	
	計	117					117	
国際・スポーツに 関する学科	男	0					0	
	女	0					0	
	計	0					0	
国際科学に関する 学科	男	122					122	
	女	433					433	
	計	555					555	
英語に関する学科	男	32					32	
	女	79					79	
	計	111					111	
体育に関する学科	男	100					100	
	女	15					15	
	計	115					115	
美術に関する学科	男	12					12	
	女	94					94	
	計	106					106	
総合学科	男	1,355					1,355	
	女	2,064					2,064	
	計	3,419					3,419	
合計	男	17,915	145	245	390	40	18,345	544
	女	16,635	63	246	309	4	16,948	545
	計	34,550	208	491	699	44	35,293	1,089

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	学校	年度											元	2	3
		22	23	24	25	26	27	28	29	30					
入学者	郡山萌世高校	290	216	197	152	133	124	99	87	71	86	84	71		
	計	290	216	197	152	133	124	99	87	71	86	84	71		

区分	学校	年度											元	2
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
卒業者	郡山萌世高校	228	260	223	231	192	155	158	122	121	120	110	112	
	計	228	260	223	231	192	155	158	122	121	120	110	112	

(7) 県立高等学校教職員定数の推移

区分	種別	高 等 学 校																			
	課程	全 日 制 ・ 定 時 制											通 信 制								
	職種 年度	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3
教員	校長	85	85	85	86	86	81	81	81	81	79										
	教諭等	3446	3351	3312	3223	3218	3167	3116	3047	2987	2928	37	36	36	36	36	34	33	28	25	25
	養護教員	110	109	106	106	105	102	100	98	96	91										
	補充教員	144	157	153	153	145	137	131	127	124	120										
	充指導主事	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22										
	寄宿舎指導員	5	3	3	5	6	7	8	10	10	10										
	実習助手	329	326	326	323	322	320	314	314	308	301										
	計	4142	4054	4008	3919	3905	3837	3773	3699	3628	3551	37	36	36	36	36	34	33	28	25	25
	事務職員	256	251	249	245	247	240	232	228	223	217	6	6	6	6	6	6	6	4	4	4
その他の職員	技能員																				
	学校司書	57	55	53	53	53	53	52	52	52	51										
	用務員	52	49	48	45	41	40	39	42	32	29										
	ボイラー技師	10	11	10	7	6	6	5	6	3	1										
	栄養士	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員	4	4	3	3	3	3	3	3	1	1										
	計	127	123	118	112	107	106	103	107	92	86										
練習船	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9											
	その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13											
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22											
	合計	4547	4450	4397	4298	4281	4205	4130	4056	3965	3876	43	42	42	42	42	40	39	32	29	29

## 2 教職員人事・任用

### (1) 人事異動の概要

令和2年度の高等学校教職員定数（補充教員は含まない）は、前年度比91人減の3,870人となった。このうち、教諭等は、前年度比63人減の3,012人である。

また、特別支援学校については、前年度比14人増の1,686人となった。このうち教諭等は前年度比14人増の1,446人となった。

#### ア 新採用(教諭)について

令和3年度は38名(国語3名・地歴公民5名・数学2名・理科3名・保健体育3名・音楽1名・美術2名・英語4名・家庭1名・農業5名・工業5名・商業3名・水産1名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

令和3年度に実施した令和4年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数45名程度に対して、高等学校志願者は前年度と同数の479名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は47名(前年度比4名増)となり、新採用教員として配置されることになる。

#### イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から4名、教育庁関係から現場復帰による10名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

#### ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて496名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

### (2) 令和2年度県立学校教員異動基準

#### I 一般基準

- (ア) 過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。
- (イ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。
- (ウ) 優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数(3年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。
- (エ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (オ) 2親等以内の者(姻族を含む。)は、原則として、同一校勤務を避ける。
- (カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

## II 異動基準

### ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- (ア) 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者(以下「初任者」という。)

- (イ) 異動2校目において3年以上勤務した者(以下「若年者」という。)

ただし、(ア)、(イ)いずれの場合も、原則として3年以上5年以内で異動させるものとする。

(「若年者」については平成21年度以降の採用者から適用する。)

- (ウ) 同一校に8年以上勤務した者

(以下「永年者」という。)

ただし、中通り地域の4校(湖南・埴工業・修明・修明鮫川)、会津地域の4校(川口・田島・南会津・只見)及び浜通り地域の2校(浪江津島・相馬農業飯舘)に3年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

### イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるI・II群に分類し、以下により異動を促進する。

- (ア) 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

- (イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、II群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてI群の学校に勤務するものとする。

ただし、II群普通系からII群専門系への異動、II群専門系勤務者のうち直近の勤務がI群校の者のII群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはII群普通系内の異動も可とする。

- (ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

### ウ 平成20年度以前の採用者について

平成30年度までは次の基準(以下「旧基準」という。)

を準用し、下記の(イ)aを満たす者は、上記イ(ア)の規定を満たすものとする。

#### (ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

a 初任者

b 永年者

- (イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、地区ごとに所在する学校の地理的特殊性等を考慮して、別表②に定めるA・B・C3群に分類し、以下により異動を促進する。



- a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。
- (a) 採用後 15 年以内に 2 地区以上の学校に勤務する。
- (b) A・B 2 群の学校に勤務する。ただし、A 群については、採用後 15 年以内とする。
- b 県南地区の 4 校（湖南・塙工業・修明・修明鮫川）、会津地区の 4 校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の 3 校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館）は、それぞれ 1 地区とみなす。
- c 本宮は平成 16 年度より県北地区とし、平成 16 年度以降の転入・在籍者から適用する。
- d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。
- e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。
- (a) A 群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。
- (b) B 群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。
- (c) C 群については同一市内間の異動は行わない。
- f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に 3 年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として 2 に準ずるが、採用後 20 年以内に 2 地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

- a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として 3 年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として 3 年から 8 年とする。

- b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として 2 年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

地域・地区	群	I		II		
		普通系	専門系	普通系	専門系	
中通り	県北	福島明成 福島工業（定） 福島北 福島南 川俣 梁川 保原 保原（定） 安達 二本松工業 安達東 本宮 福島中央		福島 橘 福島西 福島東		
	県中	安積（御館） 湖南 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 長沼 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 郡山萌世	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成		
			専門系	郡山商業 郡山北工業		
県南	光南 塙工業 修明 修明（鮫川） 白河二	普通系	白河 白河旭		専門系	白河実業
会津		喜多方 喜多方桐桜 猪苗代 耶麻農業 西会津 大沼 川口 坂下 会津農林 田島 南会津 只見 会津二	普通系	会津 葵 会津学鳳		
			専門系	若松商業 会津工業		
浜通り	いわき	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 遠野 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘		
			専門系	平工業 平商業		
相双		浪江 浪江（津島） 富岡 双葉翔陽 ふたば未来学園 相馬農業 相馬農業（飯館） 小高産業技術 新地	普通系	双葉 相馬 原町		
			専門系	相馬東		

~~~~~は、平成 29 年 4 月 1 日から休校になった学校。

====は、令和 2 年 4 月 1 日から休校になった学校。

別表② 地区・群別学校分類表

| 群<br>地区 | A                                  | B                                       | C                                                  | 特別支援学校<br>(A群校扱い)                                     |
|---------|------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 県北      | 福島工業(定) 川俣<br>梁川 保原(定)<br>安達東 福島中央 | 福島商業 福島明成<br>福島北 保原 安達<br>二本松工業 本宮      | 福島 橘 福島工業<br>福島西 福島東<br>福島南                        | 視覚支援<br>聴覚支援(福島)<br>大笹生支援<br>須賀川支援(医大)                |
| 県南      | 安積(御館) 長沼<br>石川 船引 小野<br>郡山萌世 白河第二 | 須賀川 須賀川桐陽<br>清陵情報 岩瀬農業<br>光南 白河実業<br>田村 | 安積 安積黎明<br>郡山東 郡山商業<br>郡山北工業 郡山<br>あさか開成<br>白河 白河旭 | 聴覚支援<br>郡山支援<br>あぶくま支援<br>須賀川支援<br>須賀川支援(郡山)<br>たむら支援 |
|         | 湖南 塙工業 修明<br>修明(鮫川)                |                                         |                                                    | 西郷支援<br>石川支援<br>石川支援(たまかわ)                            |
| 会津      | 猪苗代 耶麻農業<br>西会津 会津第二               | 喜多方 喜多方桐桜<br>大沼 坂下 会津農林                 | 会津 葵<br>会津学鳳<br>若松商業<br>会津工業                       | 聴覚支援(会津)<br>会津支援<br>会津支援(竹田)<br>猪苗代支援                 |
|         | 川口 田島<br>南会津 只見                    |                                         |                                                    |                                                       |
|         | 会津学鳳中学校                            |                                         |                                                    |                                                       |
| いわき     | 小名浜海星 磐城農業<br>勿来 勿来工業 遠野<br>いわき翠の杜 | いわき総合<br>いわき光洋 湯本<br>好間 四倉              | 磐城 磐城桜が丘<br>平工業 平商業                                | 聴覚支援(平)<br>平支援<br>いわき支援<br>いわき支援(くぼた)                 |
| 相双      | 双葉翔陽 新地                            | 双葉 浪江 富岡<br>相馬農業<br>小高産業技術              | 相馬 相馬東<br>原町                                       | 富岡支援<br>相馬支援                                          |
|         | 浪江(津島)<br>相馬農業(飯館)                 |                                         |                                                    |                                                       |

\_\_\_\_\_は、平成29年4月1日から休校になった学校。

\_\_\_\_\_は、令和2年4月1日から休校になった学校。

別表③

| 高校名   | 群 | 適用年度 | 高校名   | 群 | 適用年度 | 高校名   | 群 | 適用年度 |
|-------|---|------|-------|---|------|-------|---|------|
| 小野    | A | 昭和52 | 白河実業  | B | 昭和61 | 棚倉    | A | 平成10 |
| 福島明成  | B | 昭和56 | 川俣    | A | 平成2  | 東白川農商 | A | 〃    |
| 福島北   | B | 〃    | 福島商業  | B | 〃    | あさか開成 | C | 平成11 |
| いわき海星 | A | 〃    | 梁川    | A | 平成8  | 光南    | B | 〃    |
| 磐城農業  | A | 〃    | 船引    | A | 〃    | 石川    | A | 〃    |
| 勿来工業  | A | 〃    | いわき光洋 | C | 〃    | いわき光洋 | B | 平成16 |
| 双葉翔陽  | A | 〃    | 勿来    | A | 〃    |       |   |      |
| 猪苗代   | A | 昭和58 | 相馬農業  | B | 〃    |       |   |      |

**(3) 教頭複数制実施校(令和3年度実績)**

|        |       |       |         |
|--------|-------|-------|---------|
| 福島     | 橘     | 福島商業  | 福島明成    |
| 福島工業   | 福島西   | 福島東   | 保原      |
| 安積     | 安積黎明  | 郡山東   | 郡山北工    |
| 郡山     | 須賀川   | 清陵情報  | 岩瀬農業    |
| 光南     | 白河    | 白河実業  | 修明      |
| 田村     | 会津    | 会津学鳳  | 会津工業    |
| 喜多方    | 磐城    | 磐城桜が丘 | 平工業     |
| いわき総合  | 湯本    | 小名浜海星 | ふたば未来学園 |
| 小高産業技術 | 郡山萌世  |       |         |
| 視覚支援   | 聴覚支援  | 大笹生支援 | 郡山支援    |
| あぶくま支援 | 須賀川支援 | 西郷支援  | 石川支援    |
| たむら支援  | 会津支援  | 平支援   | いわき支援   |
| 富岡支援   |       |       |         |

**3 学校の設置及び統廃合****- 公立高等学校の設置・廃止等(令和4年度) -****(1) 学校の設置・廃止等**

ア 学校廃止 2校

安積高等学校御館校、修明高等学校鮫川校

イ 統合に伴う学校廃止 全日制8校、定時制1校

| 課程  | 学校名  | 内 容              |
|-----|------|------------------|
| 全日制 | 須賀川  | 普通科4学級、ワイス情報科1学級 |
|     | 長沼   | 普通科2学級           |
|     | 大沼   | 普通科2学級           |
|     | 坂下   | 普通科2学級           |
|     | 湯本   | 普通科6学級           |
|     | 遠野   | 普通科2学級           |
|     | 相馬東  | 総合学科4学級          |
|     | 新地   | 普通科2学級           |
| 定時制 | 福島中央 | 普通科1学級           |

ウ 統合に伴う学校新設 全日制4校、定時制1校

| 課程  | 学校名    | 内 容         |
|-----|--------|-------------|
| 全日制 | 須賀川創英館 | 普通科6学級      |
|     | 会津西陵   | 普通科4学級      |
|     | いわき湯本  | 普通科6学級      |
|     | 相馬総合   | 総合学科5学級     |
| 定時制 | ふくしま新世 | 普通科(単位制)1学級 |

エ ふたば未来学園高等学校開校に伴い、避難区域にある高等学校の生徒募集休止による休校 全日制6校

双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、富岡高等学校、双葉翔陽高等学校、相馬農業高等学校飯館校

**(2) 学級増**

なし

**(3) 学級減**

全日制2校2学級

| 課程  | 学校名  | 内 容      |
|-----|------|----------|
| 全日制 | 保原   | 普通科1学級   |
|     | 郡山商業 | 流通経済科1学級 |

**(4) 募集停止**

全日制1校1学級、定時制1校1学級

| 課程  | 学校名  | 内 容           |
|-----|------|---------------|
| 全日制 | 福島明成 | 生物工学科1学級      |
| 定時制 | 保原   | 普通科1学級(課程の廃止) |

**(5) 35人学級編制**

全日制1校2学級

| 課程  | 学校名 | 内 容    |
|-----|-----|--------|
| 全日制 | 南会津 | 普通科2学級 |

**(6) 学科転換・学科改編・学科新設**

|             |             |
|-------------|-------------|
| (単位制へ転換) 福島 | 普通科(単位制)7学級 |
| 安積          | 普通科(単位制)7学級 |
| 会津          | 普通科(単位制)6学級 |
| 磐城          | 普通科(単位制)7学級 |

**(7) 学科名変更**

なし

**(8) 校名変更**

なし

**(9) 連携型中高一貫教育校**

| 課程  | 学校名     | 連携中学校                                     |
|-----|---------|-------------------------------------------|
| 全日制 | 埴工業     | 埴                                         |
|     | 田島      | 田島、荒海                                     |
|     | ふたば未来学園 | なみえ創成、葛尾、双葉<br>学び舎ゆめの森、富岡<br>川内小中学園、檜葉、広野 |
|     | 相馬総合    | 中村第一、中村第二、<br>向陽、磯部                       |

**(10) 併設型中高一貫教育校**

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

ふたば未来学園高等学校(ふたば未来学園中学校)

**(11) 通信制**

変更なし

**(12) 専攻科**

変更なし

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

#### (2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭及び養護教諭26名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

#### (3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 福島県高等学校教育課程講習会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。代わりに、高等学校学習指導要領の趣旨の徹底を図り、教育課程実施に伴う諸問題について理解を深めるための資料を配付したうえで、課題の提出を課した。

イ 学力向上を図る。

「オールふくしま学力向上推進事業」として、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施

した。さらに、対象校の進路指導担当者を出席者とする学力向上連絡協議会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通じ進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

#### (4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。

(オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

#### ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

#### エ 使命感の高揚

(ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。

(イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。

(ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

### (5) 教育環境の整備充実

#### ア 学習環境の整備充実

(ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。

(イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。

(ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

#### イ 学校事故防止の徹底

(ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。

(イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。

(ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

### (6) 県立高等学校入学者選抜

#### ア 基本方針

令和4年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

##### (ア) 特色選抜

特色選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに従って自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、特色選抜の性格をより明確にするため、各高等学校の「志願してほしい生徒像」については、より具体的な記載を可能とする。

a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、学力検査の成績及び特色選抜に係る面接（以下「特色面接」という。）の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）、実技等（以下「特色検査」という。）の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b 特色選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多角的に評価するための資料の一つとして特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果を積極的に活用するものとする。

c 特色選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

d 合否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

##### (イ) 一般選抜

一般選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに一般選抜に係る面接（以下「一般面接」という。）を実施する高等学校においては一般面接の結果を併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

b 一般選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

c 一般面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

##### (ウ) 後期選抜

後期選抜は、前期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（併設型中高一貫教育校における高等学校においては、当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校から当該高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、前期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、前期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

- a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。
- b 前期選抜に係る学力検査の成績は、後期選抜の資料とはしないものとする。
- c 後期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

なお、併設型中高一貫教育校における中学校から当該中学校に係る併設型中高一貫教育校における高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

**前期選抜・後期選抜における新型コロナウイルス感染症に係る特例措置について**

- 1 令和4年度県立高等学校入学者選抜においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受験できないこととされた者に配慮し、受験機会を確保する。
  - (1) 前期選抜及び追検査等において、受験できないこととされた者を対象に、新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程を設定する。
  - (2) 新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程の不合格者、新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程又は後期選抜において、受験できないこととされた者を対象に、新型コロナウイルス感染症対応選抜第2日程を設定する。

※1 特色選抜における出願要件について  
特色選抜の「志願してほしい生徒像」の記載においては、従前のおり、大会実績や資格取得等を出願要件とすることができる。

※2 学力検査の出題範囲は縮小しない。

**中学校における新学習指導要領への移行に伴う出題範囲の配慮について**

- 1 令和4年度県立高等学校入学者選抜においては、中学校における新学習指導要領への移行に伴い、中学校卒業見込みの者と中学校卒業者の間に、国語と数学で学習内容に差が生じていることから、次のように学力検査の出題範囲について配慮をし、公平性を確保する。
  - (1) 国語においては、移行措置によって追加して指導することとなった都道府県名に用いる漢字20字※の読みと書きを出題範囲に含める。
    - ※ 茨、媛、岡、瀧、岐、熊、香、佐、埼、崎、滋、鹿、縄、井、沖、栃、奈、梨、阪、阜
  - (2) 数学においては、「累積度数」、「四分位範囲」、「箱ひげ図」を出題範囲から除外する。
- (イ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため、連携型選抜を実施する。

- a 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、特色選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとし、併設型中高一貫教育校における高等学校においては、これらの割合について、別に公告する募集定員から当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校の第3学年に在学する者（11月1日現在）の数を除いた数に対する割合とする。

なお、合否の判定に当たっては、志願者の動向や各学校・学科の実態に応じて、弾力的に対応することができる。

- b 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。
  - なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校の特色選抜へ出願することはできない。
- c 受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。
- d 志願者全員に学力検査を課す。学力検査を実施する教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、学力検査の問題作成や配点については、前期選抜と同様とする。
- e 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書の審査結果、学力検査の成績及び連携型選抜に係る面接（以下「連携型面接」という。）の結果を資料とする。
  - なお、各連携型高等学校長の判断により、各連携型高等学校が連携している教育課程に基づいた内容に応じた選抜方法に加え、学校の特色や学科の特性等に関する内容に応じた選抜方法（以下これらを「連携型検査」という。）を選択して実施した場合には、それらの結果を併せて資料として選抜を行うことができるものとする。
- f 合否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、連携型面接の結果及び連携型検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。
- g 連携型選抜の志願者は、出願した高等学校において一般選抜にも出願できるものとするが、その場合、各連携型高等学校は、連携型選抜、一般選抜の順位に合否判定を行う。
- h 連携型選抜に出願する者は、特色選抜との併願はできない。

**連携型選抜における新型コロナウイルス感染症に係る特  
例措置について**

- 1 令和4年度県立高等学校入学者選抜においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受験できないこととされた者に配慮し、受験機会を確保する。
- (1) 連携型選抜及び追検査等において、受験できないこととされた者を対象に、新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程を設定する。
- (2) 新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程の不合格者、新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程又は後期選抜において、受験できないこととされた者を対象に、新型コロナウイルス感染症対応選抜第2日程を設定する。
- ※ 学力検査の出題範囲は縮小しない。

イ 入学者選抜関係日程

- 6月10日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 7月12日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 8月24日※ 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議  
※ 書面開催方式で実施した。
- 9月2日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出
- 10月5日～10月12日※  
県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の7地区で入学者選抜実施要綱説明会実施  
※ オンライン方式で実施した。
- 10月15日 令和4年度入学者募集定員決定

(ア) 前期選抜関係日程

- 2月3日～2月8日 出願書類受付  
2月9日～2月14日 出願先変更  
2月15日～2月16日 調査書提出  
3月3日 学力検査  
3月3日～3月5日 面接等  
3月9日～3月10日 追検査等  
3月14日 合格者発表

(イ) 後期選抜関係日程

- 3月15日～3月16日 出願書類受付  
3月17日 出願先変更  
3月22日 面接等  
3月23日 合格者発表

(ウ) 連携型選抜関係日程

- 2月3日～2月8日 出願書類受付  
2月9日～2月14日 出願先変更  
2月15日～2月16日 調査書提出  
3月3日 学力検査  
3月3日～3月5日 面接等

3月9日～3月10日 追検査等

3月14日 合格者発表

(エ) 新型コロナウイルス感染症対応選抜関係日程  
(第1日程)

3月15日～3月16日 出願書類受付

3月22日 検査等

3月23日 合格者発表

(オ) 新型コロナウイルス感染症対応選抜関係日程  
(第2日程)

3月24日 出願書類受付

3月25日 検査等

3月28日 合格者発表

(カ) 通信制の課程選抜日程

2月3日～3月29日 出願書類受付

4月5日 合格者発表(個人宛通知)

ウ ふたば未来学園高等学校の入学者選抜

平成27年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。令和4年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ア) 出願時にJFAアカデミー福島又は双葉地区未来創造型リーダー育成構想(新双葉地区教育構想)ピクトリープログラムに参加している者

(イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

双葉郡浪江町立津島中学校

双葉郡浪江町立なみえ創成中学校

双葉郡葛尾村立葛尾中学校

双葉郡双葉町立双葉中学校

双葉郡大熊町立大熊中学校

双葉郡富岡町立富岡第一中学校

双葉郡富岡町立富岡第二中学校

双葉郡川内村立川内小中学園

双葉郡檜葉町立檜葉中学校

双葉郡広野町立広野中学校

(ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内に居住していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を令和4年3月に卒業見込又は修了見込の者

エ 志願者数・合格者数

◇各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

(ア) 特色選抜

《全日制》

| 学科   | 入学定員   | 特色選抜<br>定員 | 志願者数  | 志願<br>倍率 | 合格者数  |
|------|--------|------------|-------|----------|-------|
| 普通科等 | 6,830  | 1,195      | 903   | 0.76     | 755   |
| 農 業  | 1,000  | 196        | 110   | 0.56     | 88    |
| 水 産  | 120    | 48         | 24    | 0.50     | 22    |
| 工 業  | 1,840  | 416        | 295   | 0.71     | 243   |
| 商 業  | 1,280  | 434        | 436   | 1.00     | 348   |
| 家 庭  | 40     | 14         | 1     | 0.07     | 1     |
| 総 合  | 1,280  | 366        | 281   | 0.77     | 216   |
| 計    | 12,390 | 2,669      | 2,050 | 0.77     | 1,673 |

《定時制》

| 学科  | 入学定員 | 特色選抜<br>定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格者数 |
|-----|------|------------|------|----------|------|
| 普 通 | 400  | 66         | 5    | 0.08     | 3    |
| 工 業 | 40   | 8          | 0    | 0.00     | 0    |
| 計   | 440  | 74         | 5    | 0.07     | 3    |

(イ) 連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（連携型選抜）

| 学科  | 入学定員 | 連携型選抜<br>定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格内定者数 |
|-----|------|-------------|------|----------|--------|
| 普 通 | 80   | 32          | 32   | 1.00     | 31     |
| 工 業 | 80   | 32          | 3    | 0.09     | 3      |
| 総 合 | 360  | 90          | 70   | 0.78     | 56     |
| 計   | 520  | 154         | 105  | 0.68     | 90     |

(ウ) 前期選抜、連携型選抜

《全日制》

| 学科   | 入学定員   | 志願者数   | 志願<br>倍率 | 合格者数   |
|------|--------|--------|----------|--------|
| 普通科等 | 6,830  | 6,982  | 1.02     | 5,990  |
| 農 業  | 1,000  | 829    | 0.83     | 776    |
| 水 産  | 120    | 125    | 1.04     | 114    |
| 工 業  | 1,840  | 1,571  | 0.85     | 1,489  |
| 商 業  | 1,280  | 1,276  | 1.00     | 1,105  |
| 家 庭  | 40     | 19     | 0.48     | 18     |
| 総 合  | 1,280  | 983    | 0.87     | 929    |
| 計    | 12,390 | 11,785 | 0.96     | 10,421 |

※ 「総合」及び「計」の志願倍率は、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学予定者 87 名と、ふたば未来学園中学校からふたば未来学園高等学校への入学予定者 57 名を、入学定員から減じて算出した値である。

《定時制》

| 学科  | 入学定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格者数 |
|-----|------|------|----------|------|
| 普 通 | 400  | 203  | 0.51     | 186  |
| 工 業 | 40   | 3    | 0.08     | 3    |
| 計   | 440  | 206  | 0.47     | 189  |



## (エ) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

| 学校名   | 学科名  | 定員  | 志願者数 | 合格者数 |
|-------|------|-----|------|------|
| 福島北   | 総合   | 若干名 | 1    | 1    |
| 福島南   | 国際文化 | 若干名 | 0    | 0    |
| あさか開成 | 国際科学 | 若干名 | 0    | 0    |
| 光南    | 総合   | 若干名 | 2    | 2    |
| 会津学鳳  | 総合   | 若干名 | 0    | 0    |
| いわき湯本 | 普通   | 若干名 | 0    | 0    |
| 相馬総合  | 総合   | 若干名 | 0    | 0    |

## (オ) 後期選抜

## 《全日制》

| 学科   | 入学定員  | 志願者数 | 合格者数 |
|------|-------|------|------|
| 普通科等 | 840   | 108  | 95   |
| 農業   | 224   | 31   | 27   |
| 水産   | 6     | 2    | 2    |
| 工業   | 351   | 35   | 32   |
| 商業   | 175   | 26   | 25   |
| 家庭   | 22    | 0    | 0    |
| 総合   | 207   | 26   | 23   |
| 計    | 1,825 | 228  | 204  |

## 《定時制》

| 学科 | 入学定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|----|------|------|------|
| 普通 | 214  | 27   | 19   |
| 工業 | 37   | 1    | 1    |
| 計  | 251  | 28   | 20   |

## ◇後期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

## 《全日制》

| 学科   | 入学定員   | 特色選抜合格者数 | 連携型選抜合格者数 | 前期選抜<br>連携型選抜<br>合格者数 | 後期選抜<br>合格者数 | 合格者数   |
|------|--------|----------|-----------|-----------------------|--------------|--------|
| 普通科等 | 6,830  | 755      | 31        | 5,990                 | 95           | 6,085  |
| 農業   | 1,000  | 88       |           | 776                   | 27           | 803    |
| 水産   | 120    | 22       |           | 114                   | 2            | 116    |
| 工業   | 1,840  | 243      | 3         | 1,489                 | 32           | 1,521  |
| 商業   | 1,280  | 348      |           | 1,105                 | 25           | 1,130  |
| 家庭   | 40     | 1        |           | 18                    | 0            | 18     |
| 総合   | 1,280  | 216      | 56        | 929                   | 23           | 952    |
| 計    | 12,390 | 1,673    | 90        | 10,421                | 204          | 10,625 |

## 《定時制》

| 学科 | 入学定員 | 特色選抜合格者数 | 連携型選抜合格者数 | 前期選抜<br>合格者数 | 後期選抜<br>合格者数 | 合格者数 |
|----|------|----------|-----------|--------------|--------------|------|
| 普通 | 400  | 3        |           | 186          | 19           | 205  |
| 工業 | 40   | 0        |           | 3            | 1            | 4    |
| 計  | 440  | 3        |           | 189          | 20           | 209  |

## 2 現職教育

### (1) 各種研修並びに講習会

| 名 称                          | 期日                      | 期間    | 会 場       | 参加者                        |
|------------------------------|-------------------------|-------|-----------|----------------------------|
| 県立学校新任校長・副校長研修会              | 5. 6                    | 1 日   | 教育センター    |                            |
| 県立学校新任教頭研修会                  | 5. 10                   | 1 日   | 教育センター    |                            |
| 中核教諭研修                       | 10. 27、10. 28           | 2 日   | 教育センター    | 県立学校中核教諭 47 名              |
| 初任者研修（基本研修）                  | 4. 5、4. 15              | 2 日   | 教育センター    | 高等学校初任者研修                  |
| 〃（一次研修）                      | 4. 21、4. 28、5. 12       | 3 日   | 教育センター    | 対象教員 40 名                  |
| 〃（二次研修）                      | 2. 2、2. 4               | 2 日   | 教育センター    |                            |
| 〃 地区別（教科別）                   | 新型コロナウイルス感染症対策のため所属校で研修 |       |           |                            |
| 〃 地区別（一般Ⅰ）                   | 4. 14～4. 16             | 2 日   | 各所属校      |                            |
| 〃 地区別（一般Ⅱ）                   | 10. 6                   | 1 日   | 各地区施設、学校等 |                            |
| 〃 地区別（カウンセリング）               | 7. 29～8. 26             |       |           |                            |
| 〃 地区別（特別活動等）                 | 9. 8                    | 1 日   |           |                            |
| 〃 地区別（社会奉仕等体験）               | 6. 2～11. 10             |       |           |                            |
| 〃 地区別（安全教育）                  | 5. 19～12. 8             |       |           |                            |
| 2 年次教員フォローアップ研修<br>（教科等指導研修） | 7. 5                    | 1 日   | 教育センター    | 高等学校初任者研修<br>修了教員 47 名     |
| 〃（企業体験研修）                    | 7. 27～8. 5              | 2 日   | 各企業等      |                            |
| 〃（所属校における研修）                 | 4 月～3 月                 | 30 時間 | 各所属校      |                            |
| 5 年経験者研修（校外研修）               | 1 班 10. 6<br>2 班 10. 18 | 1 日   | 教育センター    | 県立学校教職経験<br>5 年を経過した者 61 名 |
| 〃（所属校における研修）                 | 5 月～12 月                | 5 日   | 各所属校      |                            |
| 中堅教諭等資質向上研修                  | 4. 16                   | 1 日   | 教育センター    | 県立学校教職経験                   |
| 〃（生徒指導研修）                    | 7. 2                    | 1 日   | 教育センター    | 10 年を経過した者 88 名            |
| 〃（教科指導研修Ⅰ）                   |                         |       |           |                            |
| 〃（教科指導研修Ⅱ）                   | 2. 9                    | 1 日   | 教育センター    |                            |
| 〃（特別活動 選択）                   | 9. 8                    | 1 日   | 各所、施設等    |                            |

### (2) 教員体験研修（2 か月）

実施せず

### (3) 教職員等中央研修

ア 趣旨

学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、教頭、中堅教員を育成する。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインによる研修に変更（NITS オンライン研修）

オ 期間及び参加者

◇校長研修（7 月 5 日～7 月 9 日）

県立好間高等学校長 和田 直也

◇副校長・教頭等研修（9 月 27 日～10 月 1 日）

県立小高産業技術高等学校教頭 渡邊 浩志

◇中堅教員研修（11 月 15 日～11 月 19 日）

県立福島高等学校教諭 富良謝 和信

◇中堅教員研修（11 月 15 日～11 月 19 日）

県立修明高等学校教諭 江川 篤

◇次世代リーダー育成研修（1 月 17 日～1 月 21 日）

県立福島東高等学校教諭 羽田 真幸

◇次世代リーダー育成研修（1 月 17 日～1 月 21 日）

県立岩瀬農業高等学校教諭 齋藤 勇樹

◇4～8 年目教員育成研修（10 月 4 日～10 月 8 日）

県立会津学鳳高等学校教諭 上田 彩

### (4) 学校組織マネジメント指導者養成研修

ア 趣旨

学校組織マネジメントの理論を身に付け、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインによる研修に変更（NITS オンライン研修）

オ 期間及び参加者（11 月 29 日～12 月 1 日）

県立いわき翠の杜高等学校教頭 桑折 淳

### 3 教育課程

#### (1) 高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会

ア 目的

高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する説明、協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。

イ 主催 文部科学省

ウ 共催 国立教育政策研究所

エ 期日 7月5日(月)～7月9日(金)

オ 会場 新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインによる開催

カ 参加者

| 部会        | 氏名    | 所属      |
|-----------|-------|---------|
| 総 則       | 柳橋 幸裕 | 高校教育課   |
| 国 語       | 高橋 敏哉 | 高校教育課   |
| 地 理 歴 史   | 岩間真由美 | 高校教育課   |
| 公 民       | 緑川 祐  | 高校教育課   |
| 数 学       | 佐藤 章  | 高校教育課   |
| 理 科       | 高橋 信幸 | 高校教育課   |
| 保 健 体 育   | 田中 巨人 | 健康教育課   |
| 音 楽       | 鈴木 敦  | 高校教育課   |
| 美 術 ・ 工 芸 | 梅野 史代 | 教育センター  |
| 書 道       | 郡司 仁美 | 福島北高等学校 |
| 外 国 語     | 四家 真澄 | 高校教育課   |
| 家庭(共通)    | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 情報(共通)    | 滝沢日佐人 | 高校教育課   |
| 理 数       | 高橋 信幸 | 高校教育課   |
| 農 業       | 遠藤 智子 | 高校教育課   |
| 工 業       | 先崎 隆幸 | 高校教育課   |
| 商 業       | 五十嵐陽一 | 高校教育課   |
| 水 産       | 遠藤 智子 | 高校教育課   |
| 家庭(専門)    | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 看 護       | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 情報(専門)    | 先崎 隆幸 | 高校教育課   |
| 福 祉       | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 総合的な探究の時間 | 高野 将徳 | 県北教育事務所 |
| 特 別 活 動   | 野中 斉  | 会津教育事務所 |

#### (2) 高等学校各教科等担当指導主事研究協議会

ア 目的

高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する研究協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。

イ 主催 文部科学省

ウ 共催 国立教育政策研究所

エ 期日 11月24日(水)～11月26日(金)、

11月29日(月)、11月30日(火)

オ 会場 新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインによる開催

カ 参加者

| 部会        | 氏名    | 所属      |
|-----------|-------|---------|
| 総 則       | 柳橋 幸裕 | 高校教育課   |
| 国 語       | 高橋 敏哉 | 高校教育課   |
| 地 理 歴 史   | 岩間真由美 | 高校教育課   |
| 公 民       | 緑川 祐  | 高校教育課   |
| 数 学       | 佐藤 章  | 高校教育課   |
| 理 科       | 高橋 信幸 | 高校教育課   |
| 保 健 体 育   | 田中 巨人 | 健康教育課   |
| 音 楽       | 鈴木 敦  | 高校教育課   |
| 美 術 ・ 工 芸 | 梅野 史代 | 教育センター  |
| 書 道       | 郡司 仁美 | 福島北高等学校 |
| 外 国 語     | 四家 真澄 | 高校教育課   |
| 家庭(共通)    | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 情報(共通)    | 滝沢日佐人 | 高校教育課   |
| 理 数       | 高橋 信幸 | 高校教育課   |
| 農 業       | 遠藤 智子 | 高校教育課   |
| 工 業       | 先崎 隆幸 | 高校教育課   |
| 商 業       | 五十嵐陽一 | 高校教育課   |
| 水 産       | 遠藤 智子 | 高校教育課   |
| 家庭(専門)    | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 看 護       | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 情報(専門)    | 先崎 隆幸 | 高校教育課   |
| 福 祉       | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 総合的な探究の時間 | 高野 将徳 | 県北教育事務所 |
| 特 別 活 動   | 野中 斉  | 会津教育事務所 |

#### (3) 福島県高等学校教育課程講習会

ア 目的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨や内容を説明することにより、各学校において円滑に実施できるようにし、特に観点別学習状況評価について丁寧に説明するとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議等を実施することにより、高等学校教育の改善及び充実を図る。

イ 主催 文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日 8月2日(月)～9月3日(金)

エ 会場 新型コロナウイルス感染症対策のため、資料共有によるレポートの提出により実施した。

オ 参加者 309名

カ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

| 部 会     | 参加者数 | 部 会   | 参加者数 |
|---------|------|-------|------|
| 総 則     | 86   | 書 道   | 実施せず |
| 国 語     | 28   | 外 国 語 | 46   |
| 地 理 歴 史 | 13   | 家 庭   | 3    |
| 公 民     | 1    | 情 報   | 2    |
| 数 学     | 16   | 農 業   | 17   |
| 理 科     | 13   | 工 業   | 31   |
| 保 健 体 育 | 17   | 商 業   | 24   |
| 音 楽     | 5    | 水 産   | 3    |
| 美術・工芸   | 2    | 看護・福祉 | 2    |
| 合 計     |      |       | 309  |

(4) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

- (ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照
- (イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

|    |        |                      |
|----|--------|----------------------|
| 農業 | 生産情報   | 福島明成                 |
|    | 情報技術   | 郡山北工業                |
| 工業 | 電気情報   | 会津工業                 |
|    | 情報電子   | 福島工業、清陵情報            |
|    | 情報システム | 二本松工業                |
|    | 情報工学   | 平工業                  |
|    | 情報処理   | 郡山商業、清陵情報            |
| 商業 | 情報会計   | 福島南、本宮、清陵情報          |
|    | 情報ビジネス | 福島商業、白河実業、修明<br>若松商業 |
|    | オフィス情報 | 須賀川                  |
|    | 情報システム | 喜多方桐桜、平商業            |
|    | 産業革新   | 小高産業技術               |
|    | 水産     | 情報通信                 |

ウ ICTを活用した新しい時代の教育研究開発事業に係る指導力向上開発校の指定

(ア) 目的

ICTを全ての教育活動で活用する新しい時代を迎えるにあたり、指導力向上開発校（モデル校）を指定し、優先的にICT機器を整備し、それらを活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ることにより、当該校の学習活動の一層の充実を図る。また、指導事例の蓄積とそれを支える校内指導体制の充実について研究を進め、その研究成果を公開授業等の実施により県立高校全校に普及させるとともに、

ICT環境整備と教員のICT活用指導力の向上を一体的に実現するモデルを構築する。

(イ) 指定校

福島高等学校、保原高等学校、安積高等学校  
光南高等学校、若松商業高等学校

(ウ) 指定期間

令和2年度から令和4年度までの3年間

(5) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 34名

イ 配置 ○県内23の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内9つの高校に各1名、県立中学校に各2名配置、専任校における指導

4 学力向上対策等

(1) 令和3年度文部科学省指定各種研究校

| 研究種別                 | 学校名  | 指定年度           | 研究主題                                                                                                                                    |
|----------------------|------|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スーパーサイエンスハイスクール（SSH） | 会津学鳳 | R3<br>～<br>R7  | 新たな社会である Society 5.0 の実現と新たな情報化の時代の創造、及びSDGsの達成に代表される持続可能な社会の形成に貢献する科学者を会津から育成するため、会津大学や会津の企業等の会津の地域資源を活用し、人材育成のための効果的な教育プログラムの研究開発を行う。 |
|                      |      | H29<br>～<br>R3 | 高い専門性と地域のリーダーとしての資質を併せ持つ世界で活躍する科学技術人材の育成を目的とし、この達成のために創造的思考力、表現力・発信力、国際力、専門力、物事を完遂する力といった5つの資質・能力の育成を目標とする。                             |
|                      | 安積   | R1<br>～<br>R5  | 自ら進んで課題に向き合い、新しい社会を創出し、地域から世界を牽引できる科学技術系リーダーを育成するために、主体的・協働的な探究型学習を推進する教育プログラムを開発し、それを支え、発展させる新しい地域教育・共創モデルを確立するための研究開発を行う。             |

**(2) ふくしま創生人財育成事業**

ア 特色ある郷土理解教育の支援

各学校の特色に応じて地域との連携を図り、郷土理解を促進しながら、新しい時代に求められる資質・能力の育成に努め、生徒一人一人の学力向上や進路実現に向けた取組を行う各学校を支援し、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

- 対象校：県立高等学校 19 校  
福島商業、福島北、須賀川、清陵情報、光南、白河実業、塙工業、石川、田村、船引、小野、若松商業、大沼、南会津、いわき総合、湯本、相馬農業、新地、いわき翠の杜

**(3) オールふくしま学力向上推進事業**

ア 大学進学のための学力向上推進事業

アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて、生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図った。さらには、教員の教科指導力や進学指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

- 対象校：県立高等学校 20 校  
福島、橘、福島西、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、須賀川桐陽、白河、白河旭、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、磐城桜が丘、いわき光洋、相馬、原町
- イ ふくしま高校生リーダー育成プロジェクト  
予備校講師によるレベルの高い授業の動画を配信し、学力の向上を図るとともに、大学の先輩とのオンライン交流を通して進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築いた。
- 対象：難関大学進学への意識・意欲の高い県立高等学校 1 年生及び 2 年生。
- 期日：【1 年生】  
令和 4 年 3 月 24 日にオンライン開催。  
授業動画は同 25 日以降に公開。

【2 年生】

令和 4 年 3 月 23 日にオンライン開催。  
授業動画は同 24 日以降に公開。

**(4) 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（新規）**

ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

- 実践校：県立高等学校 27 校  
橘、福島明成、保原（定時制課程）、本宮、安積、あさか開成、湖南、須賀川桐陽、長沼、岩瀬農業、光南、白河、石川、船引、小野、会津学鳳、川口、磐城、磐城農業、遠野、ふたば未来学園、相馬、相馬東、原町、相馬農業、小高産業技術、新地

イ 県内の学校間での交流（オンライン）

- 対象：実践校 27 校
- 期日：令和 4 年 1 月 24 日
- 内容：語り部実践、交流、講話の受講

ウ 県外の学校等との交流

5 回に及ぶ交流の機会を設定した。実践校延べ 11 校が、県外の高校延べ 9 校と交流を行った。

エ 震災学習のためのリーフレット（小冊子）の配布  
県内の公立及び私立の小・中・高の全児童生徒に配布した。

オ 伝承館を利用した教員研修

(ア) 県立高等学校の教員を対象とした研修会

- 対象：全県立高等学校の代表教員 1 名
- 期日：令和 3 年 7 月 14 日
- 内容：館内見学、語り部講話の受講、グループワーク

(イ) 公立小・中学校の教員を対象とした研修会

- 対象：若手教員または校内研修担当教員で、参加を希望する者
- 実施日：令和 3 年 12 月 6 日
- 内容：館内見学、語り部講話の受講、フィールドワーク、ワークショップ

**5 生徒指導・進路指導**

**(1) 教育事務所指導主事の活動**

県内 7 地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

- ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）
- イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助
- ウ 関係諸機関、諸団体との連携
- エ 生徒指導関係の情報と資料の収集
- オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

**(2) スクールカウンセラーの配置**

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（85 校）にスクールカウンセラーを配置した。

**6 学校行事**

**(1) 卒業式**

ア 県立高等学校卒業生数

| 課程  | 性別    |       | 計      |
|-----|-------|-------|--------|
|     | 男     | 女     |        |
| 全日制 | 6,120 | 5,759 | 11,879 |
| 定時制 | 110   | 94    | 204    |
| 通信制 | 48    | 61    | 109    |
| 計   | 6,278 | 5,914 | 12,192 |

イ 卒業式実施期日

| 日付      | 種別  |     |     |    |
|---------|-----|-----|-----|----|
|         | 全日制 | 定時制 | 通信制 | 計  |
| 3 月 1 日 | 79  | 7   | 0   | 86 |
| 3 月 6 日 | 0   | 0   | 1   | 1  |
| 計       | 79  | 7   | 1   | 87 |

- ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校  
 県知事臨席校 3月1日 葵高等学校  
 若松商業高等学校  
 県議会議長臨席校 コロナ対策のため臨席せず  
 県議会副議長臨席校 コロナ対策のため臨席せず  
 県教育長臨席校 郡山東高等学校

- キ 引率責任者  
 校長 32校 (15校)  
 副校長 0校 (0校)  
 教頭 26校 (12校)  
 教諭 2校 (0校)

**(2) 修学旅行(県立高等学校)** ( )は前年度

- ア 参加生徒総数 8,125人(4,260人)  
 イ 参加率 95.5%(94.1%)  
 ウ 行先

| 行先     | 校数     |
|--------|--------|
| 県内     | 1 (1)  |
| 北海道    | 3 (2)  |
| 北海道・東北 | 6 (5)  |
| 東北     | 13 (9) |
| 東北・関東  | 2 (2)  |
| 東北・北陸  | 0 (1)  |
| 北陸     | 5 (1)  |
| 北陸・中部  | 4 (0)  |
| 関東     | 4 (0)  |
| 関東・中部  | 3 (1)  |
| 東海     | 1 (1)  |
| 奈良・京都  | 7 (0)  |
| 中国・近畿  | 2 (1)  |
| 九州     | 2 (2)  |
| 沖縄     | 0 (0)  |
| 四国     | 1 (0)  |
| 四国・近畿  | 0 (1)  |
| 中部・東海  | 6 (0)  |
| 海外     | 0 (0)  |

- エ 航空機利用 5校 (3校)  
 北海道方面 0校 (0校)  
 大阪方面 3校 (1校)  
 九州方面 2校 (2校)  
 沖縄方面 0校 (0校)  
 広島 0校 (0校)  
 愛媛 0校 (0校)  
 海外 0校 (0校)

- オ 泊日数  
 1泊2日 2校 (5校)  
 2泊3日 28校 (15校)  
 3泊4日 30校 (7校)  
 4泊5日 0校 (0校)

- カ 必要経費  
 生徒一人当たりの最高額 126,553円 (132,084円)  
 最低額 39,661円 (29,721円)  
 平均額 86,942円 (70,198円)

**7 産業教育**

**(1) 県産業教育フェア**

令和3年度は実施せず。

**(2) 文部科学省主催の研修講座と内容**

- ア 令和3年度産業・情報技術等指導者養成研修  
 オンライン開催(農業、工業、家庭、情報)  
 実施せず(商業、水産)  
 イ 令和3年度産業教育実習助手研修  
 実施せず  
 ウ 令和3年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座  
 オンライン開催

**8 学校訪問**

**(1) 目的**

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

**(2) 訪問校**

5年経験者研修、又は中堅教諭等資質向上研修の該当者の勤務する学校から数校を選定する。

**(3) 訪問学校一覧**

|            |        |
|------------|--------|
| 二本松工業高等学校  | 工業     |
| 本宮高等学校     | 商業     |
| 安積高等学校     | 国語     |
| 湖南高等学校     | 理科     |
| 岩瀬農業高等学校   | 農業     |
| 光南高等学校     | 外国語    |
| 田村高等学校     | 公民     |
| 船引高等学校     | 理科     |
| 小野高等学校     | 芸術     |
| 会津高等学校     | 芸術     |
| 会津工業高等学校   | 地理歴史   |
| 川口高等学校     | 学校保健   |
| 磐城桜が丘高等学校  | 芸術     |
| 平工業高等学校    | 工業     |
| 磐城農業高等学校   | 家庭     |
| 勿来高等学校     | 保健体育   |
| 勿来工業高等学校   | 学校保健   |
| 遠野高等学校     | 数学     |
| 相馬東高等学校    | 保健体育   |
| 相馬農業高等学校   | 農業     |
| いわき翠の杜高等学校 | 定通(生物) |

## 9 県立学校学校教育指導委員

| 教科名    | 氏名    | 職名   | 学校名        |
|--------|-------|------|------------|
| 国語     | 長坂 哲志 | 教諭   | 川口高等学校     |
| 地理歴史   | 村岡 亮  | 教諭   | 耶麻農業高等学校   |
| 公民     | 野内 鑑  | 教諭   | 塙工業高等学校    |
| 数学     | 高梨 卓哉 | 教諭   | 湯本高等学校     |
| 理科     | 氏家 貴哉 | 教諭   | 安達東高等学校    |
|        | 熊田 宏毅 | 教諭   | 須賀川桐陽高等学校  |
| 保健体育   | 菊池 雄大 | 教諭   | 磐城高等学校     |
|        | 若松 千春 | 教諭   | 小名浜海星高等学校  |
| 芸術（音楽） | 佐藤 優子 | 教諭   | 岩瀬農業高等学校   |
| 芸術（美術） | 國島 敏  | 教諭   | 橘高等学校      |
| 芸術（書道） | 郡司 仁美 | 教諭   | 福島北高等学校    |
| 外国語    | 寺下 理沙 | 教諭   | 白河高等学校     |
| 家庭     | 吉田由香里 | 教諭   | 二本松工業高等学校  |
| 情報     | 橋本 英臣 | 教諭   | 安積高等学校     |
| 農業・水産  | 江川 篤  | 教諭   | 修明高等学校     |
|        | 村田 和丈 | 教諭   | 磐城農業高等学校   |
| 工業     | 酒井 政明 | 教諭   | 清陵情報高等学校   |
|        | 片山 龍  | 教諭   | 小高産業技術高等学校 |
| 商業     | 猪狩 晃一 | 教諭   | 福島商業高等学校   |
| 定通     | 岩波 定裕 | 教諭   | 白河第二高等学校   |
| 学校保健   | 天野 洋美 | 養護教諭 | 会津学鳳高等学校   |
|        | 延々 聡美 | 養護教諭 | 平工業高等学校    |

(26名)

## 10 教科用図書

### (1) 教科書採択事務説明会

令和3年度は実施せず。

## 11 教育研究団体

### (1) 福島県高等学校長協会

組織

令和3年度福島県高等学校長協会役員名簿

| 役職名  | 氏名        |
|------|-----------|
| 会長   | 加藤 知道（橘）  |
| 副会長  | 鈴木 芳人（安積） |
| 副会長  | 鈴木 義祐（会津） |
| 副会長  | 吉田 強栄（磐城） |
| 副会長  | 山崎 雅弘（原町） |
| 監査   | 遠藤 均（福西）  |
| 監査   | 高島 秀一（福南） |
| 事務局長 | 二瓶 晃一（福東） |

## 支部

| 支部  | 支部長       | 副支部長      |
|-----|-----------|-----------|
| 県北  | 加藤 知道（橘）  | 佐藤 弘樹（福島） |
|     |           | 橋本 淳一（視支） |
| 県南  | 鈴木 芳人（安積） | 湯田 重哉（黎明） |
|     |           | 白石 文夫（白河） |
| 会津  | 鈴木 義祐（会津） | 菊田 勇雄（葵）  |
|     |           | 遠藤 利晴（喜方） |
| いわき | 吉田 強栄（磐城） | 佐竹 正徳（桜丘） |
|     |           | 曾川 孝規（い支） |
| 相双  | 山崎 雅弘（原町） | 瓜生 康弘（相馬） |
|     |           | 柳沼 英樹（ふ未） |

## 理事会

|     | 氏名        |           |
|-----|-----------|-----------|
| 理事会 | 加藤 知道（橘）  | 菊田 勇雄（葵）  |
|     | 鈴木 芳人（安積） | 松浦 冬樹（福商） |
|     | 鈴木 義祐（会津） | 安田 修久（明成） |
|     | 吉田 強栄（磐城） | 鈴木 康隆（福工） |
|     | 山崎 雅弘（原町） | 矢森 健一（萌世） |
|     | 二瓶 晃一（福東） | 橋本 淳一（視支） |
|     |           | 尾形 幸男（田村） |

## 専門委員会（◎印 委員長 ○印 副委員長）

| 専門委員会   | 氏名         |            |
|---------|------------|------------|
| 管理運営委員会 | ◎高野 敦史（新地） | ○近東 昇（梁川）  |
|         | 高島 秀一（福南）  | 中村 康伸（南会）  |
|         | 森下陽一郎（須川）  | 渡邊 学（い総）   |
|         | 菊池 直之（白旭）  | 中野 茂（勿来）   |
|         | 阿部 学（大沼）   | 菅野美恵子（た支）  |
| 教育課題委員会 | ◎齋藤 文子（い光） | ○伊藤 勝宏（只見） |
|         | 安田 修久（明成）  | 軽部 英敏（川口）  |
|         | 高橋 幸市（福北）  | 杉山 裕恵（聴支）  |
|         | 鈴木 芳人（安積）  | 柳沼 哲（平支）   |
|         | 櫻井 克彦（石川）  | 赤坂 剛（富支）   |
|         | 佐々木理夫（小野）  |            |
| 生徒指導委員会 | ◎芳賀 菊博（勿工） | ○佐藤 文男（会農） |
|         | 佐藤 正道（松工）  | 金田洋一郎（小産）  |
|         | 酒井 祐治（湖南）  | 丹野 好恵（大支）  |
|         | 夏目利江子（長沼）  | 西村 則昌（あ支）  |
|         | 田畑 淳（塙工）   | 伊藤 俊幸（石支）  |
|         | 鈴木 義祐（会津）  | 加藤 香洋（会支）  |
|         | 渡部 朋史（猪代）  | 曾川 孝規（い支）  |
| 教育課程委員会 | ◎佐藤 秀雄（西会） | ○郡司 完（光南）  |
|         | 二瓶 晃一（福東）  | 金成 智子（四倉）  |
|         | 高橋 文彦（保原）  | 柳沼 英樹（ふ未）  |
|         | 渡邊 武彦（田島）  | 山崎 雅弘（原町）  |
|         | 松本 善法（小海）  | 阿部 和行（西支）  |

| 専門委員会                      | 氏 名           |             |
|----------------------------|---------------|-------------|
| 高 校<br>入 試<br>検 討<br>委 員 会 | ◎渡邊 正仁 (相東)   | ○箱崎 兼一 (遠野) |
|                            | 加藤 知道 (橋)     | 猪狩 良一 (船引)  |
|                            | 猪俣 豊 (安達)     | 山内 義美 (喜桐)  |
|                            | 齋藤 靖 (安東)     | 松尾 幸生 (坂下)  |
|                            | 黒川 佳子 (あ開)    | 和田 直也 (好間)  |
|                            | 尾形 幸男 (田村)    | 矢森 健一 (萌世)  |
| 大 学<br>入 試<br>対 策<br>委 員 会 | ◎遠藤 均 (福西)    | ○中野 隆幸 (郡東) |
|                            | 佐藤 弘樹 (福島)    | 味原 正美 (学鳳)  |
|                            | 湯田 重哉 (黎明)    | 遠藤 利晴 (喜方)  |
|                            | 阿部 秀樹 (郡山)    | 吉田 強栄 (磐城)  |
|                            | 橋本 忠広 (須桐)    | 佐竹 正徳 (桜丘)  |
|                            | 白石 文夫 (白河)    | 吉田 浩美 (湯本)  |
|                            | 菊田 勇雄 (葵)     | 瓜生 康弘 (相馬)  |
| 就 職<br>指 導<br>対 策<br>委 員 会 | ◎吉井 秀樹 (郡商)   | ○鈴木 稔 (郡北)  |
|                            | 松浦 冬樹 (福商)    | 安部 有志 (耶農)  |
|                            | 鈴木 康隆 (福工)    | 遠藤 敦也 (平工)  |
|                            | 半谷 佳之 (川俣)    | 吉成 広昭 (平商)  |
|                            | 小針 幸雄 (清陵)    | 伊東 光司 (相農)  |
|                            | 高橋 豊治 (岩農)    | 齋藤 裕昭 (い翠)  |
|                            | 佐藤 京治 (若商)    | 佐藤 清悦 (須支)  |
|                            | 高梨 哲夫 (会工)    |             |
| 人 権<br>教 育<br>委 員 会        | ◎齊藤 恵子 (郡支)   | ○五ノ井平吉 (磐農) |
|                            | 阿部 洋己 (本宮)    | 橋本 淳一 (視支)  |
|                            | 富樫 実 (白実)     | 本田 知史 (猪支)  |
|                            | 郷 清隆 (修明)     | 和知 学 (相支)   |
| 部会長                        |               |             |
| 部 会                        | 氏 名           |             |
| 普 通 部 会                    | 菊田 勇雄 (葵)     |             |
| 商 業 部 会                    | 松浦 冬樹 (福島商業)  |             |
| 農 業 部 会                    | 安田 修久 (福島明成)  |             |
| 工 業 部 会                    | 鈴木 康隆 (福島工業)  |             |
| 水 産 部 会                    | 松本 善法 (小名浜海星) |             |
| 家 庭 部 会                    | 齋藤 文子 (いわき光洋) |             |
| 定 通 部 会                    | 矢森 健一 (郡山萌世)  |             |
| 特別支援部会                     | 橋本 淳一 (視覚支援)  |             |
| 理 数 部 会                    | 橋本 忠広 (須賀川桐陽) |             |
| 英語国際部会                     | 高島 秀一 (福島南)   |             |
| 体 育 部 会                    | 尾形 幸男 (田村)    |             |
| 総合学科部会                     | 渡邊 正仁 (相馬東)   |             |
| 全国校長会                      |               |             |
| 部 会                        | 氏 名           |             |
| 理 事                        | 加藤 知道 (橋)     |             |
| 理 事                        | 吉田 強栄 (磐城)    |             |
| 理 事                        | 鈴木 義祐 (会津)    |             |

| 部 会  | 氏 名           |
|------|---------------|
| 管理運営 | 高野 敦史 (新地)    |
| 教育課題 | 齋藤 文子 (いわき光洋) |
| 生徒指導 | 芳賀 菊博 (勿来工業)  |
| 教育課程 | 佐藤 秀雄 (西会津)   |
| 大学入試 | 遠藤 均 (福島西)    |
| 就職対策 | 吉井 秀樹 (郡山商業)  |
| 人権教育 | 齊藤 恵子 (郡山支援)  |

## (2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(7) 本部

令和3年度福島県高等学校教育研究会

| 役職名 | 氏 名   | 所属校・職名    |
|-----|-------|-----------|
| 会 長 | 佐藤 弘樹 | 福島高等学校長   |
| 副会長 | 猪俣 豊  | 安達高等学校長   |
| 副会長 | 吉田 浩美 | 湯本高等学校長   |
| 監 査 | 高島 秀一 | 福島南高等学校長  |
| 監 査 | 安田 修久 | 福島明成高等学校長 |
| 委 員 | 小針 幸雄 | 清陵情報高等学校長 |
| 委 員 | 鈴木 康隆 | 福島工業高等学校長 |
| 委 員 | 松浦 冬樹 | 福島商業高等学校長 |
| 委 員 | 白石 文夫 | 白河第二高等学校長 |
| 委 員 | 菊池 直之 | 白河旭高等学校長  |
| 委 員 | 齋藤 靖  | 安達東高等学校長  |
| 委 員 | 和田 直也 | 好間高等学校長   |
| 委 員 | 湯田 重哉 | 安積黎明高等学校長 |
| 委 員 | 鈴木 芳人 | 安積高等学校長   |
| 幹 事 | 増子 文隆 | 福島高等学校教頭  |
| 幹 事 | 橋爪 清成 | 福島高等学校教頭  |

(イ) 部会

| 部会名  | 部会長氏名 | 所属校・職名    | 会員数 |
|------|-------|-----------|-----|
| 養護教諭 | 湯田 重哉 | 安積黎明高等学校長 | 145 |
| 保健体育 | 小針 幸雄 | 清陵情報高等学校長 | 441 |
| 理 科  | 猪俣 豊  | 安達高等学校長   | 372 |
| 音 楽  | 鈴木 芳人 | 安積高等学校長   | 90  |
| 農 業  | 安田 修久 | 福島明成高等学校  | 222 |
| 工 業  | 鈴木 康隆 | 福島工業高等学校長 | 389 |
| 商 業  | 松浦 冬樹 | 福島商業高等学校長 | 302 |
| 定 通  | 白石 文夫 | 白河第二高等学校長 | 152 |
| 英 語  | 菊池 直之 | 白河旭高等学校長  | 440 |
| 数 学  | 吉田 浩美 | 湯本高等学校長   | 450 |
| 家 庭  | 齋藤 靖  | 安達東高等学校長  | 124 |
| 美術工芸 | 和田 直也 | 好間高等学校長   | 90  |

○令和3年度予算 131,963 円



## 第4節 文化活動の振興

### 1 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

例年行われていた福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演については、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を見送ることとなった。

#### (1) 芸術文化活動発表機会の充実

ア 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。(補助対象事業費計：9,930千円、補助金額計：1,000千円)

(ア) 令和3年度福島県高等学校文化連盟

役員

| 役職名      | 氏名    | 職  | 所属校       |
|----------|-------|----|-----------|
| 会長       | 湯田 重哉 | 校長 | 安積黎明高等学校  |
| 副会長(私立)  | 森 涼   | 校長 | 学法石川高等学校  |
| 副会長(県北)  | 高島 秀一 | 校長 | 福島南高等学校   |
| 副会長(県南)  | 郡司 完  | 校長 | 光南高等学校    |
| 副会長(会津)  | 菊田 勇雄 | 校長 | 葵高等学校     |
| 副会長(いわき) | 芳賀 菊博 | 校長 | 勿来工業高等学校  |
| 副会長(相双)  | 柳沼 英樹 | 校長 | ふたば未来高等学校 |
| 理事長      | 三條 敦  | 教諭 | 安積黎明高等学校  |
| 事務局長     | 澤田 静香 | 教諭 | 安積黎明高等学校  |

| 役職名 | 氏名    | 職    | 所属校      |
|-----|-------|------|----------|
| 監事  | 吉井 秀樹 | 校長   | 郡山商業高等学校 |
| 監事  | 飯豊 利子 | 教諭   | 郡山高等学校   |
| 幹事  | 横山 裕理 | 教諭   | 勿来工業高等学校 |
| 幹事  | 根本 知樹 | 教諭   | 光南高等学校   |
| 幹事  | 難波 幸生 | 教諭   | 安積黎明高等学校 |
| 幹事  | 清野 志保 | 教諭   | 安積黎明高等学校 |
| 幹事  | 藤川 潤子 | 実習助手 | 安積黎明高等学校 |
| 顧問  | 平澤 洋介 | 課長   | 高校教育課    |

専門部会長・専門部委員長

| 専門部         | 部会長   | 職  | 所属校   | 部委員長  | 職  | 所属校   |
|-------------|-------|----|-------|-------|----|-------|
| 演劇          | 高島 秀一 | 校長 | 福島南   | 岡田 篤  | 教諭 | 福島東稜  |
| 高音連         | 鈴木 和明 | 教頭 | 安積御舘  | 大竹 隆  | 教諭 | 会津    |
| 合唱          | 湯田 重哉 | 校長 | 安積黎明  | 星 英一  | 教諭 | 安積黎明  |
| 吹奏楽         | 渡邊 正仁 | 校長 | 相馬東   | 今野 貴文 | 教諭 | 相馬東   |
| 器楽管弦楽       | 吉井 秀樹 | 校長 | 郡山商業  | 瓶子美穂子 | 教諭 | 郡山商業  |
| 日本音楽        | 渡邊 学  | 校長 | いわき総合 | 梅津知香子 | 教諭 | いわき総合 |
| 吟詠剣詩舞       | 唐木 義則 | 校長 | 昌平    | 大橋 未緒 | 教頭 | 昌平    |
| 郷土芸能        | 伊東 光司 | 校長 | 相馬農業  | 村田 和丈 | 教諭 | 磐城農業  |
| マーチングB・バトンT | 郡司 完  | 校長 | 光南    | 横田 日夏 | 教諭 | 光南    |
| 美術・工芸       | 和田 直也 | 校長 | 好間    | 眞柴 毅  | 教諭 | 福島東   |
| 書道          | 矢森 健一 | 校長 | 郡山萌世  | 小野 俊彦 | 教諭 | 郡山萌世  |
| 写真          | 湯田 重哉 | 校長 | 安積黎明  | 藤井 克憲 | 教諭 | 安積黎明  |
| 放送          | 阿部 秀樹 | 校長 | 郡山    | 中野 淳之 | 教諭 | 郡山    |
| 囲碁          | 加藤 知道 | 校長 | 橘     | 佐原 輝明 | 教諭 | 保原(定) |
| 将棋          | 佐藤 弘樹 | 校長 | 福島    | 渡辺 洋生 | 教諭 | 福島    |
| 弁論          | 鈴木 義祐 | 校長 | 会津    | 猪俣小百合 | 教諭 | 会津    |
| 小倉百人一首かるた   | 湯田 重哉 | 校長 | 安積黎明  | 益永 涼子 | 教諭 | 安積黎明  |
| 新聞          | 鈴木 稔  | 校長 | 郡山北工業 | 吉田 義仁 | 教諭 | 郡山北工業 |
| 文芸          | 橋本 忠広 | 校長 | 須賀川桐陽 | 宮内 忠志 | 教諭 | 磐城桜が丘 |
| 自然科学        | 猪俣 豊  | 校長 | 安達    | 西塔 佳正 | 教諭 | 湯本    |

| 専 門 部  | 部会長   | 職   | 所属校    | 部委員長  | 職   | 所属校    |
|--------|-------|-----|--------|-------|-----|--------|
| 農 業    | 五ノ井平吉 | 校 長 | 磐城農業   | 穂積慎一郎 | 教 諭 | 磐城農業   |
| 工 業    | 鈴木 稔  | 校 長 | 郡山北工業  | 石山 晶一 | 教 諭 | 郡山北工業  |
| 商 業    | 松浦 冬樹 | 校 長 | 福島商業   | 小林 利匡 | 教 諭 | 福島商業   |
| 家 庭    | 五ノ井平吉 | 校 長 | 磐城農業   | 阿部有紀子 | 教 諭 | 磐城農業   |
| 定 通    | 齋藤 裕昭 | 校 長 | いわき翠の杜 | 中野 育大 | 教 諭 | いわき翠の杜 |
| 特別支援学校 | 柳沼 哲  | 校 長 | 平支援    | 青木由紀子 | 教 諭 | 平支援    |
| J R C  | 遠藤 敦也 | 校 長 | 平工業    | 大木 健一 | 教 諭 | 平工業    |

イ 第 40 回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、令和3年6月から令和3年12月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第 45 回全国高等学校総合文化祭和歌山大会への参加

本県からは、14 部門に 122 名の生徒が参加した。

[参加部門]

日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド・バトントワリング、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学

エ 令和3年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(ア) 団体

| 専 門 部             | 大 会 名                                  | 成 績                                      | 学 校 名   |
|-------------------|----------------------------------------|------------------------------------------|---------|
| 新 聞               | 第 45 回全国高等学校総合文化祭（第 25 回全国高校新聞年間紙面審査賞） | 優秀賞                                      | 郡山北工業   |
| 商 業               | 第 68 回全国高等学校ビジネス計算競技大会                 | 電卓の部 団体 3 位                              | 郡 山 商 業 |
| 放 送               | 第 45 回全国高等学校総合文化祭 放送部門                 | ビデオメッセージ部門 優秀賞                           | 郡 山     |
| 合 唱               | 第 74 回全日本合唱コンクール全国大会                   | 文部科学大臣賞                                  | 郡 山     |
|                   | NHK 全国学校音楽コンクール                        | 金賞                                       | 郡 山     |
|                   | 第 74 回全日本合唱コンクール全国大会                   | 大分県知事賞（Bグループ）                            | 会 津     |
|                   | 第 74 回全日本合唱コンクール全国大会                   | 大分県知事賞（Aグループ）                            | 安 積 黎 明 |
| 吹奏楽               | 第 45 回アンサンブルコンテスト                      | 金賞                                       | 磐 城     |
|                   | 第 69 回全日本吹奏楽コンクール                      | 銅賞                                       | 磐 城     |
|                   | 第 69 回全日本吹奏楽コンクール                      | 銅賞                                       | 湯 本     |
| 文 芸               | 第 36 回全国高等学校文芸コンクール 文芸部詩部門             | 優秀賞                                      | 磐 城     |
| マーチングバンド・バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2021                  | KICK 部門 1 位<br>MILITARY 部門 3 位           | 郡 山     |
|                   | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2021                  | DRILL POM 部門 1 位<br>PROP 部門 1 位          | 郡 山 商 業 |
|                   | 第 13 回全国高等学校ダンスドリル冬季大会                 | KICK 部門 1 位<br>DRILL POM 部門 Large 編成 1 位 | 郡 山 商 業 |
|                   | 第 13 回全国高等学校ダンスドリル冬季大会                 | KICK 部門 2 位<br>DRILL POM 部門 Small 編成 3 位 | 学 法 石 川 |
| 美 術 ・ 工 芸         | 日学・黒板アート甲子園 2021                       | 優秀賞                                      | 会 津 学 鳳 |

## (イ) 個人

| 専 門 部                 | 大 会 名                                 | 成 績                            | 学 校 名   | 氏 名    |
|-----------------------|---------------------------------------|--------------------------------|---------|--------|
| 家 庭                   | 第 69 回全国高等学校家庭クラブ連盟研究<br>発表大会         | 文部科学大臣賞                        | 喜 多 方   | 石山 心南  |
| 放 送                   | 第 45 回全国高等学校総合文化祭<br>放送部門             | アナウンス部門<br>優秀賞                 | 磐 城     | 伊藤 向日葵 |
| 小倉百人一首かるた             | 第 45 回全国高等学校総合文化祭<br>小倉百人一首かるた部門 読手の部 | 読手コンクールの部<br>優秀賞               | 安 積 黎 明 | 高山 結衣  |
| マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2021                 | MISS DANCE DRILL TEAM<br>部門 3位 | 郡 山 商 業 | 川島 弥琴  |
| 将棋                    | 第 30 回全国高等学校文化連盟将棋新人大会                | 男子個人戦優勝                        | 喜 多 方   | 菊地 一輝  |
| 特別支援学校                | ワクワク!!デジタル作品コンテスト 2021                | 静止画部門特別賞                       | 平 支 援   | 中川 愛理  |
|                       | ワクワク!!デジタル作品コンテスト 2021                | 静止画部門最優秀賞                      | 平 支 援   | 根本 優佳  |
|                       | 第 28 回全国特別支援学校文化祭                     | りそなグループ賞                       | 須賀川支援   | 安藤 葵   |
|                       | 第 5 回 P H P 作文甲子園                     | 審査員特別賞                         | いわき支援   | 阿部 博仁  |

## オ 令和 3 年度福島県高等学校文化連盟表彰

## (ア) 優秀団体

| No. | 団 体 名         | 所属校名    | 専 門 部              | 全国大会での成績                                                                                                                 |
|-----|---------------|---------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 報道委員会         | 郡山北工業   | 新 聞                | 第 45 回全国高等学校総合文化祭 (第 25 回全国高校新聞年間紙面審査賞) 優秀賞                                                                              |
| 2   | 珠算部           | 郡 山 商 業 | 商 業                | 第 68 回全国高等学校ビジネス計算競技大会 電卓の部 団体 3 位                                                                                       |
| 3   | 放送部           | 郡 山     | 放 送                | 第 45 回全国高等学校総合文化祭 放送部門<br>ビデオメッセージ部門 優秀賞                                                                                 |
| 4   | 合唱部           | 郡 山     | 合 唱                | 第 74 回全日本合唱コンクール全国大会 文部科学大臣賞<br>NHK 全国学校音楽コンクール 金賞                                                                       |
| 5   | 合唱部           | 会 津     | 合 唱                | 第 74 回全日本合唱コンクール全国大会 大分県知事賞 (B グループ)                                                                                     |
| 6   | コーラス部         | 安 積 黎 明 | 合 唱                | 第 74 回全日本合唱コンクール全国大会 大分県知事賞 (A グループ)                                                                                     |
| 7   | 文学部           | 磐 城     | 文 芸                | 第 36 回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門 優秀賞                                                                                           |
| 8   | チアダンス部        | 郡 山     | マーチング・バト<br>ントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2021<br>KICK 部門 1 位、MILITARY 部門 3 位                                                                     |
| 9   | チアリーディング<br>部 | 郡 山 商 業 | マーチング・バト<br>ントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2021<br>DRILL POM 部門 1 位、PROP 部門 1 位<br>第 13 回全国高等学校ダンスドリル冬季大会<br>KICK 部門 1 位、DRILL POM 部門 Large 編成 1 位 |
| 10  | チアリーディング<br>部 | 学 法 石 川 | マーチング・バト<br>ントワリング | 第 13 回全国高等学校ダンスドリル冬季大会<br>KICK 部門 2 位、DRILL POM 部門 Small 編成 3 位                                                          |
| 11  | 吹奏楽部          | 磐 城     | 吹奏楽                | 第 45 回アンサンブルコンテスト 金賞                                                                                                     |
| 12  | 美術部           | 会 津 学 鳳 | 美術・工芸              | 日学・黒板アート甲子園 2021 優秀賞                                                                                                     |

## (イ) 優秀個人

| No. | 氏名     | 所属校名    | 専門部                   | 全国大会での成績                                              |
|-----|--------|---------|-----------------------|-------------------------------------------------------|
| 1   | 石山 心南  | 喜 多 方   | 家 庭                   | 第 69 回全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 文部科学大臣賞                     |
| 2   | 伊藤 向日葵 | 磐 城     | 放 送                   | 第 45 回全国高等学校総合文化祭 放送部門 アナウンス部門 優秀賞                    |
| 3   | 高山 結衣  | 安 積 黎 明 | 小倉百人一首<br>かるた         | 第 45 回全国高等学校総合文化祭 小倉百人一首かるた部門 読手の部<br>読手コンクールの部 優秀賞   |
| 4   | 川島 弥琴  | 郡 山 商 業 | マーチングバンド<br>・バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2021<br>MISS DANCE DRILL TEAM 部門 3 位 |
| 5   | 菊地 一輝  | 喜 多 方   | 将 棋                   | 第 30 回全国高等学校文化連盟将棋新人大会 男子個人戦優勝                        |
| 6   | 中川 愛理  | 平 支 援   | 特別支援学校                | ワクワク!!デジタル作品コンテスト 2021 静止画部門特別賞                       |
| 7   | 根本 優佳  | 平 支 援   | 特別支援学校                | ワクワク!!デジタル作品コンテスト 2021 静止画部門最優秀賞                      |
| 8   | 安藤 葵   | 須賀川支援   | 特別支援学校                | 第 28 回全国特別支援学校文化祭 りそなグループ賞                            |
| 9   | 阿部 博仁  | いわき支援   | 特別支援学校                | 第 5 回 P H P 作文甲子園 審査員特別賞                              |

## (ウ) 優秀指導者

| No. | 氏名    | 所属校名    | 専門部    | 全国大会での成績                                                                                                                                 |
|-----|-------|---------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 佐藤 朋子 | 郡 山     | 合 唱    | 全日本合唱コンクール 高等学校の部 (金賞受賞 H28) (銀賞受賞 H29) (金賞 文部科学大臣賞 H30) (金賞 文部科学大臣賞 R 元)<br>NHK 全国学校音楽コンクール (金賞 H30) (銀賞 R 元)                           |
| 2   | 北原 裕子 | 会 津     | 家 庭    | 令和 2 年度 第 68 回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 ホーム<br>プロジェクトの部 (文部科学大臣賞) 受賞生徒 鶴川 美涼 (耶麻<br>農業高校 家庭クラブ)                                                  |
| 3   | 引地 真澄 | 福 島 北   | 特別支援学校 | 平成 27 年度より勤務した福島県立大笹生支援学校において、知的障<br>がいのある生徒 (高等部生徒) を指導し、第 27 回全国特別支援学校<br>文化祭造形・美術部門において全国特別支援学校文化連盟会長賞受賞<br>に導いた。受賞生徒 新田 悠夜 (大笹生支援学校) |
| 4   | 上田 彩  | 会 津 学 鳳 | 書 道    | 令和 2 年度 第 44 回全国高等学校総合文化祭高知大会書道部門におい<br>て、全国 3 位相当となる (読売新聞社賞・奨励賞) 受賞へと導いた。<br>受賞生徒 湯田 真生 (会津学鳳高校 書道部)                                   |

# 第7章 特別支援教育

## 第1節 概要

県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。本答申を具体的な施策に反映させるため、第6次福島県総合教育計画（改訂版）においては、「地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」、「特別支援学校の在り方の検討（再掲）」の6項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

また、「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、高等部設置県立特別支援学校全校による特別支援学校作業技能大会を開催した。日々の学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の自立や社会参加につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「特別支援学校における就労推進支援事業」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

「未来へつなぐ子育て・教育充実事業」では、市町村教育委員会と連携協力の下、医療、福祉、保健、労働との関係機関と連携を図りながら、県内全ての特別な支援を必要とする幼児児童生徒が地域において一貫した支援を受けることができる相談支援体制の整備を進めた。特別支援教育に係る教員に対する研修の充実と専門性の向上を図るとともに、特別支援学校の地域支援センターを中心に、センター的機能による、幼稚園、小・中・高等学校への相談支援や研修支援を充実させ、地域における支援の充実を図った。さらに、教育事務所を中心として特別支援教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を果たすとともに、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じ、支援体制整備に向けた取組を行った。

「特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を開催し、本県における医療的ケアの在り方について協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（13校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

## 第2節 学校管理

### 1 児童生徒数と教職員定数

#### (1) 児童生徒数の推移

| 種別              | 部/年度 | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 小学部  | 6     | 6     | 4     | 3     | 5     | 5     | 3     | 1     | 3     | 5     |
|                 | 中学部  | 7     | 8     | 6     | 5     | 3     | 4     | 5     | 8     | 7     | 6     |
|                 | 高等部  | 35    | 30    | 25    | 24    | 22    | 19    | 17    | 12    | 14    | 17    |
|                 | 計    | 48    | 44    | 35    | 32    | 30    | 28    | 25    | 21    | 24    | 28    |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 幼稚部  | 16    | 11    | 17    | 12    | 10    | 14    | 17    | 17    | 18    | 19    |
|                 | 小学部  | 46    | 54    | 45    | 44    | 44    | 38    | 32    | 23    | 34    | 32    |
|                 | 中学部  | 17    | 18    | 22    | 25    | 26    | 28    | 26    | 29    | 20    | 18    |
|                 | 高等部  | 29    | 24    | 24    | 22    | 23    | 28    | 28    | 28    | 29    | 30    |
| 計               | 108  | 107   | 108   | 103   | 103   | 108   | 103   | 97    | 101   | 99    |       |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 小学部  | 504   | 501   | 517   | 529   | 543   | 551   | 600   | 623   | 632   | 664   |
|                 | 中学部  | 334   | 362   | 373   | 371   | 370   | 376   | 384   | 389   | 389   | 398   |
|                 | 高等部  | 824   | 757   | 749   | 751   | 803   | 819   | 812   | 820   | 821   | 811   |
|                 | 計    | 1,662 | 1,620 | 1,639 | 1,651 | 1,716 | 1,746 | 1,796 | 1,832 | 1,842 | 1,873 |

| 種別              | 部/年度 | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 小学部  | 124   | 128   | 142   | 139   | 136   | 130   | 126   | 127   | 113   | 103   |
|                 | 中学部  | 71    | 68    | 69    | 70    | 66    | 71    | 70    | 71    | 78    | 84    |
|                 | 高等部  | 75    | 76    | 72    | 79    | 82    | 82    | 73    | 62    | 67    | 69    |
|                 | 計    | 270   | 272   | 283   | 288   | 284   | 283   | 269   | 260   | 258   | 256   |
| 病弱<br>特別支援学校    | 小学部  | 34    | 29    | 35    | 27    | 33    | 30    | 29    | 26    | 26    | 32    |
|                 | 中学部  | 38    | 36    | 25    | 32    | 23    | 40    | 35    | 42    | 31    | 31    |
|                 | 高等部  | 46    | 40    | 32    | 37    | 35    | 36    | 46    | 52    | 57    | 47    |
|                 | 計    | 118   | 105   | 92    | 96    | 91    | 106   | 110   | 120   | 114   | 110   |
| 合 計             |      | 2,206 | 2,148 | 2,157 | 2,170 | 2,224 | 2,271 | 2,303 | 2,330 | 2,339 | 2,366 |

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

## (2) 令和3年度児童生徒数

(R3.5.1 学校基本調査、訪問学級を含む)

| 種別              | 性別 | 部・学年 | 幼稚園部 | 小学部 |     |     |     |     | 中学部 |     |     |     | 高等部 |     |     |     |     | 総計  |   |    |       |
|-----------------|----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|----|-------|
|                 |    |      |      | 本科  |     |     |     |     | 専攻科 | 合計  |     |     |     |     |     |     |     |     |   |    |       |
|                 |    |      |      | 1   | 2   | 3   | 4   | 5   |     |     | 6   | 計   | 1   | 2   | 3   | 計   | 1   |     | 2 | 3  | 計     |
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 男  |      |      | 2   | 2   | 0   | 0   | 0   | 1   | 5   | 1   | 0   | 2   | 3   | 3   | 1   | 0   | 4   | 6 | 10 | 18    |
|                 | 女  |      |      | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   | 0   | 2   | 3   | 2   | 1   | 1   | 4   | 3 | 7  | 10    |
|                 | 計  |      |      | 2   | 2   | 0   | 0   | 0   | 1   | 5   | 2   | 0   | 4   | 6   | 5   | 2   | 1   | 8   | 9 | 17 | 28    |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 男  | 9    |      | 4   | 4   | 5   | 1   | 1   | 4   | 19  | 4   | 2   | 5   | 11  | 4   | 10  | 3   | 17  |   |    | 56    |
|                 | 女  | 10   |      | 0   | 5   | 0   | 0   | 5   | 3   | 13  | 2   | 1   | 4   | 7   | 7   | 4   | 2   | 13  |   |    | 43    |
|                 | 計  | 19   |      | 4   | 9   | 5   | 1   | 6   | 7   | 32  | 6   | 3   | 9   | 18  | 11  | 14  | 5   | 30  |   |    | 99    |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 男  |      |      | 80  | 85  | 77  | 86  | 74  | 73  | 475 | 92  | 87  | 78  | 257 | 182 | 185 | 185 | 552 |   |    | 1,284 |
|                 | 女  |      |      | 41  | 18  | 38  | 32  | 29  | 31  | 189 | 36  | 49  | 56  | 141 | 87  | 87  | 85  | 259 |   |    | 589   |
|                 | 計  |      |      | 121 | 103 | 115 | 118 | 103 | 104 | 664 | 128 | 136 | 134 | 398 | 269 | 272 | 270 | 811 |   |    | 1,873 |
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 男  |      |      | 8   | 12  | 9   | 9   | 8   | 11  | 57  | 16  | 19  | 10  | 45  | 11  | 14  | 12  | 37  |   |    | 139   |
|                 | 女  |      |      | 6   | 6   | 11  | 7   | 8   | 8   | 46  | 11  | 14  | 14  | 39  | 13  | 11  | 8   | 32  |   |    | 117   |
|                 | 計  |      |      | 14  | 18  | 20  | 16  | 16  | 19  | 103 | 27  | 33  | 24  | 84  | 24  | 25  | 20  | 69  |   |    | 256   |
| 病弱<br>特別支援学校    | 男  |      |      | 1   | 4   | 5   | 2   | 5   | 4   | 21  | 7   | 5   | 6   | 18  | 13  | 11  | 9   | 33  |   |    | 72    |
|                 | 女  |      |      | 2   | 1   | 1   | 3   | 2   | 2   | 11  | 3   | 5   | 5   | 13  | 4   | 7   | 3   | 14  |   |    | 38    |
|                 | 計  |      |      | 3   | 5   | 6   | 5   | 7   | 6   | 32  | 10  | 10  | 11  | 31  | 17  | 18  | 12  | 47  |   |    | 110   |

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

## (3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

| 種別 | 年度    | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 特別支援学校 |     |     |       |       |       |       |       |       |       |
|----|-------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|    |       | 24            | 25  | 26  | 27  | 28  | 29  | 30  | 元   | 2   | 3   | 24     | 25  | 26  | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     |
| 教員 | 校長    | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 12     | 12  | 12  | 12    | 12    | 13    | 13    | 13    | 13    | 13    |
|    | 教頭・教諭 | 117           | 119 | 115 | 131 | 129 | 133 | 131 | 124 | 126 | 127 | 965    | 963 | 967 | 1,145 | 1,157 | 1,209 | 1,242 | 1,250 | 1,250 | 1,252 |
|    | 養護教諭  | 4             | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 24     | 24  | 23  | 24    | 24    | 26    | 26    | 26    | 27    | 27    |
|    | 兼任主事  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |     |     |       |       |       |       |       |       |       |
|    | 補充教員  | 10            | 11  | 16  | 14  | 8   | 13  | 12  | 10  | 15  | 6   | 162    | 159 | 160 | 160   | 150   | 170   | 189   | 173   | 154   | 133   |

| 種別<br>年度 | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       | 特別支援学校 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          | 24            | 25  | 26  | 27  | 28  | 29  | 30  | 元   | 2   | 3   | 24    | 25     | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     |       |
| 教員       | 講師            |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 寄宿舎指導員        | 26  | 25  | 25  | 25  | 27  | 28  | 28  | 28  | 28  | 29    | 33     | 33    | 32    | 34    | 32    | 31    | 30    | 28    | 27    | 27    |
|          | 実習助手          | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8     | 24     | 24    | 24    | 24    | 25    | 27    | 27    | 27    | 27    | 27    |
|          | 計             | 167 | 169 | 170 | 184 | 178 | 188 | 185 | 176 | 183 | 176   | 1,220  | 1,215 | 1,218 | 1,399 | 1,400 | 1,476 | 1,527 | 1,517 | 1,498 | 1,479 |
| 事務職員     | 11            | 12  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 49    | 53     | 51    | 50    | 51    | 53    | 53    | 54    | 53    | 53    |       |
| その他の職員   | 技能労務員         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 学校司書          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 用務員           | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2     | 6      | 6     | 6     | 6     | 7     | 6     | 6     | 5     | 5     | 4     |
|          | ボイラー技師        | 2   | 2   | 2   | 2   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1     | 2      | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     |
|          | 栄養職員          | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2     | 9      | 8     | 9     | 9     | 9     | 10    | 10    | 10    | 10    | 10    |
|          | 調理給食員         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 技能訓練士         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | マッサージ師        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 運転手           |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 計             | 6   | 6   | 6   | 6   | 5   | 5   | 5   | 5   | 5   | 5     | 17     | 15    | 16    | 16    | 17    | 17    | 17    | 16    | 16    | 15    |
| 合計       | 184           | 187 | 187 | 201 | 194 | 204 | 201 | 192 | 199 | 192 | 1,286 | 1,283  | 1,285 | 1,465 | 1,468 | 1,546 | 1,597 | 1,587 | 1,567 | 1,547 |       |

| 種別<br>年度 | 計      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          | 24     | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     |       |
| 教員       | 校長     | 14    | 14    | 14    | 14    | 14    | 15    | 15    | 15    | 15    | 15    |
|          | 教頭・教諭  | 1,082 | 1,082 | 1,082 | 1,276 | 1,286 | 1,342 | 1,373 | 1,374 | 1,376 | 1,379 |
|          | 養護教諭   | 28    | 28    | 27    | 28    | 28    | 30    | 30    | 30    | 31    | 31    |
|          | 兼任主事   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 補充教員   | 172   | 170   | 176   | 174   | 158   | 183   | 201   | 183   | 169   | 139   |
|          | 講師     |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 寄宿舎指導員 | 59    | 58    | 57    | 59    | 59    | 59    | 58    | 56    | 55    | 56    |
|          | 実習助手   | 32    | 32    | 32    | 32    | 33    | 35    | 35    | 35    | 35    | 35    |
| 計        | 1,387  | 1,384 | 1,388 | 1,583 | 1,578 | 1,664 | 1,712 | 1,693 | 1,681 | 1,655 |       |
| 事務職員     | 60     | 65    | 62    | 61    | 62    | 64    | 64    | 65    | 64    | 64    |       |
| その他の職員   | 技能労務員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 学校司書   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 用務員    | 8     | 8     | 8     | 8     | 9     | 8     | 8     | 7     | 7     | 6     |
|          | ボイラー技師 | 4     | 3     | 3     | 3     | 2     | 2     | 2     | 2     | 2     | 2     |
|          | 栄養職員   | 11    | 10    | 11    | 11    | 11    | 12    | 12    | 12    | 12    | 12    |
|          | 調理給食員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 技能訓練士  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | マッサージ師 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 運転手    | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 計        | 24     | 21    | 22    | 22    | 22    | 22    | 22    | 21    | 21    | 20    |       |
| 合計       | 1,471  | 1,470 | 1,472 | 1,666 | 1,662 | 1,750 | 1,798 | 1,779 | 1,766 | 1,739 |       |

## 2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

### (1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

| 障がい種別 | 種別<br>校名      | 幼稚部 |     | 小学部 |     | 中学部 |     | 高等部 |     |     |     | 計   |       |
|-------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
|       |               | 学級数 | 幼児数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 生徒数 | 本科  |     | 専攻科 |     | 学級数 | 児童生徒数 |
|       |               |     |     |     |     |     |     | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 |     |       |
| 視覚    | 県立視覚支援学校      |     |     | 3   | 5   | 3   | 6   | 6   | 8   | 3   | 9   | 15  | 28    |
|       | 小計            |     |     | 3   | 5   | 3   | 6   | 6   | 8   | 3   | 9   | 15  | 28    |
| 聴覚    | 県立聴覚支援学校      | 3   | 9   | 6   | 13  | 5   | 18  | 12  | 30  |     |     | 26  | 70    |
|       | 県立聴覚支援学校福島校   | 2   | 5   | 5   | 8   |     |     |     |     |     |     | 7   | 13    |
|       | 県立聴覚支援学校会津校   | 1   | 1   | 3   | 5   |     |     |     |     |     |     | 4   | 6     |
|       | 県立聴覚支援学校平校    | 1   | 4   | 5   | 6   |     |     |     |     |     |     | 6   | 10    |
|       | 小計            | 7   | 19  | 19  | 32  | 5   | 18  | 12  | 30  |     |     | 43  | 99    |
| 知的障がい | 県立大笹生支援学校     |     |     | 31  | 94  | 19  | 66  | 22  | 112 |     |     | 72  | 272   |
|       | 県立あぶくま支援学校    |     |     | 30  | 87  | 16  | 62  | 32  | 175 |     |     | 78  | 324   |
|       | 県立西郷支援学校      |     |     | 18  | 49  | 12  | 36  | 12  | 50  |     |     | 42  | 135   |
|       | 県立石川支援学校      |     |     | 13  | 38  | 4   | 15  | 14  | 70  |     |     | 31  | 123   |
|       | 県立石川支援学校たまかわ校 |     |     | 17  | 43  | 7   | 24  |     |     |     |     | 24  | 67    |
|       | 県立たむら支援学校     |     |     | 14  | 38  | 6   | 19  | 9   | 39  |     |     | 29  | 96    |
|       | 県立会津支援学校      |     |     | 29  | 83  | 14  | 49  | 21  | 88  |     |     | 64  | 220   |
|       | 県立猪苗代支援学校     |     |     | 5   | 11  | 3   | 13  | 5   | 21  |     |     | 13  | 45    |
|       | 県立いわき支援学校     |     |     | 28  | 84  | 14  | 49  | 16  | 86  |     |     | 58  | 219   |
|       | 県立いわき支援学校くぼた校 |     |     |     |     |     |     | 6   | 29  |     |     | 6   | 29    |
|       | 県立富岡支援学校      |     |     | 9   | 32  | 3   | 9   | 5   | 17  |     |     | 17  | 58    |
|       | 県立相馬支援学校      |     |     | 10  | 32  | 5   | 24  | 9   | 51  |     |     | 24  | 107   |
|       | 福島市立ふくしま支援学校  |     |     | 13  | 57  | 4   | 14  | 10  | 53  |     |     | 27  | 124   |
|       | 小計            |     |     | 217 | 648 | 107 | 380 | 161 | 791 |     |     | 485 | 1,819 |
| 肢体不自由 | 県立郡山支援学校      |     |     | 24  | 65  | 19  | 61  | 17  | 46  |     |     | 60  | 172   |
|       | 県立平支援学校       |     |     | 16  | 38  | 11  | 23  | 12  | 23  |     |     | 39  | 84    |
|       | 小計            |     |     | 40  | 103 | 30  | 84  | 29  | 69  |     |     | 99  | 256   |
| 病弱    | 県立須賀川支援学校     |     |     | 9   | 17  | 5   | 14  | 16  | 47  |     |     | 30  | 78    |
|       | 県立須賀川支援学校医大校  |     |     | 3   | 12  | 3   | 5   |     |     |     |     | 6   | 17    |
|       | 県立須賀川支援学校郡山校  |     |     | 3   | 2   | 5   | 10  |     |     |     |     | 8   | 12    |
|       | 県立会津支援学校竹田校   |     |     | 1   | 1   | 2   | 2   |     |     |     |     | 3   | 3     |
|       | 小計            |     |     | 16  | 32  | 15  | 31  | 16  | 47  |     |     | 47  | 110   |
| 合計    |               | 7   | 19  | 295 | 820 | 160 | 519 | 224 | 945 | 3   | 9   | 689 | 2,312 |



(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

| 管内  | 学校別   |    | 小学校 |      |    |             |           |      |            | 中学校 |    |     |    |             |           |     | 計    |            |
|-----|-------|----|-----|------|----|-------------|-----------|------|------------|-----|----|-----|----|-------------|-----------|-----|------|------------|
|     | 種別    | 内容 | 弱視  | 難聴   | 知的 | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語   | 自閉症・<br>情緒 | 小計  | 弱視 | 難聴  | 知的 | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語  |      | 自閉症・<br>情緒 |
| 県北  | 学校数   | 0  | 1   | 63   | 1  | 1           | 0         | 55   | 121        | 0   | 0  | 32  | 2  | 1           | 0         | 30  | 65   | 186        |
|     | 学級数   | 0  | 1   | 82   | 1  | 1           | 0         | 78   | 163        | 0   | 0  | 39  | 2  | 1           | 0         | 40  | 82   | 245        |
|     | 児童生徒数 | 0  | 1   | 400  | 2  | 5           | 0         | 417  | 825        | 0   | 0  | 198 | 2  | 1           | 0         | 193 | 394  | 1219       |
| 県中  | 学校数   | 0  | 1   | 77   | 0  | 0           | 0         | 64   | 142        | 0   | 1  | 40  | 0  | 0           | 0         | 32  | 73   | 215        |
|     | 学級数   | 0  | 1   | 106  | 0  | 0           | 0         | 90   | 197        | 0   | 1  | 44  | 0  | 0           | 0         | 41  | 86   | 283        |
|     | 児童生徒数 | 0  | 1   | 524  | 0  | 0           | 0         | 464  | 989        | 0   | 1  | 204 | 0  | 0           | 0         | 205 | 410  | 1399       |
| 県南  | 学校数   | 2  | 3   | 30   | 0  | 2           | 0         | 19   | 56         | 0   | 1  | 14  | 0  | 0           | 0         | 11  | 26   | 82         |
|     | 学級数   | 2  | 3   | 36   | 0  | 2           | 0         | 22   | 65         | 0   | 1  | 15  | 0  | 0           | 0         | 12  | 28   | 93         |
|     | 児童生徒数 | 2  | 3   | 164  | 0  | 2           | 0         | 115  | 286        | 0   | 1  | 55  | 0  | 0           | 0         | 45  | 101  | 387        |
| 会津  | 学校数   | 0  | 0   | 38   | 2  | 2           | 0         | 32   | 74         | 0   | 0  | 20  | 0  | 0           | 0         | 14  | 34   | 108        |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 44   | 2  | 2           | 0         | 36   | 84         | 0   | 0  | 22  | 0  | 0           | 0         | 14  | 36   | 120        |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 212  | 2  | 2           | 0         | 148  | 364        | 0   | 0  | 82  | 0  | 0           | 0         | 44  | 126  | 490        |
| 南会津 | 学校数   | 1  | 0   | 7    | 1  | 0           | 0         | 6    | 15         | 0   | 0  | 3   | 0  | 0           | 0         | 2   | 5    | 20         |
|     | 学級数   | 1  | 0   | 7    | 1  | 0           | 0         | 7    | 16         | 0   | 0  | 3   | 0  | 0           | 0         | 2   | 5    | 21         |
|     | 児童生徒数 | 1  | 0   | 11   | 1  | 0           | 0         | 33   | 46         | 0   | 0  | 7   | 0  | 0           | 0         | 6   | 13   | 59         |
| 相双  | 学校数   | 0  | 1   | 26   | 0  | 0           | 0         | 19   | 46         | 0   | 1  | 13  | 0  | 0           | 0         | 10  | 24   | 70         |
|     | 学級数   | 0  | 1   | 30   | 0  | 0           | 0         | 20   | 51         | 0   | 1  | 13  | 0  | 0           | 0         | 10  | 24   | 75         |
|     | 児童生徒数 | 0  | 1   | 130  | 0  | 0           | 0         | 72   | 203        | 0   | 1  | 45  | 0  | 0           | 0         | 24  | 70   | 273        |
| いわき | 学校数   | 1  | 1   | 44   | 1  | 1           | 0         | 34   | 82         | 0   | 1  | 22  | 0  | 0           | 0         | 16  | 39   | 121        |
|     | 学級数   | 1  | 1   | 60   | 1  | 1           | 0         | 45   | 109        | 0   | 1  | 27  | 0  | 0           | 0         | 17  | 45   | 154        |
|     | 児童生徒数 | 1  | 2   | 340  | 1  | 3           | 0         | 248  | 595        | 0   | 1  | 138 | 0  | 0           | 0         | 82  | 221  | 816        |
| 計   | 学校数   | 4  | 7   | 285  | 5  | 6           | 0         | 229  | 536        | 0   | 4  | 144 | 2  | 1           | 0         | 115 | 266  | 802        |
|     | 学級数   | 4  | 7   | 365  | 5  | 6           | 0         | 298  | 685        | 0   | 4  | 163 | 2  | 1           | 0         | 136 | 306  | 991        |
|     | 児童生徒数 | 4  | 8   | 1781 | 6  | 12          | 0         | 1497 | 3308       | 0   | 4  | 729 | 2  | 1           | 0         | 599 | 1335 | 4643       |

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）※巡回型については、本務校1（学校数1、学級数1）で計上

| 管内  | 学校別   |    | 小学校 |     |           |     |           |     |      | 中学校 |    |    |           |     |           |     | 計   |      |
|-----|-------|----|-----|-----|-----------|-----|-----------|-----|------|-----|----|----|-----------|-----|-----------|-----|-----|------|
|     | 種別    | 内容 | 弱視  | 難聴  | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | LD  | ADHD | 小計  | 弱視 | 難聴 | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | LD  |     | ADHD |
| 県北  | 学校数   | 0  | 0   | 4   | 3         | 1   | 4         | 5   | 17   | 0   | 0  | 0  | 1         | 0   | 1         | 2   | 4   | 21   |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 10  | 7         | 1   | 8         | 6   | 32   | 0   | 0  | 0  | 2         | 0   | 1         | 3   | 6   | 38   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 156 | 107       | 18  | 113       | 109 | 503  | 0   | 0  | 0  | 27        | 0   | 13        | 44  | 84  | 587  |
| 県中  | 学校数   | 0  | 1   | 2   | 7         | 1   | 0         | 8   | 19   | 0   | 0  | 1  | 1         | 0   | 0         | 2   | 4   | 23   |
|     | 学級数   | 0  | 1   | 4   | 7         | 1   | 0         | 8   | 21   | 0   | 0  | 1  | 1         | 0   | 0         | 2   | 4   | 25   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 9   | 54  | 107       | 26  | 0         | 139 | 335  | 0   | 0  | 9  | 11        | 0   | 0         | 29  | 49  | 384  |
| 県南  | 学校数   | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 3   | 3    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0   | 3    |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 3   | 3    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0   | 3    |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 26  | 26   | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0   | 26   |
| 会津  | 学校数   | 0  | 0   | 1   | 1         | 0   | 3         | 2   | 7    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 1         | 2   | 3   | 10   |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 1   | 1         | 0   | 4         | 3   | 9    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 1         | 2   | 3   | 12   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 9   | 6         | 0   | 40        | 43  | 98   | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 13        | 22  | 35  | 133  |
| 南会津 | 学校数   | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 4   | 4    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0   | 4    |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 4   | 4    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0   | 4    |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 64  | 64   | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0   | 64   |
| 相双  | 学校数   | 0  | 0   | 2   | 0         | 1   | 0         | 3   | 6    | 0   | 0  | 0  | 0         | 1   | 0         | 1   | 2   | 8    |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 6   | 0         | 1   | 0         | 4   | 11   | 0   | 0  | 0  | 0         | 1   | 0         | 1   | 2   | 13   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 101 | 0         | 19  | 0         | 76  | 196  | 0   | 0  | 0  | 0         | 6   | 0         | 6   | 12  | 208  |
| いわき | 学校数   | 0  | 0   | 2   | 1         | 1   | 1         | 2   | 7    | 0   | 0  | 0  | 1         | 0   | 0         | 0   | 1   | 8    |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 5   | 1         | 1   | 1         | 2   | 10   | 0   | 0  | 0  | 1         | 0   | 0         | 0   | 1   | 11   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 66  | 17        | 10  | 13        | 30  | 136  | 0   | 0  | 0  | 11        | 0   | 0         | 0   | 11  | 147  |
| 計   | 学校数   | 0  | 1   | 11  | 12        | 4   | 8         | 27  | 63   | 0   | 0  | 1  | 3         | 1   | 2         | 7   | 14  | 77   |
|     | 学級数   | 0  | 1   | 26  | 16        | 4   | 13        | 30  | 90   | 0   | 0  | 1  | 4         | 1   | 2         | 8   | 16  | 106  |
|     | 児童生徒数 | 0  | 9   | 386 | 237       | 73  | 166       | 487 | 1358 | 0   | 0  | 9  | 49        | 6   | 26        | 101 | 191 | 1549 |

**(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数**

| 年 度       | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元  | 2  | 3  |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 対象児童生徒数   | 89 | 69 | 90 | 80 | 69 | 58 | 55 | 54 | 49 | 50 | 43 | 42 | 39 | 43 | 38 | 33 | 34 | 36 | 36 | 32 | 30 | 29 | 29 | 31 |
| 担 当 教 員 数 | 41 | 36 | 45 | 36 | 41 | 33 | 33 | 35 | 27 | 27 | 27 | 27 | 30 | 29 | 24 | 19 | 27 | 32 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 20 |

**(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移**

| 年 度     | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元 | 2 | 3 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|
| 猶 予 者 数 | 0  | 0  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 0 | 0 |
| 免 除 者 数 | 3  | 3  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 0 | 0 |

**3 教職員人事・任用**

**(1) 人事異動の概要**

令和3年度の県立特別支援学校教職員の定数（補充教員は含まない）は、前年比3人増の1,600人となった。このうち、教諭等は、前年比3人増の1,379人である。

**ア 新採用について**

令和4年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、令和3年度に比べ、前年比55人減の184人（小中学校教員採用試験との併願者を含む）であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は54人であり、54人が教諭として採用された。

**イ 交流について**

令和3年度人事異動は、例年通り4月1日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め199人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は25人で、高等学校との交流（転入）は10人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

**(2) 令和3年度県立特別支援学校教員異動・交流基準**

**ア 一般基準**

(ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡を図るように努める。

(イ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。

(ウ) 2親等以内の者（姻族を含む）は、原則として、同一校勤務を避ける。

(エ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

**イ 異動基準**

**(ア) 勤続年数による基準**

次に該当する者は、異動の対象とする。

○ 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

○ 平成21年度以降採用の者で異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）

○ 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

**(イ) 地域による基準**

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表1のとおり中通り、会津、浜通りの3地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度までは旧基準（別表2）を準用し、15年以内に2地区及び2障がい以上の学校に勤務した者は、この規定を満たす者とみなす。

**オ 交流**

特別支援学校、小学校、中学校及び高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校、市町村公立小・中学校及び県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については、原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として3年から8年とする。

**別表1 県立特別支援学校地域別学校分類表**

| 地域          | 地 区 | 学 校                         |                        |
|-------------|-----|-----------------------------|------------------------|
| 中<br>通<br>り | 県 北 | 視覚支援<br>大笹生支援               | 聴覚支援（福島）<br>須賀川支援（医大）  |
|             | 県 中 | 聴覚支援<br>あぶくま支援<br>須賀川支援（郡山） | 郡山支援<br>須賀川支援<br>たむら支援 |
|             | 県 南 | 西郷支援<br>石川支援（たまかわ）          | 石川支援                   |
| 会<br>津      | 会 津 | 聴覚支援（会津）<br>会津支援（竹田）        | 会津支援<br>猪苗代支援          |
| 浜<br>通<br>り | いわき | 聴覚支援（平）<br>いわき支援            | 平支援<br>いわき支援（くぼた）      |
|             | 相 双 | 富岡支援                        | 相馬支援                   |

別表2 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校分類表

| 群分類 | I 群                                           | II 群           |                |                |                    |
|-----|-----------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|--------------------|
| 障がい | 知的障がい教育を主とする学校                                | 視覚障がい教育を主とする学校 | 聴覚障がい教育を主とする学校 | 肢体不自由教育を主とする学校 | 病弱教育を主とする学校        |
| 地区  |                                               |                |                |                |                    |
| 県北  | 大笹生支援                                         | 視覚支援           | 聴覚支援(福島)       |                | 須賀川支援(医大)          |
| 県南  | あぶくま支援<br>石川支援<br>石川支援(たまかわ)<br>たむら支援<br>西郷支援 |                | 聴覚支援           | 郡山支援           | 須賀川支援<br>須賀川支援(郡山) |
| 会津  | 会津支援<br>猪苗代支援                                 |                | 聴覚支援(会津)       |                | 会津支援(竹田)           |
| いわき | いわき支援<br>いわき支援(くぼた)                           |                | 聴覚支援(平)        | 平支援            |                    |
| 相双  | 富岡支援<br>相馬支援                                  |                |                |                |                    |

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみ経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではない。

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

学校教育審議会答申(平成21年9月)の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第6次総合教育計画(改訂版)で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第6次総合教育計画(改訂版)では、次の基本的な方針のもとに、大きく6つの具体的な取組を示し、その充実に努めた。

#### ○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、福祉、保健、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

#### ○ 具体的な取組

- ・ 地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進
- ・ 小・中学校における特別支援教育の充実
- ・ 高等学校における特別支援教育の充実
- ・ 特別支援学校におけるセンター的機能の充実
- ・ 教員の特別支援教育に関する指導力の向上
- ・ 特別支援学校の在り方の検討(再掲)

#### (2) 指導組織

課長、主幹兼副課長1名、主幹1名、主任管理主事1名、管理主事4名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

#### (3) 学校教育指導の重点

特別支援学校においては、特に以下の点に重点をおいて指導に努めた。

##### ① 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実

児童生徒一人一人の実態と教育的ニーズの的確な把握に努め、家庭や医療、福祉、労働等の関係機関と連携した「個別の教育支援計画」の作成と活用について、教育支援協議会(書面開催)や体制促進協議会等の各種会議で周知に努めた。

② 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善  
学習指導要領を踏まえた各教科等の指導を通して、資質・能力の3つの柱の育成がバランスよく実現できるように、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を取り入れた授業の実施や改善を行った。

③ 言語環境の整備と言語活動の充実  
移動図書館車での巡回貸し出しや幼児児童生徒に本に親しむ機会を設け、読書の楽しみを感じてもらう活動を実施した。また高等部生徒を中心に各種弁論大会等への参加など、教科学習と関連づけながら言語活動の充実に取り組んだ。

④ 自立活動の充実  
児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うために、個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、自立活動の内容項目を踏まえた指導目標と指導内容を設定して「個別の指導計画」を作成している。個々の課題や指導目標を担当者間で共有し、計画的・組織的な自立活動の指導を行った。

⑤ 職業教育の充実  
「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、全ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。また、「特別支援学校における就労推進事業」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者による進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携した支援体制の構築を図った。

⑥ 生徒指導の充実  
幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、家庭や関係機関との連携に努めた。また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を8月と11月に開催し、本県の生徒事故の現状や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努めた。

⑦ 交流及び共同学習の推進  
近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流を通し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重する心を育むことに努めた。

⑧ 特別支援学校のセンター的機能の発揮  
各地区の特別支援学校地域支援センターのセンター的機能を活かし、県内14箇所で開催し、適切な支援を行うことができるよう専門性の向上を図るとともに、地域の学校等との連携体制の構築に努めた。

#### (4) 教員の資質と指導力の向上

ア 「切れ目のない支援体制整備事業」事業担当者会議の開催

事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等の報告及び課題についての協議を行った。また、各教育事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指導の重点等についても研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進を図った。

#### イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

#### ウ 特別支援学校初任者研修、二年次教員フォローアップ研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、教科（領域）指導研修や社会体験研修等を行った。

#### エ 特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員6名の派遣を予定していた国立特別支援教育総合研究所の専門研修が、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。

#### (5) 就学相談の推進

学校教育法施行令の一部改正による就学先決定の仕組み等の周知を図るため、市町村教育委員会就学事務担当者と公立中学校管理職を対象に教育支援協議会を県内7か所で開催した。また、市町村の就学先決定における相談の充実については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期からの一貫した支援の充実に努めた。

#### (6) 特別支援教育の推進

#### ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業

「令和3年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が、在籍している学校（13校）に看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

#### ※看護師配置校

聴覚支援学校、聴覚支援学校福島校、  
聴覚支援学校会津校、大笹生支援学校、郡山支援学校、  
あぶくま支援学校、西郷支援学校、石川支援学校、  
会津支援学校、会津支援学校竹田校、平支援学校、  
いわき支援学校、相馬支援学校

【令和3年度医療的ケア実施運営協議会委員】

| 氏名     | 委嘱時の職名              |
|--------|---------------------|
| ◎森田 浩之 | 県総合療育センター・所長        |
| ○生井 良幸 | 太田西ノ内病院・小児科部長       |
| 古橋 知子  | 福島医科大学看護学部・准教授      |
| 八島 裕貴  | 保健福祉部障がい福祉課・主事      |
| 佐藤 大介  | 子ども未来局児童家庭課・主任主査    |
| 西牧 辰典  | 県特別支援教育センター・所長      |
| 鈴木 仁   | 白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー |
| 相楽 千穂  | 郡山支援学校・保護者          |
| 大竹奈保子  | 聴覚支援学校福島校・教頭        |
| 小河 仁   | 聴覚支援学校会津校・教頭        |
| 菅野かおり  | 大笹生支援学校・教頭          |
| 小林 直輝  | 郡山支援学校・教頭           |
| 喜多見久美  | あぶくま支援学校・教頭         |
| 鈴木 貴之  | 須賀川支援学校・教頭          |
| 湯田 繁   | 西郷支援学校・教頭           |
| 小川 令子  | 石川支援学校・教頭           |
| 田中久美子  | 会津支援学校・教頭           |
| 江見 浩二  | 会津支援学校竹田校・分校長       |
| 千葉 秀樹  | 平支援学校・教頭            |
| 大和田 浩  | いわき支援学校・教頭          |
| 持舘 康成  | 相馬支援学校・教頭           |
| 井手しのぶ  | 平支援学校・看護師           |
| 遠藤しのぶ  | 郡山支援学校・看護師          |

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

- 第1回 令和3年 6月23日
- 第2回 令和3年11月24日

【会議における検討事項】

- 特定行為以外の医療的ケアについて
- 医師からの意見書とその配付等について

【看護師研修会の開催】

- 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を郡山支援学校においてオンラインで実施した。

イ 「切れ目のない支援体制整備事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内7地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年2回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や各園・学校等における特別支援教育の充実のための具体的な方策について協議するとともに、相談体制の整備や相談支援ファイルの活用への促進に取り組んだ。

ウ 地域支援体制の充実

県立特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を発揮し、小・中学校等や市町村教育委員会のニーズに応じた相談や研修等の支援を実施した。

相談・研修件数は2,482件であった。

また、県内の各教育事務所が地域支援のコーディネーターとなり、相談支援チームを編制し、市町村や小・中学校等への支援の在り方や具体的な方策について協議するとともに、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に向けた支援を実施した。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい等のある生徒の支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、令和3年度は県立高等学校14校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立中学校管理職を対象に、書面開催による「教育支援協議会」において、就学先決定の流れや特別な支援を必要とする生徒の支援等について説明をし、障がい児の一貫した支援に努めた。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

2 現職教育

(1) 教員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教員の資質向上に努めた。

| 名称                | 期日                  | 期間 | 会場          | 人数 | 対象         |
|-------------------|---------------------|----|-------------|----|------------|
| 特別支援学校教育課程運営改善講座  | 8月19日               | 1日 | 県特別支援教育センター | 30 | 特別支援学校教員   |
| 特別支援学級等新任担当教員研修会  | 4月20日<br>4月23日      | 1日 | 各地区会場       | 98 | 特別支援学級担当教員 |
| 通級指導教室担当教員研修会     | 7月13日               | 1日 | 環境創造センター    | 36 | 通級指導教室担当教員 |
| 特別支援学校5年経験者研修     | 6月14日<br>～<br>6月18日 | 3日 | 県特別支援教育センター | 61 | 特別支援学校教員   |
| 特別支援学校中堅教諭等資質向上研修 | 6月21日<br>～<br>6月25日 | 4日 | 県特別支援教育センター | 40 | 特別支援学校教員   |

※中堅教諭等資質向上研修は、4日間のうち2日間ずつに分かれて実施

特別支援学校初任者研修

| 名 称       |                 | 期 日                | 期 間       | 会 場              |
|-----------|-----------------|--------------------|-----------|------------------|
| 宿泊研修      | 一次研修            | 7月28日、30日<br>7月29日 | 3日        | 各所属校<br>環境創造センター |
|           | 二次研修            | 2月2日～4日            | 3日        | 各所属校             |
| 一般研修      |                 | 4月14日～15日          | 2日        | 環境創造センター         |
| カウンセリング研修 |                 | 6月8日～10日           | 2日        | 環境創造センター<br>各所属校 |
| 地区別研修     | 講習会研修会<br>等参加研修 | 各校で実施              | 1日        | 各地区内の該当<br>学校等   |
|           | 他校参観研修          | 各校で実施              | 5日        | 各地区内の該当<br>学校等   |
|           | 企業等体験<br>研修     | 各校で実施              | 4日        | 各地区内の該当<br>学校等   |
| 教育課程別研修   |                 | 9月8日               | 1日        | 初任者配置校           |
| 学部別研修     |                 | 11月10日             | 1日        | 初任者配置校           |
|           |                 |                    | 年間150時間以上 | 各所属校             |

(2) 特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修2か月）

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、第一期については、全日程オンラインで実施した。第三期は2週間の集合研修を実施し、残りの日程はオンライン研修で実施した。教員としての資質向上を図った。

| 氏 名   | 職名 | 学校名                 | コース等                  | 期 間                 |
|-------|----|---------------------|-----------------------|---------------------|
| 平田 栄貴 | 教諭 | 相馬市立<br>中村第二<br>小学校 | 発達障害・<br>情緒障害<br>教育専修 | 5月10日<br>～7月9日      |
| 遠藤 紘子 | 教諭 | 視覚支援<br>学 校         | 視覚障害<br>教育専修          | 令和4年1月11日<br>～3月16日 |
| 佐藤 真美 | 教諭 | 須賀川<br>支援学校<br>医大校  | 病弱教育<br>専 修           | 令和4年1月11日<br>～3月16日 |

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校（義務教育学校を含む。）の特別支援教育コーディネーターに対し、その役割やインクルーシブ教育システムの理解、校内支援体制の整備、児童生徒への配慮や支援等について研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、オンデマンドによる研修を実施した。

(4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、その役割やインクルーシブ教育システムの理解、校内支援体制の整備、生徒への配慮や支援等について研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、参集及びオンデマンドによる研修を実施した。

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターに対し、センター的機能の在り方、国や県の教育施策、コンサルテーションの進め方等について研修し、特別支援教育コーディネーターの専門性の向上及び実践力の向上を図った。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、オンラインによる研修を実施した。

3 教育課程

(特別支援学校教育課程運営改善講座)

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

| 地区 | 期日    | 会場              | 人数 | 参加対象             |
|----|-------|-----------------|----|------------------|
| 県内 | 8月19日 | 県特別支援<br>教育センター | 30 | 特別支援学校<br>の教務主任等 |

## 4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング(登校学習)を実施した。

さらに、大笹生支援学校、郡山支援学校、石川支援学校、会津支援学校、平支援学校では、高等部の訪問教育を実施している。実施状況は次のとおりである。

| 校名         | 学級数 |      |     |      |     |      |     |       | 児童生徒数 |      |     |      |     |      |     |       | スクーリング児童生徒数 |     |     |    |
|------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-------|-------|------|-----|------|-----|------|-----|-------|-------------|-----|-----|----|
|            | 小学部 | 病院訪問 | 中学部 | 病院訪問 | 高等部 | 病院訪問 | 学部計 | 病院訪問計 | 小学部   | 病院訪問 | 中学部 | 病院訪問 | 高等部 | 病院訪問 | 学部計 | 病院訪問計 | 小学部         | 中学部 | 高等部 | 計  |
| 大笹生支援学校    | 1   |      | 1   |      | 1   |      | 3   |       | 3     |      | 3   |      | 2   |      | 8   |       | 3           | 3   | 2   | 8  |
| 郡山支援学校     | 1   |      | 1   |      | 1   |      | 3   |       | 4     |      | 1   |      | 2   |      | 7   |       | 4           | 1   | 2   | 7  |
| 須賀川支援学校    | 1   |      |     |      |     |      | 1   |       | 1     |      |     |      |     |      | 1   |       |             |     |     | 0  |
| 須賀川支援学校郡山校 |     | 1    |     | 1    |     |      |     | 2     |       |      |     | 1    |     |      |     | 1     |             |     |     | 0  |
| 須賀川支援学校医大校 |     |      |     | 1    |     |      |     | 1     |       |      |     | 1    |     |      |     | 1     |             |     |     | 0  |
| 石川支援学校     |     |      |     |      | 1   |      | 1   |       |       |      |     |      | 1   |      | 1   |       |             |     | 1   | 1  |
| 会津支援学校     | 1   |      |     |      | 1   |      | 2   |       | 1     |      |     |      | 1   |      | 2   |       | 1           |     | 1   | 2  |
| 平支援学校      | 2   | 1    | 1   | 1    | 1   |      | 4   | 2     | 5     | 1    | 1   | 1    | 1   |      | 7   | 2     | 3           |     |     | 3  |
| 相馬支援学校     | 1   |      |     |      |     |      | 1   |       | 1     |      |     |      |     |      | 1   |       | 1           |     |     | 1  |
| 合計         | 7   | 2    | 3   | 3    | 5   | 0    | 15  | 5     | 15    | 1    | 5   | 3    | 7   | 0    | 27  | 4     | 12          | 4   | 6   | 22 |

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達の段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導支援に努めた。

### (2) 進路指導

ア 夢に向かってテクノチャレンジ事業

#### (ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

#### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校  
福島大学附属特別支援学校  
福島市立ふくしま支援学校 計 18校

#### (ウ) 実施状況

##### a 特別支援学校作業技能大会の開催

- ・期日 8月5日(水)
- ・場所 県立郡山支援学校、郡山市労働福祉会館

##### b 実施部門

- ・作業技能検定部門  
ビルクリーニング、喫茶接客サービス、パソコンデータ入力、店舗販売(品出し)

- ・作業製品品評部門

- ・あん摩施術評価部門

#### c 外部評価の活用

- ・各作業技能検定部門に関する助言
- ・作業技能検定部門の審査

#### イ 特別支援学校における就労推進事業

##### (ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、就職率と定着率の向上を図る。

##### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校  
福島大学附属特別支援学校  
福島市立ふくしま支援学校 計 18校

##### (ウ) 実施状況

##### a 進路支援チーム会議の実施

- ・特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議
- ・障がい者就業・生活支援センターとの連携強化

##### b 移行支援機能の充実

- ・関係機関と連携した、早期からの移行支援会議の実施
- ・在学中から卒業後までの長いスパンでの支援

##### c 企業の求める人材育成

- ・ 作業学習の内容や手法の見直し
  - ・ ジョブコーチや企業等からの指導助言
  - ・ 「障がい者就職面接会」への参加
  - ・ 「特別支援学校早期訓練コース」の活用
- d 外部評価の活用
- ・ 「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用
  - ・ 「障がい者技能競技大会」への参加

## 6 特別活動

### (1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

| 学部<br>障がい | 学部  |     |     |     |     | 合 計 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|           | 幼稚部 | 小学部 | 中学部 | 高等部 |     |     |
| 視覚障がい     |     | 1   | 4   | 3   | 8   |     |
| 聴覚障がい     | 5   | 7   | 9   | 5   | 26  |     |
| 知的障がい     |     | 95  | 123 | 249 | 467 |     |
| 肢体不自由     |     | 18  | 24  | 19  | 61  |     |
| 病 弱       |     | 5   | 9   | 12  | 26  |     |
| 計         | 5   | 126 | 169 | 288 | 588 |     |

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

| 学部  | 開催日  |      |       |       |       |       |       |       |    |
|-----|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
|     | 3月1日 | 3月8日 | 3月10日 | 3月11日 | 3月15日 | 3月16日 | 3月17日 | 3月18日 | 3月 |
| 幼稚部 |      |      |       |       |       | 1     | 1     | 1     |    |
| 小学部 |      |      | 2     | 2     | 1     | 5     | 6     | 5     |    |
| 中学部 |      |      | 2     | 2     | 1     | 4     | 5     | 4     |    |
| 高等部 | 4    | 3    | 3     |       |       | 1     | 2     | 3     |    |

### (2) 修学旅行

| 学部  | 行き先<br>日数 | 行 き 先 |    |    |    |     | 日 数 |      |      | 人<br>数 |
|-----|-----------|-------|----|----|----|-----|-----|------|------|--------|
|     |           | 県内    | 東北 | 関東 | 関西 | 北海道 | 日帰り | 一泊二日 | 二泊三日 |        |
| 小学部 | 15        | 3     | 1  |    |    | 17  | 2   |      |      | 106    |
| 中学部 | 12        | 3     | 2  |    |    | 5   | 9   | 3    |      | 164    |
| 高等部 | 12        | 2     | 4  |    |    | 8   | 4   | 6    |      | 264    |

## 7 学校訪問

### 県立特別支援学校

5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修の研究授業日に学校訪問を実施した。

| No. | 訪 問 日  | 学 校 名     |
|-----|--------|-----------|
| 1   | 9月21日  | たむら支援学校   |
| 2   | 9月24日  | いわき支援学校   |
| 3   | 10月21日 | 会津支援学校    |
| 4   | 10月22日 | 会津支援学校    |
| 5   | 11月9日  | 聴覚支援学校    |
| 6   | 11月16日 | いわき支援学校   |
| 7   | 11月18日 | 会津支援学校竹田校 |

## 8 県立学校学校教育指導委員

| 氏 名   | 職 名 | 所 属 校     |
|-------|-----|-----------|
| 高橋 英之 | 教諭  | 視覚支援学校    |
| 遠田 弥生 | 教諭  | 聴覚支援学校    |
| 矢吹 恭子 | 教諭  | 郡山支援学校    |
| 遠藤孝太郎 | 教諭  | 平支援学校     |
| 吉津 聖美 | 教諭  | 会津支援学校竹田校 |
| 富村 祥子 | 教諭  | 大笹生支援学校   |
| 田中真由美 | 教諭  | 石川支援学校    |
| 森 亜矢子 | 教諭  | 西郷支援学校    |

## 9 就学指導

### (1) 福島県特別支援教育推進会議

福島県特別支援教育推進会議委員

| 委 員   | 職 名                |
|-------|--------------------|
| 学識見識者 | 大学教授               |
| 関係機関  | 福祉関係代表             |
| 関係機関  | 県総合療育センター所長        |
| 関係機関  | 県保健福祉部障がい福祉課長      |
| 関係機関  | 県保健福祉部こども未来局児童家庭課長 |
| 関係機関  | 県商工労働部雇用労政課長       |
| 教育関係  | 小学校長会代表            |
| 教育関係  | 中学校長会代表            |
| 教育関係  | 高等学校長会代表           |
| 教育関係  | 特別支援学校長会代表         |
| 教育関係  | 県特別支援教育センター所長      |
| 教育関係  | 県教育庁特別支援教育課長       |



## (2) 教育支援協議会

ア 期日及び会場

| 地区  | 期日 | 会場   | 参加者数 |
|-----|----|------|------|
| 県北  | 7月 | 書面開催 | 95   |
| 県中  | 7月 | 書面開催 | 49   |
| 県南  | 7月 | 書面開催 | 36   |
| 会津  | 7月 | 書面開催 | 61   |
| 南会津 | 7月 | 書面開催 | 14   |
| 相双  | 7月 | 書面開催 | 34   |
| いわき | 7月 | 書面開催 | 62   |

イ 参加者

- ・ 公立小学校管理職

ウ 説明及び協議

(ア) 説明

「特別な支援が必要な児童への支援のあり方について」

書面開催とし資料を送付

(イ) 説明及び協議

書面開催のため、実施せず

## 10 教科用図書

### (1) 教科用図書事務説明会

ア 開催日時・場所

令和3年6月9日・正庁

イ 参加者

各教育事務所 各市町村教育委員会  
特別支援学校教科書担当者

### (2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期日及び会場

|             |              |
|-------------|--------------|
| 6月9日～6月11日  | 福島大学附属特別支援学校 |
| 6月16日～6月18日 | 大笹生支援学校      |
| 6月23日～6月25日 | 会津支援学校       |
| 6月29日～7月1日  | 南会津町役場       |
| 7月5日～7月7日   | 石川支援学校       |
| 7月9日～7月13日  | あぶくま支援学校     |
| 7月15日～7月20日 | 相馬支援学校       |
| 7月21日～7月26日 | いわき支援学校      |
| 7月27日～7月30日 | 郡山支援学校       |

## 11 教育研究団体

### (1) 令和3年度福島県特別支援学校長会役員

| 役職名 | 氏名    | 所属校          |
|-----|-------|--------------|
| 会長  | 橋本 淳一 | 視覚支援学校       |
| 副会長 | 杉山 裕恵 | 聴覚支援学校       |
| 副会長 | 佐藤 成紀 | 福島市立ふくしま支援学校 |

### (2) 令和3年度福島県特別支援学校教頭会役員

| 役職名 | 氏名    | 所属校     |
|-----|-------|---------|
| 会長  | 菅野かおり | 大笹生支援学校 |
| 副会長 | 千葉 秀樹 | 平支援学校   |
| 副会長 | 田中久美子 | 会津支援学校  |

### (3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組織

| 役職名 | 氏名    | 所属校          |
|-----|-------|--------------|
| 会長  | 佐藤 成紀 | 福島市立ふくしま支援学校 |
| 副会長 | 橋本 淳一 | 視覚支援学校       |
| 副会長 | 柳沼 啓之 | 郡山市立橋小学校     |

イ 事業の概要

| 事業名 | 期日    | 会場   | 概要                |
|-----|-------|------|-------------------|
| 役員会 | 2月10日 | 書面開催 | R3事業報告、R4事業計画について |

### (4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

| 役職名 | 氏名    | 所属              |
|-----|-------|-----------------|
| 会長  | 鈴木 敏夫 | 仁愛看護福祉専門学校長     |
| 副会長 | 櫻井 和朋 | 元県PTA連合会長       |
| 副会長 | 齊藤 義人 | 元福島商業高等学校長      |
| 理事  | 小野 寛  | 県北支部長           |
| 理事  | 道下 和幸 | 県中支部長           |
| 理事  | 小河原健一 | 県南支部長           |
| 理事  | 木村 秀  | 会津支部長           |
| 理事  | 只野 裕一 | 相双支部長           |
| 理事  | 大谷 明  | いわき支部長          |
| 理事  | 杉山 裕恵 | 本部事務局長(聴覚支援学校長) |
| 監事  | 西牧 辰典 | 県特別支援教育センター所長   |
| 監事  | 高屋 隆男 | 東北福祉大学准教授 元豊学校長 |
| 顧問  | 柳沼 穹壹 | 元あぶくま養護学校長      |

イ 事務局

(ア) 本部事務担当

聴覚支援学校 校長 杉山 裕恵  
聴覚支援学校 教頭 菅野 亨  
聴覚支援学校 教頭 圓谷 隆雄  
聴覚支援学校 事務長 本田 康博

(イ) 支部

| 支部 | 事務局校   | 支部  | 事務局校   |
|----|--------|-----|--------|
| 県北 | 視覚支援学校 | 会津  | 会津支援学校 |
| 県中 | 郡山支援学校 | 相双  | 相馬支援学校 |
| 県南 | 石川支援学校 | いわき | 平支援学校  |



## 第 8 章 体育・健康

### 第 1 節 概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、甚大な被害を受けたが、「健康」や「体力」の必要性・重要性について、再認識されたところであり、震災後の深刻な健康課題の解決に向けて平成 27 年度に「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」を策定した。令和 3 年度からはこのプロジェクトのレガシーを引き継ぎ「ふくしまっ子健康マネジメントプラン」事業を立ち上げた。これは、望ましい運動習慣や食習慣を形成するために作成した「自分手帳」の効果的・継続的な活用を通して、健康課題を解決する自己マネジメント能力の育成、学校等における個別・集団指導への外部専門家の派遣、ウェブサイトを活用した「みんなで跳ぼうなわとびコンテスト」の実施と体力向上表彰の実施、PDCA サイクルによる事業の検証などを展開し、体力の向上及び肥満の解消を図るものである。

学校体育の充実については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実を図るため、「ふくしまっ子健康マネジメントプラン」により、「運動身体づくりプログラム」の普及・実践、「ふくしまっ子児童期運動指針」の普及・実践に努めた。

さらに、部活動の適正化や教職員の働き方改革につながる取組を進めるため、中学校・高等学校に部活動指導員を配置した。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、ホストタウンを中心とした県内 45 校の教育推進校において、オリンピック・パラリンピック教育推進事業を展開した。

健康教育の充実・普及については、平成 16 年度から実施している「うつくしまっ子すこやか事業」の中で、平成 19 年度より「学校すこやかプラン」を展開し、関係機関との連携や地域を巻き込んだ学校保健委員会の活性化を目指して取り組んでいる。さらに児童生徒の自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深め、関係機関と一体となって児童生徒の健康課題解決を目指している。また、食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

#### 1 学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動のより一層の充実を図るため「ふくしまっ子児童期運動指針」の活用を奨励し、児童の運動習慣づくりに努めた。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体育・保健体育指導力向上研修会に関してはオンラインでの開催とした。県内 6 地区での小・中・高等学校体育担当者連絡協議会は開催し、新学習指導要領の趣旨について研修を行うとともに、「自分手帳」の活用に関する講義も行った。さらに、部活動指導員配置促進事業を通して部活動を通じた運動・文化に親しむ生徒の育成に努めた。

#### 2 学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく各種事業を推進している。「学校すこやかプラン」においては、多様化・複雑化する児童生徒の健康課題に対応するため、現代的な課題を含めた児童生徒の健康課題に対する理解と学校における対応の在り方について健康教育推進者研修会を実施した。令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症とその対応についてや、がん教育等についての研修を実施し、健康教育推進の要となる養護教諭の資質向上を目指し、健康教育の充実を図った。

また、県の健康課題の一つである肥満の解消に対しては、「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」の事業の一つとして、「肥満に関する健康相談・個別の保健指導担当者研修会」を開催し、「学校における肥満対応ガイドライン」の活用促進と指導者である養護教諭、栄養教諭等のスキルアップを目指した。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育に関わる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組を行うとともに、児童生徒の主体的な活動が行われた学校を表彰した。

学校安全に関しては、危機管理マニュアル等の評価・見直しを促すとともに、その確実な実践を図るため福島県学校安全指導者養成研修会を実施した。その中で、同じ種類の災害が考えられる地区内の小・中・高の担当者間で情報交換を行い、各校の危機管理マニュアルの見直しをするなど、安全管理の推進・充実を図った。

#### 3 食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図った。また、平成 26 年度より東日本大震災後の新たな課題に対応するため、「ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業」を三部（保健福祉部、農林水産部、教育庁）連携事業として実施し、学校における食に関する指導体制の整備

に努めた（令和4年度から「元気なふくしまっ子食環境整備事業」へ事業名変更）。その一環で行っている「ふくしまっ子はんコンテスト」では、応募総数が、17,602点となり、家庭における食育への意識の向上につながった。

#### 4 学校給食の充実

学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新規採用学校栄養職員研修（県立学校を含む）及び学校栄養職員5年経験者研修を実施した。なお、学校栄養職員中堅教諭等資質向上研修については、隔年実施のため、令和3年度は実施しなかった。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成21年4月1日に施行された「学校給食衛生管理基準」（文部科学省告示第64号）の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導・助言のため、学校給食施設訪問実施状況点検を健康教育課担当者が県立学校26校及び共同調理場3施設、各教育事務所の指導主事が単独校調理場等47校の点検を実施した。

また、令和2年度より、文部科学省支出委任事業「学校給食の衛生管理等に関する調査研究」における訪問指導を市町村立学校給食施設10施設で実施した。

## 第2節 表彰

### 1 体育関係

#### (1) 公益財団法人日本学校体育研究連合会表彰

- ア 最優秀校 該当なし
- イ 優良校 該当なし
- ウ 功労者

| 職名 | 氏名    | 勤務校       |
|----|-------|-----------|
| 校長 | 大知里重政 | 郡山市立芳山小学校 |

#### (2) 福島県学校体育研究連合会表彰

- ア 優秀校

| 学校名       | 校長名   |
|-----------|-------|
| 矢祭町立矢祭小学校 | 伊藤 弘行 |

- イ 功労者

| 職名 | 氏名     | 勤務校          |
|----|--------|--------------|
| 校長 | 最上 竜太郎 | 郡山市立安積第三小学校  |
| 校長 | 吉田 知裕  | 郡山市立喜久田小学校   |
| 校長 | 佐久間 敏晴 | 田村市立常葉小学校    |
| 校長 | 中村 徹   | 福島市立蓬萊中学校    |
| 校長 | 芦野 孝彦  | いわき市立久之浜中学校  |
| 教諭 | 佐藤 紘則  | 福島県立郡山商業高等学校 |

## 2 学校保健・学校安全関係

### (1) 福島県教育委員会表彰

- ア 学校保健功労者

| 氏名    | 役職名                 |
|-------|---------------------|
| 玉井 康裕 | 浪江町立津島小学校 元学校医      |
| 葉田野 博 | いわき市立上遠野小学校 元学校医    |
| 大内 道男 | 福島県立須賀川桐陽高等学校 学校歯科医 |

- イ 功績顕著な団体

| 団体名          |
|--------------|
| 飯豊地区安全ボランティア |

### (2) 文部科学大臣表彰

- ア 学校保健・学校安全表彰

| 区分    | 氏名     | 勤務校          |
|-------|--------|--------------|
| 元学校医  | 児山 孝   | 元いわき市立平第三小学校 |
| 学校医   | 豊増 公一  | 須賀川市立第一小学校   |
| 学校医   | 佐藤 武寿  | 福島県立福島東高等学校  |
| 学校歯科医 | 小久保 俊一 | 湯川村立勝常小学校    |

- イ 学校保健・学校安全表彰（学校・団体）

該当なし

- ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞

該当なし

- エ 養護教諭制度80周年記念学校保健功労者表彰

| 氏名     | 勤務校          |
|--------|--------------|
| 喜多見 久美 | 福島県立あぶくま支援学校 |
| 宍戸 朋子  | 伊達市立松陽中学校    |
| 塩田 咲江  | 二本松市立大平小学校   |
| 田邊 真佐子 | 福島県立福島明成高等学校 |
| 酒井 るり子 | 元只見町立只見中学校   |

### (3) 令和3年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コンク

#### ール表彰

<最優秀入賞者>

- ア 図画の部

| 学年     | 学校名           | 氏名     |
|--------|---------------|--------|
| 幼稚園    | ザベリオ学園こども園    | 長井 嶺   |
| 小学校1年  | 会津若松ザベリオ学園小学校 | 金子 陽詩  |
| 小学校2年  | 須賀川市立第二小学校    | 國分 輝歩  |
| 小学校3年  | 会津若松市立荒舘小学校   | 五十嵐 唯夏 |
| 特別支援学校 | 福島県立富岡支援学校    | 村山 豪   |

イ ポスターの部

◎小学校

| 学 年   | 学 校 名        | 氏 名   |
|-------|--------------|-------|
| 小学校4年 | 須賀川市立白江小学校   | 田村 昊  |
| 小学校5年 | いわき市立中央台東小学校 | 寺内 心美 |
| 小学校6年 | 中島村立滑津小学校    | 長田 真友 |

◎中学校

| 学 年   | 学 校 名        | 氏 名    |
|-------|--------------|--------|
| 中学校1年 | 会津若松市立北会津中学校 | 白井 るな  |
| 中学校2年 | 須賀川市立第一中学校   | 八木沼 華穂 |
| 中学校3年 | 浅川町立浅川中学校    | 藤原 沙華  |

◎特別支援学校

| 学 年   | 学 校 名        | 氏 名   |
|-------|--------------|-------|
| 中学部3年 | 福島県立あぶくま支援学校 | 富脇 渚斗 |

ウ 書写の部

| 学 年    | 学 校 名        | 氏 名   |
|--------|--------------|-------|
| 小学校1年  | 川俣町立富田小学校    | 齋藤まえむ |
| 小学校2年  | 二本松市立二本松南小学校 | 佐藤 結心 |
| 小学校3年  | 白河市立表郷小学校    | 薄井 唯  |
| 小学校4年  | 会津若松市立松長小学校  | 佐藤 希美 |
| 小学校5年  | 磐梯町立磐梯第一小学校  | 本間 心遥 |
| 小学校6年  | 白河市立白河第二小学校  | 室井 悠伍 |
| 中学校全学年 | 会津若松市立第一中学校  | 安田 可歩 |
| 特別支援学校 | 福島県立会津支援学校   | 櫛田 真琴 |

エ 標語の部

| 学 年    | 学 校 名           | 氏 名   |
|--------|-----------------|-------|
| 小・中学校  | 会津美里町立本郷小学校     | 手代木 晴 |
| 特別支援学校 | 福島県立石川支援学校たまかわ校 | 穂積 碧  |

(4) 令和3年度福島県学校歯科保健優良校表彰

- ア 特別表彰 該当なし  
 イ 栄誉賞 該当なし  
 ウ 最優秀賞 1校

| No. | 域 内 | 学 校 名      |
|-----|-----|------------|
| 1   | 会 津 | 喜多方市立第一小学校 |

エ 優秀賞 18校

◎小学校（11学級以下）10校

| No. | 域 内 | 学 校 名       |
|-----|-----|-------------|
| 1   | 県 北 | 福島市立水保小学校   |
| 2   | 県 中 | 須賀川市立白方小学校  |
| 3   | 県 中 | 三春町立中妻小学校   |
| 4   | 県 南 | 西郷村立羽太小学校   |
| 5   | 県 南 | 中島村立滑津小学校   |
| 6   | 会 津 | 磐梯町立磐梯第一小学校 |
| 7   | 会 津 | 喜多方市立上三宮小学校 |
| 8   | 会 津 | 湯川村立笈川小学校   |
| 9   | 会 津 | 湯川村立勝常小学校   |
| 10  | 南会津 | 檜枝岐村立檜枝岐小学校 |

◎小学校（12学級以上）3校

| No. | 域 内 | 学 校 名       |
|-----|-----|-------------|
| 11  | 県 南 | 白河市立白河第一小学校 |
| 12  | 県 南 | 白河市立みさか小学校  |
| 13  | 県 南 | 西郷村立米小学校    |

◎中学校（11学級以下）3校

| No. | 域 内 | 学 校 名      |
|-----|-----|------------|
| 14  | 県 中 | 須賀川市立長沼中学校 |
| 15  | 県 中 | 田村市立常葉中学校  |
| 16  | 県 南 | 中島村立中島中学校  |

◎特別支援学校 2校

| No. | 域 内 | 学 校 名             |
|-----|-----|-------------------|
| 17  | 特 支 | 福島県立視覚支援学校（小学部）   |
| 18  | 特 支 | 福島県立あぶくま支援学校（中学部） |

オ 努力賞 20校

◎小学校（11学級以下）9校

| No. | 域内 | 学校名             |
|-----|----|-----------------|
| 1   | 県北 | 伊達市立掛田小学校       |
| 2   | 県中 | 郡山市立白岩小学校       |
| 3   | 県中 | 玉川村立須釜小学校       |
| 4   | 県中 | 三春町立中郷小学校       |
| 5   | 県南 | 白河市立釜子小学校       |
| 6   | 県南 | 白河市立信夫第二小学校     |
| 7   | 県南 | 中島村立吉子川小学校      |
| 8   | 県南 | 鮫川村立鮫川小学校       |
| 9   | 相双 | 大熊町立熊町小学校・大野小学校 |

◎小学校（12学級以上）6校

| No. | 域内  | 学校名              |
|-----|-----|------------------|
| 10  | 県中  | 須賀川市立柏城小学校       |
| 11  | 県南  | 西郷村立熊倉小学校        |
| 12  | 県南  | 西郷村立小田倉小学校       |
| 13  | 会津  | 会津若松市立河東学園（前期課程） |
| 14  | 相双  | 相馬市立中村第一小学校      |
| 15  | いわき | いわき市立好間第一小学校     |

◎中学校（11学級以下）4校

| No. | 域内  | 学校名          |
|-----|-----|--------------|
| 16  | 県中  | 平田村立ひらた清風中学校 |
| 17  | 県南  | 白河市立東中学校     |
| 18  | 会津  | 磐梯町立磐梯中学校    |
| 19  | 南会津 | 檜枝岐村立檜枝岐中学校  |

◎中学校（12学級以上）1校

| No. | 域内 | 学校名       |
|-----|----|-----------|
| 20  | 県中 | 鏡石町立鏡石中学校 |

◎特別支援 該当なし

カ 優秀活動奨励賞 2校

| No. | 域内  | 学校名         |
|-----|-----|-------------|
| 1   | 会津  | 磐梯町立磐梯第二小学校 |
| 2   | 南会津 | 只見町立明和小学校   |

(5) 福島県学校保健会表彰

ア 健康づくり推進学校 該当なし

イ 学校保健功労者（35名）

| No. | 職名    | 氏名     | 勤務校            |
|-----|-------|--------|----------------|
| 1   | 学校医   | 大木 厚   | 伊達市立保原小学校      |
| 2   | 学校医   | 大原 洋一郎 | 福島市立福島第三小学校    |
| 3   | 学校医   | 金子 進伍  | 郡山市立赤木小学校      |
| 4   | 学校医   | 菅野 和治  | 二本松市立新殿小学校     |
| 5   | 学校医   | 小玉 直志  | 郡山市立穂積小学校      |
| 6   | 学校医   | 佐藤 宏治  | 伊達市立松陽中学校      |
| 7   | 学校医   | 菅原 延夫  | いわき市立綴小学校      |
| 8   | 学校医   | 鈴木 秀   | 福島県立川俣高等学校     |
| 9   | 学校医   | 田中 直   | 郡山市立三和小学校      |
| 10  | 学校医   | 水野 安二  | 二本松市立安達中学校     |
| 11  | 学校医   | 森安 麗子  | 相馬市立中村第二小学校    |
| 12  | 学校歯科医 | 大村 公士  | 福島県立会津工業高等学校   |
| 13  | 学校歯科医 | 梶田 浩二  | 相馬市立日立木小学校     |
| 14  | 学校歯科医 | 加藤 幸正  | 川俣町立山木屋中学校     |
| 15  | 学校歯科医 | 佐藤 滋   | 喜多方市立豊川小学校     |
| 16  | 学校歯科医 | 清水 英文  | 二本松市立二本松第三中学校  |
| 17  | 学校歯科医 | 堤 裕二   | 福島市立森合小学校      |
| 18  | 学校歯科医 | 半澤 淳一  | 福島県立あぶくま支援学校   |
| 19  | 学校歯科医 | 本田 周   | 二本松市立新殿小学校     |
| 20  | 学校歯科医 | 山添 聡   | 福島県立猪苗代支援学校    |
| 21  | 学校歯科医 | 山田 敦   | 喜多方市立加納小学校     |
| 22  | 学校歯科医 | 山田 清太郎 | 福島県立小野高等学校     |
| 23  | 学校歯科医 | 渡部 好造  | 会津若松市立一箕中学校    |
| 24  | 学校歯科医 | 渡辺 英弥  | 二本松市立二本松第一中学校  |
| 25  | 学校薬剤師 | 飯塚 裕子  | いわき市立小名浜第二小学校  |
| 26  | 学校薬剤師 | 佐藤 智子  | 川俣町立福田小学校      |
| 27  | 学校薬剤師 | 佐藤 有一  | 飯舘村立いいたて希望の里学園 |
| 28  | 学校薬剤師 | 高橋 明子  | 川俣町立飯坂小学校      |
| 29  | 学校薬剤師 | 高橋 慶子  | 川俣町立富田小学校      |
| 30  | 学校薬剤師 | 本田 喜己江 | 福島県立湖南高等学校     |
| 31  | 養護教諭  | 塩田 咲江  | 二本松市立大平小学校     |
| 32  | 養護教諭  | 野中 早知子 | 鏡石町立鏡石中学校      |
| 33  | 養護教諭  | 芳賀 明美  | 白河市立小田川小学校     |
| 34  | 養護教諭  | 藤井 礼子  | 福島市立福島第四中学校    |
| 35  | 養護教諭  | 町田 峰子  | 郡山市立西田学園       |

ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞（1団体）

| No. | 団体名           | 代表者名 |
|-----|---------------|------|
| 1   | 中一小地域ぐるみで見守り隊 | 青田 健 |

エ 学校保健会感謝状（4名）

| No. | 職名      | 氏名    | 勤務校            |
|-----|---------|-------|----------------|
| 1   | (前)学校医  | 柏原 精一 | 小野町立小戸神小学校 (旧) |
| 2   | (前)学校医  | 小林 芳枝 | 鏡石町立鏡石中学校      |
| 3   | (前)学校医  | 高橋 晴彦 | 相馬市立中村第一中学校    |
| 4   | (前)養護教諭 | 佐藤 悦子 | 伊達市立掛田小学校      |

**3 学校給食関係**

(1) 文部科学大臣表彰

ア 学校給食功労者

| 職名    | 氏名     | 所名             |
|-------|--------|----------------|
| 主任栄養士 | 鈴木 美智代 | 南相馬市教育委員会学校教育課 |

(2) 公益財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会会長表彰

ア 学校給食功労者

| 職名          | 氏名     | 所名             |
|-------------|--------|----------------|
| 作業長兼技能主査    | 宮崎 和久  | 福島市南部給食センター    |
| 主任栄養技師      | 土屋 幸子  | 郡山市立桜小学校       |
| 副主任調理員      | 飯島 敏子  | 須賀川市岩瀬学校給食センター |
| 栄養教諭        | 岡田 真樹  | 広野町立広野小学校      |
| 栄養教諭        | 鮎瀬 美鈴  | いわき市立菊田小学校     |
| 栄養教諭        | 本田 優子  | 福島市立平野小学校      |
| (前)主任専門栄養技師 | 内山 久美子 | いわき市教育委員会      |

イ 福島県教育委員会教育長賞（県産食材活用部門）

| 団体名      | 校長・施設長 |
|----------|--------|
| 南会津教育委員会 | 星 英雄   |

**第3節 学校体育**

**1 学校体育関係各種研修**

(1) 小・中・高等学校体育担当者連絡協議会

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、下記の日程に変更して実施した。

県北：令和3年4月27日（火）  
とうほう・みんなの文化センター

県中：令和3年6月29日（火）  
田村市文化センター

県南：令和3年6月30日（水）  
西郷村文化センター

会津・南会津  
：令和3年4月23日（金）  
下郷ふれあいセンター

相双：令和3年4月26日（月）  
万葉ふれあいセンター

いわき：令和3年6月30日（水）  
いわき合同庁舎南分庁舎

(2) 体育・保健体育指導力向上研修

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインにて実施した。

## 2 福島県高等学校体育連盟

### (1) 令和3年度福島県高等学校体育連盟役員

|                 |                                                 |
|-----------------|-------------------------------------------------|
| 顧問<br>(歴代会長)    | 折笠 常 弘(15代) 早川 俊 一(16代) 齋藤 久(18代) 砂子田 敦博(19代)   |
|                 | 杉原 陸 夫(20代) 高城 俊 春(21代) 齋藤 和 也(22代) 古市 孝 雄(23代) |
|                 | 富田 孝 志(24代) 星 本 文(25代) 新井田 大(26代) 富田 昭 夫(27代)   |
|                 | 本間 稔(28代) 長岐 博(29代) 廣瀬 敬 彦(30代) 遠藤 均(31代)       |
|                 | 佐藤 隆 宏(県教育庁健康教育課長) 滝田 勝 彦(県体育協会専務理事)            |
| 参与<br>(歴代理事長)   | 高橋 充 雄(9代) 浅尾 晃 左(11代) 菅野 一 治(12代) 渡辺 正 昭(13代)  |
|                 | 赤沼 健 一(14代) 穂本 哲 哉(16代) 飯塚 悟(18代)               |
| 会 長             | 尾形 幸 男(田村高校長)                                   |
| 副 会 長<br>(地区会長) | 佐藤 弘 樹(福島高校長) 小針 幸 雄(清陵情報高校長) 鈴木 義 祐(会津高校長)     |
|                 | 佐竹 正 徳(磐城桜が丘高校長) 渡邊 正 仁(相馬東高校長)                 |
| 理 事 長           | 齋藤 靖(田村高教頭)                                     |
| 事 務 局 長         | 花田 巖(田 村)                                       |
| 常 任 理 事         | 田中 巨 人(健康教育課) 星 謙 一(県体育協会) 大森 史 仁(郡山北工業)        |
|                 | 有賀 久 芳(安 積) 木村 あさ子(郡山萌世(通信制))                   |
| 常任理事・理事         | ☆◎渡部 浩 一(福島工業) ○三田 大 輔(福島西) 黒江 雄 治(川 俣)         |
|                 | 山田 喜 行(聖光学院) △手塚 愛 莉(福島明成)                      |
|                 | ☆◎安藤 英 貴(あさか開成) ☆○鈴木 慎 也(安 積) ☆須藤 浩 治(修 明)      |
|                 | ☆佐藤 康 弘(白 河) ☆富本 栄 次(郡女大附属) △須田 日 菜子(安 積)       |
|                 | ☆◎室井 真 仁(会 津) ○阿部 哲 也(会津工業) 八木 橋 利 幸(会津学鳳)      |
|                 | △酒井 香 苗(只 見)                                    |
|                 | ☆◎阿部 秀 幸(磐城桜が丘) ○澤田 匡 史(平 工 業) 小川 尚 之(いわき総合)    |
|                 | △高野 葵(磐城桜が丘)                                    |
|                 | ☆◎安齋 和 之(ふたば未来学園) ○五十嵐 敦 志(相 馬) 白浜 唯 秋(相馬東)     |
|                 | △小野 澤 彩 乃(ふたば未来学園)                              |
| 監 事             | 三國 邦 彦( 葵 ) 金澤 克 美(岩瀬農業)                        |
| 会長指名理事          | 田中 巨 人(健康教育課) 星 謙 一(県体育協会)                      |
| 幹 事             | 鈴木 崇 裕(郡山東) 渡邊 哲 也(郡 山) 大堀 直 也(田 村)             |
| (公財)福体協理事       | 尾形 幸 男(田村高校長)                                   |
| 同 評 議 員         | 花田 巖(田 村)                                       |
| 東北高体連副会長        | 尾形 幸 男(田村高校長)                                   |
| 同 常 任 理 事       | 齋藤 靖(田村高教頭)                                     |
| 同 理 事           | 花田 巖(田 村)                                       |

☆常任理事、◎地区理事長、○地区副理事長、△地区生徒理事



(2) 第 67 回福島県高等学校体育大会日程・会場

| 開催地区 | No.    | 種目名           | 日程                                   | 会場                                         | 参加人数                             |     |
|------|--------|---------------|--------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------|-----|
| 県北   | 1      | バスケットボール      | 6月12日(土)～15日(火)                      | あづま総合体育館 福島市内高等学校                          | 1024                             |     |
|      | 2      | サッカー          | 男子                                   | 5月29日(土)～31日(月)                            | 十六沼公園サッカー場                       | 600 |
|      | 3      | ハンドボール        | 6月4日(金)～7日(月)                        | あづま総合体育館 福島トヨタクラウンアリーナ                     | 596                              |     |
|      | 4      | 相撲            | 6月4日(金)～6日(日)                        | 福島市営相撲場                                    | 16                               |     |
|      | 5      | 弓道            | 6月5日(土)～7日(月)                        | 福島明成高等学校弓道場                                | 431                              |     |
|      | 6      | 体操            | 体操競技                                 | 5月29日(土)～30日(日)                            | あづま総合体育館                         | 67  |
|      |        |               | 新体操                                  | 5月29日(土)～30日(日)                            |                                  |     |
|      | 7      | フェンシング        | 6月5日(土)～6日(日)                        | 福島商業高等学校第二体育館                              | 7                                |     |
|      | 8      | カヌー           | 6月6日(日)                              | 二本松市阿武隈漕艇場                                 | 7                                |     |
| 9    | ライフル射撃 | 6月6日(日)       | 二本松市総合射撃場                            | 17                                         |                                  |     |
| 県南   | 10     | バレーボール        | 5月28日(金)～31日(月)                      | 宝来屋郡山総合体育館 安積学習センター<br>郡山北工業高等学校 あさか開成高等学校 | 1100                             |     |
|      | 11     | テニス           | 6月5日(土)～7日(月)                        | 郡山庭球場 福島空港公園庭球場 須賀川市牡丹大庭球場                 | 298                              |     |
|      | 12     | 水泳            | 飛込                                   | 6月30日(水)                                   | 郡山カルチャーパーク飛込プール                  | 3   |
|      | 13     | 空手道           | 6月4日(金)～6日(日)                        | 清陵情報高等学校第一体育館                              | 81                               |     |
|      | 14     | 剣道            | 6月4日(金)～7日(月)                        | 宝来屋郡山総合体育館                                 | 502                              |     |
|      | 15     | 登山            | 5月27日(木)～29日(土)                      | 那須連峰(赤面山、甲子山、甲子温泉)                         | 154                              |     |
|      | 16     | 自転車競技         | トラック                                 | 5月22日(土)～23日(日)                            | 泉崎国際サイクルスタジアム                    | 42  |
|      | 17     | ウエイトリフティング    | 6月5日(土)～6日(日)                        | 田村高等学校第二体育館                                | 39                               |     |
|      | 18     | ホッケー          | 未開催                                  | 未開催                                        | —                                |     |
|      | 19     | スケート          | スピード                                 | 12月10日(金)                                  | 磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場               | 3   |
|      |        |               | フィギュア                                | 12月19日(日)                                  | 磐梯熱海アイスアリーナ                      | —   |
|      | 20     | アーチェリー        | 6月5日(土)                              | 貝山多目的運動広場(三春町)                             | 13                               |     |
| 21   | サッカー   | 男子            | 5月29日(土)～31日(月)                      | 帝京安積高等学校フットボール場                            | 600                              |     |
| 22   | ソフトボール | 6月5日(土)～7日(月) | ふるさとの森ソフトボール場・スポーツパーク                | 380                                        |                                  |     |
| 会津   | 23     | ソフトテニス        | 6月4日(金)～7日(月)                        | 会津総合運動公園テニスコート                             | 652                              |     |
|      | 24     | 卓球            | 5月28日(金)～31日(月)                      | 猪苗代町総合体育館カメリーナ                             | 532                              |     |
|      | 25     | バドミントン        | 5月28日(金)～31日(月)                      | あいづ総合体育館 鶴ヶ城体育館                            | 575                              |     |
|      | 26     | 水泳            | 競泳                                   | 6月18日(金)～21日(月)                            | 会津水泳場                            | 365 |
|      | 27     | ボート           | 5月30日(日)                             | 福島県営荻野漕艇場                                  | 82                               |     |
|      | 28     | レスリング         | 6月5日(土)                              | 田島高等学校体育館                                  | 28                               |     |
|      | 29     | スキー           | アルペン                                 | 令和4年1月13日(木)                               | 会津高原だいらスキー場<br>檜枝岐村七入クロスカントリーコース | 21  |
|      |        |               | クロカン                                 | ～15日(土)                                    |                                  |     |
|      | 30     | なぎなた          | 6月6日(日)                              | 河東総合体育館                                    | 33                               |     |
|      | 31     | 駅伝競走          | 10月28日(木)                            | 猪苗代町駅伝コース 猪苗代町体験交流館<br>猪苗代町総合体育館(カメリーナ)    | 430                              |     |
| いわき  | 32     | 陸上競技          | 5月28日(金)～31日(月)                      | いわき陸上競技場                                   | 998                              |     |
|      | 33     | ラグビーフットボール    | 10月23日(土)・24日(日)<br>・30日(土)・11月6日(土) | 21世紀の森公園いわきグリーンフィールド・<br>多目的広場             | 231                              |     |
|      | 34     | 柔道            | 6月5日(土)～7日(月)                        | いわき市立南部アリーナ                                | 213                              |     |
|      | 35     | ボクシング         | 5月28日(金)～30日(日)                      | 磐城緑陰中学校・高等学校ボクシング場                         | 19                               |     |
|      | 36     | 軟式野球          | 未開催                                  | 未開催                                        | —                                |     |
|      | 37     | ヨット           | 5月29日(土)                             | 小名浜港(釜の前)                                  | 5                                |     |
| 相双   | 38     | サッカー          | 男子                                   | 6月5日(土)～6日(日)                              | Jヴィレッジスタジアム                      | 600 |
|      |        | 女子            | 6月4日(金)～6日(日)                        | ふたば未来学園高等学校グラウンド                           | 80                               |     |
|      | 39     | ラグビーフットボール    | 11月13日(土)                            | Jヴィレッジスタジアム                                | 231                              |     |
| 40   | 馬術     | 5月8日(土)～9日(日) | 南相馬市馬事公苑                             | 38                                         |                                  |     |
| その他  | 41     | 自転車           | ロード                                  | 5月27日(木)                                   | (宮城県) 名取市サイクルスポーツセンター            | 42  |

### 3 福島県中学校体育連盟

#### (1) 令和3年度福島県中学校体育連盟役員

| 役職名 | 氏名    | 所属名           | 地区名 |
|-----|-------|---------------|-----|
| 会長  | 斎藤 剛  | 信夫中           | 県北  |
| 副会長 | 佐藤 信行 | 岳陽中           | 県北  |
|     | 仁平 光俊 | 郡山四中          | 県中  |
|     | 荒井 孝祐 | 矢吹中           | 県南  |
|     | 小林 稔  | 若松二中          | 会津  |
|     | 草野 史郎 | 植田中           | いわき |
|     | 堀川 泰宏 | 小高中           | 相双  |
| 理事長 | 田中 信次 | 福島三中          | 県北  |
| 理事  | 安田 篤史 | 県教育庁健康教育課指導主事 |     |
|     | 神野 学  | 本宮二中          | 県北  |

| 役職名  | 氏名    | 所属名     | 地区名 |
|------|-------|---------|-----|
| 理事   | 安住 哲夫 | 郡山五中    | 県中  |
|      | 吉田 絢也 | 白河二中    | 県南  |
|      | 宗田 昌史 | 一箕中     | 会津  |
|      | 金賀 大  | 平三中     | いわき |
|      | 荒木 拓志 | なみえ創成中  | 相双  |
| 監事   | 小林 雅  | 湖南小中    | 県中  |
|      | 西郡美智広 | 上遠野中    | いわき |
|      | 山田 徹  | いたて希望の星 | 相馬  |
| 顧問   | 菊地 裕二 | 前会長     | 会津  |
| 事務局長 | 菅野 敏樹 | 渡利中     | 県北  |

#### (2) 第64回福島県中学校体育大会日程・会場

##### ◎ 陸上競技

| 競技種目 | 競技会場           | 期日            | 参加人数 |
|------|----------------|---------------|------|
| 陸上競技 | 郡山市ヒロセ開成山陸上競技場 | 7月5日(月)～7日(水) | 1294 |

##### ◎ 総合競技 6月30日(水)～7月18日(日) [1日目監督会議・一部競技]

| 競技種目     | 競技会場           | 期日：○印は競技日     |         |        |        | 参加人数 |
|----------|----------------|---------------|---------|--------|--------|------|
|          |                | 15日(木)        | 16日(金)  | 17日(土) | 18日(日) |      |
| 水泳       | 競泳             | 会津水泳場         | ○       | ○      | ○      | 384  |
|          | 飛び込み           | 郡山カルチャーパークプール | 7月5日(水) |        |        |      |
| 軟式野球     | あいづ球場          | ○             | ○       | ○      | 281    |      |
|          | BMI鶴沼球場        | ○             | ○       |        |        |      |
|          | 押切川後援野球場       | ○             |         |        |        |      |
|          | 下郷町大川ふるさと公園野球場 | ○             |         |        |        |      |
| ソフトボール   | 新舞子多目的運動場      | ○             | ○       | ○      | 255    |      |
| バスケットボール | あいづ総合体育館       | ○             | ○       | ○      | 431    |      |
| バレーボール   | 福島トヨタクラウンアリーナ  |               | ○       | ○      | 384    |      |
|          | あづま総合体育館       |               | ○       |        |        |      |
| ソフトテニス   | しらさかの森スポーツ公園   |               | ○       | ○      | 441    |      |
| バドミントン   | 安積総合学習センター     | ○             | ○       | ○      | 388    |      |
| サッカー     | Jヴィレッジ         | ○             | ○       | ○      | 271    |      |
|          | 広野町サッカー場       | ○             |         |        |        |      |
| ハンドボール   | 川俣町体育館         | ○             | ○       | ○      | 280    |      |
| 柔道       | 郡山西部第二体育館      | ○             | ○       | ○      | 354    |      |
| 卓球       | いわき市立総合体育館     |               |         | ○      | 279    |      |
| 剣道       | いわき市立総合体育館     | ○             | ○       |        | 338    |      |
| 別期日で開催   |                |               | 30日(水)  | 1日(木)  | 2日(金)  |      |
| 相撲       | 南相馬市相撲場        |               | ○       | ○      |        | 21   |
| 別期日で開催   |                |               | 20日(火)  | 21日(水) | 22日(木) |      |
| 新体操      | 宝来屋郡山市総合体育館    |               | ○       |        |        | 47   |
| 体操競技     | 宝来屋郡山市総合体育館    |               |         | ○      |        | 55   |

##### ◎ 駅伝競走・スケート・スキー競技

| 競技種目 | 競技会場                                | 期日                  | 開催地 |
|------|-------------------------------------|---------------------|-----|
| 駅伝競走 | 檜葉町総合グラウンド                          | 10月5日(火)～6日(水)      | 552 |
| スケート | 磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場                  | 12月10日(金) (高校と同日開催) | 2   |
| スキー  | 星野リゾート猫魔スキー場<br>尾瀬檜枝岐クロスカントリースキーコース | 令和4年1月12日(水)～14日(金) | 102 |

## 第4節 学校保健・学校安全

### 1 学校保健・学校安全研修会等

#### (1) 学校保健

| 事業名                           | 期 日                                                     | 会 場                                           | 参加人数                |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------|
| 養護教諭<br>5年経験<br>者 研 修         | 校内研修 (3日)<br>校外研修 (3日)<br>宿泊研修※日帰り<br>研修に変更<br>9月28日    | 学校の計画による<br>教育センター<br>教育センター                  | 23名                 |
| 養護教諭<br>中堅教諭<br>等 資 質<br>向上研修 | 校内研修 (4日以上)<br>校外研修 (6日以上)<br>宿泊研修※日帰り<br>研修に変更<br>8月3日 | 学校の計画による<br>各教育事務所の<br>計画による<br>教育センター        | 16名                 |
| 養護教諭<br>専門研修<br>講 座           | 隔年実施<br>令和3年度は実施<br>しない                                 |                                               |                     |
| 健康教育<br>推 進 者<br>研 修 会        | 10月4日<br>10月14日<br>11月25日                               | 下郷ふれあいセンター<br>田村市文化センター<br>中島村生涯学習セン<br>ター輝ら里 | 134名<br>179名<br>74名 |

#### (2) 学校安全

##### 学校安全指導者養成研修会

- ア 相双地区：令和3年10月8日（金）  
会 場：万葉ふれあいセンター  
参 加 者：65名
- イ 県北地区：令和3年10月27日（水）  
会 場：とうほう・みんなの文化センター  
参 加 者：159名

## 2 児童・生徒の健康管理費補助

### (1) 要保護児童生徒援助費補助金（医療費）

学校安全保健法第25条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

#### ア 県立学校

| 対象児童生徒数（人） |        | 設置者が援助した額（円） | 補助金<br>確定額（円） |
|------------|--------|--------------|---------------|
| 区 分        | 特別支援学校 |              |               |
| 要保護        | 0      | 0            | 0             |

#### イ 市町村立学校

| 対象児童生徒数（人） |     |     |        | 設置者が援助した額（円） | 補助金<br>確定額（円） |
|------------|-----|-----|--------|--------------|---------------|
| 区 分        | 小学校 | 中学校 | 特別支援学校 |              |               |
| 要保護        | 26  | 5   | 0      | 824,022      | 405,441       |

## 3 福島県学校保健会

### (1) 会員

- ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒  
イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

### (2) 財政

令和3年度予算額 4,259,661円

### (3) 事業概要

- ア 学校保健講習会の開催（県内20支部単位）  
イ 健康づくり推進学校表彰・学校保健功労者表彰・学校安全ボランティア奨励賞・感謝状贈呈  
ウ 各種研究大会、講習会等への派遣  
エ 刊行物の発行  
学校保健会報 第52号

## 4 独立行政法人日本スポーツ振興センター

### (1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の令和3年度の加入幼児児童生徒数は38,321人で、前年比に比べ1,945人減少した。

### (2) 災害共済給付状況

県立学校において、令和3年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では4,058件（令和2年度3,657件）、給付金額では38,351,982円である。

給付件数では401件増加、給付金額で8,561,765円減少した。

**(3) 令和3年度県立学校災害共済給付状況**

| 区分   | 医療費                     |            | 障害見舞金    |           | 死亡見舞金    |        | 供花料      |        | 合計               |            |
|------|-------------------------|------------|----------|-----------|----------|--------|----------|--------|------------------|------------|
|      | (発生件数)<br>給付件数          | 給付額        | 給付<br>件数 | 給付額       | 給付<br>件数 | 給付額    | 給付<br>件数 | 給付額    | (発生件数)<br>給付件数   | 給付額        |
| 幼稚園  | 件<br>(1)<br>1           | 円<br>2,363 | 件<br>0   | 円<br>0    | 件<br>0   | 円<br>0 | 件<br>0   | 円<br>0 | (1)<br>1         | 円<br>2,363 |
| 小学校  | (13)<br>19              | 25,489     | 0        | 0         | 0        | 0      | 0        | 0      | (13)<br>19       | 25,489     |
| 中学校  | (22)<br>48              | 575,132    | 0        | 0         | 0        | 0      | 0        | 0      | (22)<br>48       | 575,132    |
| 高等学校 | 全日制<br>(1,355)<br>3,954 | 28,930,228 | 2        | 8,280,000 | 0        | 0      | 0        | 0      | (1,355)<br>3,956 | 37,210,228 |
|      | 定時制<br>(13)<br>30       | 280,428    | 0        | 0         | 0        | 0      | 0        | 0      | (13)<br>30       | 280,428    |
|      | 通信制<br>(1)<br>4         | 258,342    | 0        | 0         | 0        | 0      | 0        | 0      | (1)<br>4         | 258,342    |
| 合計   | (1,405)<br>4,056        | 30,071,982 | 2        | 8,280,000 | 0        | 0      | 0        | 0      | (1,405)<br>4,058 | 38,351,982 |

**(4) 学校安全支援業務**

ア 各種研修会等への講師派遣

**第5節 学校給食**

**1 学校給食に関する研修会**

| 名称                            | 開催月日                              | 会場                                | 参加人数 |
|-------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------|
| 新規採用<br>学校栄養<br>職員研修          | 校内研修<br>各15日                      | 所属校・<br>勤務共同調理場                   | 2名   |
| 職員研修                          | 校外研修<br>地区別研修A<br>4日              | 教育事務所の計画に<br>よる                   |      |
|                               | 地区別研修B<br>3日                      |                                   |      |
|                               | 宿泊研修A                             | ※各所属校での動画<br>視聴・資料代替研修<br>に変更     |      |
|                               | 宿泊研修B※2泊3日<br>から1日に変更<br>9月1日     | 教育センター<br>※一部を各所属校での<br>資料代替研修に変更 |      |
| 学校栄養<br>職員5年<br>経験者研修         | 校内研修 2日                           | 所属校・<br>勤務共同調理場                   | 3名   |
| 校外研修※2泊3日<br>から1日に変更<br>9月21日 | 教育センター<br>※一部を各所属校での<br>資料代替研修に変更 |                                   |      |
| 学校栄養<br>職員専門<br>研修講座          | 職能研修Ⅱ※2泊3日<br>から1日に変更<br>9月15日    | 教育センター<br>※一部を各所属校での<br>資料代替研修に変更 | 2名   |

**2 学校給食用パン品質調査**

学校給食用パン品質を良化して、学校給食の食事内容の充実  
向上に役立たせるため実施した。

| 教育事務所 | 調査件数 |
|-------|------|
| 県北    | 4件   |
| 県中    | 15件  |
| 県南    | 7件   |
| 会津    | 2件   |
| 南会津   | 1件   |
| 相双    | 2件   |
| いわき   | 6件   |
| 県立学校  | 3件   |
| 合計    | 40件  |

### 3 食育等に関する研修会等

#### (1) 食習慣・肥満等の健康課題に対応する食育指導者研修会 及び福島県学校給食担当者会議

- 日 時：令和3年6月7日（月）～30日（水）
- オンデマンド研修会
- 参加者：102名

#### (2) ふくしまっ子の健康課題に対応する食環境を考える会

- 県北：令和3年11月9日（火）  
オンライン研修 168名参加
- 相双：令和3年11月17日（水）  
オンライン研修 118名参加
- いわき：令和3年11月22日（月）  
オンライン研修 154名参加

#### (3) ふくしまっ子栄養教室食育研修会

- 日 時：令和3年6月8日（火）
- 会 場：福島県環境創造センター
- 参加者：68名

#### (4) 栄養教諭食育推進研修会

- 県北：令和3年12月1日（水）  
二本松市立東和小学校 15名参加
- 県中（郡山・岩瀬）：令和3年11月11日（木）  
郡山市立富田東小学校 10名参加
- 県中（石川・田村）：令和3年11月10日（水）  
石川町立石川小学校 12名参加
- 会津・南会津：令和3年12月3日（金）  
南会津町立田島小学校 13名参加
- 相双・いわき：令和3年11月25日（木）  
飯舘村立いいたて希望の里学園 18名参加

### 4 学校給食関係の国庫助成実績

平成23年4月1日付け23文科施第3号文部科学大臣裁定「学校施設環境改善交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

令和3年度「学校施設環境改善交付金」（学校給食施設）

| 設置者名      | 交付額<br>(千円) | 学校または共同調理場名               | 事業名         | 児童生徒数<br>(人) | 構造<br>(区分)       | 対象<br>面積<br>(㎡) |
|-----------|-------------|---------------------------|-------------|--------------|------------------|-----------------|
| 福島県       | 13,073      | 伊達支援学校（Ⅱ期工事）              | 単独校調理場（新增築） | 92           | 鉄筋コンクリート造<br>(R) | 89              |
| 福島市       | 3,706       | 福島市立福島養護学校<br>(小・中)（Ⅲ期工事） | 単独校調理場（新增築） | 119          | 鉄筋コンクリート造<br>(R) | 18              |
|           | 3,503       |                           | 単独校調理場（改築）  |              |                  | 16              |
| 中島村       | 19,516      | 中島村学校給食センター<br>(Ⅱ期工事)     | 共同調理場（新增築）  | 418          | 鉄筋構造(S)          | 58              |
|           | 13,303      |                           | 共同調理場（改築）   |              |                  | 60              |
|           | 12,685      | 中島村学校給食センター<br>(99期工事)    | 共同調理場（新增築）  |              |                  | 39              |
|           | 8,640       |                           | 共同調理場（改築）   |              |                  | 40              |
| 会津<br>美里町 | 1,321       | 会津美里町学校給食センター<br>(Ⅱ期工事)   | 共同調理場（新增築）  | 1,254        | 鉄筋構造(S)          | 7               |
|           | 63,295      |                           | 共同調理場（改築）   |              |                  | 442             |
| 西郷村       | 24,080      | 西郷村学校給食センター<br>(Ⅰ期工事)     | 共同調理場（新增築）  | 1,710        | 鉄筋構造(S)          | 104             |
|           | 30,468      |                           | 共同調理場（改築）   |              |                  | 250             |
|           | 1,096       | 西郷村学校給食センター<br>(99期工事)    | 共同調理場（新增築）  |              |                  | 6               |



## 第9章 社会教育

### 第1節 概要

#### 1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、様々な課題が多様化、複雑化、専門化した現代において「人づくり」「地域づくり」に取り組む社会教育の役割の重要性を鑑み、震災後10年を迎える今、数々の現代的課題を乗り越える社会教育の在り方について考え、議論した。このことを社会教育委員の立場から、提言「コロナ禍、原発事故、水害、少子化・人口減などの現代的諸課題を乗り越える社会教育の在り方」としてまとめ、進捗状況を検証してきた。(第2章 第7節に記載)

#### 2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携・協力を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、互いの役割分担を明確に認識し、対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す「地域学校協働本部事業」を実施した。地域住民による学校支援を「学校を核とした地域づくり」に深化させていくために、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、地域と学校が双方向で連携・協働する活動の充実を図った。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するための支援を行い、教育環境の復興に努めた。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

#### 3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携や支援の届かない家庭へのアウトリーチ型支援等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

#### 4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されるこ

とが必要である。そのため、「福島県地域学校協働本部」を設置し、学校・家庭・地域の連携・協力の充実を図りながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりを推進した。また、子どもと大人が、共通の体験をとおして感動したことや共感したこと、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への想いや震災の記憶の継承などを日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七音で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

#### 5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動の充実や社会参加活動の促進に努めた。

#### 6 子どもの読書活動推進

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとする中高校生によるビブリオバトル福島県大会の開催や、子どもの発達段階や新しい生活様式を踏まえた読書活動の推進を図った。

#### 7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

#### 8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

##### (1) 事業1 ふくしまキッズパワーアップ事業

自然体験活動に加え福島ならではの多様な体験活動等とおして、心身の健康の維持向上を図るとともに、社会に貢献する意識を高め、主体的にふくしまの未来を切り拓く、たくましい子どもたちを育成するために「ふくしまキッズパワーアップ事業」を実施した。充実した自然体験活動や震災を学ぶ体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

##### (2) 事業2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが主体的に復興の発信や震災の教訓の継承等に寄与する社会体験活動を県内外で広く体験することで、子どもたちの「志」を育み、復興・地域創生の担い手を育成するため、「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

### (3) 事業3 心のケアが必要な子ども（不登校等）を対象とした自然体験事業

不登校等で不安を抱えている子どもたちを支援するために、自然の家を活用した自然体験活動や交流活動を継続的に提供した。

## 第2節 社会教育一般

### 1 社会教育推進体制の充実

#### (1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日 時 令和3年4月9日(金)

場 所 福島県教育センター

第2回 日 時 令和4年2月4日(金)

※オンライン開催

#### (2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

#### (3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

#### (4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

### 2 社会教育施設の整備充実

#### (1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実と同時に、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

#### (2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

県立図書館が市町村立図書館を22自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、5支援教育機関も巡回しその連携体制の強化に努めた。

#### (3) 災害復旧国庫補助事業

令和3年2月に発生した福島県沖を震源とする地震で被災した公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、8市町（計10施設）について災害査定等の事務を行った。

また、東日本大震災で被災した公立社会教育施設の補助金交付を未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行った。

さらに、令和4年3月に発生した福島県沖を震源とする地震で被災した公立社会教育施設について、情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

### 3 社会教育関係職員の研修

#### (1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和3年5月17日(月)、20日(木)

イ 会場 各勤務地（オンライン）

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 84名

オ 講師 福島復興公民館大学 実行委員長 矢吹 稔  
郡山女子大学 准教授 瀬谷 真理子  
斎川まちづくり協議会 事務長 佐藤 幸枝

#### (2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和3年8月10日(火)～11日(水)

イ 会場 各勤務地（オンライン）

ウ 参加対象 社会教育関係行政職員（公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員）、社会教育指導員等

エ 参加者数 40名

オ 講師 宮城県名取市那智が丘公民館長 菱沼 弘一  
地域連携推進員 木下 末也  
東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤  
公益財団法人星総合病院 法人子ども事業部  
大町キッズベース 所長 吉川 和夫

### 4 社会教育研究集会

(1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会  
一般社団法人全国社会教育委員連合

(2) 主管 南会津地区社会教育委員連絡協議会

(3) 後援 福島県教育委員会、南会津町・下郷町・檜枝岐村、只見町の各教育委員会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### 5 社会教育指導員の設置

#### (1) 設置数

(単位：人)

|          | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計   |
|----------|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 社会教育指導員数 | 33 | 17 | 13 | 53 | 8   | 13 | 6   | 143 |



## (2) 福島県市町村社会教育指導員研修会（年2回）

### ア 第1回

(ア) 期日 令和3年5月13日(木)

(イ) 会場 郡山市立中央公民館

(ウ) 参加者数 56名

### イ 第2回

(ア) 期日 令和3年10月1日(金)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 6 社会教育主事の市町村派遣

※平成22年度より派遣していない。

## 7 社会教育研修会

### (1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

### (2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

### (3) 期日・会場

| 域内  | 期日     | 実施市町村等 | 参加者 |
|-----|--------|--------|-----|
| 県中  | 7月7日   | 古殿町    | 4名  |
| 県南  | 6月29日  | 泉崎村    | 17名 |
|     | 6月30日  | 矢吹町    | 13名 |
|     | 7月29日  | 中島村    | 12名 |
| 会津  | 10月13日 | 湯川村    | 15名 |
|     | 12月8日  | 昭和村    | 6名  |
|     | 12月20日 | 磐梯町    | 6名  |
| 南会津 | 7月7日   | 只見町    | 19名 |
| 相双  | 9月29日  | 富岡町    | 11名 |
|     | 10月26日 | 檜葉町    | 6名  |
|     | 11月29日 | 双葉町    | 8名  |

合計 11か所 参加者 117名

## 8 福島県公民館研究集会

(1) 期日 令和3年10月13日(水) ※オンライン開催

(2) 参加対象 公民館職員等

## 9 社会教育職員研修派遣

### (1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日 令和3年6月10日(木)～8月12日(木)

ウ 受講者数 22名

### (2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和3年7月26日(月)～8月23日(月)

b B講習 令和4年1月24日(月)～2月21日(月)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 1名

イ 専門講座等

| 講座名       | 期間            | 受講者数 |
|-----------|---------------|------|
| 公民館職員専門講座 | 6月3日(木)～8日(火) | 0    |

## 10 出版資料

| 資料名         | 部門   | 規格 | 頁数 | 広報手段  |
|-------------|------|----|----|-------|
| 社会教育 No.342 | 社会教育 | A4 | 10 | Web掲載 |

## 第3節 地域コミュニティの再生

### 1 地域学校協働本部事業

#### (1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校と地域が相互に連携・協力を進めるとともに、互いの役割を明確に認識し対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す。

#### (2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回 令和3年9月 ※書面開催

第2回 令和3年12月 ※資料送付・動画配信による開催

第3回 令和4年2月 ※書面開催

イ 推進委員会の開催

第1回 令和3年9月 ※書面開催

第2回 令和4年2月 ※書面開催

ウ 地域学校協働研修会の実施

期日：令和4年1月28日(金)

オンライン開催 46名参加

講演：宮城教育大学学長付特任教授 野澤 令昭

エ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

期日：令和4年2月2日(水)

オンライン開催 89名参加

実践発表：国見町、田村市、西会津町、広野町

基調講演：「地域と共につくる学びと生きがいの

ステーションづくり」

公益財団法人星総合病院

法人子ども事業部

大町キッズベース 所長 吉川 和夫

#### (3) 市町村事業

23の市町村(国見町、二本松市、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、西郷村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、南会津町、下郷町、只見町)に21の地域学校協働本部が設置され実施した。

## 2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

### (1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

### (2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集  
資料収集件数 14,646 件（累計）
- イ 被災地区図書館支援事業  
移動図書館（あづま号）による資料貸出  
稼働 19 回 貸出 3,150 冊  
（開催場所 飯館村、楡葉町ほか 計 22 か所）

## 第4節 家庭教育

### 1 地域でつながる家庭教育応援事業

#### (1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進するとともに、地域の実情に即して、学校や地域、行政機関や福祉機関と連携しながら、子育てや家庭教育を応援する「家庭教育支援チーム」の設置を促進した。

#### (2) 家庭教育応援プロジェクト

- ア 福島県地域家庭教育推進協議会  
第1回 令和3年6月 ※書面開催  
第2回 令和4年2月 ※書面開催
- イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議  
各教育事務所域内（7地区）  
4地区 2回 実施（6月～12月）  
1地区 1回 実施（6月）  
1回 書面開催（9月～2月）  
2地区 2回 書面開催（6月～1月）
- ウ 家庭教育応援企業推進活動  
連携企業数  

|       |      |                 |
|-------|------|-----------------|
| 県北地区  | 2社   | (191社)          |
| 県中地区  | 7社   | (253社)          |
| 県南地区  | 0社   | (73社)           |
| 会津地区  | 8社   | (155社)          |
| 南会津地区 | 0社   | (66社)           |
| 相双地区  | 0社   | (10社)           |
| いわき地区 | 138社 | (270社)          |
| 計     | 155社 | (1,018社) ※( )累計 |
- エ 親子の学び応援講座

#### 【県北地区】

- ・福島市小中学校PTA連合会 21名  
令和3年11月27日(土)  
「子どもたちのネットメディアの利用における現状と危険性について」  
医療創生大学心理学部 教授 中尾 剛
- ・福島市小中学校PTA連合会 74名  
令和4年1月29日(土)  
「『家庭教育は子どもの「生きる力」を育む原点』～メディア社会だからこそ大切にしたい親子のコミュニケーション～」  
親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

#### 【県中地区】

- ・須賀川市立長沼幼稚園PTAほか 70名  
令和3年11月5日(金)  
「おやこでいっしょにリトミック」  
NPO法人福島県音楽療法士協会理事長 認定療法士 齋藤 由香  
国際ビジネス公務員大学校こども保育分野学科長 國分 千恵
- ・田村市立常葉小学校・常葉中学校PTA 177名  
令和3年12月1日(水)  
「ネット、ゲームとの上手なつきあい方」  
前福島県立矢吹病院副院長 けやき心の発達診療所 所長 角田 智哉

#### 【県南地区】

- ・棚倉町立高野小学校PTA 79名  
令和3年7月9日(金)  
「ネット、ゲームとの上手なつきあい方」  
前福島県立矢吹病院副院長 けやき心の発達診療所 所長 角田 智哉
- ・矢吹町立三神小学校PTA 60名  
令和3年11月19日(金)  
「ゲーム依存症から考えるメディアコントロール」  
前福島県立矢吹病院副院長 けやき心の発達診療所 所長 角田 智哉
- ・塙町立塙小学校父母と教師の会 173名  
令和3年11月30日(火)  
「『親業』-数値化できない力を育む～大切なのは、家庭内でのコミュニケーション」  
親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

#### 【会津地区】

- ・柳津町立会津柳津学園中学校PTA 112名  
令和3年7月3日(土)  
「ソーシャルメディア・スマートフォン利用の光と影」  
会津大学 情報セキュリティ学講座 上級准教授 中村 章人
- ・会津若松市立第六中学校PTA 110名  
令和3年7月13日(火)  
「スマホ・ネットと上手につきあうために」

会津大学短期学部 産業情報学科 教授 中澤 真  
**【南会津地区】**  
 ・南会津町立田島第二小学校 P T A 80名  
 令和3年6月25日(金)  
 「メディアコントロール  
 ～スマホ・ネットと上手につきあうために～」  
 会津大学短期学部 産業情報学科 教授 中澤 真

**【相双地区】**  
 ・南相馬市立大甕小学校 P T A 79名  
 令和3年6月25日(金)  
 「子育てに生かすアンガーマネジメント」  
 特定非営利活動法人「きぼう」副理事長 新妻 直恵

**【いわき地区】**  
 ・いわき市立久之浜第一小学校 P T A 120名  
 令和3年7月8日(木)  
 「情報モラルについて考えよう！  
 ～インターネットの危険から身を守るために～」  
 医療創生大学心理学部 教授 中尾 剛  
 ・いわき市立内郷第三中学校 P T A ほか 39名  
 令和3年11月26日(金)  
 「ネット社会に潜む危険と、子どもたちを守るための保護者の関わり」  
 いわきメディア指導員 柳沼 広美

### (3) 家庭教育応援リーダー育成事業

ア 家庭教育支援者全県研修  
 令和3年9月13日(月)～30日(木)  
 オンデマンド研修(You Tube)  
 講演  
 「思春期危機を乗り越えるには～折れない心の育て方～」  
 針生ヶ丘病院 公認心理師・精神保健福祉士 大森 洋亮  
 講義① 愛着障がい  
 「愛着障がいの理解と支援  
 ～子どもをつなぐ心の絆づくり～」  
 和歌山大学教育学部教授 米澤 好史  
 講義② メディア  
 「ネット・ゲームとの上手なつきあい方」  
 前福島県立矢吹病院副院長 けやき心の発達診療所  
 所長 角田 智哉  
 講義③ 発達障がい  
 「特別な支援が必要な子ども達への支援の仕方」  
 福島県特別支援教育センター主任指導主事 加藤 賢一

イ 家庭教育支援者地区別研修 6地区 206名

**【県北地区】**  
 令和3年11月18日(木) 福島県青少年会館 28名  
 講義「みんなで考えよう、スマートフォン  
 ～スマホトラブル、うちの子だけは大丈夫？」  
 N P O 法人企業教育研究会 市野 敬介  
 演習「メディア社会における親子のコミュニケーションについて」  
 N P O 法人企業教育研究会 市野 敬介

**【県中地区】**

令和3年12月4日(土) 郡山市労働福祉会館 38名  
 活動紹介「kokoyori」の取組について  
 kokoyori代表 熊田 ひろみ  
 講話「ペアレント・トレーニング」を学ぶ  
 郡山市家庭教育を支援する会 圓谷 円  
 講演「インターネット・スマホ 子どもにどう使わせる？」  
 会津大学短期大学部 産業情報学科 経営情報コース  
 教授 中澤 真

**【県南地区】**  
 令和4年2月25日(金) 白河合同庁舎 20名  
 オンライン・サテライト開催  
 講演「ペアレント・トレーニング」を学ぶ  
 郡山市教育委員会生涯学習課社会教育指導員  
 圓谷 円

**【会津地区】**  
 令和3年11月18日(木) 会津若松市北会津公民館 55名  
 講義・演習  
 「子どもが学校に行けなくなった時の支援  
 ～家族療法を支援に活かす～」  
 公認心理師 新潟県新潟市スクールカウンセラー  
 佐藤 真奈美

**【南会津地区】**  
 令和3年11月13日(土) 下郷ふれあいセンター 53名  
 親子で体験(コース選択制)  
 コース①「世界に一つだけの『鳥笛』をつくろう」  
 株式会社マストロ・ジュペット 渡部 安衣  
 コース②「パラリンピック種目『ボッチャ』に挑戦しよう」  
 南会津町社会教育指導員 向後 集平  
 講演「12年目を迎えた“もも”活動  
 ～過去と未来の分岐点～」  
 喜多方市家庭教育支援チームもも代表 幸田 久美子

**【相双地区】**  
 令和3年11月6日(土) 南相馬市鹿島農村環境改善  
 センター(万葉ふれあいセンター) 12名  
 講義・演習「脳神経学からアプローチする子育て」  
 健康生活向上コーディネーター  
 KO-JIYA代表 大内 克泰

**【いわき地区】**  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 第5節 青少年教育

### 1 福島県地域学校協働本部

#### (1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

## (2) 内容

### ア 県本部の設置

#### (ア) 構成

- ・本部長（政策監）
- ・副本部長（教育総務課長）
- ・事務局長（社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

#### (イ) 内容

- ・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等（以下「ボランティア」という。）の登録促進に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関する事
- ・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

### イ 地域本部の設置

#### (ア) 構成

- ・本部長（教育事務所長）
- ・副本部長（次長兼総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

#### (イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関する事
- ・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事
- ・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整に関する事
- ・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関する事

### ウ 市町村本部の設置

#### (ア) 構成

- ・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。
- ・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

#### (イ) 内容

- ・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関する事
- ・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関する事
- ・域内各学校との連携に関する事

### エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

#### (ア) 構成

- ・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。
- ・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

#### (イ) 内容

- ・学校と地域が連携した取組の調整に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関する事

ること

- ・学校と地域が連携した取組の充実に関する事
- ・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関する事

### オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理

学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び人材の登録を行う。

## 2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

### (1) 目的

日常生活や自然・社会体験活動などの共通体験を通して感じた思いや願い、震災を乗り越えてきた体験や、ふくしまへの想いなどについて、子どもと大人あるいは子ども同士のペアで、十七音で綴った作品を県内外から募集し、広く発信することで、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

### (2) 内容

ア 応募期間 令和3年6月14日(月)～8月31日(火)

イ 応募総数 42,953組

ウ 第一次審査 令和3年9月16日(木)～29日(水)

エ 第二次審査 令和3年10月20日(水)自治会館

オ 最終審査 令和3年11月4日(木)自治会館

カ 表彰式 令和3年12月11日(土)  
キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)

キ 入賞数 絆部門・ふるさと部門  
最優秀賞各5組、優秀賞各5組、  
佳作各10組

ク ワークショップ

(ア) 福島市開催 令和3年7月14日(水)  
福島市立福島第一小学校

講師 一般社団法人HAMADOORI13 代表理事 吉田 学  
参加者 20名

(イ) 福島市開催 令和3年12月11日(土)

キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)  
講師 新地町教育委員会教育長 佐々木 孝司  
参加者 41名

### (3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、社会教育課 Twitter に掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、全応募者、後援団体等への作品集配布や社会教育課 Twitter、県庁パネル展示等により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

## 第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

## 第7節 子どもの読書活動推進

### 1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

#### (1) 福島県子ども読書活動推進会議

【第1回】令和3年6月23日(水)

県立図書館 3階 第1研修室

【第2回】令和4年2月8日(火) (書面開催)

ア 目的

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

| 氏名    | 職業等              | 区分                 |
|-------|------------------|--------------------|
| 高野 保夫 | 国立大学法人福島大学名誉教授   | 学識経験者              |
| 佐藤 千花 | 福島県高等学校PTA連合会副会長 | 社会教育関係者            |
| 古川 次男 | 福島県学校図書館協議会長     | 学校図書館関係者           |
| 籠田まき子 | 小野町ふるさと文化の館副主幹   | 公立図書館等関係者          |
| 武田 繁子 | 家庭教育インストラクター     | 家庭教育関係者            |
| 藍原恵美子 | NPO法人夢ネットワーク理事長  | 読書活動に係るボランティア団体関係者 |
| 桑原 真希 | 平田村立ひらたこども園保育教諭  | 保育所・幼稚園等の関係者       |

#### (2) 読書活動支援者育成事業

【県北地区】 令和3年12月5日(日)

自治会館 受講者 36名

【県中地区】 令和3年6月24日(木)

郡山市労働福祉会館 受講者 40名

【県南地区】 令和3年12月1日(水)

矢吹町複合施設 KOKOTTO 受講者 42名

【会津地区】 令和3年10月20日(水)

じげんプラザ(会津美里町) 受講者 52名

【南会津地区】 令和3年8月5日(木)

御蔵入交流館(南会津町) 受講者 50名

【相双地区】 令和3年9月3日(金)

環境放射線センター(三春町) 受講者 28名

【いわき地区】 令和3年7月2日(金)

いわき市文化センター 受講者 60名

#### (3) 子供の読書活動の推進委託事業

「世界と未来を変える読書の力

～新しい生活様式と読書～」

期日 令和3年12月19日(日)

場所 とうほう・みんなの文化センター 受講者 59名  
内容

乳幼児期における読書活動推進のために

講演 「新しい生活様式と家読・読み聞かせについて」

平田村立ひらたこども園保育教諭 桑原 真希

小学校期における読書活動推進のために

講義・演習 「新しい生活様式とブックトークについて」

本宮市立しらさわ夢図書館副館長兼専門司書

柳沼 志津子

中高校期における読書活動推進のために

講義・演習 「新しい生活様式とビブリオバトルについて」

福島県立小野高校教諭 古川 真

元小野町地域おこし協力隊 宍戸 佳織里

パネルディスカッション

「新しい生活様式とこれからの読書」

コーディネーター

福島大学名誉教授 高野 保夫

パネリスト 福島県立図書館専門司書 鈴木 史徳

平田村立ひらたこども園保育教諭 桑原 真希

元小野町地域おこし協力隊 宍戸 佳織里

#### (4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

期日 令和3年11月20日(土)

場所 とうほう・みんなの文化センター

参加者 発表者 22名(中学生 17名、高校生 5名)

観戦者 162名

【中学生の部】

優勝 西会津町立西会津中学校 折笠 遙南

「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」

準優勝 いわき市立錦中学校 榎本 明希

「スガリさんの感想文はいつだって斜め上」

優秀賞 白河市立表郷中学校 岡部 結菜

「神のダイスを見上げて」

玉川村立玉川中学校 有賀 きらり

「夢をかなえるゾウ4 ガネーシャと死神」

【高校生の部】

優勝 福島県立会津農林高等学校 尾崎 海斗

「左手一本のシュート」

準優勝 福島県立磐城桜が丘高等学校 三戸 愛結

「麦本三步の好きなもの」

優秀賞 福島県立田村高等学校 会田 楓輝

「あした死ぬかもよ？」

福島県立白河高等学校 佐藤 光翼

「優しい死神の飼い方」

福島県立福島明成高等学校 二瓶 愛華

「妻を殺してもバレない確率」

## 第8節 ユネスコ活動

### 1 ユネスコ協会事務局一覧

| 協会名          | 会長名     | 事務局                             | 事務局長   | 設立年月日     |
|--------------|---------|---------------------------------|--------|-----------|
| 須賀川地方ユネスコ協会  | 八木沼 智恵子 | 須賀川市教委生涯学習スポーツ課内<br>須賀川市八幡町135  | 河村 朝子  | S46.9.13  |
| いわきユネスコ協会    | 佐久間 静子  | いわき市教委生涯学習課内<br>いわき市堂根町4-8      | 沢 宏一   | S51.10.23 |
| 郡山ユネスコ協会     | 倉又 晴男   | 学校法人尚志学園高等学校内<br>郡山市大槻町字垣ノ腰2    | 橋本 裕   | S53.1.24  |
| 白河ユネスコ協会     | 小野 利廣   | 白河市教委生涯学習スポーツ課内<br>白河市八幡小路7-1   | 近内 友明  | S53.11.19 |
| 福島ユネスコ協会     | 黒澤 宜昭   | 福島市中央学習センター内<br>福島市松木町1-7       | 宗川 孝   | S55.7.19  |
| 会津ユネスコ協会     | 吉田 幸代   | 会津若松市教委生涯学習センター内<br>会津若松市栄町3-50 | 石田 明夫  | S55.11.16 |
| 郡山次世代ユネスコ協会  | 大本 研二   | 学校法人こおりやま東都学園本部気付<br>郡山市函景2-9-3 | 鈴木 秀太郎 | H28.1.16  |
| 福島県ユネスコ連絡協議会 | 吉田 幸代   | 福島市笹木野字中西表60-6<br>近野元洋宅         | 近野 元洋  | S56.12.5  |

### 2 福島県ユネスコ活動研修会

令和3年9月28日(火) いわき市 中央台公民館

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

### 1 ふくしまキッズパワーアップ事業

#### (1) 内容

対象者 福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

対象期間 令和3年4月9日(金)～令和4年2月28日(月)

実施内容 ア 小中学生を対象とした宿泊を伴う自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

イ 社会教育団体が行う小中学生を対象とした長期宿泊型(3泊4日以上)の自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

補助について ①活動費、②交通費、③宿泊費について、補助対象経費の80%以内か100万円の低い方

#### (2) 実績

ア 小・中学校自然体験活動支援事業

件数：122件 参加者：6,389名 (うち 子ども5,782名)

イ 社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：0件 参加者：0名 (うち 子ども0名)

### 2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

#### (1) 内容

事業1 元気を届ける交流・体験事業

事業2 今を知り思いを伝える事業

#### (2) 実績

応募団体 24団体

採択団体 23団体

補助金額 17,299千円

### 3 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

#### (1) 内容

対象者 県内の不登校等で不安を抱えている子ども及び引率者等

対象期間 令和3年5月11日(火)～令和4年2月28日(月)

実施内容 県内3自然の家(郡山・会津・いわき)を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然体験活動や交流体験活動等を実施する。

#### (2) 実績

##### ○郡山自然の家

| 実施日       | 主な内容              | 参加者数         |
|-----------|-------------------|--------------|
| 6月4日(金)   | 自然散策、室内サーキット等     | 児童生徒、保護者 11名 |
| 10月22日(金) | 野外炊飯、フィールドアスレチック等 | 児童生徒、保護者 20名 |
| 11月20日(土) | お菓子作り体験等          | 児童生徒、保護者 16名 |
| 12月12日(日) | お菓子の家づくり活動等       | 児童生徒、保護者 34名 |

##### ○会津自然の家

| 実施日       | 主な内容                 | 参加者数       |
|-----------|----------------------|------------|
| 6月9日(水)   | 魚釣り、アスレチック           | 児童、保護者 9名  |
| 6月11日(金)  | 魚釣り、ボルダリング、カヌー       | 児童、保護者 11名 |
| 6月29日(火)  | アスレチック、野外炊飯等         | 児童、保護者 13名 |
| 10月31日(日) | 森の散策、キーホルダー作り        | 児童、保護者 10名 |
| 11月13日(土) | ボッチャ、手作りパイ作り         | 児童、保護者 10名 |
| 11月27日(土) | 蕎麦打ち体験、落ち葉スタンプTシャツ作り | 児童、保護者 10名 |

##### ○いわき海浜自然の家

| 実施日       | 主な内容                 | 参加者数          |
|-----------|----------------------|---------------|
| 7月9日(金)   | 磯遊び、ネイチャーゲーム、クラフト活動等 | 児童生徒、スタッフ 15名 |
| 10月15日(金) | ハイキング活動等             | 児童生徒、スタッフ 17名 |

## 第10節 公民館等社会教育施設

### 1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

#### (1) 図書館の設置状況

##### ア 県立

| 名称      | 所在地        | 電話番号         | 設置者 |
|---------|------------|--------------|-----|
| 福島県立図書館 | 福島市森合字西養山1 | 024-535-3220 | 福島県 |

##### イ 市町村立

| 名称            | 所在地              | 電話番号         | 設置者  |
|---------------|------------------|--------------|------|
| 福島市立図書館       | 福島市松木町1-1        | 024-531-6551 | 福島市  |
| 福島市西口ライブラリー   | 福島市三河南町1-20      | 024-525-4023 | 福島市  |
| 福島市子どもライブラリー  | 福島市早稲町1-1(こむこむ内) | 024-526-4200 | 福島市  |
| 伊達市立図書館       | 伊達市箱崎字川端7        | 024-551-2132 | 伊達市  |
| 二本松市立二本松図書館   | 二本松市本町1丁目102番地   | 0243-23-5082 | 二本松市 |
| 二本松市立岩代図書館    | 二本松市小浜字藤町242番地   | 0243-55-3255 | 二本松市 |
| しらさわ夢図書館      | 本宮市白岩字堤崎500      | 0243-44-2112 | 本宮市  |
| 郡山市中央図書館      | 郡山市麓山一丁目5-25     | 024-923-6601 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館田村分館  | 郡山市田村町岩作字穂多礼40-3 | 024-955-3842 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館喜久田分館 | 郡山市喜久田堀之内字下河原1   | 024-959-2205 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館緑ヶ丘分館 | 郡山市緑ヶ丘東三丁目1-21   | 024-944-0001 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館日和田分館 | 郡山市日和田町字小堰23-4   | 024-958-2352 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館三穂田分館 | 郡山市三穂田町字東屋敷6     | 024-953-2820 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館中田分館  | 郡山市中田町下枝字大平358   | 024-973-2951 | 郡山市  |

| 名 称             | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者   |
|-----------------|----------------------|--------------|-------|
| 郡山市中央図書館西田分館    | 郡山市西田町三丁目桜内 259      | 024-972-2807 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館大槻分館    | 郡山市大槻町字中前田 56        | 024-951-1512 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館熱海分館    | 郡山市熱海町熱海二丁目 15-1     | 024-984-2679 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館湖南分館    | 郡山市湖南町福良字家老 9390-4   | 024-983-2543 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館富田分館    | 郡山市東三丁目 84 番地        | 024-951-0260 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館逢瀬分館    | 郡山市逢瀬町多田野字南原 3 番地    | 024-957-2417 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館片平分館    | 郡山市片平町字南 7-2         | 024-957-5730 | 郡山市   |
| 郡山市希望ヶ丘図書館      | 郡山市希望ヶ丘 1-5          | 024-961-1600 | 郡山市   |
| 郡山市安積図書館        | 郡山市安積一丁目 38          | 024-946-8850 | 郡山市   |
| 郡山市富久山図書館       | 郡山市富久山町福原字泉崎 181-1   | 024-921-0030 | 郡山市   |
| 須賀川市中央図書館       | 須賀川市中町 4-1           | 0248-75-3309 | 須賀川市  |
| 須賀川市長沼図書館       | 須賀川市長沼字金町 85         | 0248-67-2138 | 須賀川市  |
| 須賀川市岩瀬図書館       | 須賀川市柱田字中地前 22        | 0248-65-3549 | 須賀川市  |
| 鏡石町図書館          | 鏡石町旭町 440-6          | 0248-62-1288 | 鏡石町   |
| 天栄村生涯学習センター内図書室 | 天栄村大字下松本字原畑 66       | 0248-82-2504 | 天栄村   |
| 石川町立図書館         | 石川町字関根 165           | 0247-26-9136 | 石川町   |
| 浅川町立あさかわ図書館     | 浅川町大字箕輪字山敷田 75       | 0247-36-2900 | 浅川町   |
| 古殿町図書館          | 古殿町大字松川字横川 235       | 0247-53-2305 | 古殿町   |
| 三春町民図書館         | 三春町字大町 12-1          | 0247-62-3375 | 三春町   |
| 小野町ふるさと文化の館・図書館 | 小野町大字小野新町字中通 2       | 0247-72-2120 | 小野町   |
| 田村市図書館          | 田村市船引町船引字扇田 19       | 0247-82-1001 | 田村市   |
| 田村市図書館滝根分館      | 田村市滝根町神俣字町 48-1      | 0247-78-2001 | 田村市   |
| 田村市図書館大越分館      | 田村市大越町上大越字元池 87 番地 5 | 0247-79-2161 | 田村市   |
| 田村市図書館常葉分館      | 田村市常葉町常葉字町裏 1        | 0247-77-2013 | 田村市   |
| 田村市図書館都路分館      | 田村市都路町古道字本町 33-4     | 0247-75-2063 | 田村市   |
| 白河市立図書館         | 白河市道場小路 96-5         | 0248-23-3250 | 白河市   |
| 白河市立表郷図書館       | 白河市表郷金山字長者久保 2       | 0248-32-4784 | 白河市   |
| 白河市立東図書館        | 白河市東釜字字狐内 47         | 0248-34-1130 | 白河市   |
| 白河市立大信図書館       | 白河市大信町屋字沢田 25        | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 矢吹町図書館          | 矢吹町本町 165            | 0248-44-3595 | 矢吹町   |
| 泉崎図書館           | 泉崎村大字泉崎字館 24-9       | 0248-53-4779 | 泉崎村   |
| 棚倉町立図書館         | 棚倉町大字棚倉字棚倉字森町 21-1   | 0247-33-4342 | 棚倉町   |
| 塙町立図書館          | 塙町大字塙字栄町 68-6        | 0247-43-0808 | 塙町    |
| 矢祭もったいない図書館     | 矢祭町大字東館字石田 25        | 0247-46-4646 | 矢祭町   |
| 鮫川村図書館          | 鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-2    | 0247-29-1150 | 鮫川村   |
| 会津若松市立会津図書館     | 会津若松市栄町 3-50         | 0242-22-4711 | 会津若松市 |
| 猪苗代町図書館歴史情報館    | 猪苗代町字古城町 132-2       | 0242-23-7855 | 猪苗代町  |
| 喜多方市立図書館        | 喜多方市字柳原 7503-1       | 0241-22-1855 | 喜多方市  |
| 会津美里町図書館        | 会津美里町字新布才地 1         | 0242-54-2911 | 会津美里町 |
| 南会津町図書館         | 南会津町田島字宮本東 22        | 0241-62-5522 | 南会津町  |
| 相馬市図書館          | 相馬市中村字塚ノ町 65-16      | 0244-37-2630 | 相馬市   |
| 新地町図書館          | 新地町谷地小屋字樋掛田 40-1     | 0244-62-5031 | 新地町   |
| 南相馬市立中央図書館      | 南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1    | 0244-23-7789 | 南相馬市  |
| 南相馬市立鹿島図書館      | 南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1    | 0244-46-5116 | 南相馬市  |
| 南相馬市立小高図書館      | 南相馬市小高区本町二丁目 89-1    | 0244-44-3049 | 南相馬市  |
| 飯館村交流センター       | 飯館村草野字大師堂 17         | 0244-42-0072 | 飯館村   |
| 浪江町図書館（休館中）     | 浪江町権現堂字矢沢町 6-1       | 0240-34-3941 | 浪江町   |
| 葛尾村村民会館図書室      | 葛尾村大字落合字落合 16        | 0240-29-2008 | 葛尾村   |
| 双葉町図書館（休館中）     | 双葉町大字長塚字鬼木 1         | 0240-33-4214 | 双葉町   |



| 名 称           | 所 在 地             | 電話番号         | 設置者  |
|---------------|-------------------|--------------|------|
| 大熊町図書館（休館中）   | 大熊町大字下野上字大野 669-3 | 0240-32-3011 | 大熊町  |
| 富岡町図書館        | 富岡町大字本岡字王塚 622-1  | 0240-21-3665 | 富岡町  |
| いわき市立いわき総合図書館 | いわき市平字田町 120      | 0246-22-5552 | いわき市 |
| いわき市立内郷図書館    | いわき市内郷綴町榎下 40-1   | 0246-45-1030 | いわき市 |
| いわき市立小名浜図書館   | いわき市小名浜愛宕上 7-2    | 0246-54-9257 | いわき市 |
| いわき市立常磐図書館    | いわき市常磐関船町作田 1-1   | 0246-44-6218 | いわき市 |
| いわき市立勿来図書館    | いわき市植田町南町一丁目 2-2  | 0246-62-7431 | いわき市 |
| いわき市立四倉図書館    | いわき市四倉町字東一丁目 50   | 0246-32-5980 | いわき市 |

#### ウ 法人

| 名 称        | 所 在 地            | 電話番号         | 設置者    |
|------------|------------------|--------------|--------|
| クローバー子供図書館 | 郡山市開成 6 丁目 346-1 | 024-932-2118 | 公益財団法人 |

## (2) 博物館の設置状況

### ア 登録博物館

| 名 称                  | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者            | 種別    | 登録年月日      |
|----------------------|----------------------|--------------|----------------|-------|------------|
| 福島県立美術館              | 福島市森合字西養山 1          | 024-531-5511 | 福島県            | 美術博物館 | 59.7.16    |
| 福島県立博物館              | 会津若松市城東町 1-25        | 0242-28-6000 | 福島県            | 総合博物館 | 61.11.28   |
| 須賀川市立博物館             | 須賀川市池上町 6            | 0248-75-3239 | 須賀川市           | 歴史博物館 | 46.7.10    |
| いわき市立美術館             | いわき市平字堂根町 4-4        | 0246-25-1111 | いわき市           | 美術博物館 | 59.9.3     |
| 郡山市立美術館              | 郡山市安原町字大谷地 130-2     | 024-956-2200 | 郡山市            | 美術博物館 | 平 5.1.20   |
| 南相馬市博物館              | 南相馬市原町区牛来字出口 194     | 0244-23-6421 | 南相馬市           | 総合博物館 | 平 8.5.9    |
| 野口英世記念館              | 猪苗代町大字三ツ和字前田 81      | 0242-85-7867 | (公財)野口英世記念会    | 歴史博物館 | 29.10.21   |
| 会津民俗館                | 猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1    | 0242-65-2600 | 会津民俗館          | 歴史博物館 | 55.10.3    |
| 白虎隊記念館               | 会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33  | 0242-24-9170 | (一財)白虎隊記念館     | 歴史博物館 | 63.6.30    |
| 奥会津博物館               | 南会津町糸沢字西沢山 3692-20   | 0241-66-3077 | 南会津町           | 歴史博物館 | 平 21.6.16  |
| 諸橋近代美術館              | 北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23 | 0241-37-1088 | (公財)諸橋近代美術館    | 美術博物館 | 平 11.8.17  |
| 藤田記念博物館              | 白河市二番町 46-1          | 0248-24-1780 | (公財)藤田教育振興会    | 美術博物館 | 54.9.1     |
| CCGA 現代グラフィックアートセンター | 須賀川市塩田宮田 1           | 0248-79-4811 | (公財)DNP 文化振興財団 | 美術博物館 | 平 25.12.25 |

### イ 博物館相当施設

| 名 称           | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者          | 種別    | 指定年月日      |
|---------------|-----------------------|--------------|--------------|-------|------------|
| やないづ町立齋藤清美術館  | 柳津町柳津字下平乙 187         | 0241-42-3630 | 柳津町          | 美術博物館 | 平 11.9.28  |
| 龍が城美術館（休館中）   | いわき市平字旧城跡 27-1        | 0246-22-1601 | (一財)白龍会      | 美術博物館 | 30.2.10    |
| 会津武家屋敷会津歴史資料館 | 会津若松市東山町大字石山字院内 1     | 0242-28-2525 | (株)会津武家屋敷    | 歴史博物館 | 56.11.25   |
| 安積歴史博物館       | 郡山市開成 5-25-63         | 024-938-0778 | (公財)安積歴史博物館  | 歴史博物館 | 59.9.8     |
| 磐梯山噴火記念館      | 北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36    | 0241-32-2888 | (株)ゴールドハウス目黒 | 科学博物館 | 平 5.7.1    |
| 會津藩校日新館       | 会津若松市河東町南高野字高塚山 10 番地 | 0242-75-2525 | (株)会津武家屋敷    | 歴史博物館 | 平 12.11.28 |
| はじまりの美術館      | 猪苗代町新町 4873           | 0242-62-3454 | (福)安積愛育園     | 美術博物館 | 平 28.12.6  |

### ウ 類似施設

| 名 称               | 所 在 地           | 電話番号         | 設置者 |
|-------------------|-----------------|--------------|-----|
| ふくしま海洋科学館         | いわき市小名浜字辰巳町 50  | 0246-73-2525 | 福島県 |
| 福島県文化財センター白河館     | 白河市白坂一里段 86     | 0248-21-0700 | 福島県 |
| 福島県歴史資料館          | 福島市春日町 5-54     | 024-534-9195 | 福島県 |
| ふれあい歴史館（福島市資料展示室） | 福島市松山町 39-1     | 024-563-7858 | 福島市 |
| 福島市民家園            | 福島市上名倉字大石前地内    | 024-593-5249 | 福島市 |
| 福島市古閑裕而記念館        | 福島市入江町 1-1      | 024-531-3012 | 福島市 |
| 福島市写真美術館          | 福島市森合町 11-36    | 024-523-1201 | 福島市 |
| 宮畑遺跡史跡公園体験学習施設    | 福島市岡島字宮田 78     | 024-573-0015 | 福島市 |
| 羽山の森美術館           | 川俣町大字西福沢字山枘内 20 | 024-566-3367 | 川俣町 |

| 名 称                  | 所 在 地                      | 電話番号         | 設置者   |
|----------------------|----------------------------|--------------|-------|
| 伊達市梁川美術館             | 伊達市梁川町字中町 10               | 024-527-2656 | 伊達市   |
| 伊達市保原歴史文化資料館         | 伊達市保原町大泉字宮脇 265            | 024-575-1615 | 伊達市   |
| 霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム | 伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1           | 024-589-2211 | 伊達市   |
| 二本松市歴史資料館            | 二本松市本町 1-102               | 0243-23-3910 | 二本松市  |
| 二本松市智恵子記念館           | 二本松市油井字漆原町 36              | 0243-22-6151 | 二本松市  |
| 二本松市大山忠作美術館          | 二本松市本町 2-3-1               | 0243-24-1217 | 二本松市  |
| あだたらふるさとホール          | 大玉村玉井字西庵 183               | 0243-48-2569 | 大玉村   |
| 本宮市立歴史民俗資料館          | 本宮市字南町裡 130                | 0243-33-2546 | 本宮市   |
| 本宮市白沢ふれあい文化ホール       | 本宮市白岩字堤崎 494-44            | 0243-44-3185 | 本宮市   |
| 郡山市開成館               | 郡山市開成 3-3-7                | 024-923-2157 | 郡山市   |
| 郡山市歴史資料館             | 郡山市麓山 1-8-3                | 024-932-5306 | 郡山市   |
| 郡山市こおりやま文学の森資料館      | 郡山市豊田町 3-5                 | 024-991-7610 | 郡山市   |
| 郡山市ふれあい科学館           | 郡山市駅前 2-11-1 ビッグアイ 20F~24F | 024-936-0201 | 郡山市   |
| 鏡石町歴史民俗資料館           | 鏡石町成田 343                  | 0248-62-4323 | 鏡石町   |
| 天栄村ふるさと文化伝承館         | 天栄村大字大里字八石 1-2             | 0248-81-1030 | 天栄村   |
| 石川町立歴史民俗資料館          | 石川町字高田 200-2               | 0247-26-3768 | 石川町   |
| 浅川町歴史民俗資料館           | 浅川町大字浅川字背戸谷地 144-6         | 0247-36-2134 | 浅川町   |
| 吉田富三記念館              | 浅川町大字袖山字森下 287             | 0247-36-4129 | 財団法人  |
| 三春町歴史民俗資料館           | 三春町字桜谷 5                   | 0247-62-5263 | 三春町   |
| 三春郷土人形館              | 三春町字大町 30                  | 0247-62-7053 | 三春町   |
| 小野町ふるさと文化の館・郷土資料館    | 小野町大字小野新町字中通 2             | 0247-72-2120 | 小野町   |
| 田村市歴史民俗資料館           | 田村市船引町船引字四城内前 196 番地       | 0247-81-1215 | 田村市   |
| 白河市歴史民俗資料館           | 白河市中田 7-1                  | 0248-27-2310 | 白河市   |
| 小峰城歴史館(旧 白河集古苑)      | 白河市郭内 1-73                 | 0248-24-5050 | 白河市   |
| 中山義秀記念文学館(義秀展示館)     | 白河市大信町屋字沢田 25              | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 白河市大信ふるさと文化伝承館       | 白河市大信町屋字沢田 25              | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 西郷村歴史民俗資料館           | 西郷村大字小田倉字上野原 463           | 0248-25-0959 | 西郷村   |
| 矢吹町ふるさとの森芸術村         | 矢吹町大池 243-2                | 0248-42-4506 | 矢吹町   |
| 泉崎資料館                | 泉崎村大字泉崎字館 24-9             | 0248-53-4777 | 泉崎村   |
| 塙町立あぶくま高原美術館         | 塙町大字那倉字吉元 86-2             | 0247-42-2510 | 塙町    |
| 矢祭町歴史民俗資料館           | 矢祭町大字東館字石田 25              | 0247-46-4646 | 矢祭町   |
| 鮫川村歴史民俗資料館           | 鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 128-4        | 0247-49-3106 | 鮫川村   |
| 国指定名勝会津松平氏庭園         | 会津若松市花春町 8-1               | 0242-27-2472 | 会津若松市 |
| 若松城天守閣郷土博物館          | 会津若松市追手町 1-1               | 0242-27-4005 | 会津若松市 |
| 茶室麟閣                 | 会津若松市追手町 1-1               | 0242-27-4005 | 会津若松市 |
| 会津町方伝承館              | 会津若松市大町 2-8-8              | 0242-22-8686 | 会津若松市 |
| 会津若松市歴史資料センター        | 会津若松市城東町 2-3               | 0242-27-2705 | 会津若松市 |
| アクアマリンいなわしろカワセミ水族館   | 猪苗代町大字長田字東中丸 3447-4        | 0242-72-1135 | 猪苗代町  |
| 喜多方市美術館              | 喜多方市字押切 2-2                | 0241-23-0404 | 喜多方市  |
| 喜多方市カイギュウランドたかさと     | 喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163        | 0241-44-2024 | 喜多方市  |
| 会津坂下町五浪美術記念館         | 会津坂下町字台ノ下 842              | 0242-84-1233 | 会津坂下町 |
| ほっと i n やないづ縄文館      | 柳津町大字柳津字下平乙 151-1          | 0241-41-1077 | 柳津町   |
| からむし工芸博物館            | 昭和村大字佐倉字上ノ原 1              | 0241-58-1677 | 昭和村   |
| 旧南会津郡役所              | 南会津町田島字丸山甲 4681            | 0241-62-3848 | 南会津町  |
| 奥会津博物館南郷館            | 南会津町界字川久保 552              | 0241-73-2829 | 南会津町  |
| 奥会津博物館館岩館            | 南会津町松戸原 55                 | 0241-78-2110 | 南会津町  |
| 奥会津博物館伊南館            | 南会津町青柳字久川 24               | 0241-76-2071 | 南会津町  |
| 檜枝岐村歴史民俗資料館          | 檜枝岐村字下ノ原 887-1             | 0241-75-2342 | 檜枝岐村  |
| 相馬市歴史資料収蔵館           | 相馬市中村字北町 51-1              | 0244-37-2191 | 相馬市   |

| 名 称             | 所 在 地              | 電話番号         | 設置者    |
|-----------------|--------------------|--------------|--------|
| 埴谷・島尾記念文学資料館    | 南相馬市小高区本町2丁目89-1   | 0244-66-1011 | 南相馬市   |
| 葛尾村郷土文化保存伝習館    | 葛尾村落合字落合16         | 0240-29-2008 | 葛尾村    |
| 双葉町歴史民俗資料館（休館中） | 双葉町大字新山字本町27-1     | 0240-33-4763 | 双葉町    |
| 大熊町民俗伝承館（休館中）   | 大熊町大字下野上字大野669-3   | 0240-32-3011 | 大熊町    |
| 富岡町歴史民俗資料館      | 富岡町大字本岡字王塚622-1    | 0240-22-2626 | 富岡町    |
| 檜葉町歴史資料館        | 檜葉町大字北田字鐘突堂5-4     | 0240-25-2492 | 檜葉町    |
| いわき市石炭・化石館      | いわき市常磐湯本町向田3-1     | 0246-42-3155 | いわき市   |
| いわき市勿来関文学歴史館    | いわき市勿来町関田長沢6-1     | 0246-65-6166 | いわき市   |
| いわき市アンモナイトセンター  | いわき市大久町大久字鶴房147-2  | 0246-82-4561 | いわき市   |
| いわき市考古資料館       | いわき市常磐藤原町手這50-1    | 0246-43-0391 | いわき市   |
| いわき市立草野心平記念文学館  | いわき市小川町高萩字下夕道1-39  | 0246-83-0005 | いわき市   |
| いわき市草野心平生家      | いわき市小川町上小川字植ノ内6-1  | 0246-83-2901 | いわき市   |
| いわき市暮らしの伝承郷     | いわき市鹿島町下矢田字散野14-16 | 0246-29-2230 | いわき市   |
| 原郷のこけし群西田記念館    | 福島市荒井字横塚3-183      | 024-593-0639 | 公益財団法人 |
| 桑折町種徳美術館        | 桑折町字陣屋12           | 024-582-5507 | 桑折町    |
| デコ屋敷資料館         | 郡山市西田町高柴字福内41      | 024-971-3900 | 私人     |
| ふくしまの森科学体験センター  | 須賀川市虹の台100         | 0248-89-1120 | 公益財団法人 |
| 大和川酒造北方風土館      | 喜多方市字寺町4761        | 0241-22-2233 | 私人     |
| 喜多方蔵品美術館        | 喜多方市梅竹7294-4       | 0241-24-3576 | 私人     |

### (3) 青少年教育関係施設の設置状況

#### ア 県設置

| 名 称          | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者 |
|--------------|----------------------|--------------|-----|
| 福島県郡山自然の家    | 郡山市逢瀬町多田野字中丸山46      | 024-957-2111 | 福島県 |
| 福島県会津自然の家    | 会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1 | 0242-83-2480 | 福島県 |
| 福島県いわき海浜自然の家 | いわき市久之浜町田之網字向山53     | 0246-32-7700 | 福島県 |

#### イ 教育施設

| 名 称           | 所 在 地          | 電話番号         | 設置者    |
|---------------|----------------|--------------|--------|
| 国立那須甲子青少年自然の家 | 西郷村大字真船字村火6-1  | 0248-36-2331 | 独立行政法人 |
| 国立磐梯青少年交流の家   | 猪苗代町字五輪原7136-1 | 0242-62-2530 | 独立行政法人 |
| 市町村（条例）設置     | ※13施設（別掲）      |              |        |
| 他県設置等         | ※3施設（別掲）       |              |        |

#### 《市町村（条例）設置13施設》

| 名 称                | 所 在 地          | 電話番号         | 設置者    |
|--------------------|----------------|--------------|--------|
| 福島県青少年会館           | 福島市黒岩字田部屋53-5  | 024-546-8311 | 公益財団法人 |
| 福島市社会教育会館「立子山自然の家」 | 福島市立子山字金井作1    | 024-597-2951 | 福島市    |
| 福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館 | 福島市早稲町1-1      | 024-524-3131 | 福島市    |
| 郡山市青少年会館           | 郡山市大槻町字漆棒82    | 024-961-8282 | 郡山市    |
| 郡山市少年湖畔の村          | 郡山市湖南町横沢字村西112 | 024-982-2115 | 郡山市    |
| 須賀川市市民の森           | 須賀川市塩田音森20     | 0248-79-2187 | 須賀川市   |
| 石川町勤労青少年ホーム        | 石川町字当町418-1    | 0247-26-2566 | 石川町    |
| 矢祭山友情の森            | 矢祭町大字山下字下河原1-1 | 0247-46-2162 | 矢祭町    |
| 会津若松市勤労青少年ホーム      | 会津若松市城東町14-52  | 0242-26-6662 | 会津若松市  |
| 会津若松市少年の家          | 会津若松市城東町15-62  | 0242-39-1304 | 会津若松市  |
| 喜多方市勤労青少年ホーム       | 喜多方市舞台田3119-1  | 0241-22-1403 | 喜多方市   |
| 喜多方市勤労青少年体育センター    | 喜多方市舞台田3119-1  | 0241-22-1403 | 喜多方市   |
| びわ沢原森林公園（休館中）      | 猪苗代町字琵琶沢原7095  | 0242-62-3291 | 猪苗代町   |

《他県設置等3施設》

| 名 称            | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者    |
|----------------|-----------------------|--------------|--------|
| 一般財団法人小野田自然塾   | 東白川郡高町大字片貝字長久木先 384   | 022-281-8228 | 一般財団法人 |
| さいたま市立館岩少年自然の家 | 南会津町宮里字向山 2847-1      | 0241-78-2311 | さいたま市  |
| ばんだいわれあいぴあ     | 北塩原村松原字南黄連沢山 1157-336 | 0241-33-2567 | 公益財団法人 |

## 2 文化施設の整備充実

### (1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

## 第11節 福島県立図書館

### 1 概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成30年3月に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第3次）』（平成30年度～令和2年度）の基本理念と4つの目標に基づき、引き続き令和3年度も読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、令和2年2月に策定された「第四次福島県子ども読書活動推進計画」（令和2年度から概ね5年間）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んだ。

なお、令和3年度は、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震による被害により同年3月17日（木）～23日（水）を臨時休館とした。

#### (1) 図書館協議会

##### ア 第一回

開催日 令和3年9月30日（木） 於：県立図書館  
議題等

- ・令和3年度図書館利用実績について
- ・令和3年2月に発生した地震による被害状況と復旧計画について
- ・「福島県図書館アクションプラン（第4次）」の策定について

##### イ 第二回

開催日 令和4年2月24日（木） 書面開催  
議題等

- ・「福島県図書館アクションプラン（第4次）」の策定について

#### 図書館協議会委員名（令和4年3月31日現在）

[任期：令和3年10月21日～令和5年10月20日]

| 区分     | 氏 名    | 所属団体等（主な役職名等）                               |
|--------|--------|---------------------------------------------|
| 学識経験者  | ◎井實 充史 | 福島大学（人間発達文化学類教授）                            |
|        | 三瓶 千香子 | 桜の聖母短期大学（キャリア教養学科教授<br>生涯学習センター長・地域連携センター長） |
|        | 角田 守良  | 株式会社福島民報社<br>（編集局長兼文化部長）                    |
|        | 菅野 隆一  | 福島民友新聞株式会社<br>（論説委員会副委員長）                   |
|        | 岩本 夏海  | 公募                                          |
|        | 高橋 正人  | 公募                                          |
| 家庭教育   | 高橋 明子  | 福島県家庭教育インストラクター連絡協議会（喜多方市教育委員会教育委員）         |
| 社会教育   | 目黒 美千代 | 福島県公共図書館協会<br>（新地町図書館管理係長兼司書）               |
| 学校教育関係 | ○橋本 忠広 | 福島県高等学校長協会<br>（福島県立須賀川桐陽高等学校長）              |
|        | 星野 亜紀  | 福島県中学校長会<br>（白河市立大信中学校長）                    |

◎会長 ○副会長

#### 「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」

平成30年度～令和2年度 ※令和3年度も継続

##### 1 基本理念

「『知の拠点』として、全ての県民の教育と文化の振興を図り、ふくしまの未来をひらきます。」

福島県立図書館は、情報（資料）の提供（貸出・閲覧）やレファレンス等、県民への直接的サービスに努める他、社会（地域）や行政の課題解決に応えるため、「知の拠点」としての責務を果たします。

また、市町村立図書館（未設置自治体にあつては公民館図書室等）の円滑な活動を支援するため、情報（資料）を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。そして、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子どもたちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよう支援するなど、ふくしまの復興の一翼を文化面から担います。

## 2 福島県立図書館が目指す4つの目標

「基本理念」の実現に向けて定めた、「福島県立図書館が目指す4つの目標」

### (1) 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料(情報)を収集し、保存し、提供することで、県民の皆さんに役立つ図書館を目指すとともに、全ての人が等しく利用できるサービス体制を目指します。

### (2) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う、今とこれからの子どもたちのために、資料(情報)を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

### (3) 市町村(図書館・公民館等)を支えるための図書館

県内市町村図書館等に対する協力・支援を充実させることにより、市町村の図書館活動を支えるとともに、ネットワーク体制を推進し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

### (4) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の情報を収集し、保存し、発信することで、全ての人が、いつでも、どこからでも、「ふくしま」を知ることができる「拠点」となることを目指します。

注) 第4次アクションプランは令和2年度末策定予定であったが、福島県総合計画及び第7次福島県総合教育計画の策定期限の延長に伴い、令和3年度末の策定となった。

## 2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン(第3次)」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

### (1) 図書館資料の収集

#### ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

#### イ 地域資料の収集

福島県に関する資料については新刊書及び古書を購入した。県人著作については新刊書及び旧刊図書の遡及購入により、充実を図った。非売品の資料については出版した個人・団体・機関等への寄贈依頼や、寄贈を呼びかけるチラシを常時館内掲示し県立図書館ホームページにも「図書寄贈のお願い」をトップに表示するなど広報に努めた。

行政資料は各部局へ寄贈依頼を通知したほか、庁内

Webで周知を行った。県内公共図書館、公民館にも行政資料の寄贈について協力を呼びかけた。また、「福島県立図書館『福島県行政資料コーナー』のご紹介」のチラシを改訂し、館内配布した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料についても、新聞等での出版情報収集に努めた。

#### ウ 地域視聴覚資料の収集

県内で撮影されたものや震災関連の映像資料を収集した。また、保存価値の高い地元新聞のCD-ROM等の資料を継続して収集した。

#### エ 児童資料・研究資料の収集

##### (ア) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

##### (イ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

#### オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や県内図書館の求めに対応できる資料を幅広く継続収集した。

令和3年度より新たに「みんゆうデジタルアーカイブ」(福島民友新聞社のデータベース)を導入し、利用者に提供を開始した。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

#### カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、子どもたちの多様な好奇心に応えることができる児童書や話題性の高い文芸書、生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

### 逐次刊行物受入状況

(単位：種)

| 区分  | 購入  | 寄贈・他 | 計     |
|-----|-----|------|-------|
| 新聞  | 25  | 44   | 69    |
| 雑誌  | 234 | 732  | 966   |
| 官報等 | 3   | 0    | 3     |
| 合計  | 262 | 776  | 1,038 |

## 資料受入状況 (単位：冊)

| 区 分         | 購 入    | 寄贈・他  | 計      |
|-------------|--------|-------|--------|
| 一 般 資 料     | 5,587  | 2,105 | 7,692  |
| 地 域・行 政 資 料 | 1,328  | 3,706 | 5,034  |
| 児 童 資 料     | 2,100  | 316   | 2,416  |
| 児童図書研究資料    | 347    | 896   | 1,243  |
| 市町村支援資料     | 1,258  | 1,278 | 2,536  |
| 合 計         | 10,620 | 8,301 | 18,921 |

## 資料受入状況・推移 (単位：冊)

| 令和元年度  | 令和2年度  | 令和3年度  |
|--------|--------|--------|
| 18,669 | 19,923 | 18,921 |

## キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。令和3年度は、4団体（企業）から合計718冊の寄贈を受けた。

## 蔵書統計（資料別・分類別）

(単位：冊)

| 分 類         | 区 分       | 2年度累計   | 3年度増加 | 3年度除籍 | 利用替え      | 3年度累計   |
|-------------|-----------|---------|-------|-------|-----------|---------|
| 一般資料        | 0 総 記     | 31,864  | 315   | 20    | 2         | 32,161  |
|             | 1 哲 学     | 26,943  | 334   | 16    | 1         | 27,262  |
|             | 2 歴 史     | 67,065  | 784   | 5     | 23        | 67,867  |
|             | 3 社会 科学   | 111,571 | 1,817 | 37    | 9         | 113,360 |
|             | 4 自然 科学   | 39,011  | 781   | 9     | 3         | 39,786  |
|             | 5 工学・工 業  | 37,726  | 765   | 16    | 3         | 38,478  |
|             | 6 産 業     | 30,129  | 579   | 3     | -94       | 30,611  |
|             | 7 芸 術     | 43,327  | 958   | 27    | 11        | 44,269  |
|             | 8 語 学     | 9,874   | 178   | 10    | 0         | 10,042  |
|             | 9 文 学     | 95,542  | 1,181 | 10    | 5         | 96,718  |
|             | 計         | 493,052 | 7,692 | 153   | -37       | 500,554 |
| 地域資料        | 0 総 記     | 19,269  | 418   | 2     | 0         | 19,685  |
|             | 1 哲 学     | 2,932   | 43    | 0     | 0         | 2,975   |
|             | 2 歴 史     | 40,445  | 775   | 2     | 1         | 41,219  |
|             | 3 社会 科学   | 69,850  | 1,611 | 4     | 0         | 71,457  |
|             | 4 自然 科学   | 10,693  | 271   | 0     | 0         | 10,964  |
|             | 5 工学・工 業  | 15,916  | 498   | 2     | 2         | 16,414  |
|             | 6 産 業     | 23,495  | 500   | 1     | 1         | 23,995  |
|             | 7 芸 術     | 18,381  | 377   | 1     | 3         | 18,760  |
|             | 8 語 学     | 951     | 8     | 0     | 0         | 959     |
|             | 9 文 学     | 29,755  | 533   | 0     | 2         | 30,290  |
| 計           | 231,687   | 5,034   | 12    | 9     | 236,718   |         |
| 児童資料        | 研 究 資 料   | 37,639  | 1,243 | 1     | 13        | 38,894  |
|             | 児 童 図 書   | 123,059 | 2,416 | 63    | 615       | 126,027 |
|             | 計         | 160,698 | 3,659 | 64    | 628       | 164,921 |
| 逐次刊行物       | 雑 誌       | 179,671 | 4,941 | 151   | 92        | 184,553 |
|             | 新 聞 合 本   | 15,862  | 91    | 0     | 0         | 15,953  |
|             | 新聞記事ファイル  | 3,836   | 3     | 0     | 0         | 3,839   |
|             | 計         | 199,369 | 5,035 | 151   | 92        | 204,345 |
| 特 殊 文 庫     | 70,280    | 0       | 0     | 0     | 70,280    |         |
| 館 内 用 計     | 1,155,086 | 21,420  | 380   | 692   | 1,176,818 |         |
| 市 町 村 支 援 計 | 64,013    | 2,536   | 4,132 | -692  | 61,725    |         |
| 合 計         | 1,219,099 | 23,956  | 4,512 | 0     | 1,238,543 |         |

### 3 館内奉仕

開館日は281日、入館者は134,601人、1日平均479人の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のための館内利用の制限、また3月に発生した福島県沖地震による被害により臨時休館とした影響もあったが、開館は前年度比で30日多く、入館者数も前年度比において2万1千人の増であった。

#### 入館者数

|        |          |
|--------|----------|
| 開館日数   | 281日     |
| 入館者数   | 134,601人 |
| (1日平均) | 479人     |

#### 入館者数・推移

(単位：人)

| 令和元年度   | 令和2年度   | 令和3年度   |
|---------|---------|---------|
| 172,464 | 113,657 | 134,601 |

#### (1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長時間に及ぶ窓口での調査相談（レファレンス）を制限したが、総件数は前年度より約2,000件増加した。非来館による利用の中では電話によるものが前年度比約300件と最も増加している。

#### 調査相談件数

(単位：件)

|       | 一般・地域・逐刊 | 児童資料  | 小計     |
|-------|----------|-------|--------|
| 口頭    | 7,354    | 1,729 | 9,083  |
| 電話    | 2,308    | 37    | 2,345  |
| 文書    | 125      | 0     | 125    |
| FAX   | 31       | 0     | 31     |
| 電子メール | 347      | 1     | 348    |
| 合計    | 10,165   | 1,767 | 11,932 |

#### 調査相談件数・推移

(単位：件)

| 令和元年度  | 令和2年度 | 令和3年度  |
|--------|-------|--------|
| 12,938 | 9,755 | 11,932 |

#### ホームページアクセス件数

(単位：件)

| 区分         | 令和元年度   | 令和2年度   | 令和3年度   |
|------------|---------|---------|---------|
| トップページ     | 334,534 | 253,502 | 190,775 |
| 蔵書検索       | 786,099 | 832,584 | 650,242 |
| 横断検索       | 530,959 | 404,357 | 28,237  |
| デジタルライブラリー | 5,315   | 5,070   | 2,931   |
| こどものへや     | 2,728   | 5,462   | 2,783   |
| 利用案内       | 19,132  | 14,202  | 11,267  |

注）ホームページアクセス数が全体的に減少しているが、これは令和3年1月より情報ネットワークシステムが新システムへ移行したことにより、ホームページへのアクセスの集計方法が変更となっているためである。

### (2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、前年度に続き閲覧席の削減や定期的な換気などの対策と咳エチケット等の呼びかけに努めたほか、返却された資料や、利用者が使用する端末、カウンター周り等のアルコール消毒を実施した。

### (3) 館外個人貸出

貸出冊数は173,191冊、貸出者数は延べ42,551人で前年度から増加した。登録者数は12,889人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス（有料）の利用は、12件、53冊と前年度比で件数、冊数とも約4割に減少した。

#### 館外個人貸出状況

| 分類    | 冊数(冊)   | 構成比(%) |
|-------|---------|--------|
| 総記    | 2,589   | 1.5    |
| 哲学・宗教 | 5,246   | 3.0    |
| 歴史・地理 | 7,170   | 4.1    |
| 社会科学  | 13,349  | 7.7    |
| 自然科学  | 8,392   | 4.9    |
| 工学・工業 | 8,195   | 4.7    |
| 産業    | 4,492   | 2.6    |
| 芸術    | 9,446   | 5.5    |
| 語学    | 1,436   | 0.8    |
| 文学    | 23,533  | 13.6   |
| 地域資料  | 7,967   | 4.6    |
| 新聞雑誌  | 7,295   | 4.2    |
| 小計    | 99,110  | 57.2   |
| 児童    | 74,081  | 42.8   |
| 合計    | 173,191 | 100.0  |

#### 館外個人貸出状況・推移

| 区分      | 令和元年度   | 令和2年度   | 令和3年度   |
|---------|---------|---------|---------|
| 冊数(冊)   | 158,364 | 143,296 | 173,191 |
| のべ人数(人) | 41,712  | 35,146  | 42,551  |

#### 館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）（単位：人）

| 区分  | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 合計     |
|-----|-------|-------|-------|--------|
| 新規  | 3,104 | 2,572 | 3,188 | 8,864  |
| 更新者 | 1,474 | 1,134 | 1,417 | 4,025  |
| 合計  | 4,578 | 3,706 | 4,605 | 12,889 |

#### 館外個人貸出登録者数・推移

(単位：人)

| 令和元年度  | 令和2年度  | 令和3年度  |
|--------|--------|--------|
| 13,813 | 12,942 | 12,889 |

#### (4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

##### 特別貸出状況

| 貸出先    | 件数(件) | 冊数(冊) |
|--------|-------|-------|
| 官公庁関係  | 5     | 39    |
| 図書館その他 | 6     | 6     |
| 会社・事業所 | 32    | 295   |
| 報道関係   | 0     | 0     |
| 学校     | 49    | 49    |
| 計      | 92    | 389   |

##### 特別貸出状況・推移

(単位:冊)

| 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------|-------|-------|
| 870   | 330   | 389   |

#### (5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。「本のひろば」のコーナーでは「この町で笑顔で生きる認知症」を実施した。また、時事展示として「子どもたちの教科書を見てみよう!」を実施した。ミニ展示としては、美術館の企画展にあわせた「日本絵画」、「現代アートとアニメ・マンガの世界」、「認知症を知ろう」、「2021 Novel Prize」、「長田弘文庫 追加資料」を実施した。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」では、新規1本「スポーツとショウガイ」、改訂2本「教科書と、教科書をめぐるあれこれ」、「東北地方の信仰と現代の信仰」を作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和3年11月6日(土)には図書館見学会を実施し、県立図書館の役割や機能について紹介した(参加者6名)。また、同日、貴重資料を紹介する機会として、「長田弘文庫見学会」を実施した(参加者2名)。

#### (6) 地域資料

平成30年に没後70年を迎えた国際的歴史学者・朝河貫一博士(1873-1948)の功績を称え、令和3年度も「朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会」を開催した。講演会に合わせて貫一の父・正澄に贈られた巻物のレプリカを、制作したNPO法人の協力により展示した。

企画展示は「東日本大震災から10+1年」展を開催した。また、ミニ展示として福島県歴史資料館や福島イノベーション・コースト構想推進機構の移動展示に合わせた関連資料の展示や、隣接する美術館の企画展に合わせた資料の展示を実施した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「地域の出版文化を支える 福島民報出版文化賞」を改訂し、受賞作発表にあわせて直近10年の受賞作を展示した。ほかに「福島県立図書館所蔵 貴重資料CD-ROM」を改訂し、新規に「東日本大震災・原発事故から10年」を発行した。

また、『若松県第四大区全図』ほか劣化により原資料での利用が難しいものを中心に貴重資料をデジタル化し、閲覧・貸出の利用を容易に行えるようにした。

地域資料については、県内外の個人・団体の様々な調査相談に応えるため、レファレンスサービスを実施したほか、ホームページから目的の資料を検索しやすいよう、図書や雑誌の目次入力を経続的に実施した。

#### (7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』(令和3年度版)については、大熊町、双葉町、浪江町の3町以外から回答を得て発行した。

令和3年11月3日(水・祝)に、「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」を開催し、15名が参加した。国立国会図書館歴史的音源を利用してNHKの朝ドラのモデルになった古関裕而にちなんだ曲や、昭和の懐メロ、渋沢栄一の講演等を公開図書室データベースコーナーで鑑賞した。また、令和3年10月20日(水)、11月3日(水・祝)、26日(金)に「データベース講座～あなたに合ったものを見つけよう～」を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためマンツーマンの講座形式で実施し、4講座の募集に対して3名の申込があった。参加者の要望に合わせて、各自に合ったデータベースを使用し好評を得た。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて「雑誌で親しむ日本の名画」、「目が躍る～雑誌で楽しむ芸術の秋」及び「おうちでふれあうAI&プログラミング」など、社会情勢に配慮したテーマの展示を行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「雑誌とインターネットで知る学校教育」を新規で作成し、「雑誌について調べるには・・・?」を更新した。

#### (8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

##### ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して10代の子どもたちに向けた展示を行った。また、児童図書の調査・研究用の資料や学校図書館支援用の図書を収集し、子どもの読書活動に関わる方に対して資料提供を行った。

##### イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」・「子ども向け講座」を開催した。

・「ちいさなおはなしかい」(4月・6月・7月・10月・11月・12月・1月・3月)

参加者合計 36名

##### ・県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」(令和3年7月24日(土))を実施した。

参加者 9名



- ・「秋のミステリーツアー」（令和3年11月7日(日)）を実施した。  
参加者 16名
- ・福島県国際交流協会との連携おはなしかい「世界のことばでおはなしかい」（令和3年12月18日(土)）を実施した。  
参加者 19名
- ・「バックヤードツアー」（令和4年1月8日(土)）を実施した。主催：ふくしまリビング新聞社  
参加者 26名

ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。  
参加者 406名

エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌「LITTLE BIG」や児童サービス関連情報誌「児童図書研究ニュース」を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

オ パスファインダーの発行

「本の森への道しるべ」では、「のんびりほのぼの・赤ちゃんと楽しむ本」、「カーネギー賞受賞作品」、「ケイト・グリーンハウエイ賞受賞作品」、「コールデコット賞受賞作品」及び「ニューベリー賞受賞作品」を改訂した。子ども向け「調べ方あんない」の「調べ方ははじめの一步」を改訂し、「福島県のおもちゃについて調べる」及び「福島県のお城について調べる」を作成した。

カ 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための育児関連図書のコーナーを設置した。また、子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。親子で楽しむ絵本の展示を行った。

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は令和4年3月31日現在で14,646タイトルとなっており、「震災復興ライブラリー資料一覧」（改訂版）を作成し、ホームページで公開した。令和4年2月には「東日本大震災から10+1年展」に合わせ「東日本大震災福島県復興ライブラリー出張展示セットの紹介」として展示を行った。

また、「東日本大震災10+1年展」にあわせ、「新聞で見る 東日本大震災10+1年展」を実施した。

さらに、福島民報及び福島民友に掲載された震災・原発・復興関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和3年8月31日現在で更新し、同年10月27日(水)にホームページへ掲載した。

そのほか「巡回する福島県復興ライブラリー」として、

資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し、活用を図っている。令和3年度は、県中教育事務所（令和3年6月24日(木)）で出張展示が開催された。

(10) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

| 区分     | 件数(件) | 枚数(枚)  |
|--------|-------|--------|
| 自・他館処理 | 3,157 | 43,519 |

複写利用状況・推移

(単位：枚)

| 令和元年度  | 令和2年度  | 令和3年度  |
|--------|--------|--------|
| 43,284 | 33,667 | 43,519 |

(11) 障がい者サービス

障がい者サービスの案内を作成し、関連施設等に配布した。また、「福島県立図書館所蔵 大活字コーナー資料リスト」を改訂した。

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台とこどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図った。また、11月に当館職員によるインターネット入門講座を実施した。情報ネットワークシステム更新に合わせてインターネットの座席予約システムを導入した。

インターネット利用状況 (単位：人)

| 区分 | 一般    | 児童 | 合計    |
|----|-------|----|-------|
| 人数 | 1,348 | 0  | 1,348 |

インターネット利用状況・推移

(単位：人)

| 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------|-------|-------|
| 5,303 | 2,237 | 1,348 |

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) 『国際アンデルセン賞 ～5人の日本人受賞者～』  
(令和3年4月2日(金)～6月2日(水))

「Little Novel (小さなノーベル賞) とも呼ばれる国際アンデルセン賞を日本人で受賞した5人の受賞作等を展示し紹介した。

(イ) 「福島県文化財センター白河館(まほろん) 移動展示 ようこそ古墳時代へ！」

(令和3年6月4日(金)～6月30日(水))

福島県文化財センター白河館(まほろん)による展示。阿武隈川水系の古墳時代の遺跡から出土した資料などを展示。

(ウ) 「日本で開催されたオリンピック・パラリンピック～History of the Olympics and Paralympic～」

(令和3年7月2日(金)～9月1日(水))

当館所蔵の日本開催地（1964年東京・1972年札幌・1998年長野）のオリンピック・パラリンピック関連資料を展示した。

- (エ) 「福島イノベーション・コースト構想」  
（令和3年9月3日（金）～10月6日（水））  
公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構と連携した展示。福島イノベーション・コースト構想について、パネルや現物を用いて紹介。

- (オ) 「福島県歴史資料館移動展 習いの手引き～ふくしまの教育史料～」  
（令和3年10月8日（金）～11月3日（水））  
福島県歴史資料館の移動展。江戸時代から明治時代にかけての教科書や習い事に関する歴史資料を展示。

- (カ) 「新聞のはじまり～福島の新報の昔と今～」  
（令和3年12月3日（金）～令和4年2月13日（日））  
福島県の新報のはじまりと現在について紹介した。

- (キ) 「東日本大震災から10+1年」  
（令和4年2月22日（火）～4月6日（水））  
東日本大震災の発災10年が経過したことに合わせて発行された多くの資料の中から、令和3年に発行されたものを中心に記念誌、体験記、写真集等を展示した。

#### イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立図書館の資料展示と県民の作品等の展示を行った。

- (ア) 「本はともだち」（県立図書館）  
（令和3年4月2日（金）～6月2日（水））
- (イ) 「水彩画展 つむらやふきこコラージュの世界Ⅱ」  
（令和3年6月4日（金）～6月30日（水））
- (ウ) 「YA（ヤングアダルト）の本」（県立図書館）  
（令和3年7月2日（金）～9月1日（水））
- (エ) 「なかむらせつお 色鉛筆の世界」  
（令和3年9月3日（金）～10月6日（水））
- (オ) 「YAの本～物語の世界～」（県立図書館）  
（令和3年10月8日（金）～12月1日（水））
- (カ) 前半「令和元年東日本台風からの復旧、防災・減災対策の取組」  
後半「福島県内の公共土木施設の整備効果～安心・安全、生活の質の向上、生産性向上効果～」  
（令和3年12月3日（金）～令和4年1月5日（水））
- (キ) 「YA（ヤングアダルト）の本」（県立図書館）  
（令和4年1月7日（金）～2月13日（日））
- (ク) 「東日本大震災福島県復興ライブラリーの出張展示用セットの紹介」  
（令和4年2月22日（火）～4月6日（水））

#### (14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

- ア 講演会  
朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会  
「朝河貫一と父・正澄『報恩之辞』にみる立子山の教育」  
講師 早稲田大学文学学術院教授 甚野 尚志  
開催日 令和3年11月28日（日）  
参加者 47名

- イ ふくしまを知る連続講座  
(ア) 第1回 「中通り地方の古墳時代遺跡」  
開催日 令和3年6月26日（土）  
講師 福島県文化財センター白河館  
副主任学芸員 鶴見 諒平  
参加者 44名

- (イ) 第2回 「近世の武芸から近代の体育へ」  
開催日 令和3年10月23日（土）  
講師 公益財団法人福島県文化振興財団  
歴史資料課副主幹 山田 英明  
参加者 18名

#### ウ イベント

- (ア) 「歴史的音源（れきおん）で楽しむミニコンサート」  
開催日 令和3年11月3日（水・祝）  
参加者 15名
- (イ) 「データベース講座～あなたに合ったものを見つけよう～」  
開催日 令和3年10月20日（水）、  
11月3日（水・祝）、26日（金）  
参加者 3名

## 4 館外奉仕

### (1) 移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」では、以下の目的のため新型コロナウイルス対応や日程調整をしながら巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計22自治体及び5校に対して合計23,101冊の資料を貸出した。

#### ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。また、図書館を新規開館した自治体にも立ち上げの支援を行った。22自治体に巡回し、延べ21,603冊の資料を貸出した。

#### イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な7自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

公民館、認定こども園、小学校、中学校、デイサービスセンターに対して3,150冊を貸出した。

#### ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、聴覚支援学校平校・西郷支援学校・石川支援学校・猪苗代支援学校・富岡支援学校の5校を巡回し、延べ1,498冊の資料を貸出した。

**移動図書館「あづま号」貸出状況・推移** (単位：冊)

| 令和元年度  | 令和2年度  | 令和3年度  |
|--------|--------|--------|
| 28,380 | 24,635 | 23,101 |

**(2) 市町村援助のための支援貸出**

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

令和3年度の利用状況は次のとおりである。

|            |        |
|------------|--------|
| 川俣町教育委員会   | 372冊   |
| 浅川町教育委員会   | 700冊   |
| 会津美里町教育委員会 | 777冊   |
| 合 計        | 1,849冊 |

**(3) 福島県立図書館資料の譲与**

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和3年度の利用状況は次のとおりである。

|            |        |
|------------|--------|
| 玉川村教育委員会   | 514冊   |
| 楡葉町教育委員会   | 17冊    |
| 桑折町教育委員会   | 356冊   |
| 白河市教育委員会   | 6冊     |
| 浅川町教育委員会   | 15冊    |
| 会津美里町教育委員会 | 141冊   |
| 本宮市教育委員会   | 402冊   |
| 合 計        | 1,451冊 |

**(4) 只見線駅文庫**

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の会津川口駅と会津柳津駅に設置している。

**(5) 学校図書館活動支援貸出**

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和3年度は実績なし。

**(6) 学校図書館活動支援セット貸出**

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校及び特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、114テーマ(延べ269セット)を編成し貸出を行った。

令和3年度の利用状況は、9団体に対し24セット(1,033冊)を貸出した。

**(7) 広報資料の発行**

ア 館報「あづま」

第71巻(通巻275号)を令和4年3月3日(木)に発行した。主たる掲載事項としては、「福島県立図書館の非来館サービス」、「福島県立図書館で利用できるデータベースのご案内」、「福島県立図書館障がい者サービスのご案内」等。

イ 令和3年度版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書(データ版)

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館等の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は6,542,019冊で、当該人口1人当たり3.89冊(前年度3.75冊)、年間増加冊数は129,138冊である。また、令和3年度中の総貸出図書冊数は、5,594,004冊(当該人口1人当たり3.32冊)である。

ウ 福島県郷土資料情報

第62号を発行。特集として平成11年度から連載している「福島県関係書誌の紹介」のうち人物編の総索引を作成し、人物調査の利便性を高めた。ほかに「朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会」と「福島を知る連続講座」の実施報告と連載の「福島県関係書誌の紹介2021」を掲載した。100部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

**5 図書館協力**

**(1) 相互協力と遠隔地返却、受取館指定サービス**

相互貸借(他館との資料の貸借)サービス、遠隔地返却(当館からの借受け資料を他館に返却する)サービスを行っている。予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる受取館指定サービスの利用は増加傾向にあり、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い新しい生活様式が浸透していく中で、市町村図書館を窓口で資料の提供を行う相互貸借(貸出)も前年度比105%と回復した。一方、相互貸借(借用)については、前年度比76%と減少した。非来館による県立図書館の資料利用が増加していることがわかる。

**相互貸借状況** (単位：件/冊)

| 区分 | 県内    |       | 県外  |     | 合計    |       |
|----|-------|-------|-----|-----|-------|-------|
|    | 件数    | 冊数    | 件数  | 冊数  | 件数    | 冊数    |
| 貸出 | 992   | 4,222 | 406 | 706 | 1,398 | 4,928 |
| 借用 | 209   | 337   | 101 | 122 | 310   | 459   |
| 小計 | 1,201 | 4,559 | 507 | 828 | 1,708 | 5,387 |

**相互貸借状況・推移** (単位：冊)

| 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------|-------|-------|
| 5,431 | 5,186 | 5,387 |

**遠隔地返却冊数・推移** (利用者が来館し借受けた資料を県内の公立図書館に返却した冊数) (単位：冊)

| 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------|-------|-------|
| 7,212 | 6,272 | 7,750 |

**(2) 学校図書館サポートセット貸出**

県内の小・中学校における学校図書館活動を支援するため、授業の過程において利用することを目的に、希望するテーマに合わせて資料を選びセットにして貸出を行った。令和3年11月からの試行事業。令和3年度の利用状況は、5校(延べ)7セット(136冊)を貸出した。

### (3) 図書館協力事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。令和3年度は、20コースを編成し、34自治体と2高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

### (4) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

#### ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

##### (ア) テーマ <講話>

「図書館で働くということ～図書館サービスの意味を考える～」

「子どもたちと本を結ぶ～その意義と役割～」

##### <分科会>

①「図書館と相互協力～福島県の図書館事情を踏まえて～」

②「公民館図書室の基本と実践～県立図書館の活用を見据えて～」

③「学校図書館が目指すもの～その役割を考える～」

##### (イ) 期 日 <講話> (録画配信)

令和3年5月28日(金)～8月31日(火)

##### <分科会> (オンライン)

①令和3年9月29日(水)、②令和3年9月28日(火)、③令和3年9月22日(水)

##### (ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 51名

(オ) 講 師 義務教育課指導主事 松山 秀和  
県立図書館職員

#### イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会 (オンライン)

(ア) テーマ 「新しい生活様式に対応した図書館サービス」

(イ) 期 日 令和3年11月26日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 23名

(オ) 講 師 明治大学文学部教授 青柳 英治

#### ウ 福島県内図書館初任者職員実務研修会

(ア) 期 日 令和3年6月24日(木)～25日(金)

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 4名

(エ) 講 師 福島県立図書館職員

#### エ 福島県内児童書担当職員研修会 (オンライン)

(ア) テーマ 「公共図書館と学校図書館との連携」

(イ) 期 日 令和3年9月10日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 84名

(オ) 講 師 社会教育課社会教育主事 石倉 智幸  
新地町図書館副主任司書 高橋 裕美  
泉崎図書館司書 野崎 珠美  
南相馬市立中央図書館主任司書 佐藤 真紀  
福島大学名誉教授 高野 保夫

### (5) 第19回福島県図書館研究集会 (オンライン)

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「アウトリーチサービス～来館できない人にサービスを届ける～」

イ 期 日 令和3年12月17日(金)

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 47名

#### オ 内 容

##### <はじめに>

「事例発表を読み解く視角」

講 師 十文字学園女子大学准教授 石川 敬史

##### <事例報告>

「暮らしの中に町の図書館を 富岡町の移動図書館」

富岡町図書館 司書 東山 恵美

「広島県立図書館のアウトリーチサービス」

広島県立図書館 副館長 植田 佳宏

「埴町立図書館の宅配サービス」

埴町立図書館 司書 割貝 暁美

##### <講演>

「アウトリーチサービスとは何かー現場で共に考えるためにー」

講 師 十文字学園女子大学准教授 石川 敬史

##### <質疑応答・ディスカッション>

アドバイザー 石川 敬史、植田 佳宏

### (6) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、「福島県内大学図書館連絡協議会」の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらすわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

## 第12節 福島県立美術館

### 1 概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

令和3年度の美術館活動の概要は次のとおりである。

なお、令和3年度は、前年度に実施した改修工事に伴い、開館準備のため、令和3年4月1日(木)から5月21日(金)まで休館となった。

#### (1) 美術館運営協議会

##### ア 委員

|       |                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------|
| 山口 功  | 福島県中学校教育研究会美術部所属<br>(平成25年1月1日～)                      |
| 番匠あつみ | 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属<br>(平成27年1月1日～)                  |
| 大沼 博文 | 公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼<br>福島県文化センター館長<br>(令和3年1月1日～) ※会長 |
| 坂本 節子 | 福島県家庭教育インストラクター<br>(平成25年1月1日～) ※副会長                  |
| 齋藤 勝正 | 福島県美術家連盟顧問<br>(平成29年1月1日～)                            |
| 半沢 治久 | 日本放送協会福島放送局長<br>(令和2年9月15日～)                          |
| 岡部 兼芳 | はじまりの美術館館長<br>(令和3年1月1日～)                             |
| 笠原美智子 | アーティゾン美術館副館長<br>(令和3年1月1日～)                           |
| 齋藤美保子 | 郡山女子大学短期大学部副学長・教授<br>(平成27年1月1日～)                     |
| 舟木 藤弘 | 福島県立美術館友の会理事<br>(平成29年1月1日～)                          |

##### イ 協議会の開催

- (ア) 期日 令和4年3月10日(木)
- (イ) 内容 ・令和3年度事業の概要  
・福島県立美術館運営計画案  
・令和4年度事業計画案の概要  
・福島県立美術館の運営等

#### (2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

|      |                   |
|------|-------------------|
| 加盟団体 | ・全国美術館会議 (会員)     |
|      | ・日本博物館協会 (会員)     |
|      | ・日本博物館協会東北支部 (会員) |
|      | ・東北地区博物館協会 (会員)   |
|      | ・福島県博物館連絡協議会 (理事) |

### 2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的にを行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

なお、令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により収集評価委員会の開催を中止したため、新たに収蔵した作品はない。

#### (1) 収蔵作品点数(令和4年3月31日現在)

|       |        |
|-------|--------|
| 海外作品  | 450点   |
| 日本画   | 371点   |
| 洋画    | 920点   |
| 版画    | 1,148点 |
| 立体    | 145点   |
| 工芸    | 158点   |
| 書     | 39点    |
| 素描・下絵 | 217点   |
| 写真    | 410点   |
| 作品合計  | 3,858点 |
| 美術資料  | 69件    |

#### (2) 収集評価委員会

##### ア 委員

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 中山 恵理 | 郡山市立美術館主任主査<br>(令和元年12月1日～)      |
| 松下 由里 | 群馬県立近代美術館次長兼学芸係長<br>(令和元年12月1日～) |
| 水沢 勉  | 神奈川県立近代美術館館長<br>(令和元年12月1日～)     |
| 濱崎 礼二 | 宮城県美術館副館長<br>(令和3年12月1日～)        |
| 西山 純子 | 千葉市美術館上席学芸員<br>(令和3年12月1日～)      |

##### イ 委員会の開催

期日：令和4年2月22日(火)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### (3) 図書資料の収集

収蔵図書数 63,811冊

#### (4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

##### ア 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)

時期：令和3年6月7日(月)～21日(月)、  
8月15日(日)～29日(日)

内容：展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

##### イ 美術品の修復

井上武吉《My Sky Hole 89-2》のクリーニング、山内神斧《和蘭陀船》、大石源太郎《風景》、若松光一郎作品4点(《出漁前》、《作品(A)》、《[作品]》、《無題》)の修復を行うとともに、大宮政郎作品9点

の額を交換した。

また、令和3年2月13日に発生した福島県沖地震により被災した鳥井美央《冬の漁港》、橋本章《地平》、《砂による絵画・作品No.10》の修復及び16作品の額の修復・交換を行った。

ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 年4回測定

(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計8か所

### 3 展示事業

#### (1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回（版画は年8回）展示替えを行っている。令和3年度は、休館期間があったため、展示替えは3回行った。

#### コレクション展Ⅰ 令和3年5月22日(土)

～9月5日(日)

日本画の名品：速水御舟《女二題》、福田豊四郎《ふるさとへ帰る》

アメリカの美術：ワイエス《松ぼっくり男爵》、シャーン《リルケ「マルテの手記」より》

フランス美術の名品：ルノワール《帽子を被る女》、シャガール《死せる魂》

関根正二と近代の洋画：森田恒友《漁村風景》、安井曾太郎《ターブルの上》、関根正二《姉弟》、村山槐多《庭園の少女》、長谷川利行《浅草の女》

斎藤清の版画：《雨のミシガン》《競艶》《凝視(花)》《京都の壁(B)》

銅版画の魅力：長谷川潔《アレキサンドル三世橋とフランスの飛行船》

創作版画：山本鼎・青木繁《鑄斧》、渡辺光徳《すか川御隠居岳》

#### コレクション展Ⅱ 令和3年9月14日(火)

～12月26日(日)

没後20年 鈴木治・山田光：鈴木治《掌上泥象三十八景》、山田光《黒陶 数字と窓》

現代の日本画：齋藤隆《ドラマ(地の巻)》、津田一江《連鎖と残影の自画像》

関根正二と大正期の洋画：岸田劉生《静物》、関根正二《一本杉の風景》《自画像》

吉井忠とモンパルナスの画家たち：松本竣介《駅》、麻生三郎《家族》、吉井忠《空の祭壇》

海外作品の名品：ワイエス《ドイツ人の住むところ》、シャーン《恐怖の夜の町》、コロー《ヴィル・ダヴレー》、ゴーギャン《ブルターニュの子供》

現代の版画：野田哲也《日記1973年10月25日》、横尾忠則《聖シャンバラ》、斎藤清《教会、フランス(A)》《シグナル(A)》《赤い花》《ヌード》

#### コレクション展Ⅲ 令和4年1月5日(水)

～3月6日(日)

冬の日本画—ふるさとの風景：酒井三良《雪に埋もれつつ正月はゆく》《冬暖》、森田恒友《雪国帖》、福田豊四郎《春を待つ》

佐藤玄々の彫刻：佐藤玄々（朝山）《禮略》《青鳩》（河野保雄コレクション）

関根正二と洋画：高橋由一《三県道路完成記念帖》、関根正二《真田吉之助夫妻像》

「福島の新世代」展をふりかえる：高橋克之《集会》、玉川信一《凍日》、安藤栄作《約束のつばさ》、山中現《第二夜》

海外の名品選：国吉康雄《婦人と子供》、シャーン《ラッキードラゴン》、ルオー《ミセレーレ》、モネ《ジヴェルニーの草原》

写真家・サマラッティ：ペンティ・サマラッティ《猪苗代湖、会津若松市》《南相馬市》

写真家・小関庄太郎：《田舎の風景》《手をふる少女》《冬の子供》

#### (2) 特集展示

令和3年度は2つのテーマによる特集展示を行った。

##### ア 横井美恵子コレクション

###### —佐藤玄々（朝山）の彫刻—

(ア) 会期 令和3年5月22日(土)～6月20日(日)

開催日数 26日

(イ) 分野 立体

(ロ) 展示数 19点

(ハ) 観覧料 常設展料金

(ニ) 観覧者数 1,721名（イを含む）

(ホ) 概要

相馬市出身の佐藤玄々（朝山）（1888-1963）は、近代日本を代表する彫刻家の一人。フランスの彫刻家ブールデルから学び、伝統木彫に近代的な視点を取り入れた。横井美恵子は玄々の縁戚にあたり、玄々の業績顕彰のためにその作品を収集し、当館に寄贈された。本展示では令和元年度に新たに寄贈された《牝猫》《蜥蜴》などを中心に19点を紹介した。

(ヘ) 関連事業

・ギャラリートーク

講師：増渕 鏡子（専門学芸員）

日時：令和3年6月5日(土)14時～15時

場所：企画展示室内

参加者数：15名

##### イ 福島作家・福島風景

(ア) 会期 令和3年5月22日(土)～6月20日(日)

開催日数 26日

(イ) 分野 日本画・洋画・写真・陶芸

(ロ) 展示数 24点

(ハ) 観覧料 常設展料金

(ニ) 観覧者数 1,721名（アを含む）

(カ) 概要

近年コレクションに加わった作品から、酒井三良、黒沢吉蔵、吉井忠、緑川宏樹、瀬戸正人らの作品を紹介するとともに、令和3年1月に90歳で逝去した彫刻家の橋本堅太郎と、令和2年7月に逝去した三浦哲往の作品を追悼展示した。

(キ) 関連事業

・ギャラリートーク

講師：伊藤 匡（専門員）

日時：令和3年6月19日（土）14時～15時

場所：企画展示室内

参加者数：20名

(3) 企画展

令和3年度は5回の企画展を開催し、国内外の様々な芸術文化を紹介した。

**ア ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展**

(ア) 会期 令和3年7月8日（木）～9月5日（日）

開催日数 52日

(イ) 分野 日本美術

(ウ) 展示数 92点

(エ) 主催 ミネアポリス美術館福島展実行委員会〔構成：福島県立美術館、福島中央テレビ、福島民友新聞社〕、ミネアポリス美術館、読売新聞社  
協賛 エフコム、ギャラリー菜根、大和ハウス工業福島支社、福島県商工信用組合

(オ) 観覧料 一般1,500(1,300)円、学生1,100(900)円、小・中・高校生650(600)円

※（ ）内は前売料金または20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 27,406名

(キ) 概要

ミネアポリス美術館は、アメリカ中西部の大都市ミネアポリスに1883年に設立された。開館当初から日本美術を収集し、3,000点からなる浮世絵コレクションをはじめ、質量ともにアメリカ有数の日本美術コレクションを有することで有名である。本展は伊藤若冲をはじめ、葛飾北斎の浮世絵など江戸絵画を中心に、その優れたコレクションの一端を紹介する展覧会。晩年を福島県三春で過ごした雪村や、会津ゆかりの浦上春琴、白河ゆかりの谷文晁の作品などが里帰りした。新型コロナウイルス感染症の拡大時期であったが、万全の対策のもと多くの来館者があり、フォーラム福島やA・O・Z（アオウゼ）で実施した連携企画なども盛況であった。

**イ THE ドラえもん展 FUKUSHIMA 2021**

(ア) 会期 令和3年9月23日（木・祝）

～11月23日（火・祝） 開催日数 54日

(イ) 分野 現代美術

(ウ) 展示数 46点

(エ) 主催 THE ドラえもん展 FUKUSHIMA 2021 実行委員会〔構成：福島県立美術館、福島放送、福島民報社〕

特別協力 藤子プロ

協賛 トヨタカラー福島

企画・制作 THE ドラえもん展 TOKYO 2017 実行委員会  
〔テレビ朝日、朝日新聞社、ADK EM、小学館、シンエイ動画、小学館集英社プロダクション、乃村工藝社〕

(オ) 観覧料 一般・大学生1,400(1,200)円

中学・高校生1,200(1,000)円

小学生500(400)円

※（ ）内は前売料金または20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 60,671名

(キ) 概要

1970年に藤子不二雄が発表した漫画「ドラえもん」は、アニメにもなつて日本中の子供の人気者となった。本展は、国民的キャラクター「ドラえもん」をモチーフに、「あなただけのドラえもんを作ってみてください」という呼びかけに応えた現代アーティスト28組の作品46点で構成された展覧会である。村上隆、奈良美智、蛭川実花など、現代美術のスーパースターたちや注目の若手作家たちが熱い思いをこめて作った1点しかないドラえもん作品が並んだ。現代アートの楽しさにふれる格好の入門展であり、その魅力を来場した家族連れや若年層に広く伝えることができ、開催の意義を果たすことができた。

**ウ 瀬戸正人 記憶の地図**

(ア) 会期 令和3年12月4日（土）

～令和4年1月30日（日） 開催日数 41日

(イ) 分野 写真

(ウ) 展示数 139点

(エ) 主催 福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ  
協賛 ライオン、DNP 大日本印刷、損保ジャパン

(オ) 観覧料 一般・大学生800(700)円

高校生400(300)円

小・中学生200(150)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 1,763名

(キ) 概要

瀬戸正人（1953- ）はタイ国ウドンタニ市に、日本人の父とベトナム人の母のもとに生まれ、1961年に父の故郷である福島県の梁川町に移り住んだ。高校卒業後、上京して写真を学び、1996年には特異な視点で都会に生きる人々を見つめた〈Living Room, Tokyo 1989-1994〉〈Silent Mode〉で第21回木村伊兵衛写真賞を受賞。また2021年には第37回写真の町東川賞国内作家賞を受賞するなど、日本を代表する写真家の一人として国内外で活躍している。本展では、デビュー作〈バンコク、ハノイ1982-1987〉、初期から震災後までライフワークとして撮り続けてきた〈Fukushima〉、最新作〈Silent Mode 2020〉までを展示し、瀬戸の

「記憶の地図」を辿った。

また、瀬戸は、自ら運営するギャラリー〈Place M〉で2000年から写真のワークショップ「夜の写真学校」を始め、多くの参加者と写真に向き合ってきた。本展関連事業として8月から12月まで「瀬戸正人写真学校 in 福島」を開校し、写真を撮ることとは違った、もう一つの瀬戸の写真との向き合い方を紹介し、参加者に体験してもらった。

(ク) 関連事業

・映画上映会「トオイと正人」

監督・脚本：小林 紀晴／原作：瀬戸 正人／

ナレーション：鶴田 真由／

出演：瀬戸 正人、尾方 聖夜／音楽：いろのみ

(2021年、カラー、63分)

日時：①令和3年12月5日(日)10時30分、14時

瀬戸正人氏と小林紀晴氏によるアフター  
トーク(14時の回終了後)

②令和4年1月15日(土)10時30分、  
13時、15時

場所：講堂

参加者数：①70名、②50名

・ギャラリートーク

講師：荒木 康子(専門員)

日時：①令和3年12月18日(土)14時～

②令和4年1月9日(日)14時～

場所：企画展示室内

参加者数：①10名、②10名

・ワークショップ

「瀬戸正人写真学校 in 福島」(全6回)

講師：瀬戸 正人

参加者数：40名

日時・場所：

①令和3年8月22日(日)13時30分～ 講堂  
(講師は東京からリモート参加)

②令和3年9月19日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

③令和3年10月24日(日)13時30分～ 講堂

④令和3年11月21日(日)13時30分～ 講堂

⑤令和3年12月12日(日)13時30分～

企画展示室B

⑥令和3年12月26日(日)13時30分～

企画展示室Bにおいて作品展示

・特別ギャラリートーク

講師：瀬戸 正人

日時：令和3年12月26日(日)12時30分～

場所：企画展示室内

参加者数：70名(写真学校参加者含む)

・「瀬戸正人写真学校 in 福島 成果展」

会期：令和4年1月5日(水)～30日(日)

場所：企画展示室B

## エ 福島アートアニュアル 2022

(7) 会期 令和4年2月8日(火)～3月6日(日)  
開催日数 23日

(イ) 分野 工芸、彫刻

(ウ) 展示数 35点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般・大学生 400(300)円

高校生 200(100)円

小・中学生 100(50)円

(カ) 観覧者数 1,496名

(キ) 概要

福島県立美術館では開館以来、福島県出身・ゆかりの若手作家を紹介する企画展を継続的に開催してきた。そこで、令和3年度からは新たに、近年充実した創作活動を繰り広げている若手作家を紹介するシリーズ企画「福島アートアニュアル」を立ち上げることとなった。

第1回となる本展では、漆芸家の吾子可苗(1980年北海道生まれ、会津若松市在住)、彫刻家の黒沼令(1978年岩手県生まれ、郡山市在住)の2名を取り上げた。漆を用いて植物の生命力や神秘性を表現する吾子。木材を複雑に組み合わせ、静かな空気感をまとった人の姿を表す黒沼。それぞれの“かたち”が生まれるとき、彼らはどのような想いで創作に向かっているのだろうか。震災を経て、コロナ禍にある現代に生きる彼らの創作活動の一端を紹介した。

(ク) 関連事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

・出品作家によるギャラリートーク

・創作プログラム

「お気に入りの絵を彫ろう 漆の沈金体験」

## オ 写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き2&どうぶつ家族

(7) 会期 令和4年3月19日(土)～5月22日(日)

開催日数 56日(令和3年度11日)

(イ) 分野 写真

(ウ) 展示数 約260点

(エ) 主催 福島県立美術館、福島民報社

後援 NHK福島放送局

企画協力 株式会社NHKエンタープライズ

企画制作 クレヴィス

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円

高校生 600(500)円

小・中学生 400(300)円

※( )内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 19,094名(令和3年度3,022名)

(キ) 概要

岩合光昭は、動物写真家として今や世界中にファンを持つ、人気と実力を兼ね備えた写真家である。近年話題となったシリーズに「岩合光昭の世界ネコ歩き2」(NHKBSで放映中)や「どうぶつ家族」があり、本



展は、この2シリーズを同時に展示し、動物写真家・岩合光昭の世界を約260点の作品で味わう初めての展覧会である。ネコたちの屈託のない立ち振る舞いや、動物たちの飾らない愛情に満ちた表情は、東日本大震災から10年以上を経て、あらためて命の尊さ、家族の絆、生命の循環といった普遍的な問題を考える機会を提供してくれた。

#### (ク) 関連事業

- ・「自慢のネコちゃん写真大募集」

自慢のネコちゃんの写真を応募いただき、応募写真をすべてエントランスホールに展示した。

受付期間：令和4年3月19日(土)～4月30日(土)

展示期間：令和4年3月19日(土)～5月22日(日)

応募総数：414枚

#### (4) 動画配信等による情報発信

令和2年4月30日に動画共有サービスYouTubeに公式チャンネルを開設し、展覧会の見どころ等を紹介する動画配信を始めた。令和3年度における配信状況は次のとおりである。

- ・特集展示「佐藤玄々(朝山)の彫刻」「福島の作家・福島の風景」のご案内
- ・福島県立美術館企画展「ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展」予告
- ・福島県立美術館 常設展示のご案内(2021年度第I期)
- ・福島県立美術館企画展「ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展」開催中
- ・福島県立美術館企画展「福島アートアニュアル2022」

## 4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

#### (1) 調査活動

令和3年度は、県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家(亜欧堂田善、吉井忠ら収蔵作家、吾子可苗、黒沼令ら若手作家、李禹煥、北川健司ら現代版画家など)の調査を重点的に行った。

#### (2) 研究紀要

福島県立美術館研究紀要第7号を発行した。

- ・B5版79ページ、発行部数600部
- ・執筆者1名(堀 宜雄)

## 5 教育普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

#### (1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

令和3年度の受入団体総数は122団体3,720名で、そのうち解説を行ったのは71団体2,586名である。

#### (2) 鑑賞講座

芸術鑑賞講座「名画との対話」

講師：早川 博明(当館前館長)

場所：講義室

第1回「レオナルド・ダ・ヴィンチと《モナ・リザ》」

日時：令和3年6月12日(土)10時30分～12時

参加者数：22名

第2回「ジョルジョーネと《ラ・テンペスタ(嵐)》」

日時：令和3年8月14日(土)10時30分～12時

参加者数：16名

第3回「ティツィアーノと《聖愛と俗愛》」

日時：令和3年10月9日(土)10時30分～12時

参加者数：15名

第4回「カラヴァッジョと《聖マタイ伝と連作》」

日時：令和3年12月11日(土)10時30分～12時

参加者数：16名

#### (3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア 「カラフル木っ端でカタチをつくろう」

令和3年6月6日(日)13時30分～15時

・講師：佐野 美里(彫刻家)

・場所：エントランスホール

・参加者数：18名

イ 「おさんぽ美術館ーマップをつくろう！」

令和3年6月20日(日)13時30分～15時

・講師：大北 孝(主任学芸員)

白木 ゆう美(副主任学芸員)

・場所：実習室、庭園など

・参加者数：7名

ウ 「水墨画体験」

令和3年7月31日(土)、8月1日(日)10時～16時

※2日連続

・講師：久保木 桂子(美術家)

・場所：実習室

・参加者数：各8名

エ 「墨であそぶ・墨でえがく」

令和3年8月7日(土)10時30分～15時

・講師：久保木 桂子(美術家)

・場所：実習室

・参加者数：8名

オ 「瀬戸正人写真学校 in 福島」 (全6回)  
令和3年8月22日(日)、9月19日(日)、10月24日(日)、11月21日(日)、12月12日(日)、12月26日(日)、毎回13時30分～16時

※9月19日(日)は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・講師：瀬戸 正人 (写真家)
- ・場所：講堂、企画展示室
- ・参加者数：各40名

カ 「窓に描くクリスマス」

令和3年12月18日(土) 10時～15時

- ・講師：小原 風子 (画家、絵本作家)
- ・場所：実習室、庭園など
- ・参加者数：17名

キ 「お気に入りの絵を彫ろう 漆の沈金体験」

令和4年2月26日(土)午前・午後

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### (4) 美術館への年賀状展

県内の小・中・高校生から寄せられた手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示した。

- ・会期：令和4年1月12日(水)～30日(日)
- ・応募総数：171通
- ・観覧者数：554名

#### (5) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より実施している連携事業。こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

令和3年度は、小学校・中学校・高等学校・適応指導教室合わせて10校(参加者延べ143名)で開催した。ワークショップで制作した作品は、令和4年2月8日(火)～2月27日(日)の期間、当館企画展示室Bにおいて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

(ア) 講師：門馬 美喜 (アーティスト)

プログラム：建築廃材で小さなまちをつくろう

ー木製ブックスタンド制作ー

内容：福島県の復興に使われた様々なかたちの建築廃材を自由に組み合わせて、ブックスタンドをつくるワークショップ。

開催校・開催日・人数：

福島県立相馬高等学校 (美術部)

令和3年11月7日(日) 12名

(イ) 講師：宮嶋 結香 (画家)

プログラム：古紙を使って絵を描いてみよう！

内容：紙袋や包装紙など一度役目を終えた紙を破き、

断面やシワや入っている模様からイメージを膨らませて自由に絵を描くワークショップ。

開催校・開催日・人数：

田村市立大越小学校 (6年生)

令和3年11月17日(水) 22名

田村市立要田小学校 (5・6年生)

令和3年11月17日(水) 16名

南相馬市立太田小学校 (5・6年生)

令和3年11月18日(木) 9名

二本松市立渋川小学校 (4年生)

令和3年11月19日(金) 12名

郡山市立日和田中学校 (美術部)

令和3年11月5日(金) 7名

会津坂下町立坂下中学校 (文化部)

令和3年11月14日(日) 19名

須賀川市立小塩江中学校 (全校生)

令和3年11月19日(金) 16名

会津若松市立第二中学校 (美術部)

令和3年11月21日(日) 12名

(ウ) 講師：大北 孝 (主任学芸員)

プログラム：好きなもので友達の顔を描いてみよう！

内容：色々な画材を使ってキャンパスに友達の顔を描くワークショップ。

開催校・開催日・人数：

福島市教育委員会教育研修課 (ふれあい教室)

令和3年10月5日(火) 5名

福島市教育委員会教育研修課 (ふれあい教室)

令和3年10月7日(木) 6名

福島市教育委員会教育研修課 (ふれあい教室)

令和3年10月26日(火) 7名

イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について、講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

令和3年度は、前期講座が新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となり、後期講座のみ開催した。

(ア) 前期

日時：令和3年8月6日(金)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(イ) 後期

日時：令和3年11月2日(火)10時～15時45分

場所：福島県立美術館

講義・演習「学校と美術館の連携活動について」

演習「鑑賞用教材を活用した鑑賞活動」

講師：梅野 史代 (教育センター指導主事)

大北 孝 (主任学芸員)

参加者：小学校教諭2名、中学校教諭3名、高等学校教諭3名、特別支援学校教諭3名

合計11名

## (6) 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時：令和3年8月24日(火)～29日(日)

受講者数：3名

## (7) 県立図書館との連携事業

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみかかせ」と美術館の「鑑賞と工作のワークショップ」を連携させた「アートなおはなしかい」を、平成18年度から継続実施している。

日時：令和3年7月24日(土)14時～15時30分

場所：福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数：6名

## 6 館外連携

県内外の関係機関等と連携・協力して、芸術文化活動の質の向上、県民の美術に対する知識及び教養の向上、地域の活性化に取り組んでいる。

令和3年度においても、関係団体との連携事業を実施するとともに、他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等として学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

### (1) 友の会、協力会との連携事業

例年、友の会が実施している企画展開催時のボランティアやアートチャリティーバザー、実技講座等については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせた。令和3年度に友の会や協力会と実施した連携事業は次のとおりであるが、一部事業については中止となった。

#### ア 「アートミーツクッキー」

＜NPO法人福島県立美術館協力会との共催＞

「見る」「書く」「描く」「食べる」と様々な感覚を取り入れた、子どもも大人も参加できるアクティブ型の美術鑑賞企画を実施した。

日時：令和3年10月30日(土)9時30分～14時30分  
(当初予定 令和3年9月20日(月・祝))

場所：庭園、常設展示室

企画・ディレクション：フライデースクリーン

参加者数：200名

#### イ ミュージアム・コンサート

「春を呼ぶピアノとソプラノの歌声」

＜NPO法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共催＞

日時：令和4年2月20日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### ウ 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ

「黒沼令さんの木彫を鑑賞する」

＜NPO法人福島県立美術館協力会との共催＞

日時：令和4年3月5日(土)午前・午後

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### エ アートカード「ぼけっとアート」貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式

にした鑑賞補助教材「ぼけっとアート」の貸出を継続して行っている。令和3年度の貸出総数は、小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め、146か所、774セットである。

## (2) 他機関への協力

### ア 委員等

- ・福島市文化振興条例検討委員会委員(長根 由里子館長)
- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事  
(長根 由里子館長、堀 宜雄副館長心得兼学芸課長)
- ・福島県総合美術展覧会運営委員  
(堀 宜雄副館長心得兼学芸課長)
- ・第75回福島県総合美術展覧会大賞選考委員  
(堀 宜雄副館長心得兼学芸課長)
- ・白河市名誉市民選考委員会委員  
(堀 宜雄副館長心得兼学芸課長)
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員  
(増渕 鏡子専門学芸員)
- ・相馬市史調査編さん委員(増渕 鏡子専門学芸員)
- ・福島市写真美術館運営委員会委員  
(紺野 朋子主任学芸員)
- ・西会津国際芸術村公募展審査員(坂本 篤史主任学芸員)
- ・猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査委員  
(坂本 篤史主任学芸員)
- ・矢祭もったいない図書館手づくり絵本コンクール第二次審査選考委員  
(橋本 恵里学芸員)
- ・須賀川市文化財保護審議会委員(伊藤 匡専門員)
- ・郡山市立美術館協議会委員(荒木 康子専門員)
- ・いわき市立美術館収集評価委員(荒木 康子専門員)
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員(荒木 康子専門員)

### イ 講師、寄稿、発表、受賞等

- ・福島大学行政政策学類「博物館経営論」  
令和3年4月8日(木)～9月30日(木)  
全15回(講師：荒木 康子専門員)
- ・公益財団法人大和文華館シンポジウム  
「酒の美術ー日本・中国から西洋までー」  
令和3年10月10日(日)(講師：坂本 篤史主任学芸員)
- ・福島県立医科大学医学部「芸術と文化 博物館・美術館にみる芸術と文化」
  - ①令和3年11月10日(水)(講師：橋本 恵里学芸員)  
「THE ドラえもん展」
  - ②令和3年11月13日(土)(講師：橋本 恵里学芸員)  
企画展・常設展見学
  - ③令和3年11月17日(水)(講師：荒木 康子専門員)  
「福島県立美術館のコレクション」
- ・福島県立医科大学保健科学部「福島県を知る」  
令和3年8月10日(火)(講師：堀 宜雄副館長心得兼学芸課長、増渕 鏡子専門学芸員、橋本 恵里学芸員)
- ・西会津国際芸術村「展示実習」  
令和3年6月4日(金)(講師：坂本 篤史主任学芸員)

## 7 施設・設備の整備

令和3年2月13日に発生した福島県沖地震により、建物や設備、敷地内舗装等に被害が生じたため、令和3年度は、通常の施設・設備の維持管理に加えて、被災した設備等の復旧に取り組んだ。令和3年度における災害復旧費総額は17,227千円であった。

## 第13節 福島県立博物館

### 1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。

令和3年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

#### (1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

##### ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

##### 学校教育

高橋 由江 会津美里町立新鶴中学校校長

齊藤 恵子 福島県立郡山支援学校校長

##### 社会教育

長野 隆人（会長） いわき芸術文化交流館副館長

佐藤 公（副会長） 磐梯山噴火記念館館長

##### 家庭教育

滝澤 玲子 福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会津さざなみの会会員

##### 学識経験者

川口 立喜 公立大学法人会津大学グローバル推進本部国際戦略室長・准教授

四家 久央 合名会社四家酒造店代表社員

大越 章子 日々の新聞社記者

岩崎 和美 書道家

##### 公募

町田 久次 公募委員

##### イ 会議

第1回 令和3年7月28日(水)

##### 議題

- ①令和2年度博物館入館者数について
- ②令和3年度当初予算について
- ③令和3年度事業計画について
- ④企画展・特集展について
- ⑤中期目標の進捗状況について
- ⑥「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」及び「三の丸からプロジェクト」事業について
- ⑦ポリフォニックミュージアムについて
- ⑧新型コロナウイルス対策について

第2回 令和4年2月22日(火)

##### 議題

- ①令和4年度事業計画（案）について
- ②文化観光拠点施設機能強化事業（三の丸からプロジェクト）について
- ③館内施設の視察

## 2 資料収集事業

### (1) 収集展示委員会

#### ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

#### 福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

| 氏名     | 役職名                           | 備考   |
|--------|-------------------------------|------|
| 村川 友彦  | 福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長          | 委員長  |
| 岡田 清一  | 東北福祉大学大学院嘱託教授（専任職）            | 副委員長 |
| 青野 友哉  | 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授         |      |
| 大石 雅之  | 岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員 |      |
| 奥村 弘   | 神戸大学理事・副学長                    |      |
| 加藤 幸治  | 武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授           |      |
| 北野 博司  | 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授          |      |
| 角屋 由美子 | 米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長             |      |
| 玉川 一郎  | 福島県考古学会長                      |      |
| 原田 一敏  | ふくやま美術館長                      |      |
| 三上 喜孝  | 国立歴史民俗博物館教授                   |      |
| 柳沢 秀行  | 公益財団法人大原美術館学芸統括               |      |

#### イ 会議

コロナ禍のため、例年の形での会議の対面開催を行わず、オンライン開催とした。

開催日：令和3年8月4日(水)

##### 議題

- ①今後2年間の展示計画について
- ②令和4年度・令和5年度開催予定企画展について
- ③購入予定資料について
- ④「三の丸からプロジェクト」について

### (2) 受贈・受託

#### ア 歴史資料

(ア) 受贈 徳川家綱御内書ほか 計68件

(イ) 受託 磐梯山噴火実況図ほか 計105件

#### イ 美術資料

(ア) 受贈 春峯筆「山水図屏風」ほか 計206件

(イ) 受託 木造聖観音坐像ほか 計19件

#### ウ 民俗資料

- (ア) 受贈 鹿島流しの船と鹿島人形ほか 計 62 件
- (イ) 受託 会津だるま 1 件
- エ 考古資料
  - (ア) 受贈 採集考古資料 789 件
- オ 自然資料
  - (ア) 受贈 異常巻きアンモナイトほか 計 16 件
  - (イ) 受託 宮古層群産アンモナイト 1 件
- カ 災害分野
  - (ア) 受贈 東日本大震災被災地写真 DVD ほか 計 5 件

### (3) 購入

- ア 自然資料
    - 現生動物骨格標本ほか 計 5 件
  - イ 図書資料
    - (ア) 一般図書 100 冊
    - (イ) 定期刊行物 31 種
- ### (4) 制作
- ア 民俗資料 大わらじ 1 件
  - イ 自然資料 アンモナイトと海生動物の復元イラスト 1 件

## 3 保存管理事業

### (1) 資料の収蔵

- ア 博物館資料
  - 資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は 1 件と数える。

収蔵資料数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

| 分野   | 件数      | 備 考                |
|------|---------|--------------------|
| 考古   | 21,023  | 土器・石器・金属器ほか        |
| 民俗   | 14,060  | 生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか |
| 歴史   | 22,623  | 書籍・文書資料ほか          |
| 美術   | 7,428   | 絵画・彫刻・工芸資料ほか       |
| 自然   | 44,540  | 化石・岩石・鉱物ほか         |
| 震災遺産 | 380     | 被災遺物、文書資料、写真ほか     |
| 合計   | 110,054 |                    |

令和3年度収蔵指定文化財 国指定:8 件

福島県指定:45 件

### イ 図書及び映像

(ア) 収蔵図書数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

考古分野：28,930 冊 民俗分野：5,104 冊  
 歴史分野：11,035 冊 美術分野：4,896 冊  
 自然分野：17,800 冊 保存分野：1,917 冊  
 震災遺産：159 冊 その他：62,677 冊  
 合計：132,518 冊

(イ) 収蔵映像資料数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

収蔵映像資料総数：1,374 点

### (2) 登録・整理

#### ア 資料管理システムの運用

平成 25 年度から、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たに ASP 方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I. B. Museum SaaS を導入している。一部の登録項目の再構成については、令和元年度に改修を実施した。

#### イ 資料の登録・資料情報の外部公開

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和 4 年 3 月 31 日現在)

| 資料類別   | 登録資料<br>(令和 3 年度) | 登録資料<br>(累計) | 資料情報の外部公開<br>(令和 3 年度) | 資料情報の外部公開<br>(累計) |
|--------|-------------------|--------------|------------------------|-------------------|
| 考古資料類  | 459               | 12,589       | 136                    | 3,668             |
| 民俗資料類  | 137               | 15,345       | 137                    | 5,717             |
| 歴史資料類  | 626               | 46,477       | 1,304                  | 16,021            |
| 美術工芸品類 | 353               | 6,584        | 32                     | 68                |
| 自然標本類  | 187               | 26,720       | 1,210                  | 14,341            |
| 合計     | 1,762             | 107,715      | 2,819                  | 39,815            |

### ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止により、ボランティア活動日が減った。

#### (ア) 自然資料整理

磐梯山関係資料のほか、化石の整理作業  
 登録人数 2 名 活動日数 3 日

#### (イ) 古文書整理

歴史資料の整理作業（表題・年代・法量などのデー

タ採取）登録人数 9 名 活動日数 8 日

#### (ウ) 民俗資料整理

藁人形資料のほか写真資料の整理  
 登録人数 2 名 活動日数 12 日

#### (エ) 考古資料整理

古墳出土資料の撮影・寄贈資料の整理  
 登録人数 1 名 活動日数 18 日

### (3) 貸出

ア 博物館資料  
貸出資料一覧

| 資料名                      | 貸出先             | 貸出期間                    | 展覧会名                          |
|--------------------------|-----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 十二天図(慧日寺旧蔵) 旧軸木 慶長6年銘 1点 | 磐梯町磐梯山          | 令和3年4月6日～               | 常設展                           |
| 十二天図(慧日寺旧蔵) 旧軸木 延宝3年銘 1点 | 慧日寺資料館          | 令和4年12月3日               |                               |
| メタセコイア化石のレプリカ 1点         | 地質標本館           | 令和3年9月20日～<br>12月15日    | 企画展「生きている化石<br>メタセコイア」        |
| イヌワシ剥製標本 1点              | ただみ・ブナと川のミュージアム | 令和3年12月1日～<br>令和4年4月4日  | 企画展「只見の猛禽類」                   |
| 縄文時代土偶髪型復元模型 3点          | 江戸東京たても<br>の園   | 令和3年10月1日～<br>令和4年6月30日 | 特別展「縄文2021—縄文のくらし<br>とたてもの一—」 |

イ 写真資料

総数 : 103 件 184 点

考古 : 14 件 25 点      民俗 : 17 件 53 点

歴史 : 46 件 73 点      美術 : 24 件 30 点

災害 : 2 件 3 点

### (4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)など主要なスペースの保存環境を6月と10月の年2回調査した。

イ 生物被害防除

7月と9月に1回ずつ計2回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、合計630件を燻蒸処理した。

## 4 展示事業

### (1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全5回開催した。

(ア) 「会津の修験—西会津町旧福寿院の宗教世界」

(イ) 「美しき刃たち—いわき編」

(ウ) 「祈りのふくしま5」

(エ) 「ふくしまの焼きもの2—会津本郷焼」

(オ) 「福島を伝える—震災とアート」

イ ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」と

して全21回開催した。

(ア) 「雛祭り与人形」

(イ) 「チャレンジ! 今月の古文書 弥生編」

(ウ) 「東北初発見! オオミツパマツ」

(エ) 「復活! 会津だるま」

(オ) 「文芸を好んだ会津の戦国武将・蘆名盛氏」

(カ) 「奥羽再仕置 430 周年記念 蒲生氏郷軍、北へ」

(キ) 「くずし字に挑戦! ①」

(ク) 「くずし字に挑戦! ②」

(ケ) 「みんなの震災遺産」

(コ) 「会津若松と軍隊」

(サ) 「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」

(シ) 「発見! ハナワクジラ」

(ス) 「ふくしまを耕した古代の農具」

(セ) 「葬儀と民具」

(ソ) 「ヒト形の付いた縄文土器」

(タ) 「金属器を模倣した石器」

(チ) 「厄流しと宝船」

(ツ) 「くずし字に挑戦! ③」

(テ) 「くずし字に挑戦! ④」

(ト) 「暑さ寒さをしのご道具たち」

(ナ) 「くずし字に挑戦! ⑤」

### (2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和3年度は、3本の企画展示を開催した。

ア 春の企画展

「会津の絵画—福島県立博物館収蔵品を中心に—」

(ア) 会 期 令和3年4月24日(土)～6月27日(日)

開館日数 56 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 2,662 人

(エ) 担当学芸員 美術分野: 川延 安直、小林 めぐみ、塚本 麻衣子、原 恵理子

(オ) 趣 旨

戦国時代に会津も拠点として活動した画僧・雪村。

狩野探幽に学んだ会津藩お抱え絵師・加藤遠澤とその系譜の絵師たち。幕末に活躍した谷文晁門下の佐竹永海、遠藤香村。江戸から明治へ、戊辰戦争を生き延びた浦上秋琴、野出蕉雨。大正時代のアーティスト・イン・レジデンス、喜多方美術倶楽部に招かれた小川芋銭、森田恒友、石井柏亭。会津に生まれ会津を描いた坂内青嵐、湯田玉水、岩浅松石。

福島県立博物館がこれまで進めてきた会津ゆかりの絵画の調査研究、開催してきた展覧会による成果を総合し、当館に寄贈・寄託いただいた資料を中心に会津地方の近世・近代絵画を一堂にご覧いただいた。

#### (カ) 展示構成

近年当館にご寄贈いただいた雪村周継筆「瀟湘八景図帖」、加藤遠澤の「布袋山水図」を初め、遠澤に続く会津藩の御抱絵師の作品、萩原盤山、佐竹永海、遠藤香村ら会津出身、浦上秋琴ら会津ゆかりの近世の画人の作品、佐藤適圃、野出蕉雨ら近代まで活躍し地域で人気を博した画人の作品など、収蔵品（一部借用作品を含む）を中心とした関連資料 110 点を企画展示室、テーマ展示室「歴史・美術」で展示した。

#### (キ) 関連事業

a 「三の丸からプロジェクト まちなか連携事業 若松城下で味わう 会津の絵画・まちかたの暮らし」

会津若松市内の歴史的建造物を会場に会津の絵画を特別公開。歴史ある建物の空間で作品をご覧いただいた。

会場：若松城天守閣郷土博物館・福西本店・末廣酒造 嘉永蔵・竹藤

b 美術講座 美術談話 1「美術を社会に～喜多方美術倶楽部」

c 「会津の絵画」展あんな話こんな話

d 学芸員のおススメ特選解説会

上記 b～c の 2 件のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

#### イ 夏の企画展

「あはひのクニ あやかしのクニーふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異ー」

(ア) 会 期 令和 3 年 7 月 17 日(土)～9 月 26 日(日)  
開館日数 63 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主催：福島県立博物館、福島民友新聞社、  
福島中央テレビ

後援：株式会社リオン・ドールコーポレーション

協力：会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会

(エ) 入館者数 17,485 人

(オ) 担当学芸員 民俗分野：山口 拓  
美術分野：塚本 麻衣子  
考古分野：山本 俊  
災害分野：弦巻 優太

#### (カ) 趣 旨

福島県内の様々な怪異・妖怪・幽霊に関する資料を通じて、私たちと異界との関わり的一端を紹介した。本展では福島をこの世とあの世の間にある「あはひのクニ」であり、それゆえに妖怪や幽霊がはびこる「あやかしのクニ」であると捉えてみた。これにより、一見学術的な対象になると思われづらい妖怪や幽霊を、その土地に根差した歴史や文化の一部として認識できるよう試みた。また、新型コロナウイルスの流行に伴って予言をする妖怪「アマビエ」に注目が集まったように、非常時に不思議なものにすがる人の心は前近代から大きく変わっていないように思われる。そうした心性を客観視し、現在も含めて探求する役割も博物館にはあるのではないかと。

博物館のライトユーザーに楽しんでいただけるテーマや切り口を用意しつつ、現代的な視点も含めながら福島県の歴史や文化の奥深さを感じられる企画展を目指した。

#### (キ) 展示構成

a あはひをつなぐモノ

「オシンメイサマ」(館蔵)、

「ナマハゲ資料」(秋田県男鹿市教育委員会蔵)ほか

b となりのあやかし

「百鬼夜行絵巻」(国立歴史民俗博物館蔵)、

「妖怪像」(湯本豪一記念日本妖怪博物館蔵)ほか

c あはひに落ちる人々

幽霊画(金性寺蔵)、山姥のかもじ(猪苗代町教育委員会蔵、当館寄託資料)ほか

d あやかしのクニ 会津

『老嫗茶話』(個人蔵)ほか

※ 展示資料 62 件(展示替え資料を含む)

#### (ク) 関連事業

a 会津若松市ナイトタイムエコノミー「ナイトタイムまちなか周遊企画 裏会津」7 月 17 日(土)～9 月 26 日(日)

b 「三の丸からプロジェクト まちなか連携事業 宵まち会津」

ウ 秋の企画展「ふくしま 藁の文化ーわらって、すげえんだがら」

(ア) 会 期 令和 3 年 10 月 9 日(土)～12 月 19 日(日)  
開館日数 62 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 7,530 人

(オ) 担当学芸員 民俗分野：大里 正樹

#### (カ) 趣 旨

米づくりと共に生み出される藁(わら)は、多様な道具に使われる身近な素材である一方、しめ飾りにも使われるように神聖なものでもあった。大わらじや俵引き、村境を守るわら人形など、巨大なわら製品を作る祭りや行事は県内に広く見られる。本展では、わらを用いた多様な資料から、豊かな藁の文化をご紹介します。

た。また、福島県立博物館の誇る「東日本のわら人形コレクション」も一挙公開した。

(キ) 展示構成

- 導入展示 けんぱく田んぼ&日本科学未来館「ビューティフルライス」展
- 第1部 わらわら、神さま大集合！～東日本のわら人形コレクション～
- 第2部 “わら”う門には、福来たる～わらが支える年中行事～
- 第3部 なんてかんで、わら！～なつて・もじつて・編んで、暮らしの中のわら細工～

(ク) 関連事業

- a 日本科学未来館巡回展「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように～」  
10月5日(火)～12月19日(日)  
共催 日本科学未来館
- b 「バケツ稲と稲のはさがけ」  
5月21日(金)～12月19日(日)  
※バケツ稲5月21日(金)～10月15日(金)、  
はさがけ10月5日(火)～12月19日(日)
- c 「みんなでつくった昔の「藁(わら)のたわし」～会津若松市立鶴城小学校5年生のみなさんのわら細工作品展示～」  
11月28日(日)～12月19日(日)

(3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。令和3年度は、2本の特集展を開催した。

ア 特集展「貝殻パラダイス！」

- (ア) 会期 令和4年1月22日(土)～2月27日(日)  
開館日数32日間
- (イ) 会場 企画展示室
- (ウ) 観覧者数 1,743人
- (エ) 担当学芸員 自然分野：相田 優
- (オ) 趣旨

貝殻は、そのさまざまな色彩や質感、かたちのおもしろさ、種類の多さ、扱いやすい大きさ、保存のしやすさなど数々の特徴により、貝殻収集家たちによって世界中から集められ、古くから多くの人々に親しまれてきた。一方で、貝殻の特徴をもとに貝類を分類する試み(貝殻学)も成立し、軟体動物学の一端を担ってきた。

今回の展示では、展示対象を海生貝類にしぼり、海的环境によって異なるさまざまな貝の種類を紹介すると共に、多くの貝殻に親しむことで、観覧者に貝類の多様性を認識してもらい、ありのままの自然を保っていく上での自然保護の大切さについて関心を誘うことを目標とした。

(カ) 展示構成

- I さまざまな貝のすがた(大きな貝たち、ふしぎなかたちの貝たち、これも貝のなかま)

- II 美しい貝(オキナエビスのなかま、ヒオウギ、タカラガイのなかま、イモガイのなかま)
  - III 貝の生活(潮間帯や浅い岩場に住む、深い岩場や岩礫底に住む、干潟や内湾の砂泥底に住む、砂浜に住む、深い砂泥底に住む、深海に住む・冷たい北の海に住む、サンゴ礁に住む)
  - IV 浜辺で拾った貝殻(福島の浜辺、新潟の浜辺)
  - V 貝を食べる
- ※ 主な展示資料：オオシャコガイ、ホラガイ、スケーリーフット(福島県初公開)ほか、出品件数800件

(キ) 関連事業

実技講座、講演会、ワークショップ、展示解説会等、合計5回の行事を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、開幕初日の展示解説会以外、中止とした。

- イ 特集展「そなえの芽 災害から考える あしたの暮らし」  
(ア) 会期 令和4年2月11日(金・祝)～3月27日(日)  
開館日数38日間
- (イ) 会場 収蔵資料展示室
- (ウ) 観覧者数 2,094人
- (エ) 担当学芸員 震災遺産保全チーム担当学芸員
- (オ) 趣旨

震災遺産を活用した学校など教育現場での防災講座やワークショップなどへの展開を視野に入れて、展示でいかに自分事化することができるかを目的として本展示を構成した。震災遺産と問いを合わせることで、人の語りに頼らない災害伝承の持続可能性の獲得を目指すことも本展示の狙いの一つとなった。来館者からのアンケートを展示に活用し、参加型対話形式の展示をめざした。

(カ) 展示構成

- 自然の恵み
- 地震へのそなえ ～おちない・たおれない・うごかない～
- 津波へのそなえ ～津波から逃げる～
- 避難所の暮らし ～知恵を絞って困難を乗り越える～
- 家庭のそなえ ～家庭のそなえを考える～
- 原子力発電所事故
- 防災講座、防災ワークショップの紹介
- 出品点数40件

(キ) 関連事業

防災講座ワークショップ「さすけなぶる」、防災工作ワークショップ「たのしいそなえ」、見どころ解説会を実施した。防災教育ワークショップ「震災遺産を活用した授業づくり」は新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン開催に変更して実施し、防災工作ワークショップ「楽しい備え」は会津若松市にまん延防止等重点措置が適用されたことを受けて中止とした。



#### (4) 指定文化財の公開

令和3年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

##### ア 国指定

〈重要文化財〉

(ア) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会（福島県）

（総合展示室：原始にて展示公開）

##### イ 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

(ア) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県

(イ) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点 いわき市

(ウ) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市

(エ) 森北1号墳出土品のうち 石製品及び鉄製品 4点 会津坂下町

（以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開）

(オ) 関下人形 5点 個人

(カ) 長谷部家文書のうち「怪事雑話 卷之四・卷之五」1点 個人・福島県歴史資料館寄託

（以上2件は、企画展「あはひのクニ あやかしのクニーふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異」にて展示公開）

#### (5) 展示解説

##### ア 展示解説員

令和3年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。

前年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大にともない、接触の多い様々な場所や物への消毒作業、来館者の密を避けるための展示室内の人数管理、さらに設定人数を超過した場合の人数制限措置の実施などを継続した。

本来の業務が大幅に制限される状況が続いたが、口頭での展示解説の代替策として普段多く寄せられる質問をQ&A形式でデジタルサイネージを使って表示したほか、今年度は学校団体に限りマイクを使用した通し解説を試行的に再開した。体験学習室では折り紙など持ち帰ることのできる玩具を活用すると共に、着付け体験のできない時代衣装はマネキンに着せて展示するなどの工夫をした。また解説員がそれぞれ展示コーナーを選んで解説動画の収録を行い、今後の活用方法を検討した。

##### イ 学芸員

企画展及び特集展の開催中は、職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。令和3年度は年間502回を数えた。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を受け、企画展・特集展の展示室における展示解説は原則として休止し、代替措置として講堂でのパワーポイントを使用した「見どころ解説会」を開催した。感染状況が落ち着いていた春季企画展「会津の絵画」では、少人数での展示解説を試行することができたが、続く企画展・特集展では感染拡大状況を考慮し、中止とせざるをえなかった。また、常設展示室におけるポイント展ミニ解説会は平日実施とし、少人数・事前予約制で開催した。

#### (6) 体験学習室

エントランスホール隣の無料空間に位置し、さまざまな体験を提供する場として設置されたスペース。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、前年度から引き続き、時代衣装の着付けや昔のおもちゃ遊び等といった物や人の接触を多く伴う利用については中止となった。そのため、各種展示やワークショップの成果発表の場、職員が常駐できるイベント等の会場として恒常的に開室するという形をとることとなった。

展示については、夏の企画展開催中には、ワークショップで参加者が制作した妖怪の絵を会期中に展示した。また、同ワークショップの手法を援用した会津若松ザベリオ学園小学校との協働における制作物の展示も行った。秋の企画展開催中には、鶴城小学校と連携して行った「バケツ稲」の成果や児童が育成した稲藁を用いて製作したわら細工の展示を行った。さらに、当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会と、当館が協力し企画運営している福島県の文化事業・福島芸術計画が、福島県立会津支援学校と連携して実施したワークショップ成果作品の展示も行った。

ワークショップについては、会津大学短期大学部教育学科との連携により、コロナ禍であっても創造的な時間を参加者に用意することができた。また「三の丸からプロジェクト」における体験型プログラムや、同プロジェクトの「雪国ものづくりマルシェ」のワークショップの会場として賑わいを創出することもできた。

## 5 調査研究事業

### (1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和3年度は以下の7テーマの調査を実施した。

ア 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古分野

(イ) 調査概要

前年度に引き続き、県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。県指定重要文化財の泉崎村原山1号墳出土埴輪（館蔵）のうち、円筒埴輪の3D計測を実施し、県内の出現期の形象埴輪群の詳細

観察・比較が可能となるデータ整備を推進した。

イ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 民俗・考古・歴史・自然・災害分野

(イ) 調査概要

特集展の実施を見据え、ポイント展では観覧者の参加を意識し、付箋に感想を書いてもらいそれを掲示した。多くの意見が寄せられ、震災遺産活用の新たな展開だとの意見もいただいた。会津教育事務所や防災教育に関心ある教員との意見交換等から、震災遺産と問いを使った災害伝承の持続可能について検討を開始することができた。現代資料の活用として、大学・高校等での授業を実施することができた。またベンチャー企業と協働して、震災遺産の3DCG化や、メタバースでの実験など最新技術を活用した資料活用の試行を行った。学校の先生へのインタビューを協働して取りまとめ、冊子化するために編集作業等を行った。

ウ 浜通りにおける古生代大型化石の研究

(ア) 分野 自然分野

(イ) 調査概要

化石産地の現地調査を行い、新たに古生代大型化石を採取した。学術的価値の検討のため、浜通り産古生代微化石と中生代大型化石についても検討した。

エ 福島県成立前後の近代資料の調査研究

(ア) 分野 歴史分野

(イ) 調査概要

前年度に続きコロナ禍であることを考慮して、個人の古文書所有者のもとを直接訪問する調査は積極的には実施しなかった。令和3年度は、主に旧吉田村(現福島県会津美里町)の村会の記録や戸長役場文書を解読・研究した。さらなる事例の蓄積が必要であるが、明治10年代の村政の状況が明らかとなった。成果は歴史講座やポイント展等で公表する。

オ 収蔵資料活用に向けた本県薫文化の研究

(ア) 分野 民俗分野

(イ) 調査概要

本年度は、県内各地での行事調査を継続、調査成果について企画展「ふくしま 薫の文化」の図録や展示へと活かした。4月には田村市(朴橋・屋形・堀越)のお人形様行事調査、7月には伊達市保原のつつこ引き行事調査、また県外調査として館蔵資料の「秋田県大館市山田のジンジョサマ」「秋田県横手市末野のショウキサマ作り・カシマ流し」の現状調査をそれぞれ行った。特に5～7月にかけては福島市・信夫山の大わらじについて制作者団体である御山敬神会の協力を得て、展示用資料として現物の大わらじの4分の1サイズ(3メートル)の大わらじを製作依頼し、資料として収集・展示した。その他、つつこ引きの「つつこ」(4分の1模型、伊達市)、「カシマ流しの舟とカシマ人形」(秋田県横手市末野)などの資料を新たに収集することができ、資料の充実に資した。

カ 神社仏閣に伝世する料紙に関する研究

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 調査概要

只見町教育委員会保管の伝世資料について、料紙調査及び保存状態調査を実施した。

キ 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術分野

(イ) 調査概要

会津地方の南エリア・南会津町薬師寺の薬師如来像、阿弥陀如来像の調査を実施。仏像の保存状態の現状を確認した。調査結果等を令和4年度の美術講座で報告する計画を立てた。西エリア・金山町宮崎観音堂の修理に伴い、本尊の観音菩薩像の調査を実施。仏堂修理の間、観音菩薩像の寄託を受け、調査結果等をテーマ展「祈りのふくしま5」で紹介した。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

令和3年度は、石井健司家・山谷幸枝家・笠間せい子家・坂内利子家資料の整理を行い、このうち石井健司家・山谷幸枝家・笠間せい子家資料については登録まで終了した。また登録済みだが、未公開であった松崎達夫家寄贈資料(若松城下薬種問屋資料)を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

(ア) 印刷物(単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

猪瀬 弘瑛『アンモナイト合戦』福島県立博物館

猪瀬 弘瑛・福島県立博物館友の会化石鉱物探検隊「福島県郡山市湖南町に分布する中新統大久保層から産する化石について」『福島県立博物館紀要』第36号

猪瀬 弘瑛・久保 貴志・菜花 智・いわき自然史研究会「福島県いわき市の双葉層群玉山層から産するコンボウガキ *Konbostrea konbo* の産状」日本古生物学会 2021 年年会講演予稿集

主森 亘・久保 貴志・猪瀬 弘瑛・藤田 英留「福島県東白川郡塙町に分布する中新統久保田層から鱈脚類の産出」『福島県立博物館紀要』第36号  
望月 貴史・猪瀬 弘瑛「福島県いわき市の双葉層群足沢層から産出した生痕化石 *Helminthopsis* について」『福島県立博物館紀要』第36号

内山 大介・本間 宏「福島県と災害の10年Ⅱ 震災・原発被災と博物館」『文化財保存修復学会第43回大会研究発表集』pp. 364-365

内山 大介『福寿院の文化財と宗教世界—旧修験高橋家所蔵修験資料—』高橋行雄発行 pp. 1-24

内山 大介・辻本 侑生『山口弥一郎のみた東北—津波研究から危機のフィールド学へ—』文化書房博文社

内山 大介「福島県における民俗研究の歩みと県立博物館」『福島の民俗』50号 福島県民俗学会 pp. 65-73

内山 大介「震災・原子力災害後の博物館の10年とこれから—資料と活動の継承に向けて—」『ミュゼ』VOL. 128 アム・プロモーション pp. 14-151

大里 正樹編『ふくしま 蕈の文化〜わらって、すげえんだから!!〜』福島県立博物館

大里 正樹「会津だるまの復活に向けて」『だるまニュース』54号 全日本だるま研究会

川延 安直・小林 めぐみ「震災・原発事故からの学びがもたらす社会再生・ミュージアムの役割」『環境情報科学』50-2 一般社団法人環境情報科学センター

Shigeru Sugawara, Sahoe Sugizaki, Yoshihiko Nakayama, Hideya Taniguchi, Ichiro, Ishimaru Preliminary study for detection of adhesive on a painted ceramic plate and varnish on printed paper using near-infrared hyperspectral imaging at wavelengths of 1.0-2.35  $\mu\text{m}$ , *Infrared Physics & Technology*, Vol. 117

小林 めぐみ「未来を創る装置としてのミュージアムの可能性—ライフミュージアムネットワークの実践から」『現代の図書館』vol159no1 日本図書館協会

高橋 充「鳴山城」「駒寄城・西館」「久川城」「破城の作法と古城」飯村均・室野秀文編『続・東北の名城を歩く 南東北編 宮城・福島・山形』p. 111-121、183 - 184 吉川弘文館

高橋 充・時枝 務「信夫山頂遺跡出土品の研究(8)」『福島県立博物館紀要』36 p. 13 - 26 福島県立博物館

高橋 充・渡邊 明「会津の医学史—中世・近世の医師に関する史料を中心に—」『福島県立博物館紀要』36 p. 37 - 56 福島県立博物館

田中 敏「磨消擬縄文長頸壺形土器(福島県大沼郡会津美里町五本松遺跡出土)」『国華 特輯弥生土器』第1508号 p. 52-53 国華社

吉田 純輝・猪瀬 弘瑛・菜花 智・真鍋 真「福島県いわき市の上部白亜系・双葉層群玉山層から産出した小型の鳥脚類恐竜」日本古生物学会第171回例会講演予稿集

Yoshida, Junki, Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. A new goniopholidid from the Upper Jurassic Morrison Formation, USA: novel insights into aquatic adaptation toward modern crocodylians. *Royal Society Open Science* 8(12): 210320.

Yoshida, Junki, Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. Taxonomy of a new goniopholidid specimen from the Upper Jurassic Morrison Formation and their diversity in North America. Abstract Book of 9th Annual meeting of Canadian Society of Vertebrate Palaeontology.

Yoshida, Junki, Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. Morphology and anatomy of hyoid apparatus in crocodylians: the origin of the gulag valve in Neosuchia. Abstracts of 81th Annual meeting of Society of Vertebrate Paleontology.

(イ) 学会発表

猪瀬 弘瑛・久保 貴志・菜花 智・いわき自然史研究会「福島県いわき市の双葉層群玉山層から産するコンボウガキ *Konbostrea konbo* の産状」

日本古生物学会 2021 年年会 (オンライン開催)

村宮 悠介・猪瀬 弘瑛・歌川 史哲・相場 大佑・安藤 寿男・大森 光「上部白亜系双葉層群足沢層から産出したコニアシアンのアノモノイド」

日本古生物学会 第171回例会 (オンライン開催)

内山 大介「職場としての博物館・公務としての民俗学—『学芸員は研究者なのか』を考える—」現代民俗学会第56回研究会「民俗学者の『生きる方法』—若手研究者向けキャリア支援企画—」オンライン開催

内山 大介「山口弥一郎がいわきに残したもの—磐城高等女学校と磐城民俗研究会—」いわき市暮らしの伝承郷講座、於：いわき市暮らしの伝承郷

内山 大介「震災・原子力災害後の博物館の10年とこれから—資料と活動の継承に向けて—」ICOM-DRMC (国際博物館会議博物館防災国際委員会) 東日本大震災10周年シンポジウム「市民と博物館がまもり、つなぐふるさとの宝—東日本大震災後10年目における博物館活動の再生と創造—」於：陸前高田市コミュニティホール

内山 大介・榎村 賢二「民具を語る9・10 会津鋸 I・II」神奈川大学日本常民文化研究所 YouTube チャンネル

内山 大介「震災をめぐるモノと物語の継承—博物館学芸員と東日本大震災—」日本口承文芸学会第81回研究例会「東日本大震災から11年—震災をめぐる現場の声と研究者—」オンライン開催

大里 正樹「会津だるまとその復元について」、「会津だるまを語る会」於：たけとう茶屋

大里 正樹「講演 ふくしまの蕈の文化」「まちなか案内人養成講座」於：福西本店

小林 めぐみ「地域と小学校とミュージアム ライフミュージアムネットワーク 2020 の浪江町立津島小学校との協働から」2021 年度地域歴史資料継承領域第 6 回研究会震災後のふくしまの新たな取り組みに学ぶ（オンライン開催）

杉崎 佐保恵「古器旧物保存方太政官布告より 150 年—明治時代における文化財保護のあゆみ—」『文化財保存修復学会第 43 回大会研究発表要旨集』p. 372-375（紙面開催）

高橋 充「会津」宇都宮・会津仕置 430 周年記念シンポジウム「宇都宮・会津仕置の諸問題」  
於：大田原市那須与一伝承館

高橋 満「中才遺跡出土の製塩土器を考える」仙台市縄文の森広場 春のコーナー展示「東北の縄文遺跡—南相馬市中才遺跡」関連講座（オンライン開催）

筑波 匡介「ふくしま学（楽）会」話題提供 第 2 部「福島を経験を学び、語り継ぐ枠組みを考える」パネルディスカッション 早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・早稲田大学レジリエンス研究所（WRRI）

筑波 匡介 報告とディスカッション ぼうさいこくたい 2021 災害伝承ミュージアム・セッション vol.3 2021 経験の伝承・次の災害への備え。啓発の新たなチャレンジ 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

吉田 純輝・猪瀬 弘瑛・菜花 智・真鍋 真  
「福島県いわき市の上部白亜系・双葉層群玉山層から産出した小型の鳥脚類恐竜」日本古生物学会第 171 回例会（オンライン開催）

イ 他団体による委嘱等

阿部 綾子：相馬市史編さん調査執筆員ほか 3 件  
猪瀬 弘瑛：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

内山 大介：郡山市文化財保護審議会委員ほか 11 件  
大里 正樹：会津坂下町史編さん専門委員ほか 7 件  
川延 安直：喜多方市美術館収集委員会委員ほか 8 件  
栗原 祐斗：熊谷市史編集委員

小林 めぐみ：福島芸術計画運営委員会委員ほか 10 件  
杉崎 佐保恵：文化財保存修復学会第 43 回大会実行委員  
高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員ほか 14 件  
高橋 満：富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員ほか 1 件

田中 敏：会津坂下町史編さん委員ほか 4 件  
塚本 麻衣子：喜多方市文化財保護審議会委員ほか 1 件  
筑波 匡介：長岡造形大学非常勤講師ほか 3 件  
山口 拓：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員

ウ 研究助成金等

杉崎 佐保恵：古墳時代の金属製象嵌製品の製作技法の解明と保存修復のための診断技術の確立

高橋 満：科研費・基盤研究（C）「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基礎的研究」研究代表者

高橋 満：科研費・基盤研究（A）「日本列島における製塩技術史の解明」研究分担者

吉田 純輝：科研費・若手研究「鳥類固有の発声器の発生学的研究～「鳴管」の形態形成機構と起源の解明～」研究代表者

## 6 教育普及事業

### (1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演会等を実施している。令和 3 年度の各講座開催数は 112、総参加者数は 3,839 人であった。

ア 令和 3 年度講座・講演会等行事一覧

(ア) 特別講座

| テーマ                                      | 講師・所属等                                        | 期日                 | 参加人数 |
|------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------|------|
| 特別講座①「詩人のいる博物館 あはひのはなし『遠野物語』から 2021 年まで」 | 和合 亮一（詩人）<br>土方 正志（荒蝦夷 代表）                    | 令和 3 年 9 月 25 日（土） | 49   |
| 特別講座②「詩人のいる博物館 写真の力／言葉の力」                | 和合 亮一（詩人）<br>アイリーン・美緒子・スミス<br>（写真家・環境ジャーナリスト） | 令和 4 年 1 月 15 日（土） | 29   |
| 特別講座③「詩人のいる博物館 ふくしまを書く」                  | 和合 亮一（詩人）<br>古川 日出男（小説家）                      | 令和 4 年 3 月 5 日（土）  | 78   |

(イ) 考古学講座

| テーマ          | 講師・所属等              | 期日                    | 参加人数 |
|--------------|---------------------|-----------------------|------|
| 歩いて学ぶ会津大塚山古墳 | 平澤 慎（学芸員）           | 令和 3 年 11 月 23 日（火・祝） | 17   |
| 勾玉をつくろう      | 田中 敏（学芸員）・平澤 慎（学芸員） | 令和 4 年 3 月 26 日（土）    | 8    |

## (ウ) 民俗講座

| テーマ              | 講師・所属等 | 期日            | 参加人数 |
|------------------|--------|---------------|------|
| 記録映像で見るふくしまの暮らし① |        | 令和3年12月19日(日) | 13   |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし② |        | 令和4年1月16日(日)  | 11   |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし③ |        | 令和4年2月20日(日)  | 16   |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし④ |        | 令和4年3月20日(日)  | 8    |

## (エ) 歴史講座

| テーマ                             | 講師・所属等      | 期日            | 参加人数 |
|---------------------------------|-------------|---------------|------|
| はじめてさんの古文書講座①「辞書と友だちになろう」       | 栗原 祐斗 (学芸員) | 令和3年7月11日(日)  | 41   |
| はじめてさんの古文書講座②「古文書を読んでみよう」       | 栗原 祐斗 (学芸員) | 令和3年7月25日(日)  | 38   |
| かじったさんの古文書講座①「その政宗文書は、本当に正しいか？」 | 高橋 充 (学芸員)  | 令和3年11月14日(日) | 27   |
| かじったさんの古文書講座②「秀吉文書は、どうして大きいのか？」 | 高橋 充 (学芸員)  | 令和3年11月28日(日) | 24   |

## (オ) 自然史講座

| テーマ    | 講師・所属等        | 期日           | 参加人数 |
|--------|---------------|--------------|------|
| 鶴ヶ城の野鳥 | 古川 裕司 (野鳥研究家) | 令和3年11月7日(日) | 16   |

## (カ) 保存科学講座

| テーマ                                    | 講師・所属等       | 期日            | 参加人数 |
|----------------------------------------|--------------|---------------|------|
| 古器旧物保存方太政官布告150年 明治時代より文化財保護のあゆみをふりかえる | 杉崎 佐保恵 (学芸員) | 令和3年11月27日(土) | 5    |

## (キ) 美術講座

| テーマ                     | 講師・所属等                            | 期日            | 参加人数 |
|-------------------------|-----------------------------------|---------------|------|
| 美術放談2「払うモノ 浄めるモノー武器の真髄」 | 小林 めぐみ・塚本 麻衣子 (学芸員)               | 令和3年8月27日(金)  | 6    |
| 美術放談3「自然への憧憬」           | 川延 安直 (副館長)<br>塚本 麻衣子 (学芸員)       | 令和3年9月24日(金)  | 15   |
| 福島のお像を修復してみた            | 松岡 誠一 (仏像文化財修復工房代表)               | 令和3年10月3日(日)  | 33   |
| やさしい焼きもの講座「会津本郷焼の魅力」    | 弓田 修司 (会津本郷焼事業協同組合 代表理事)          | 令和3年11月13日(土) | 16   |
| 美術放談4「暮らしの中の文様・図様」      | 川延 安直 (副館長)<br>小林 めぐみ・原 恵理子 (学芸員) | 令和3年11月26日(金) | 17   |
| 美術放談5「震災とアート」           | 川延 安直 (副館長)<br>小林 めぐみ (学芸員)       | 令和4年3月25日(金)  | 32   |

## (ク) 防災講座

| テーマ                     | 講師・所属等      | 期日           | 参加人数 |
|-------------------------|-------------|--------------|------|
| 楽しいそなえ                  | 筑波 匡介 (学芸員) | 令和3年9月1日(水)  | 8    |
| 世界津波の日に読み直す・山口弥一郎『津浪と村』 | 内山 大介 (学芸員) | 令和3年11月5日(金) | 21   |

## (ケ) 企画展・特集展関連行事

| テーマ                                           | 講師・所属等      | 期日           | 参加人数 |
|-----------------------------------------------|-------------|--------------|------|
| 企画展「会津の絵画」内覧会 (友の会・報道向け)                      |             | 令和3年4月23日(金) | 17   |
| 学芸員のお気に入り特選解説会                                | 川延 安直 (副館長) | 令和3年5月1日(土)  | 8    |
| 「会津の絵画」展 よもやま話                                | 川延 安直 (副館長) | 令和3年5月1日(土)  | 23   |
| 学芸員のこだわり特選解説会                                 | 川延 安直 (副館長) | 令和3年6月12日(土) | 10   |
| 「会津の絵画」展 こぼれ話                                 | 川延 安直 (副館長) | 令和3年6月12日(土) | 23   |
| 企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」オープニングセレモニー・内覧会 (友の会・報道向け) |             | 令和3年7月17日(土) | 40   |

| テーマ                                               | 講師・所属等                                 | 期日                                                                                                               | 参加人数                                |
|---------------------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 講演会「幽霊や妖怪、それっていったいナニ?～見えないものを言葉にする、見えないものを見る化する～」 | 岡野 定丸 (福島市松川 盛林寺住職)                    | 令和3年7月17日(土)                                                                                                     | 62                                  |
| 企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」展示解説会                          | 当館学芸員                                  | 令和3年7月18日(日)<br>令和3年7月23日(金・祝)<br>令和3年8月9日(月・祝)<br>令和3年8月28日(土)<br>令和3年9月23日(木・祝)<br>令和3年9月26日(日)                | 23<br>35<br>33<br>28<br>25<br>31    |
| ワークショップ「オリジナル妖怪○○○を描こう」                           | 会津美術協会のみなさん<br>関本 創 (妖怪博士)             | 令和3年7月22日(木・祝)<br>令和3年8月15日(日)<br>令和3年9月4日(土)                                                                    | 19<br>13<br>5                       |
| 講演会「みちのく怪談の魅力」                                    | 黒木 あるじ (怪談作家)                          | 令和3年8月14日(土)                                                                                                     | 47                                  |
| 講演会「もののけ、幽霊、妖怪の日本史」                               | 小山 聡子 (二松学舎大学文学部教授)                    | 令和3年9月4日(土)                                                                                                      | 70                                  |
| 松原タニシトークライブ「あはひの存在と事故物件のあやかし」                     | 松原 タニシ (事故物件住みます芸人)                    | 令和3年9月19日(日)                                                                                                     | 97                                  |
| 企画展「ふくしま 蕁の文化」内覧会 (友の会・報道向け)                      |                                        | 令和3年10月8日(金)                                                                                                     | 18                                  |
| 企画展「ふくしま 蕁の文化」見どころ解説会                             | 大里 正樹 (学芸員)                            | 令和3年10月9日(土)<br>令和3年10月23日(土)<br>令和3年11月6日(土)<br>令和3年12月4日(土)<br>令和3年12月11日(土)<br>令和3年12月18日(土)<br>令和3年12月19日(日) | 21<br>13<br>8<br>1<br>7<br>15<br>10 |
| 講演会「神と人とをつなぐ蕁の文化ー秋田人形道祖神プロジェクト (ANP) ×福島県立博物館ー」   | 小松 和彦 (小松クラフトスペース)<br>宮原 葉月 (イラストレーター) | 令和3年11月3日(水・祝)                                                                                                   | 41                                  |
| 講演会「縄文の時代より続いてきている『蕁の文化』ー福島県内の取組みから学ぶー」           | 宮崎 清 (千葉大学名誉教授、三島町名誉町民)                | 令和3年11月20日(土)                                                                                                    | 68                                  |
| 実演「天栄村湯本の蕁のこと」                                    | 星崎 奈美 (ワラ工房・茂次郎)                       | 令和3年11月23日(火・祝)                                                                                                  | 36                                  |
| 特集展「貝殻パラダイス」内覧会 (友の会・報道向け)                        |                                        | 令和4年1月22日(土)                                                                                                     | 6                                   |
| 特集展「貝殻パラダイス」展示解説会                                 | 相田 優 (学芸員)                             | 令和4年1月22日(土)                                                                                                     | 6                                   |
| 特集展「そなえの芽」内覧会 (友の会・報道向け)                          |                                        | 令和4年2月11日(金・祝)                                                                                                   | 2                                   |
| 防災教育ワークショップ「震災遺産を活用した授業づくり」                       | 関谷 央子 (防災教育コーディネーター)                   | 令和4年2月12日(土)                                                                                                     | 4416                                |
| 特集展「そなえの芽 ～災害から考えるあしたの暮らし～」<br>展示解説会              | 筑波 匡介・弦巻 優太 (学芸員)                      | 令和4年3月11日(金)                                                                                                     | 11                                  |
| 防災講座ワークショップ「さすけなぶる」                               | 鈴木 里美 (日本防災士会福島県支部 防災士)                | 令和4年3月12日(土)                                                                                                     | 11                                  |
| 防災工作ワークショップ「たのしいそなえ」                              | 筑波 匡介・弦巻 優太 (学芸員)                      | 令和4年3月27日(日)                                                                                                     | 8                                   |

(ロ) ポイント展ミニ解説会

| テーマ                                                    | 講師・所属等      | 期日           | 参加人数 |
|--------------------------------------------------------|-------------|--------------|------|
| ポイント展「東北初発見! オオミツバマツ」ミニ解説会                             | 猪瀬 弘瑛 (学芸員) | 令和3年4月18日(日) | 19   |
| ポイント展「文芸を好んだ会津の戦国武将・蘆名盛氏」「奥羽再仕置 430周年記念 蒲生氏郷軍、北へ」ミニ解説会 | 高橋 充 (学芸員)  | 令和3年6月20日(日) | 16   |
| ポイント展「くずし字に挑戦! ①」ミニ解説会                                 | 阿部 綾子 (学芸員) | 令和3年6月27日(日) | 12   |
| ポイント展「みんなの震災遺産」ミニ解説会                                   | 筑波 匡介 (学芸員) | 令和3年7月4日(日)  | 2    |
| ここがポイント! 部門展示室・考古「会津大塚山古墳」ミニ解説会                        | 平澤 慎 (学芸員)  | 令和3年7月11日(日) | 35   |
| ポイント展「復活! 会津だるま」ミニ解説会                                  | 大里 正樹 (学芸員) | 令和3年7月18日(日) | 13   |

| テーマ                         | 講師・所属等          | 期日            | 参加人数 |
|-----------------------------|-----------------|---------------|------|
| ポイント展「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」ミニ解説会 | 友の会化石鉱物探検隊のみなさん | 令和3年8月8日(日)   | 2    |
| ポイント展「会津若松と軍隊」ミニ解説会         | 栗原 祐斗(学芸員)      | 令和3年8月15日(日)  | 10   |
| ポイント展「くずし字に挑戦!②」ミニ解説会       | 阿部 綾子(学芸員)      | 令和3年8月29日(日)  | 18   |
| ポイント展「発見!ハナワクジラ」ミニ解説会       | 猪瀬 弘瑛(学芸員)      | 令和3年9月5日(日)   | 8    |
| ポイント展「ふくしまを耕した古代の農具」ミニ解説会   | 山本 俊(学芸員)       | 令和3年9月19日(日)  | 6    |
| ポイント展「葬儀と民具」ミニ解説会           | 山口 拓(学芸員)       | 令和3年10月3日(日)  | 9    |
| ポイント展「ヒト形の付いた縄文土器」ミニ解説会     | 高橋 満(学芸員)       | 令和3年10月24日(日) | 10   |
| ポイント展「くずし字に挑戦!③」ミニ解説会       | 阿部 綾子(学芸員)      | 令和3年10月31日(日) | 12   |
| ポイント展「金属器を模倣した石器」ミニ解説会      | 田中 敏(学芸員)       | 令和3年11月14日(日) | 6    |
| ポイント展「厄流しと宝船」ミニ解説会          | 内山 大介(学芸員)      | 令和3年11月28日(日) | 3    |
| ポイント展「くずし字に挑戦!④」ミニ解説会       | 阿部 綾子(学芸員)      | 令和3年12月5日(日)  | 16   |
| ポイント展「暑さ寒さをしのご道具たち」ミニ解説会    | 江川 トヨ子(学芸員)     | 令和4年1月23日(日)  | 4    |

(サ) ミュージアムイベント

| テーマ             | 講師・所属等               | 期日            | 参加人数 |
|-----------------|----------------------|---------------|------|
| けんぱく映画会「カップの三平」 |                      | 令和3年8月7日(土)   | 73   |
| 夏休みナイトミュージアム    | 当館学芸員                | 令和3年8月21日(土)  | 78   |
| けんぱくクリスマスコンサート  | 秋本 悠希(声楽)、本山 乃弘(ピアノ) | 令和3年12月12日(日) | 86   |

(シ) 子育て世代対応事業

| テーマ                                      | 講師・所属等              | 期日            | 参加人数 |
|------------------------------------------|---------------------|---------------|------|
| 博物館でもよみきかせ                               | おはなしのへや/たんぼぼの会      | 令和3年4月10日(土)  | 25   |
|                                          | 手作り絵本の会             | 令和3年6月12日(土)  | 9    |
|                                          | ハーモニー/当館学芸員         | 令和3年7月10日(土)  | 28   |
|                                          | 会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん | 令和3年8月7日(土)   | 36   |
|                                          | マザーグース/おはなしの会ゆがわ    | 令和3年9月11日(土)  | 25   |
|                                          | 坂下町読み聞かせの会          | 令和3年10月9日(土)  | 18   |
|                                          | おはなしのへや/当館学芸員       | 令和3年11月13日(土) | 6    |
| 会津大学短期大学部幼児教育学科/当館学芸員                    | 令和4年1月8日(土)         | 10            |      |
| こどもミニミニはくぶつかん                            |                     | 令和3年5月2日(日)   | 85   |
| ワークショップ「ノコリノカタチ ウマレルカタチ ~木片をつかかってつくろう!~」 | 会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん | 令和3年5月2日(日)   | 18   |
| 親子で探検!博物館のウラ側                            | 当館学芸員               | 令和3年8月22日(日)  | 28   |
| あそびワークショップ with 会津短大                     | 会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん | 令和4年3月26日(土)  | 17   |

(ス) 三の丸からプロジェクト

| テーマ                                  | 講師・所属等                                                   | 期日             | 参加人数  |
|--------------------------------------|----------------------------------------------------------|----------------|-------|
| まちなか連携事業「宵まち会津 山田広野の納涼蔵出し大活弁」        | 山田 広野(活弁士)                                               | 令和3年8月14日(土)   | 19    |
| まちなか連携事業「宵まち会津 山田広野の納涼あやかし大活弁」       | 山田 広野(活弁士)                                               | 令和3年8月28日(土)   | 21    |
| まちなか連携事業「宵まち会津 会津怪談録・令和ノ変」           | 黒木 あるじ(怪談作家)                                             | 令和3年9月11日(土)   | 16    |
| まちなか連携事業「宵まち会津 語りで繋ぐみちのくの妖怪」         | ゆうか(妖怪朗読家)                                               | 令和3年9月18日(土)   | 13    |
| 雪国ものづくりマルシェ                          |                                                          | 令和3年10月10日(日)  | 1,088 |
| 体験型プログラム「織元にきく!会津木綿のお話-編と現在、そしてこれから- | 山田 悦史(山田木綿織元)<br>原山 修一(株式会社はらっぱ)<br>谷津 拓郎・千葉 崇(株式会社 IIE) | 令和3年11月3日(水・祝) | 14    |

| テーマ                                  | 講師・所属等                          | 期日            | 参加人数 |
|--------------------------------------|---------------------------------|---------------|------|
| 体験型プログラム「ワークショップ 会津木綿のハギレではたきをつくろう！」 | 株式会社はらっぱの皆さん                    | 令和3年11月6日(土)  | 18   |
| 体験型プログラム「ワークショップ またたびランチョンマットをつくろう」  | 市川 里美 (またたび工房・癒里)               | 令和3年11月20日(土) | 6    |
| 体験型プログラム「実演 演武! AIZU 居合道」            | 國分 修一・猪俣 伊祐 (福島県剣道連盟 会津若松居合道部会) | 令和3年12月4日(土)  | 17   |
| 体験型プログラム「ワークショップ またたびストラップをつくろう」     | 市川 里美 (またたび工房・癒里)               | 令和3年12月5日(日)  | 13   |
| 体験型プログラム「実演 演武! AIZU 居合道」            | 國分 修一・猪俣 伊祐 (福島県剣道連盟 会津若松居合道部会) | 令和3年12月18日(土) | 40   |

(セ) 特別プログラム

| テーマ           | 講師・所属等 | 期日            | 参加人数 |
|---------------|--------|---------------|------|
| 博物館を利用した学び研修会 | 当館学芸員  | 令和3年11月25日(木) | 10   |

(ソ) 共催事業

| テーマ              | 主催            | 期日          | 参加人数 |
|------------------|---------------|-------------|------|
| 実技講座「鉱物標本をつくろう！」 | 博物館友の会化石鉱物探検隊 | 令和3年8月8日(日) | 11   |

(タ) 後援事業

| テーマ                           | 主催                  | 期日                          | 参加人数 |
|-------------------------------|---------------------|-----------------------------|------|
| 鈴善漆器店国有形文化財登録竹藤リニューアルー周年記念座談会 | 若松商家めぐりの会           | 令和3年10月2日(土)                | 26   |
| 会津民俗研究会 講演会                   | 会津民俗研究会             | 令和4年3月19日(土)                | 43   |
| 中世考古学の世界                      | 東北中世考古学会・東国中世考古学研究会 | 令和4年3月20日(日)<br>～3月21日(月・祝) | 80   |

(チ) ライフミュージアムネットワーク事業

| テーマ                 | 主催                                                                               | 期日           | 参加人数 |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|
| ラウンドテーブル「開く、ミュージアム」 | 柳沢 秀行 (大原美術館学芸統括)<br>楠本 智郎 (つなぎ美術館主幹・学芸員)<br>岡村 幸宣 (原爆の図丸木美術館学芸員)<br>川延 安直 (副館長) | 令和4年1月23日(日) | 53   |

(ツ) 友の会事業

| テーマ                                       | 講師・所属等                                   | 期日            | 参加人数 |
|-------------------------------------------|------------------------------------------|---------------|------|
| 友の会第1回講演会「会津の大地が震えた日ー410年前の慶長会津地震をふりかえるー」 | 竹谷 陽二郎 (磐梯山ジオパーク協議会)<br>高橋 充・筑波 匡介 (学芸員) | 令和3年12月16日(木) | 100  |
| 友の会総会・第2回講演会「法正厩遺跡から縄文時代の生活を見ると」          | 松本 茂 (日本考古学協会会員)                         | 令和4年3月13日(日)  | 73   |

(2) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア 展示室での自主学習 (しおり・ワークシート)

新型コロナウイルス感染防止対策として、展示室での密集を避けられるよう常設展示室を個人で見学できるワークシート(「キミだけの「たからもの」をさがそう!」)を当館ホームページで公開し、あらかじめダウンロードしていただけるようにしている。

イ 学習プログラム

今年度も、課外授業・修学旅行の学校団体に対応し、常設展示の見どころや概要を伝える学習講座を多数開催した。特に小学生の場合は歴史学習に触れて間もないため、どうしても観覧の仕方が散漫になってしまう場合が多い。事前に観覧のポイントが押さえられることで、学習効果が高まることも期待され、学校団体からの依頼も多い。また、支援学校や未就学児の教育・保育施設(幼稚園・こども園等)といった団体に対しては、児童・生徒の理解度や興味関心に即した独自のプログラムを作成し提案している。



ウ 指導者向け研修

今年度は「博物館を活用した学びプログラム研修会」と題し、当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムや協働の事例を紹介した。博物館のもつ多様な学習プログラムを伝えることで、当館の学校や公民館における活用の推進を図った。教員及び各市町村の生涯学習に携わる方の参加がみられた。

・令和3年11月25日(木) 10名の参加

エ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活

動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、貸出事業は停止となった。またこれを機に、各分野にて貸出用用具・教材の見直しを図り、再開への準備を整えた。

オ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和3年度の実施回数は21回で、参加者は1,983人であった。

ゲストティーチャー実施一覧

| 月 日           | 講 師            | 分野 | 内 容                     | 実施先                                  | 科目                     |
|---------------|----------------|----|-------------------------|--------------------------------------|------------------------|
| 令和3年6月23日(水)  | 高橋 満<br>平澤 慎   | 考古 | 四徳田古墳出土品体験学習            | 中島村立滑津小学校<br>中島村立吉子川小学校<br>中島村立中島中学校 | 小学6年、中学1年<br>総合的な学習の時間 |
| 令和3年7月2日(金)   | 相田 優           | 自然 | 石はどうやってできるのだろう          | 学校法人慈光こども園<br>(慈光第二こども園と合同)          |                        |
| 令和3年9月9日(木)   | 平澤 慎           | 考古 | 会津大塚山古墳                 | 会津若松市立第四中学校                          | 1年生<br>総合的な学習の時間       |
| 令和3年9月16日(木)  | 栗原 祐斗          |    | 博物館のはたらきと学芸員の<br>仕事     | 会津若松ザベリオ学園<br>小学校                    | 4年生<br>総合的な学習          |
| 令和3年10月6日(水)  | 筑波 匡介<br>弦巻 優太 | 災害 | 防災講座                    | 会津若松市立行仁小学校                          | 4年生<br>総合的な学習の時間       |
| 令和3年10月12日(火) | 筑波 匡介<br>弦巻 優太 | 災害 | 震災遺産講座                  | 喜多方市立第一中学校                           | 1年生<br>総合的な学習の時間       |
| 令和3年10月13日(水) | 弦巻 優太          | 災害 | 防災講座                    | 会津若松市立一箕小学校                          | 4年生<br>総合的な学習の時間       |
| 令和3年10月15日(金) | 筑波 匡介<br>弦巻 優太 | 災害 | 震災遺産講座                  | 喜多方市立第一中学校                           | 2年生、3年生<br>総合的な学習の時間   |
| 令和3年10月26日(火) | 筑波 匡介          | 災害 | 防災講座                    | 会津美里町立新鶴中学校                          | 全学年<br>総合的な学習の時間       |
| 令和3年11月10日(水) | 筑波 匡介          | 災害 | 防災講座                    | 会津若松市立第二中学校                          | 全学年<br>総合的な学習の時間       |
| 令和3年11月10日(水) | 筑波 匡介<br>弦巻 優太 | 災害 | 防災講座                    | 福島市立中野小学校                            | 2～6学年<br>総合的な学習の時間     |
| 令和3年11月15日(月) | 筑波 匡介          | 災害 | 避難所設営訓練                 | 喜多方市立第一中学校                           | 全学年<br>総合的な学習の時間       |
| 令和3年11月17日(水) | 小林 めぐみ         |    | キャリアガイダンス               | 福島県立橘高等学校                            | 1学年                    |
| 令和3年11月24日(水) | 筑波 匡介          | 災害 | 防災教育体験活動                | 郡山市立小原田小学校                           | 6学年<br>総合的な学習の時間       |
| 令和3年11月30日(火) | 筑波 匡介          | 災害 | 防災講座「避難所で中学生が<br>できること」 | 柳津町立会津柳津学園<br>中学校                    | 全学年<br>総合的な学習の時間       |
| 令和4年2月17日(木)  | 筑波 匡介<br>弦巻 優太 | 災害 | 震災遺産講座                  | 大熊町立大熊中学校                            | 全学年<br>総合的な学習の時間       |
| 令和4年3月8日(火)   | 筑波 匡介          | 災害 | 避難所設営訓練                 | 会津若松市立第二中学校                          | 3学年 社会科                |
| 令和4年3月9日(水)   | 筑波 匡介          | 災害 | 避難所で中学生ができること           | 会津若松市立第二中学校                          | 全学年<br>総合的な学習の時間       |

カ 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和3年度は4校からの要請があり、受け入れを実施した。

○職場体験受け入れ実績（生徒のみ）

- ・福島県立会津支援学校竹田校中学部  
(2年生：1名) 2日間
- ・会津若松市立第一中学校 (2年生：4名) 2日間
- ・三島町立三島中学校 (2年生：1名) 1日間
- ・福島県立大沼高等学校 (2年生：1名) 3日間

キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。

令和3年度は県内出身及び県内大学に在学する学生9名を受け入れた。

実習期間 令和3年8月24日(火)～29日(日)

(3) 生涯学習・研究支援

ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,788冊である。

イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数

考古：5件882点 歴史：17件567点 民俗：5件150点  
美術：3件60点 計30件1,659点

ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。令和3年度の派遣回数は22回で、参加者は596人であった。

講師派遣一覧

| 月 日           | 講 師           | 分野       | 演 題 ・ 内 容 等                          | 主 催                             |
|---------------|---------------|----------|--------------------------------------|---------------------------------|
| 令和3年5月7日(金)   | 筑波 匡介         | 災害       | 震災遺産を考える                             | 国立磐梯青少年交流の家                     |
| 令和3年5月15日(土)  | 筑波 匡介         | 災害       | 震災遺産を考える                             | 福島大学                            |
| 令和3年5月29日(土)  | 高橋 満          | 考古       | 中才遺跡出土の製塩土器を考える                      | 仙台市縄文の森広場                       |
| 令和3年6月30日(水)  | 平澤 慎          | 考古       | 喜多方市灰塚山古墳について                        | 喜多方市山都公民館                       |
| 令和3年7月2日(金)   | 筑波 匡介         | 災害       | 震災遺産を考える                             | 龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科          |
| 令和3年7月14日(水)  | 筑波 匡介         | 災害       | 震災遺産を考える                             | 東北大学文学研究科・文学部 日本史研究室            |
| 令和3年9月3日(金)   | 筑波 匡介         | 災害       | 災害食づくり                               | 北会津公民館                          |
| 令和3年9月8日(水)   | 高橋 充          | 災害       | 福島県の城・町・博物館                          | 福島県立医科大学                        |
| 令和3年9月8日(水)   | 原 恵理子         | 美術       | 大堀相馬焼の歴史                             | 大堀相馬焼協同組合                       |
| 令和3年9月22日(水)  | 栗原 祐斗         | 歴史       | 福島県の観光の歴史                            | 福島県立医科大学                        |
| 令和3年10月3日(日)  | 内山 大介         | 民俗       | 山口弥一郎がいわきに残したもの<br>ー磐城高等女学校と磐城民俗研究会ー | いわき市暮らしの伝承郷                     |
| 令和3年10月3日(日)  | 阿部 綾子         | 歴史       | 会津藩士の謹慎ー若松開城から<br>斗南移住の間を追うー         | 喜多方市中央公民館                       |
| 令和3年10月8日(金)  | 栗原 祐斗         | 歴史       | 戦時下の福島県                              | いわき市・いわき市生涯学習推進本部・<br>いわき市教育委員会 |
| 令和3年10月13日(水) | 筑波 匡介         | 災害       | 震災遺産を考える                             | 福島県立医科大学                        |
| 令和3年10月20日(水) | 小林 めぐみ        | 美術       | 教養の充実「暮らしを彩る器」                       | 福島市三河台学習センター                    |
| 令和3年10月27日(水) | 原 恵理子         | 美術       | 焼きものの基本と会津本郷焼                        | 福島県立医科大学                        |
| 令和3年11月7日(日)  | 筑波 匡介         | 災害       | 福島県立博物館の震災遺産について                     | ぼうさいこくたい                        |
| 令和3年11月12日(金) | 吉田 純輝         | 自然       | 棚倉町の土地を学ぶ～足元にある<br>化石と断層～            | 棚倉町役場 地域創生課                     |
| 令和3年11月30日(火) | 塚本 麻衣子        | 美術       | 会津の仏像について                            | 喜多方市山都公民館                       |
| 令和3年12月12日(日) | 筑波 匡介         | 災害       | 3.11 東日本大震災の教訓                       | 放送大学会津学知会                       |
| 令和4年1月29日(土)  | 猪瀬 弘瑛         | 自然       | 相馬の地質と古生物                            | 相馬郷土研究会                         |
| 令和4年3月30日(水)  | 筑波 匡介<br>相田 優 | 災害<br>自然 | 特集展「そなえの芽」「貝殻パラ<br>イス」解説会            | 昭和村公民館                          |

## エ 未就学児連携事業

前年度の試行の検証を踏まえて、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で「会津慈光こども園」「会津慈光第二こども園」の園児たちに延べ7回実施した。

## オ 子育て世代対応事業

「博物館でもよみかせ」「親子で探検！博物館のウラ側」「こどもミニミニ博物館」を実施したほか、読み聞かせボランティア団体として連携している会津大学短期大学部幼児教育学科の先生・学生と打合せを重ね、感染拡大防止がとれる内容を考案しワークショップを実施した。

## カ 動画の制作と配信

前年度から引き続き、自宅でも楽しみながら学べる機会を提供しようというねらいのもと動画の制作と配信を行った。令和3年度は35本の動画を公開した。

## (4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して当館開催事業の周知、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

### ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(エ) 令和3年度会員数

個人会員：122 家族会員：32 高校生会員：0  
賛助会員：5 合計：159

### イ 令和3年度事業概要

(ア) 講演会の開催

2回の講演会を開催した。内容と日時は「6-1(1)-(ウ)友の会事業」を参照。

(イ) 研修旅行

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第124号・第125号・第126号を発行し会員に配布した。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

## ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像を研究し旅する会の4サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立。会員数35名。令和3年度はミニ成果展のほか学習会などを行った。

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20~25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは4つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。通常月1回の活動計画であるが、前年度に引き続き令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同会の判断もあり4月・7月・1月の3回の開催にとどまった。

(ウ) 考古学倶楽部

考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、研修会や遺跡の見学会、考古学関連の展覧会の見学などの事業をとおして、会員相互の親睦を図るとともに、博物館事業にも協力することを目的に、令和3年4月に発足した。

(エ) 仏像を研究し旅する会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和3年度から活動を開始。発足時の会員は11名。本年度は会の体制作りや学習の進め方について、各会員が興味関心を抱いているテーマを反映させながら議論を進めた。また、当館学芸員から基本的な仏像の見方についてレクチャーを受けるとともに、自主学習の成果発表や、実際に寺院を訪れての仏像見学等を行った。

## 7 文化財・自然資料レスキュー

### (1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和3年度には次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(当館は副代表・幹事・事務局)に参画して活動した。今年度は会議1回(令和3年11月22日)に出席した。

イ 被災地域の資料への対応

当館が新規に関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

## (2) その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。災害時には市町村からの救援応援要請が出され、相互応援協定による支援・応援が実施されることになった。8月6日には「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」及び「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」連絡会議がオンラインで開催された。

## 8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

### (1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。今年度は民俗1名、考古1名、歴史1名、自然1名、美術1名、災害2名の計7名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動、特集展の実施を行った。

### (2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産に関わる今までの活動の経緯や、資料の来歴などを取りまとめるとともに未整理資料の整理を進めた。写真撮影を行い、中性紙封筒へ納めるなどした。

前年度末より引き続き、コロナ関連資料の収集を続けている。震災遺産類として東日本大震災との比較資料と位置づけ今後も継続する予定としている。収集した資料には博物館に届いた展示会の中止案内などの便りや、学芸員個人の生活の中で使用したマスクや、消毒用アルコール、アマビエ関係のものなどがある。

### (3) 他団体・他機関との連携・協力

東日本大震災原子力災害伝承館、南相馬市博物館、磐梯山噴火記念館といった運営主体が異なるミュージアムと連携し震災遺産に関する勉強会を実施した。

また、特集展に関連する講座の実施にあたっては、会津教育事務所から助言等を頂き、学校での授業展開についても意見交換することができた。会津自然の家とは、社会教育課が所管するふくしまキッズパワーアップ事業等で防災教育を通じた協働体制を取ることができた。

例年協力体制をとってきた筑波大学との海外視察は、次年度以降へ延期となった。

### (4) 普及事業

ゲストティーチャー13回、講師派遣9回と前年度よりさらに申し込みが増加した。ふくしまキッズパワーアップ事

業の実施によるところもあるが、地域社会のニーズとマッチしたものと考えている。また今年度の特集展は特に、育みたい児童・生徒の姿を示しながら学校の授業で使える内容の提案を行った。関連したイベントでも急速オンライン開催としたが、学校関係者を中心として、授業で使える内容としたワークショップを実施した。

会津自然の家と連携した取り組みでは、防災教育の必要性を伝えるシンポジウムの企画など協働することができた。大学からの要請もあり、福島県立医科大学、福島大学、東北大学、龍谷大学などで、震災遺産の伝承について共に考える講座を行った。

## 9 ライフミュージアムネットワーク

### (1) 事業趣旨

ICOM京都大会で提案された「過去と未来についての批判的な対話のための民主化を促す包摂的で様々な声に耳を傾ける空間（ポリフォニックスペース）」を各地に創出するための試みとして、ライフミュージアムネットワーク実行委員会がこれまで培ってきたネットワークを基盤として、ポリフォニックミュージアムを起ち上げた。

令和3年度は各地域固有の歴史文化の再認識・再発見と、そこから立ち上がる課題への向き合い方の考察、その先にある未来像の創出を通して、ミュージアム的な場を多様に展開することにより、持続可能な地域社会への貢献を目指した。

### (2) 組織

ア 主催 ライフミュージアムネットワーク実行委員会

イ 構成団体

只見町ブナセンター、はじまりの美術館、一般社団法人未来の準備室、東北芸術工科大学美術館大学センター、NPO法人アーツセンターあきた、福島県立博物館

ウ 委員長 鈴木 晶（福島県立博物館長）

エ 事務局 福島県立博物館

### (3) 実施期間

ア 実施期間

令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)

イ プロジェクト活動期間

令和3年5月13日(木)～令和4年3月31日(木)

### (4) 助成

文化庁令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

### (5) 事業内容

ワークショップ、ラウンドテーブルを実施し、記録集（『ポリフォニックミュージアム活動記録集』、『福島 白河バージョン まち歩きフォトスゴロクノート』、『海幸山幸の道』記録紙、『ヤベアベ学級との12月』、『スペース・トアル 虹色の子どもたちと』）を作成した。

## 10 三の丸からプロジェクト

### (1) 事業趣旨

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画の実現のため、令和2年度から5ケ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

### (2) 組織

ア 申請者 福島県（福島県立博物館）

イ 共同申請者

会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

### (3) 助成

令和3年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

### (4) 事業内容

ア 文化資源磨き上げ事業

会津の周遊に関するストーリーについて、館内チームを中心に原案を作成した。その原案をもとに、共同申請者の一般財団法人会津若松観光ビューローと協議を重ねた。これと並行しながら、城郭・建築・観光等を専門とする有識者3名に依頼して、助言を受けて内容の充実を図った。さらに文化庁文化観光コーチングチームとの会議を通じて、3エリア周遊のキーコンセプトとして「つながぐ」というテーマを設定した。また、「陸奥国会津城絵図」（当館蔵 県重文）の調査（精査）及び業者委託による撮影・デジタル化を行った。そのほか周遊の核となる若松城跡のドローン空撮、周遊ポイント（冬季の雪景色）や文化資源及び製作工程等に関する撮影を行った。

イ 展示強化事業

「若松城跡」、「会津若松市街地」、「奥会津」の3エリアに関わる質の高い美術工芸品を展示し、該当展示資料（美術工芸品）を周遊に紐づけた展示解説を作成した。また、3エリア周遊への紐づけへの明確な理解を促すため、展示会場となる常設展部門展示室「歴史・美術」で使用する展示具、展示台を新たに導入した。

ウ 体験型プログラム提供事業

武家文化や会津のものづくりを体験し、その魅力が堪能できる6つのプログラムを実施した。居合の実演、会津木綿を使用した制作体験、またたび細工の制作体験などである。

エ 若松城下まちなか連携事業

「会津若松市街地」周遊を促進するため、会津若松市街地に点在する商工文化を伝える歴史的建造物で行う連携展示及び連携イベントを開催した。また、令和4年度

に開催予定の連携展示を素材にした周遊促進のためのパンフレットを作成した。

オ 多言語化事業

館内利用案内及び常設展示室の大テーマ解説・中テーマ解説の英語・中国語（簡体字・繁体字）の多言語化を実施した。また、体験型プログラムの提供を通して周遊を促す事業の趣旨・内容の理解につながる多言語パンフレットの整備として、体験型プログラムの解説を多言語化した。

カ 利便性向上事業

常設展総合展示室のWi-Fi整備とキャッシュレス化を行った。また、多様な来館者に対応した観覧の利便性向上に向け、視覚に障がいを持つ来館者が展示を楽しめる環境整備を行った。

キ 周遊促進事業

福島県立博物館のレストランを会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができる空間にするためのトータルデザインを行った。また、会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができるマルシェを秋に開催した。

ク 国内外プロモーション事業

共同申請者と三の丸からプロジェクトを通じて、会津の文化資源を国内外に発信するためのプロモーションについての協議を行い、併せて、令和3年度事業における実施状況を踏まえて、日本政府観光局（JNTO）より派遣いただいた同局理事に、プロモーション事業についての指導・助言を頂いた。

ケ 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備

博物館内に展示機能強化に関する推進チームを設置し、定期的なミーティングや現地リサーチなどを行い、周遊ストーリーのゲートウェイ機能を果たす展示コンセプト・展示空間のあり方・展示手法及び展示資料の検討を行い、文化庁文化観光コーチングチームとの意見交換を踏まえながら展示整備案を作成した。

また、常設展部門展示室「歴史・美術」の展示ケースの機能を強化する展示環境整備を行った。併せて、親子連れや未就学児などの利活用環境整備の一環となるよう、奥会津のものづくり要素を取り入れたベビーケアルームを製作し配備した。

## 第14節 福島県自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」（以下「自然の家」という。）を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度まで「福島県郡山自然の家」について、「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

令和2年度に開催した指定管理者選定検討会において令和3年度から令和5年度まで「福島県会津自然の家」について、「アメニティグループ」に指定管理することとなる。

#### (2) 所在地

ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46

〒963-0213 TEL 024-957-2111

FAX 024-957-2112

URL <https://koriyama-nc.fcs.ed.jp/>

イ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1

〒969-6504 TEL 0242-83-2480

FAX 0242-83-2481

URL <https://www.aizu-shizen.jp/>

ウ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53

〒979-0335 TEL 0246-32-7700

FAX 0246-32-7730

URL <https://iwaki-nc.fcs.ed.jp/>

## 2 教育目標及び基本的視点

### (1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。

イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。

ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

### (2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。

イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。

ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。

エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。

オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

### 3 新型コロナウイルスの影響

自然の家の令和3年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度から引き続き、利用定数、利用団体数、利用日数（宿泊日数）の制限など、それぞれの地域の状況に合わせ、あるいはまん延防止等重点措置や感染拡大防止重点対策などに応じて、制限内容を変更するとともに、企画事業の延期や中止などの措置も取りながら運営を行った。

このような中でも、3施設とも、大きく落ち込んだ前年度の利用者や利用団体数を上回る利用があった。

## 第15節 福島県郡山自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、令和3年度には延べ利用者数が178万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山中央スマートインターから車で約6分、郡山南インターより約8分という交通の便に恵まれ、豊かな自然環境に囲まれた都市近郊型の自然の家として、心身共に健全で心豊かな青少年を育成することを目的とした社会教育施設である。

平成31年4月1日より学校法人国際総合学園が指定管理者となり管理運営を行っている。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、社会人、家族など利用者層が多様多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開している。

また、生涯学習の拠点として県民に親しまれる施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、年代や性別を問わず利用しやすい施設とすべく対応を進めている。

また、園児から高齢者まで幅広い年齢層の方々に利用していただけるよう、多種多様な企画事業を展開するとともに特色あるプログラムの開発に努めてきた。

東日本大震災以降は、放射線量が比較的高い場所の除染を実施し放射線量の低減に取り組むとともに、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するなど情報提供に努めてきた。

年間の利用状況については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休所や企画事業の中止及び利用人数を制限した影響で、利用団体数214団体（前年比11団体増）、延べ利用者数8,870人（前年比3,846人増）となった。

#### (2) 職員組織

| 職名    | 人員 |
|-------|----|
| 所長    | 1  |
| 指導部長  | 1  |
| 事務局長  | 1  |
| 指導部主任 | 1  |
| 指導員   | 2  |
| 体験指導員 | 3  |
| 事務員   | 1  |
| 運転手   | 1  |
| 計     | 11 |

#### (3) 令和3年度重点目標と成果

「SDGsを念頭に社会教育施設として質の高い活動を提供するとともに、LGBTQなど性の多様性を尊重し互いの価値観を共有できる魅力あふれる自然の家。」を実現すべく取り組んだ。

##### ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるよう、学校利用・社会教育団体利用に際しては、利用団体の指導者との緊密な連携に努めた。学校利用については、4月に上期利用団体と下期利用団体の2回に分け「学校利用指導者研修会」を実施した。その際、特に新型コロナウイルスへの対応について詳細に説明するとともに、安全安心な利用を進めるための本所の取り組みについて情報提供に努めた。活動プログラムの作成に際しては、参加者が密にならないように配慮した。

(イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にししながら、新型コロナウイルス対応に万全を期すよう事前の施設見学を実施するとともに活動計画作成を支援した。

(ウ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、コロナ禍にあっても安心安全な対応が図れるよう努めた。

##### イ 魅力ある企画事業の運営

(ア) コロナ禍にあっても季節感を生かした魅力ある事業を企画立案するとともに参加人数を見直し、密にならないよう注意しながら地域や関係機関との連携に努めた。

(イ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、施設利用者の満足度を高める運営に努めた。

##### ウ 広報の充実と利用促進

(ア) ホームページやインスタグラムなど様々な広報機会を利用し、本所における新型コロナウイルス対策に関する情報提供に努めた。また、コロナ禍にあっても新しい生活スタイルに対応した事業周知の在り方を模索する中で、在籍する園や学校をとおして園児・児童・生徒に直接チラシを配布することにより各家庭に、各種企画事業について情報提供を行った。

また、サザッピー会員に対しては、事業に関する案内を電子メールで直接情報提供を行った。

(イ) 新型コロナウイルスに関する対応や企画事業案内及び事業の実施状況等をホームページに掲載するなど、タイムリーな情報提供に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供に努めた。

(ウ) 県内5つの自然の家が広報機会を共有するという目的の下、各所で作成するチラシ等に他所の情報を掲載するコーナーを設け、県民に対し広く情報提供に努めた。

(エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザンピーククラブ」とした。会員名簿の整理を行うとともに新規会員獲得に向け、様々な機会を利用して広報・勧誘に努めた。

#### エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という前提に立ち、所員の安全意識の徹底を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について働きかけを行った。また、新型コロナウイルスに関する対応マニュアルについて、随時見直しを行うとともに対策の徹底を図った。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検の徹底。
- ・3密回避と換気及びマスクの着用、手洗いの徹底。
- ・特に食堂利用時の感染防止のため、アクリルボードを設置し、黙食の徹底を図った。また、食物アレルギー対応のため、利用団体との情報共有及び給食業務委託業者との連携を進めた。
- ・スズメバチ等害虫対策として、捕虫装置の設置と点検を実施した。
- ・松食い虫被害による倒木防止のため、郡山市森林組合との連携による計画的な伐採と日常の安全点検を実施した。

(イ) 防災に関しては、国際医療看護福祉大学校及び郡山消防署の協力の下、給食・警備・清掃等の委託業務担当者の参加協力を得て、消火訓練や避難訓練・救急救命訓練を実施した。毎年定期的の実施することにより、関係者のスキルアップが図られ、コロナ禍であったが3密を回避しながら実効性のある訓練を実施することができた。実際に消火設備を用いて各種訓練を実施することにより、運用上の課題が明確となり対策を講じることができた。さらに、安全な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大きいと相互の信頼関係を日々醸成するべく情報の共有・伝達に努めた。

#### オ 施設・設備の整備及び消毒

(ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース整備を行い目の高さにある木の枝を除伐したり、コースロープを設置し、安全・安心に利用できるよう対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検に際して、「目視、触診、打音、振動、負荷、作動」により器具の状態を確認するとともに、随時、必要

な補修及び整備を行った。

(イ) 館内については、トイレはもとより使用した物品について消毒の徹底を図った。また、管理簿を場所ごとに準備し、消毒の有無について所員が情報を共有するとともに責任の所在が明らかとなるよう体制を整え対応した。また、所バスについても同様の消毒対応を実施した。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山46番地

### (2) 宿泊定員

ア 本館 172名 (15部屋)

イ ロッジ 126名 (9棟)

ウ テント 120名 (20張)

### (3) 敷地面積

237,587.59㎡

### (4) 建物面積

延床面積 3,792.12㎡

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

### (5) 設備備品等

ア 野外活動設備

(みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場24的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場4か所)

イ その他

(野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナッグゴルフ、スラックライン、ポッチャ、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビほか)

## 3 利用状況

### (1) 令和3年度利用者数

延べ利用者数 8,870人

内訳 学校教育団体 125団体 4,949人

社会教育団体 41団体 871人

企画事業 48団体 3,050人

## 4 企画事業

### (1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会

(ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活動の実際について研修し、指導者としての資質を高める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 第一回 令和3年4月14日(水)



第二回 令和3年4月15日(木)

参加者数 第一回 19名、第二回 20名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・活動プログラム実技研修

イ ボランティア育成講座

(ア) 目的

ボランティアに関する基礎知識、技能習得のためにプログラム実技研修会を実施し、ボランティアの育成に努めた。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年7月17日(土)

対象 県内の高校生以上の学生

参加者数 27名

(ウ) 研修内容

- ・ボランティア活動の意義
- ・安全、救急講習
- ・活動プログラム実技研修

**(2) 利用拡大事業**

ア サクラ・カタクリ週間

(ア) 目的

カタクリの群生、桜を觀賞し、春の自然を満喫する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年4月1日(木)～30日(金)

対象 一般

参加者数 327名

(ウ) 活動内容

本所の一部を開放し、春の植物を觀賞した。

イ さくらウォーク

(ア) 目的

春の三穂田路の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年4月10日(土)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 35名(ほかボランティア3名)

(ウ) 活動内容

本所を出発し笹原川千本桜まで約5km・10kmに分かれて散策をした。

ウ オープニングセレモニー

(ア) 目的

令和3年度のオープンに合わせ、アスレチックと総合活動館を地元小学生に開放し、使い始めを行う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年4月13日(火)

対象 郡山市立多田野小学校(堀口分校舎)

4、5年生と教員

参加者数 35名

(ウ) 活動内容

児童代表あいさつやツタを用いたテープカットなどのセレモニーを行い、アスレチックを楽しんだ。

エ 親子でチャレンジ!

(未来キッズ生き生き事業と併催)

(ア) 目的

家族や親子で野外活動に挑戦し、体力の増進を図るとともに、家族間の絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年6月13日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 134名(ほかボランティア4名)

(ウ) 活動内容

家族ごとに分かれフィールド活動、アーチェリー、アスレチック、フリスビーゴルフを行った。

オ 春のオープンデー

(未来キッズ生き生き事業と併催)

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年7月4日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 210名(ほかボランティア32名)

(ウ) 活動内容

アーチェリー、フィールド活動、アスレチック、森の標本箱、学校法人国際総合学園各大学の仕事体験ブースなどを提供した。

カ 夢冒険キャンプ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

キ 親子で満喫テント泊

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ク 第19回郡山自然の家オープンデー

(未来キッズ生き生き事業と併催)

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年10月3日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 200名(ほかボランティア33名)

(ウ) 活動内容

アーチェリー、フィールド活動、アスレチック、森の標本箱、学校法人国際総合学園各大学の仕事体験ブースなどを提供した。

ケ 手ぶらで、いも煮会

(ア) 目的

野外炊飯等をとおして食についての意識を高め、家族の親睦を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年10月16日(土)・17日(日)

- 対象 県内の小学生とその家族  
参加者数 50名
- (ウ) 活動内容  
家族ごとにいも煮会を楽しんだ。
- コ 秋の田園ウオーク
- (ア) 目的  
秋の逢瀬町の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和3年10月23日(土)  
対象 県内の小学生とその家族  
参加者数 35名
- (ウ) 活動内容  
本所を出発し逢瀬町周辺の田園地帯を散策しながら本所に戻る約12kmのロングコースと逢瀬公園でゴールする約8kmのスタンダードコースに分かれ、家族で楽しんだ。
- サ ストレッチ&こども自然散策体験
- (ア) 目的  
ストレッチ体験を通し、身体と心をリラックスし自分と向き合う機会とする。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和3年10月24日(日)  
対象 ストレッチ体験 高校生以上  
自然散策体験 小学生以上  
参加者数 28名(ほか講師1名)
- (ウ) 活動内容  
大人向けのストレッチ教室と子ども向けの自然散策体験活動に分かれ、それぞれの時間を有意義に楽しんだ。
- シ 一切経登山を楽しもう  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ス 親子五色沼ハイキング
- (ア) 目的  
家族や親子で秋の裏磐梯をトレッキングし、身近な自然に親しむ。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和3年11月14日(日)  
対象 小学生を含む家族・グループ  
参加者数 20名
- (ウ) 活動内容  
参加者は所員による自然ガイドを聞きながら、約3.6kmの裏磐梯五色沼自然探勝路散策を楽しんだ。
- セ 親子でハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー
- (ア) 目的  
ミニ門松作りをとおして、伝統文化を体験する機会とするとともに、家族の親睦を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和3年12月12日(日)  
対象 幼児から小学生とその家族  
参加者数 13名(ほか講師1名)
- (ウ) 活動内容  
家族でミニ門松作りを体験した。
- ソ 名人から学ぶけん玉教室
- (ア) 目的  
親子でけん玉検定にチャレンジし、交流を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和3年12月26日(日)  
対象 幼児から小学生とその家族  
参加者数 89名(ほか講師5名)
- (ウ) 活動内容  
公益社団法人日本けん玉協会東東北ブロック講師の協力のもと、けん玉の基礎から上級技までコツを学びながら、家族で楽しんだ。
- タ 親子スケート教室
- (ア) 目的  
スケートについて、安全に滑る知識と技能を身につけ、家族や親子で楽しく活動する。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和4年1月9日(日)  
対象 幼児から小学生を含む家族  
参加者数 23名(ほか講師1名)
- (ウ) 活動内容  
磐梯熱海アイスアリーナで講師からスケートの基本的な動きの指導を受け、自由滑走を楽しんだ。
- チ バレンタインお菓子作り  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ツ 冬のクラフト祭り  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- テ わくわく！ファミリー冬のつどい  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ト サザピーククラブ感謝デー
- (ア) 目的  
本所サザピーククラブ限定の企画を開催することでクラブ会員同士の親睦を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和4年3月13日(日)  
対象 サザピーククラブ会員  
参加者数 30名
- (ウ) 活動内容  
アーチェリーとインラインスケートを家族対抗で競い合い楽しんだ。
- ナ スコアオリエンテーリング記録にチャレンジ
- (ア) 目的  
スコアオリエンテーリングの記録会を実施し、自然への親しみと健康増進を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和4年3月26日(土)  
対象 一般(中学生以上)  
参加者数 16名
- (ウ) 活動内容

活動プログラムであるスコアオリエンテーリングを大会形式で行った。

### (3) 協力事業

#### ア 国立磐梯青少年交流の家いなわしろフェスティバル

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年6月6日(日)

対象 フェスティバル参加者

参加者数 145名

##### (ウ) 活動内容

缶バッチづくりの機会を提供した。

#### イ 福島ファイヤーボンズホームゲーム来店

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年11月20日(土) 参加者数 46名

令和3年11月21日(日) 参加者数 91名

令和3年11月27日(土) 参加者数 61名

令和3年11月28日(日) 参加者数 85名

令和3年12月11日(土) 参加者数 53名

令和3年12月12日(日) 参加者数 103名

令和4年1月8日(土) 参加者数 70名

令和4年1月9日(日) 参加者数 92名

対象 ゲーム観戦者

##### (ウ) 活動内容

缶バッチづくりの機会を提供した。

### (4) 年間継続事業

#### ア みどりの広場アスレチック&活動館開放します！

##### (ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和3年4月24日(土) 参加者数 7名

令和3年5月15日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和3年5月22日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和3年11月6日(土) 参加者数 50名

令和3年11月27日(土) 参加者数 49名

令和3年12月4日(土) 参加者数 22名

令和3年12月18日(土) 参加者数 22名

令和4年1月22日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和4年2月19日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和4年3月19日(土) 参加者数 13名

対象 県中地区の特別支援学校、学級の幼児及び小学生とその家族

b 期日 令和3年4月25日(日) 参加者数 44名

令和3年5月16日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和3年5月23日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和3年11月7日(日) 参加者数 99名

令和3年11月28日(日) 参加者数 80名

令和3年12月5日(日) 参加者数 99名

令和3年12月19日(日) 参加者数 97名

令和4年1月23日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和4年2月20日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和4年3月20日(日) 参加者数 55名

対象 県中地区の幼児及び小学生とその家族

##### (ウ) 活動内容

フィールドアドベンチャー、みどりの広場アスレチック、総合活動館、体育館開放

#### イ 未来キッズ生き生き事業

##### (ア) 目的

家族や親子に体を動かす機会を提供するため、自然の家のプログラムを体験してもらい、心身の健康や体力向上へつなげていく。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和3年6月20日(日)

対象 県北地区の小学生を含む家族

参加者数 111名

b 期日 令和3年7月11日(日)

対象 県中、県南地区の小学生を含む家族

参加者数 100名(ほかボランティア2名)

c 期日 令和3年7月4日(日)

対象 中通り全地区の小学生を含む家族

参加者数 210名

d 期日 令和3年7月18日(日)

対象 相双地区の小学生を含む家族

参加者数 42名

##### (ウ) 活動内容

本所の様々なプログラムを家族で楽しんだ。

#### ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

##### (ア) 目的

本所を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年12月1日(水)～

令和4年3月18日(金) 平日9時～16時

対象 県中地区内の幼稚園・保育園

参加者数 6団体 195名

##### (ウ) 活動内容

体育館、活動館アスレチックを利用した運動と積雪時にはそり滑りを行った。

## エ こころのケア事業

### (ア) 目的

様々な不安を抱え登校が困難な児童生徒を対象に豊かな自然の中での活動を通して自己肯定感を高める。

### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年6月4日(金) 参加者 11名  
令和3年10月22日(金) 参加者 20名  
令和3年11月20日(土) 参加者 16名  
令和3年12月12日(日) 参加者 34名

対象 集団活動や登校が困難な児童生徒

### (ウ) 活動内容

保護者や教員と連携し、児童生徒の状況や負担に配慮しながら自然体験活動や交流活動を実施した。

### (イ) 施設開放等、地域参加型の「企画事業」の開催

里山開放デーや会津坂下町感謝デーなどの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。

### (ウ) 幅広い年齢層に対応した出前講座の推進

学校、公民館など教育施設への出前講座を行い、子どもから高齢者まで楽しめる講座を提供することができた。

### (エ) 魅力的な「企画事業」や「研修プログラム」の開発

前年踏襲にとらわれず、企画事業において子どもだけでなく大人も対象とした様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた。

## イ 生涯学習施設の拠点としてプログラムの提供や情報発信を行う。

### (ア) 各関係機関との連携強化（事業のタイアップ）

商業施設や広告会社等、様々な関係機関と連携しながら、新聞やラジオ、フリーペーパー等を利用し、事業の広報活動に努めた。

### (イ) ホームページやフェイスブックを活用しての効果的な情報の発信

タイムリーな話題を、時期を逃さずホームページにアップできるよう、担当が中心となり更新に努めた。新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを活用し、活動の様子や企画事業の案内に努めた。

### (ウ) 地域や各団体への新規プログラムの提供

研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるようにした。

### (エ) ボランティアを育成する研修の開催と活動機会の提供

ボランティアのつどいを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。

## ウ 安全・安心で好感度の高い活動や環境を提供する。

### (ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇

団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

### (イ) 感染症（新型コロナウイルス、ノロウイルスなど）への対策や予防徹底

利用者の事前の健康チェック、来所時、活動時の検温と消毒、食堂の椅子の配置、消毒液の設置などあらゆる対策に努めた。

### (ウ) 日常（事前、事中、事後）及び定期的安全・確認の徹底

労務員も含めた全所員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

### (エ) 施設内の「ごみゼロ」と迅速な施設の整備・修繕

所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の環境づくりに努めることができた。

## エ 施設・財産を守る。

### (ア) 適切な会計処理とチェック体制の充実

会計事務にかかる研修や、服務倫理委員会を定期的に開催し、会計事務の適正化を図った。

## 第16節 福島県会津自然の家

### 1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和3年度末で41年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和3年度の利用者数は、14,871人で、前年度を1,200人程度上回った。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、企画事業の工夫や出前講座を積極的に実施することで、利用促進に努めることができた。

また、4つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利用しやすい魅力的な施設を目指して運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

#### (1) 職員組織

| 職名       | 人員 |
|----------|----|
| 所長       | 1  |
| 副所長      | 2  |
| 総務長      | 1  |
| 総務事務員    | 1  |
| 指導員（常勤）  | 4  |
| 指導員（非常勤） | 2  |
| 嘱託運転手    | 1  |
| 計        | 12 |

#### (2) 令和3年度重点目標と成果

利用者の満足度90%以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

##### ア 利用者が満足感を持つことのできる活動を提供する。

(ア) 利用者のニーズに応じた「研修プログラム」の提供  
活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

(イ) 事業等の整備と保管

- a 研修プログラムや企画事業の電子データ化と指導手順のマニュアル化  
研修プログラム、企画事業の電子データ化を行い、写真や動画ですぐに確認できるように整備した。
- b 活動や施設設備等のデータの累積とその有効活用  
活動プログラムの説明や注意事項、放送設備等の使用方法など動画データに保存し、活用できた。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

### (2) 宿泊定員

- ア 本館 25室 290名(うち1室障がい者用)
- イ ロッジ 10棟 150名
- ウ テント 10張 60名

### (3) 敷地面積

249,848.98㎡

### (4) 建物面積

- ア 延床面積 5,893.8㎡
  - (ア) 管理研修棟(鉄筋造2階建)
  - (イ) 宿泊棟(鉄筋造2階建)
  - (ウ) プレイホール(鉄筋造)
  - (エ) アセンブリホール(鉄筋造)
  - (オ) 機械棟(鉄筋造3階建)
  - (カ) ロッジ(木造平屋建)
  - (キ) 野外活動管理センター(鉄筋造)
  - (ク) 炊飯場(鉄筋造)
  - (ケ) 薪置場(コンクリートブロック造)
  - (コ) 車庫(鉄筋造)
  - (サ) 野外便所(鉄筋造)

### (5) 運動広場面積

8,500㎡

### (6) 設備備品等

- ア フィールドアスレチック
- イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
- ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
- エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
- オ ピアノ、オルガン
- カ 伝承遊びセット
- キ クラフト用具
- ク 各種オリエンテーリング用具
- ケ アルペンスキー
- コ 歩くスキー(クロスカンリースキー)
- サ そり、スノーチューブ
- シ スノーシュー
- ス 営火場(4か所)
- セ 諸活動コース
- ソ その他

## 3 利用状況

### (1) 令和3年度の利用団体数

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 延べ利用者数 | 14,871人              |
| 内訳     | 学校教育団体 205団体 10,373人 |
|        | 社会教育団体 85団体 2,230人   |
|        | ファミリー 54団体 233人      |
|        | 企画事業 30団体 2,035人     |

## 4 企画事業

### (1) 研修会事業

#### ア 学校団体指導者事前研修会

##### (ア) 目的

- a 自然の家設立の趣旨・教育目標・方針・利用のねらい及び運営方法の理解を図る。
- b 児童・生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう、屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解し、効果的な活動計画が作成できるようにする。
- c 集団宿泊活動等が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

##### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和3年4月15日(木) 31名参加  
第2回：令和3年4月20日(火) 33名参加  
第3回：令和3年4月21日(水) 46名参加
- b 幼稚園、保育所及び小中学校の教員

##### (ウ) 研修内容

- a プログラム体験
- b プログラム調整会

#### イ ステップアップセミナー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### ウ ボランティアのつどい

##### (ア) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種主催事業等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

##### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和3年5月9日(日) 14名参加  
第2回：令和3年10月24日(日) 16名参加
- b 高校生、一般

##### (ウ) 研修内容

- a ボランティア講座
- b 本所プログラム研修

### (2) 教育研究事業

#### ア 高寺山歴史勉強会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## イ 通学キャンプ

### (ア) 目的

- a 自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- b 中学校進学前に、同じ中学校へ進学予定の他校の児童との交流を図ることにより、中学進学の不安を少しでも解消できるようにする。

### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年12月2日(木)～4日(土)
- b 会津坂下町立坂下南小学校・坂下東小学校の5～6年児童
- c 36名

### (ウ) 活動内容

- a 室内ゲーム、ニュースポーツ
- b 学習会
- c クラフト体験

## ウ 冬休み楽習宿

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## エ お正月飾りを作ろう

### (ア) 目的

正月飾りをつくることで、日本の伝統文化を知る。

### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年12月26日(日)
- b お正月飾り作りに興味のある方とその家族
- c 54名

### (ウ) 活動内容

お正月飾り作り

## (3) 利用促進事業

### ア 第16回高寺山山開き(会津坂下町との共催)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### イ 春のオープンデー(未来キッズ生き生き事業との併催)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### ウ 夏の川遊びを楽しもう!

#### (ア) 目的

- a 暑い夏に川遊びを行い、自然に親しむとともに、地域の自然についての理解を深める。
- b 夏の暑さのもとでの様々な水辺の活動を通して、大自然の恵みや季節感を楽しむ豊かな心を育むと共に、水への安全な関わり方について身に付けさせる。

#### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年8月1日(日) 86名参加  
(ほかボランティア21名)
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

#### (ウ) 活動内容

- a カヌー体験・川流れ体験
- b 水辺の生き物探し
- c 河原で水遊び

### エ あったかふれあいまつり

(未来キッズ生き生き事業との併催)

#### (ア) 目的

- a 野外活動プログラムや各種体験などの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。
- b 県民に施設及び周辺環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深め、今後の集客につなげる。
- c 各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図る。

#### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年10月10日(日) 527名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

#### (ウ) 活動内容

- a 協力外部団体(木練がっこう、ツリーイング、秘密基地づくり、水辺の生き物観察、読み聞かせ、会津の民話)
- b 本所プログラム(野外クッキング、森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、昆虫OL、スタンプラリー)

## オ 東松ウォーキング大会2021

### (ア) 目的

東松峠ウォーキング大会に地区外からの参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。

### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年10月16日(土) 110名参加
- b 一般

## カ もっくんオータムフェア

### (ア) 目的

- a 会津の秋のすばらしさを感じるとともに、自然への理解を深める。
- b 会津自然の家周辺のコース内で紅葉を主とした自然観察をしながら歩くことにより、自然のすばらしさを味わうとともに参加者相互の交流を図る。

### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年11月6日(土) 24名参加(ほか講師4名)
- b 一般

### (ウ) 活動内容

- a 自然観察
- b 木工クラフト

## キ 三たてを味わう 新そばにチャレンジ

### (ア) 目的

会津の代表的な郷土料理であるそばを打ち、新そばの豊かな味わいを堪能するとともに、郷土の食文化のすばらしさを知る。

### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回: 令和3年11月20日(土) 41名参加  
第2回: 令和3年11月21日(日) 40名参加
- b 県内の小・中学生とその家族

### (ウ) 活動内容

そば打ち体験と試食

## ク 手作り森のクリスマス

### (ア) 目的

- a クリスマス用のクラフト作りや食事を味わうことを通して、家族間の交流を図る。
- b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、当所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。

### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和3年12月11日(土) 45名参加  
第2回：令和3年12月12日(日) 47名参加
- b 県内の小・中学生とその家族

### (ウ) 活動内容

- a クリスマスケーキデコレーション
- b クリスマスクラフト作成

## ケ ウィンターフェスティバル

### (ア) 目的

雪国ならではのスノーボード体験やそり・チューブ遊び、雪と親しむ活動等に触れることを通して、会津の冬の楽しさを感じさせる。

### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年1月22日(土)～23日(日) 32名参加  
(ほか講師10名、ボランティア8名)
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

### (ウ) 活動内容

- a スノーシュー体験、スノーチューブ体験
- b 雪灯ろう作り、キャンプファイヤー
- c スノーボード教室

## コ クラフトキッズフェア

### (ア) 目的

- a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト製作を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
- b クラフト製作の場を提供することにより、当所のプログラムについての理解を深める機会と利用機会の拡大を図るきっかけを作る。

### (イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年3月6日(日) 144名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

### (ウ) 活動内容

- a 木目コースター
- b 木の実アート
- c プラ板クラフト
- d Ori kiri ori クラフト
- e ペットボトルクラフト
- f 特別企画 ノコリノカタチ ウマレルカタチ

## (4) その他の企画事業

### ア 未来キッズ生き生き事業

#### (ア) 目的、対象

県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、ブレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の

家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

#### (イ) 名称、期日、参加者数

- a 春のオープンデー・・・・・・・・・・前  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- b 会津自然の家里山開放デー  
令和3年7月18日(日) 324名参加
- c あったかふれあいまつり・・・・・・・・前  
令和3年10月10日(日) 527名参加
- d そりすべり団体開放  
令和4年1月7日(金)～2月20日(日) 553名参加
- e 雪遊びファミリーデー(ニュースポーツ開放デー)  
令和4年2月6日(日) 99名参加

#### (ウ) 活動内容

- a アスレチック、カヌー、UF0ゴルフ、迷路
- b クラフト、語り部による昔話、オリエンテーリング、ボッチャ
- c そり遊び、スノーチューブ

## 第17節 福島県いわき海浜自然の家

### 1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校教育団体の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年4月1日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称)を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成23年度から同26年度にかけて、本館周辺及び野外施設の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。山林部については、一部で放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森を利用した活動プログラムの再開はできていないが、令和4年度に冒険の森3コースの一部で再整備工事が計画されており、令和3年度に調査・設計を実施している。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて平成25年度から順次再開し、平成30年度に四倉漁港でいかだ乗り、カヤック乗り、ボディボードを再開したことで、全てのプログラムを再開することができた。海浜に隣接した施設としての特性を生かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、相双地区やいわき地区の利

用団体からも好評を得ている。

令和3年度の受け入れについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度に引き続き利用定数を半数以下とし、利用日数も1泊2日までとした。また、団体の規模を考慮しながら1日あたりの利用受け入れは最大6団体まで、さらに、宿泊は3団体までとした。その上で、地域の感染状況に応じて宿泊利用の受け入れ停止や感染リスクの高い活動（野外炊飯）の禁止などの対応を行った。

これにより、学校教育団体の宿泊活動については、多くがキャンセルまたは10月から12月の期間に変更となったため、年間計画の開所日及び休所日を変更するなどして対応した。また、このことが社会教育団体の平日利用にも大きく影響することとなったが、新型コロナウイルスの感染者数が減少した時期にスポーツや音楽関係の大会が開催されるようになったことで、学校の部活動やスポーツ少年団の合宿による利用に回復傾向が認められた。

年間の利用状況については、新型コロナウイルス感染拡大の影響があったが、304団体（前年比23団体増）、延べ利用者数17,062人（前年比3,925人増）となった。

施設管理に関しては、新型コロナウイルス感染の影響で利用制限を行っていた時期に、設備の点検・修繕等を集中して実施し、利用環境の整備を図った。

### (1) 令和3年度重点目標と成果

震災の影響で未だに自然体験活動が制限されており、さらに新型コロナウイルス感染症の影響で利用が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 青少年教育施設としての位置づけを明確にし、利用者への理解徹底を図るため、健全な青少年の育成を目的とした利用のあり方を検討しながら受け入れを実施した。学校教育団体へは、いわき市内の小・中学校長連絡協議会へ本所の取り組みなどを積極的に情報提供し、周知と利用促進に努めた。また、生涯学習施設としての役割に鑑み、いわき市内の教育文化施設及び社会教育施設と連携し、公民館への出前講座等で体験活動を提供するなど、社会教育団体への利用促進を図った。

(イ) 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な心身の育成を図るため、学校教育団体及び社会教育団体の指導者向けに活動計画立案や活動プログラム体験などを取り入れた研修会を実施している。しかし、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修会を中止したことから、書面や電話等により、研修目的に沿った活動の提案や目的達成のための助言を行うとともに、動画配信を利用して活動プログラムへの理解を図った。

(ウ) 利用団体へのオリエンテーション等を通して宿泊活動における生活指導を行い、共同生活の場における社

会的集団的なルールの理解と定着を図った。

(エ) 企画事業の充実を図るため、提供プログラムの教育的効果や自然体験を多く取り入れたプログラムの開発について、所員が意見を出し合いながら事業を進めた。令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者数を限定しての事前予約としたが、市内の市民団体と連携した様々なスポーツ活動や自然の素材を利用したクラフト体験を多く取り入れた。広報活動についても、指定管理者が管理受託する施設と連携し、効率的な広報に努めた。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 利用者の研修目的達成のため、団体の特性に合わせた活動プログラムの開発に取り組んだ。特に学校教育団体については、プログラムの教育的効果について再検討し、オリエンテーション等の内容の見直しを行った。また、利用が制限されている冒険の森のナイトハイクコースに代わり、多目的広場周辺に新たに整備したナイトハイクコースを活用した。

(イ) あらゆる年齢層に対応するため、幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発と内容の充実を努めた。令和3年度は、幅広い年齢層で活動できるニュースポーツについて検討し、令和4年度から導入する準備を進めた。

(ウ) アンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行った。プログラムについては自然の家に求められている体験活動について、既存の内容の見直しを随時行った。また、団体の自主性・主体性を尊重しながら、研修目的を達成できるよう、適切な支援方法について、所員研修を行いながら改善を進めた。

令和3年度は、東日本大震災以降に中断していた社会教育団体のボディボード活動について、アンケートでの要望が高かったことから、事前研修会への参加と引率者の配置を確認した上で再開した。

(エ) 誰もが安心して楽しく利用できる施設を目指し、活動前の施設の安全点検だけでなく、活動プログラムについても定期的に安全面での検証を行い、支援に取り入れた。特に海浜活動については、毎年シーズン前に所員研修で安全な支援方法の確認を行っている。さらに、新型コロナウイルス感染症についても感染拡大防止対策を徹底しながら活動を支援した。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 施設内外の安全点検を定期的実施し、事故の未然防止を徹底した。特にトリムランドは利用前に所員が点検を行うとともに、年1回の公園施設製品安全管理士による点検を実施し、安全管理に努めた。用具についても、利用前に消毒と不具合の有無についての確認を徹底した。

(イ) 学校教育団体及び社会教育団体への事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底を図っている。しかし、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修会を開催することができ



なかったため、「利用ガイド」等の事前配布で安全な活動を促した。さらに、受付やオリエンテーション、活動支援においても安全のための適切な助言や指導を行った。

- (ウ) 自然災害及び事故発生時の緊急事態等に対応するため、危機管理マニュアルにより緊急時の対応及び連絡体制を明確にすることで、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。マニュアルは毎年見直しを行っており、令和3年度は自然災害及び新型コロナウイルス感染症に関する項目を見直した。
  - (エ) 本所の危機管理体制と安全対策を周知するため、海浜活動時等の自然災害等での避難方法、新型コロナウイルス感染症に関する対策等についてのマニュアルを利用者に配布するとともに、受付時にも説明を行った。また、放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。
  - (オ) 利用者がより良い環境の中で安全に安心して活動できるよう、地域の消防署、交番とも連携して安全対策を徹底した。また、所外での活動に備えて2台のAEDを配置し、年一回の救急救命訓練を実施するなど、安全対策の充実に努めた。
  - (カ) 火災予防については、消防法に定められた防火設備の点検を実施するとともに、消防計画の作成、消防訓練の実施など、常に防火管理に努めた。
- エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。
- (ア) 利用者へのアンケート結果を参考に、プログラム内容や支援への意見・要望などを分析しながら業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援及び管理運営に努めた。
  - (イ) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会及び評議員会や、法人が管理受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、満足度の高い施設運営に努めた。
  - (ウ) 自然体験活動にふさわしい環境整備を心がけ、利用団体の活動に支障がないよう施設の維持保全に努めた。食事提供業務、施設等維持保全関連業務の再委託については、指名競争入札により経費の削減を図りながら、受託業者と連携して利用者へのサービス向上に努めた。
- オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。
- (ア) ボランティア養成講座を年4回開催し、ボランティアの意義について理解を深めるための講座及びグループワーク、自然体験活動支援に必要な知識と技術を習得する実技研修を実施した。ボランティア養成講座には、社会人だけでなく、いわき市内の高校生及び大学生が参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。規定の講座修了後には支援ボランティアとして企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

- (イ) 環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年1回行い、地域に根ざした施設づくりに努めた。
- (ウ) 地域の公民館及び教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、スポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供した。また、地域のまちづくり活動へ協力することで、各種団体との連携強化に努めた。

## (2) 職員組織

| 職名      | 人員 |
|---------|----|
| 所長      | 1  |
| 次長      | 1  |
| 主任指導員   | 1  |
| 主査      | 1  |
| 副主任指導員  | 1  |
| 指導員     | 2  |
| 教育指導専門員 | 1  |
| 体験活動指導員 | 4  |
| 運転手     | 2  |
| 環境整備員   | 1  |
| 事務補助員   | 2  |
| 計       | 17 |

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

### (2) 宿泊定員

- ア 本館定員 300名 (和室28室)
- イ ロッジ定員 160名 (10棟)
- ウ テント定員 100名 (25張)

### (3) 敷地面積

350,171 m<sup>2</sup>

### (4) 建物面積

- ア 延床面積 6,696.97 m<sup>2</sup>

#### (ア) 中心施設

本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)  
体育館

#### (イ) 野外施設

管理棟、ロッジ、便所等

### (5) 野外活動施設面積

- ア つどいの広場 7,000 m<sup>2</sup>
- イ 多目的広場 8,890 m<sup>2</sup>
- ウ 自然観察園 4,050 m<sup>2</sup>
- エ みんなの広場 4,700 m<sup>2</sup>

### (6) 設備備品等

- ア 体育館  
(バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面 (バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、

- ピアノ1台、キンボール ほか)
- イ 野営場  
(野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか)
- ウ 野外活動設備  
(フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場5か所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース ほか)
- エ 多目的広場  
(ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか)
- オ その他  
(視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、足けりバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか)

### 3 利用状況

#### (1) 令和3年度利用者数

|        |               |
|--------|---------------|
| 延べ利用者数 | 17,062人       |
| 内訳     |               |
| 学校教育団体 | 176団体 12,780人 |
| 社会教育団体 | 103団体 3,235人  |
| ファミリー  | 3団体 67人       |
| 企画事業   | 22団体 980人     |

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

- ア 学校教育団体指導者事前研修会  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
4月及び5月に全4回の開催予定であったが、活動計画については、資料を送付し、電話・書面等により調整を行った。また、動画配信により活動プログラムへの理解を図った。
- イ 社会教育団体指導者事前研修会（活動プログラム研修会）  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
5月に開催予定であったが、活動計画については、資料を送付し、電話・書面等により調整を行った。また、動画配信により活動プログラムへの理解を図った。
- ウ ボランティア養成講座  
(ア) 目的  
自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。  
(イ) 期日、対象及び参加者数
  - ・期日 令和3年6月6日(日) 参加者数 12名
  - 令和3年7月11日(日) 参加者数 13名
  - 令和3年11月14日(日) 参加者数 8名
  - 令和3年12月19日(日) 参加者数 6名
  - 計 39名
  - ・対象 高校生、大学生、一般

- (ウ) 内容  
実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度は高校生及び大学生の参加が減少したが、令和3年度は全体で10名増加した。

#### (2) 利用促進事業

- ア 遊ぼう！初夏の海で  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- イ 春のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）  
(ア) 目的  
施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに利用促進を図る。また、子どもたちが、ボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性や生きる力の育成を図る。  
(イ) 期日、対象及び参加者数
  - ・期日 令和3年6月13日(日)
  - ・対象 一般
  - ・参加者数 142名(ほか講師8名、ボランティア16名)
- (ウ) 内容  
5月16日(日)から延期し、定員200名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイク、スラックライン、トランポリンなどのスポーツ体験で身体を動かし、貝殻ストラップ作りのクラフト体験を楽しんだ。また、野外炊飯(海浜ピザ&パスタ)、海浜レストランなどで食事を楽しんだ。
- ウ ふれあいサマーキャンプ  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- エ スポーツフェスティバル（未来キッズ生き生き事業）  
(ア) 目的  
子どもから大人まで一緒に様々なスポーツを楽しみながら、体力向上や健康維持などへの意識向上を図る。  
(イ) 期日、対象及び参加者数
  - ・期日 令和3年10月3日(日)
  - ・対象 一般
  - ・参加者数 97名(ほか講師7名、ボランティア7名)
- (ウ) 内容  
定員100名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイク、スラックライン、フロアカーリング、ヨガ教室などを楽しみ、健康への意識を高めることができた。また、スタンプラリーで所内を巡ることで、本所への理解を深めることができた。
- オ 秋のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）  
(ア) 目的  
施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに利用促進を図る。また、子どもたちが、ボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性や生きる力の育成を図る。  
(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和3年10月24日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 191名(ほか講師8名、ボランティア11名)

(ウ) 内容

定員200名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイク、スラックラインなどのスポーツ体験で身体を動かし、貝殻ストラップ、砂絵などのクラフト体験、竹馬などの昔遊び体験などを楽しんだ。また、野外炊飯(豚汁うどん)、海浜レストランなどで食事を楽しんだ。

カ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然のすばらしさや人とふれ合う喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和3年11月6日(土)～7日(日)
- ・対象 小学生(4～6年生)
- ・参加者数 15名

(ウ) 内容

1泊2日で、背戸岬廊ハイキング、野外炊飯(ハンバーガー、フライドさつま)、キャンプファイヤー、クラフト体験などを行い、自然体験や交流活動を通して参加者同士の親睦を深め、社会性や自立心を育んだ。また、野外炊飯の材料に自分たちで収穫したサツマイモを使用することで、食育への意識を高めることができた。

キ 親子のつどい

(ア) 目的

親子が一緒に季節にふさわしい体験活動を行うことで、家族の絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和3年12月12日(日)
- ・対象 幼児から小学生とその家族
- ・参加者数 37名(ほかボランティア6名)

(ウ) 内容

親子が一緒に、季節にふさわしいクリスマスのリース作りなどのクラフト体験、館内を巡るオリエンテーリングなどを楽しんだ。クラフトの材料は、自然環境の豊かさを体感できるよう本所周辺で採集した自然の素材を用いた。

ク 冬を楽しもう！～冬のDAYキャンプ～

(ア) 目的

身体を動かすことが少ない時期に、気軽に実施できるデイキャンプを通して、家族の絆を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性を育む。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年1月16日(日)
- ・対象 幼児から小学生とその家族
- ・参加者数 8組(30名)

(ウ) 内容

1月9日に会津地方でのスキー教室を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日程と内

容を変更し、本所内で定員10組(40名程度)の予約制で実施。テント立て、薪割り、風船マット作りなどを体験し、木製表札作りの創作活動、お餅料理や焼きマシュマロ作りなどを親子で楽しんだ。

ケ クラフトのつどい

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

コ 森の音楽会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

本所のアスレチック施設等を利用して、身体を動かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和3年11月28日(日) 参加者数 179名  
(ほか講師11名)
- 令和4年1月23日(日) 参加者数 94名  
(ほか講師6名)

※令和4年2月27日(日)も開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・対象 幼児から小学生とその家族

(ウ) 内容

各回定員150名の事前予約制で実施。トリムランドで身体を動かし、マウンテンバイク、足けりバイク、ファミリーゴルフなどを楽しんだ。また、ロープ登り、凧あげなどの親子で一緒に活動できるプログラムを取り入れた。

(4) 連携事業

ア ウィンターフェスティバル 主催:会津自然の家

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加中止

イ 親子自然探訪教室 主催:いわき市アンモナイトセンター

(ア) 目的

親子でいわき市内の各所に出向き、様々な自然観察を行う。

(イ) 期間、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年1月10日(月・祝)
- ・対象 小学生とその保護者
- ・参加者数 25名

(ウ) 内容

本所のつどいの広場で星空を観察し、冬の夜空について学んだ。いわき市内の教育文化施設と連携することで、参加者に本所の活動を広報することができた。

ウ 生涯学習フェスティバル 主催:いわき市生涯学習プラザ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

エ 出前講座(全2件)

(ア) 目的

本所の活動内容の紹介と学校教育団体及び社会教育団体等への利用促進を図るため、出前講座を行う。

(イ) 期間、対象及び参加者数

a 常磐公民館

- ・期日 令和3年12月18日(土)
- ・対象 公民館事業に参加する児童
- ・参加者数 31名

b 中央公民館

- ・期日 令和3年12月25日(土)
- ・対象 公民館事業に参加する児童
- ・参加者数 53名

(ウ) 内容

いわき市内の公民館で、クラフト体験の出前講座を実施した。

# 第 10 章 文化財

## 第 1 節 文化財保護体制の充実

### 1 指定文化財保護体制の充実 (文化財パトロール)

例年、文化財保護体制の充実を図るため、民間の有識者を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その現況把握に努めてきた。令和3年度は県内15地区127件の文化財を巡視した。

### 2 文化財保護指導者研修会

#### (1) 趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、公益財団法人福島県文化振興財団と県教育委員会の共催により実施した。文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

#### (2) 期日及び場所

令和3年10月21日(木)～22日(金)  
富岡町文化交流センター学びの森  
とみおかアーカイブ・ミュージアム

#### (3) 内容

ア 講義内容及び講師

- (ア) 「文化財保存活用地域計画のあり方」  
響田克史 (福島県教育庁文化財課)
- (イ) 「大字誌編纂の取組みと意義」  
西村慎太郎 (人間文化研究機構国文学研究資料館)
- (ウ) 「歴史PTと『震災遺産保全等に関する条例』の経緯」  
門馬 健 (富岡町教育委員会)
- (エ) 「地域再発見と『保存活用』  
ーとみおかアーカイブ・ミュージアムが目指すものー」  
三瓶秀文(富岡町教育委員会)

イ 現地研修

とみおかアーカイブ・ミュージアム (富岡町) 見学

### 3 市町村文化財保護担当者会議

#### (1) 趣旨

県内市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえでの必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的とする。

#### (2) 期日及び場所

5月25日(火) 県庁正庁(福島市)  
6月4日(金) 原町生涯学習センター(南相馬市) ※  
6月10日(木) 会津若松合同庁舎(会津若松市) ※  
※新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止。

#### (3) 内容

- ア 文化行政の動向
- イ 令和3年度事業について
- ウ 指定文化財の対応について

## 第 2 節 埋蔵文化財の保護の充実

### 1 埋蔵文化財保護体制

県の歴史と文化を物語る文化財や県内の遺跡への関心は、県民の中で着実に高まっていることから、県教育委員会は、埋蔵文化財(遺跡)の保存・保護のため調査体制の充実を図ってきた。令和3年度は、専門職員の任期付職員1名を採用し、東日本大震災からの復旧・復興事業の埋蔵文化財調査のため、文化財課の体制を強化した。

また、県の委託により発掘調査を行っている公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部においては、財団職員21名、財団間出向職員4名、計25名で調査にあたった。

#### 公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部職員数

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 年度 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 元  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 人員 | 26 | 26 | 30 | 40 | 44 | 47 | 47 | 55 | 60 | 60 | 62 | 62 | 62 | 62 |
| 年度 | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 人員 | 62 | 62 | 68 | 68 | 76 | 61 | 39 | 40 | 40 | 40 | 41 | 41 | 38 | 32 |
| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | R1 | R2 | R3 |    |    |
| 人員 | 26 | 26 | 35 | 40 | 39 | 37 | 32 | 30 | 32 | 26 | 22 | 25 |    |    |

(平成14年度までは遺跡調査課定数)

### 2 開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」・「試掘・確認調査」の結果により、事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

#### (1) 分布調査、試掘・確認調査

分布調査、試掘・確認調査は、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。

令和3年度は、小名浜道路 3,900 m<sup>2</sup>、只見川河川整備 28,500 m<sup>2</sup>、丸森いわき幹線(広域連系線) 1,165 m<sup>2</sup>、国道288号 850 m<sup>2</sup>、計 34,415 m<sup>2</sup>の試掘・確認調査を実施した。

なお、復興事業に係る埋蔵文化財調査については別記した。

#### (2) 保存協議

昨年度からの継続協議を含め、関係機関と保存協議を実施した。

関係機関：国土交通省、県土木部、東北電力等。

#### (3) 発掘調査

県教育委員会では、開発に伴う発掘調査(記録保存目的)

の本発掘調査)を公益財団法人福島県文化振興財団に委託し、以下の遺跡について実施した。

- ・会津縦貫南道路：栗林遺跡・中妻新田遺跡（下郷町）3,152㎡
- ・国道114号（山木屋1工区）改良工事：前田遺跡（川俣町）250㎡
- ・主要地方道小野富岡線（高津戸工区）整備事業：日南郷遺跡・高津戸館跡（富岡町）3,400㎡
- ・一般県道落合線整備事業：丈六横穴墓群・丈六古墳群（浪江町）1,000㎡

この他、令和2年度に不時発見に伴う下記の緊急発掘調査について、県直営により報告書作成を実施し、適切な記録保存を行った。

- ・梅川筋改修事業：大毛内B遺跡（相馬市）

なお、県内市町村においても開発に伴う発掘調査を各市町村文化財保護担当部局が実施しているが、遺跡の重要性や調査体制の実情に応じ、適時指導・助言している。

### 3 令和3年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況

東日本大震災及び原子力災害に係る復旧・復興事業計画区域内において、埋蔵文化財の分布調査、試掘・確認調査を迅速に実施し、復興事業計画に遅れが出ないように対応した。

さらに、被災市町村に対して埋蔵文化財調査に係る技術協力を実施し、復興事業の迅速化に寄与してきた。

〈令和3年度〉復興調査体制  
（南相馬市駐在）

課長 — 副課長 — 県専門職員  
（5名）

調査対応した開発事業は以下のとおりである。

#### (1) 分布調査

農山村地域復興基盤整備、県道整備、中間貯蔵施設等  
541,469㎡

#### (2) 試掘・確認調査

農山村地域復興基盤整備、県道整備、中間貯蔵施設等  
249,288㎡

#### (3) 復興・再生事業等に係る市町村技術協力

- ・双葉町、大熊町、楢葉町、広野町への技術協力
- ・第20回 東日本大震災の復旧・復興に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する連絡会 11月30日開催
- ・各市町村訪問

## 4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

### (1) 福島県文化財センター白河館文化財研修

公益財団法人福島県文化振興財団が指定管理を行っている福島県文化財センター白河館において、埋蔵文化財の調査を担当する自治体・団体職員などを対象とした研修会を実施し、238名が受講した。

### (2) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修

令和3年度に受講した者は以下のとおり。

| 研修名称     | 期 日             | 受 講 者                |
|----------|-----------------|----------------------|
| 建築遺構調査課程 | 6月21日～<br>6月25日 | 南相馬市教育委員会<br>文化財課 1名 |

## 5 埋蔵文化財保護普及活動

令和3年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

- ・福島県内遺跡分布調査報告 28
- ・東日本大震災復興関連遺跡調査報告 8
- ・令和3年度中間貯蔵土壌貯蔵施設等工事予定地における埋蔵文化財調査業務報告書
- ・只見川流域築堤工事遺跡発掘調査報告 1
- ・一般国道289号関連遺跡発掘調査報告 1
- ・一般国道349号関連遺跡発掘調査報告 2
- ・中間貯蔵施設事業遺跡発掘調査報告 1
- ・中間貯蔵施設事業遺跡発掘調査報告 2
- ・県道広野小高線関連遺跡発掘調査報告 3
- ・梅川筋改修事業遺跡発掘調査報告 1

## 6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請により県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術を協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により公益財団法人福島県文化振興財団が選任した財団職員で、分布調査、試掘・確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

令和3年度の技術協力の実績は、下記のとおり。

| 市町村 | 遺 跡 名            | 協力内容    |
|-----|------------------|---------|
| 下郷町 | 左走遺跡             | 試掘・確認調査 |
| 広野町 | 関ノ上II遺跡          | 試掘・確認調査 |
| 湯川村 | 堂後遺跡             | 試掘・確認調査 |
| 大熊町 | 西平B遺跡及び西平地内A～C地点 | 試掘・確認調査 |
|     | 井戸神沢製鉄遺跡         | 発掘調査指導  |
| 矢吹町 | 花咲地区             | 分布調査    |

## 7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数

### (1) 令和3年度 試掘・確認調査件数

(令和3年4月～令和4年3月)

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計   |
|-----|------------------|----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 1   | 道路               | 3  | 1   |    | 7  | 1   | 3  | 4   | 19  |
| 2   | 河川               |    |     |    |    |     |    |     | 0   |
| 3   | ダム               |    |     |    |    |     |    |     | 0   |
| 4   | 住宅               |    | 11  |    |    |     | 4  | 1   | 16  |
| 5   | 個人住宅             | 11 | 94  | 2  | 4  |     | 7  | 3   | 121 |
| 6   | 店舗               | 1  | 2   |    |    |     | 1  |     | 4   |
| 7   | その他建物            | 5  | 18  |    | 3  |     | 4  | 4   | 34  |
| 8   | 宅地造成             | 7  | 6   | 5  |    |     |    | 1   | 19  |
| 9   | 土地区画整理           |    | 1   |    |    |     |    |     | 1   |
| 10  | 公園造成             |    | 1   |    |    |     |    |     | 1   |
| 11  | 電気・ガス・水道等        |    | 1   |    |    |     | 4  |     | 5   |
| 12  | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | 1  |     |    |    |     |    |     | 1   |
| 13  | その他の農業関係事業       |    |     | 1  |    |     |    |     | 1   |
| 14  | 土砂採取             |    |     |    |    |     |    |     | 0   |
| 15  | その他開発            | 14 | 21  |    |    |     | 13 | 1   | 49  |
| 合 計 |                  | 42 | 156 | 8  | 14 | 1   | 36 | 14  | 271 |

### (2) 令和3年度 発掘調査件数

(令和3年4月～令和4年3月)

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|------------------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 道路               | 2  | 1  |    |    | 1   | 1  | 2   | 7  |
| 2   | 河川               |    |    |    | 1  |     |    |     | 1  |
| 3   | 学校建設             | 1  |    |    |    |     |    |     | 1  |
| 4   | 住宅               |    |    |    |    |     |    |     |    |
| 5   | 個人住宅             |    | 1  |    |    |     |    | 1   | 2  |
| 6   | その他建物            |    | 2  |    | 1  |     |    | 2   | 5  |
| 7   | 宅地造成             | 1  | 1  |    | 2  |     |    |     | 4  |
| 8   | 土地区画整理           |    |    |    |    |     |    |     |    |
| 9   | 農業基盤整備事業（農道等を含む） |    | 1  |    | 3  |     | 1  |     | 5  |
| 10  | その他の農業関係事業       |    |    |    |    |     | 2  |     | 2  |
| 11  | 土砂採取             |    |    |    | 1  |     |    |     | 1  |
| 12  | その他開発            |    |    |    |    |     | 4  | 1   | 5  |
| 合 計 |                  | 4  | 6  | 0  | 8  | 1   | 8  | 6   | 33 |

## 8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査

| No  | 調査原因      | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|-----------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 範囲内容確認調査  | 3  | 1  | 2  | 3  |     | 4  | 2   | 15 |
| 2   | 史跡整備に係る調査 | 1  | 1  | 2  | 1  | 1   | 1  |     | 7  |
| 3   | 学術調査      |    |    |    |    |     |    |     |    |
| 合 計 |           | 4  | 2  | 4  | 4  | 1   | 5  | 2   | 22 |

## 9 令和3年度 試掘・確認調査

| No | 遺跡名               | 所在地                     | 調査主体者 | 調査実施期間      | 調査面積<br>(㎡) | 時代           | 種別           | 調査原因   |
|----|-------------------|-------------------------|-------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------|
| 1  | 大熊町遺跡推定地2箇所       | 大熊町大字夫沢                 | 県教委   | 4月5日～4月6日   | 94          | —            | —            | 中間貯蔵施設 |
| 2  | 貝餅遺跡ほか3箇所         | 南相馬市原町区上北高平             | 県教委   | 4月26日～6月11日 | 499         | 縄文           | 散布地          | 農地整備   |
| 3  | 船着横穴墓群ほか6箇所       | 南相馬市鹿島区江垂、<br>小島田       | 県教委   | 5月6日～12月16日 | 612         | 古墳ほか         | 古墳ほか         | 農地整備   |
| 4  | 反町遺跡              | 南相馬市鹿島区大字南屋形            | 県教委   | 12月9日～10日   | 18          | 弥生・古墳<br>・平安 | 集落跡          | 農地整備   |
| 5  | 川内村遺跡推定地1箇所       | 川内村大字上川内                | 県教委   | 8月30日～9月2日  | 105         | 平安           | 散布地          | 農地整備   |
| 6  | 浪江町遺跡推定地5箇所       | 浪江町大字川添、樋渡              | 県教委   | 9月22日～2月25日 | 1,216       | —            | —            | 農地整備   |
| 7  | 浪江町遺跡推定地1箇所       | 浪江町大字加倉                 | 県教委   | 1月17日～1月25日 | 315         | 縄文           | 散布地          | 農地整備   |
| 8  | 下木戸遺跡             | 田村市船引町北移                | 県教委   | 11月1日～11月4日 | 18          | 縄文           | 集落跡          | 農地整備   |
| 9  | 天神谷地遺跡ほか3箇所       | 南相馬市原町区上北高平、<br>北長野、北新田 | 県教委   | 5月24日～2月1日  | 299         | 縄文           | 散布地          | 道路     |
| 10 | 北原貝塚ほか5箇所         | 南相馬市小高区浦尻               | 県教委   | 7月19日～8月6日  | 163         | 縄文           | 貝塚           | 道路     |
| 11 | 浪江町遺跡推定地1箇所       | 浪江町大字西台                 | 県教委   | 1月12日～1月14日 | 81          | 古墳、奈良、<br>平安 | 集落跡          | 道路     |
| 12 | 辻前遺跡              | 浪江町大字幾世橋                | 県教委   | 1月26日       | 6           | 古墳、奈良、<br>平安 | 散布地          | 道路     |
| 13 | 四ツ栗遺跡ほか1遺跡        | 南相馬市小高区大字川房             | 県教委   | 7月12日～8月4日  | 213         | 縄文・平安<br>ほか  | 散布地<br>ほか    | 道路     |
| 14 | 川内村遺跡推定地1箇所       | 川内村大字下川内                | 県教委   | 8月18日～8月23日 | 165         | 縄文・古墳<br>～平安 | 集落跡、<br>生産遺跡 | 電気     |
| 15 | 添野町大町遺跡ほか1遺跡      | いわき市添野町大町ほか             | 県教委   | 4月19日～4月23日 | 387         | 中世           | 集落跡          | 河川     |
| 16 | 中西部遺跡ほか1遺跡        | 金山町滝沢字中西部ほか             | 県教委   | 5月13日～6月2日  | 1,009       | 縄文、弥生        | 集落跡          | 道路     |
| 17 | 相馬市遺跡推定地ほか<br>3箇所 | 相馬市玉野、飯館村佐須、<br>川俣町小綱木  | 県教委   | 6月22日～7月1日  | 27          | —            | —            | 電気     |
| 18 | 井戸神沢遺跡            | 大熊町大字野上字湯の神             | 県教委   | 7月6日～7月7日   | 42          | 縄文           | 散布地          | 道路     |

## 10 令和3年度 発掘調査

| No | 遺跡名              | 所在地         | 調査主体者 | 調査実施期間       | 調査面積<br>(㎡) | 時代                      | 種別          | 調査原因         |
|----|------------------|-------------|-------|--------------|-------------|-------------------------|-------------|--------------|
| 1  | 栗林遺跡・中妻新田遺跡      | 下郷町大字中妻     | 県教委   | 4月13日～11月30日 | 3,152       | 縄文                      | 集落跡         | 会津縦貫<br>南道路  |
| 2  | 前田遺跡             | 川俣町大字小綱木字前田 | 県教委   | 5月10日～10月13日 | 250         | 縄文・弥生<br>奈良・平安<br>中世・近世 | 低湿地・<br>集落跡 | 国道114<br>号改良 |
| 3  | 日南郷遺跡・高津戸館跡      | 富岡町大字上手岡字後田 | 県教委   | 5月10日～8月3日   | 3,400       | 古墳・中世                   | 集落跡・<br>城館跡 | 道路           |
| 4  | 丈六横穴墓群・丈六古墳<br>群 | 浪江町大字高瀬字丈六  | 県教委   | 9月13日～12月10日 | 1,000       | 古墳                      | 古墳          | 道路           |



### 第3節 文化財保存助成の充実

#### 1 文化財保存助成事業

国指定文化財の防災設備保守点検等の管理に必要な経費について、助成を行った。

| 事業区分     | 補助事業者 | 名称               | 種別  | 事業内容    | 金額（単位：円）  |           |           |           |
|----------|-------|------------------|-----|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|          |       |                  |     |         | 事業費       | 国庫補助      | 県費補助      | その他       |
| 国指定文化財管理 | 延命寺   | 延命寺地蔵堂           | 建造物 | 防災保守点検等 | 265,000   | 64,500    | 64,500    | 136,000   |
| 国指定文化財管理 | 八葉寺   | 八葉寺阿弥陀堂          | 建造物 | 防災保守点検等 | 237,380   | 57,500    | 57,500    | 122,380   |
| 国指定文化財管理 | 横山操   | 旧滝沢本陣<br>横山家住宅   | 建造物 | 防災保守点検等 | 323,400   | 73,500    | 73,500    | 176,400   |
| 国指定文化財管理 | 飯盛正徳  | 旧正宗寺三匠堂          | 建造物 | 防災保守点検等 | 1,188,894 | 293,500   | 293,500   | 601,894   |
| 国指定文化財管理 | 勝福寺   | 勝福寺観音堂           | 建造物 | 防災保守点検等 | 434,500   | 107,500   | 107,500   | 219,500   |
| 国指定文化財管理 | 熊野神社  | 熊野神社長床           | 建造物 | 防災保守点検等 | 4,106,890 | 286,000   | 286,000   | 3,534,890 |
| 国指定文化財管理 | 円満寺   | 円満寺観音堂           | 建造物 | 防災保守点検等 | 1,343,700 | 225,000   | 225,000   | 893,700   |
| 国指定文化財管理 | 恵隆寺   | 恵隆寺観音堂           | 建造物 | 雪降し、除雪等 | 74,270    | 18,500    | 18,500    | 37,270    |
| 国指定文化財管理 | 法用寺   | 法用寺本堂内<br>厨子及び仏壇 | 建造物 | 防災保守点検  | 44,000    | 10,000    | 10,000    | 24,000    |
| 国指定文化財管理 | 常福院   | 常福院薬師堂           | 建造物 | 防災保守点検  | 55,000    | 11,500    | 11,500    | 32,000    |
| 国指定文化財管理 | 福生寺   | 福生寺観音堂           | 建造物 | 防災保守点検  | 66,000    | 12,500    | 12,500    | 41,000    |
| 国指定文化財管理 | 飯野八幡宮 | 飯野八幡宮            | 建造物 | 防災保守点検等 | 788,170   | 190,000   | 190,000   | 408,170   |
| 計        | 12件   |                  |     |         | 8,927,204 | 1,350,000 | 1,350,000 | 6,227,204 |

#### 2 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業（保存事業）とそれらの文化財を活用した事業（活用事業）を一体的に行った事業（保存活用事業）に必要な経費について、助成を行った。

##### (1) 国指定文化財

| 事業区分      | 補助事業者   | 名称              | 種別              | 事業内容    | 金額（単位：円）   |            |           |            |
|-----------|---------|-----------------|-----------------|---------|------------|------------|-----------|------------|
|           |         |                 |                 |         | 事業費        | 国庫補助       | 県費補助      | その他        |
| 建造物保存修理   | 安積歴史博物館 | 旧福島県尋常<br>中学校本館 | 建造物             | 建造物修理   | 6,725,000  | 5,622,000  | 270,000   | 833,000    |
| 記念物保存修理   | 横山操     | 旧滝沢本陣           | 史跡              | 指定地内整備  | 6,168,000  | 4,846,000  | 150,000   | 1,172,000  |
| 建造物保存修理   | 勝常寺     | 勝常寺薬師堂          | 建造物             | 建造物修理   | 10,061,400 | 7,928,000  | 630,000   | 1,503,400  |
| 美術工芸品保存修理 | 三島町     | 福島県荒屋敷<br>遺跡出土品 | 美術工芸品<br>(考古資料) | 考古資料修復  | 8,308,886  | 5,289,000  | 630,000   | 2,389,886  |
| 建造物防災施設   | 専称寺     | 専称寺本堂<br>ほか2棟   | 建造物             | 防災施設整備  | 55,459,592 | 46,777,000 | 1,530,000 | 7,152,592  |
| 建造物防災施設   | 願成寺     | 白水阿弥陀堂          | 建造物             | 建造物防災施設 | 3,045,000  | 2,250,000  | 270,000   | 525,000    |
| 計         | 6件      |                 |                 |         | 89,767,878 | 72,712,000 | 3,480,000 | 13,575,878 |

## (2) 県指定文化財

| 事業区分      | 補助事業者      | 名称                    | 種別        | 事業内容   | 金額（単位：円）   |      |            |            |
|-----------|------------|-----------------------|-----------|--------|------------|------|------------|------------|
|           |            |                       |           |        | 事業費        | 国庫補助 | 県費補助       | その他        |
| 建造物保存修理   | 福島市        | 旧奈良輪家住宅               | 建造物       | 建造物修理  | 2,573,000  | 0    | 850,000    | 1,723,000  |
| 建造物保存修理   | 福島市        | 旧奈良輪家住宅               | 建造物       | 建造物修理  | 5,408,702  | 0    | 1,800,000  | 3,608,702  |
| 美術工芸品保存修理 | 如法寺        | 木造不動明王立像<br>・木造毘沙門天立像 | 美術<br>工芸品 | 彫刻修復   | 2,530,326  | 0    | 840,000    | 1,690,326  |
| 天然記念物保護増殖 | 古殿町        | 古殿町越代の<br>サクラ         | 天然<br>記念物 | 保護増殖   | 16,005,000 | 0    | 2,770,000  | 13,235,000 |
| 建造物防災施設   | 白河ハリストス正教会 | 白河ハリストス<br>正教会聖堂      | 建造物       | 建造物修理  | 899,371    | 0    | 290,000    | 609,371    |
| 天然記念物保護増殖 | 塙町         | 向ヶ岡公園の<br>サクラ         | 天然<br>記念物 | 保護増殖   | 1,540,550  | 0    | 510,000    | 1,030,550  |
| 天然記念物保護増殖 | 矢祭町        | 戸津辺のサクラ               | 天然<br>記念物 | 保護増殖   | 12,278,620 | 0    | 4,090,000  | 8,188,620  |
| 美術工芸品保存修理 | 恵隆寺        | 木造二十八部衆<br>立像         | 美術<br>工芸品 | 彫刻修復   | 3,702,300  | 0    | 1,230,000  | 2,472,300  |
| 建造物保存修理   | 大聖寺        | 旧渡部家住宅                | 建造物       | 建造物修理  | 7,912,870  | 0    | 2,630,000  | 5,282,870  |
| 記念物保存修理   | 大聖寺        | 大聖寺の<br>アカガシ樹群        | 天然<br>記念物 | 指定地内整備 | 1,168,184  | 0    | 380,000    | 788,184    |
| 建造物保存修理   | 高蔵寺        | 高蔵寺三重塔                | 建造物       | 建造物修理  | 24,057,000 | 0    | 8,000,000  | 16,057,000 |
| 計         | 11件        |                       |           |        | 78,075,923 | 0    | 23,390,000 | 54,685,923 |

### 3 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

台風19号等により被災した国指定文化財の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

| 事業区分             | 補助事業者 | 名称     | 種別  | 事業内容   | 金額（単位：円）   |            |            |            |
|------------------|-------|--------|-----|--------|------------|------------|------------|------------|
|                  |       |        |     |        | 事業費        | 国庫補助       | 県費補助       | その他        |
| 災害復旧<br>(R3負担行為) | 如宝寺   | 鈴木信教墓  | 史跡  | 災害復旧工事 | 790,852    | 0          | 260,000    | 530,852    |
| 災害復旧<br>(R2事故繰越) | 白河市   | 白川城跡   | 史跡  | 災害復旧工事 | 36,938,414 | 25,780,000 | 5,524,000  | 5,634,414  |
| 災害復旧<br>(R3負担行為) | 南湖神社  | 松風亭蘿月庵 | 建造物 | 災害復旧工事 | 957,000    | 0          | 250,000    | 707,000    |
| 災害復旧<br>(R2明許繰越) | 相馬市   | 中村村跡   | 史跡  | 災害復旧工事 | 16,610,000 | 0          | 5,530,000  | 11,080,000 |
| 災害復旧<br>(R3負担行為) | 相馬市   | 中村村跡   | 史跡  | 災害復旧工事 | 3,487,000  | 0          | 1,160,000  | 2,327,000  |
| 計                | 5件    |        |     |        | 58,783,266 | 25,780,000 | 12,724,000 | 20,279,266 |

## 第4節 文化財の保護と公開の推進

### 1 第63回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知するとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

期 日 令和3年 10月30日 リハーサル・実行委員会  
10月31日 開会式・民俗芸能公開

場 所 三沢市公会堂（青森県青森市）

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止。

### 2 文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11月1日から11月7日までの文化財保護強調週間を中心に、チラシを配布し、県民に対し啓発を行った。

### 3 文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者・管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月26日の文化財防火デーを中心に、チラシを配布するなど啓発を行った。

また、各市町村においては、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

## 第5節 銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品としての価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

### 1 登録審査委員

佐藤安弘、阿部榮、溝井辰美、塚本剛之

### 2 登録審査会の実施状況

| 期 日   | 会 場       | 審査数 | 失格数 | 登録数 | 登録数の内訳 |     |
|-------|-----------|-----|-----|-----|--------|-----|
|       |           |     |     |     | 刀 剣    | 銃 砲 |
| 5月20日 | いわき合同庁舎   | 14  | 0   | 14  | 14     | 0   |
| 7月16日 | 郡山市労働福祉会館 | 21  | 3   | 18  | 15     | 3   |
| 9月10日 | 会津若松合同庁舎  | 37  | 2   | 35  | 35     | 0   |
| 12月1日 | あづま荘      | 33  | 2   | 31  | 31     | 0   |
| 2月15日 | 郡山市労働福祉会館 | 50  | 1   | 49  | 48     | 1   |
| 計     |           | 155 | 8   | 147 | 143    | 4   |

※ 再交付に係る審査を除く。

### 3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況

| 区 分   | 銃 砲 等 | 刀 剣 類 |
|-------|-------|-------|
| 譲 受 け | 13    | 672   |
| 相 続   | 1     | 68    |
| 貸 付   | 1     | 0     |
| 保管の委託 | 1     | 7     |
| 計     | 16    | 747   |

## 第6節 福島県文化財センター白河館の運営状況

### 1 入館者数

令和3年度の入館者は10,831人であり、前年度の入館者(11,249人)に比べ418人減少した。団体利用は、前年度に比べ458名増加した。平成13年7月の開館からの延べ入館者数は、586,836人となった。

(令和4年3月31日現在)

| 月   | 入館者数(人) | 1日平均入館者数(人) |
|-----|---------|-------------|
| 4月  | 704     | 28          |
| 5月  | 1,180   | 45          |
| 6月  | 1,172   | 45          |
| 7月  | 862     | 32          |
| 8月  | 1,082   | 42          |
| 9月  | 805     | 31          |
| 10月 | 951     | 35          |
| 11月 | 1,307   | 54          |
| 12月 | 708     | 31          |
| 1月  | 506     | 22          |
| 2月  | 693     | 30          |
| 3月  | 861     | 32          |
| 計   | 10,831  | 36          |

### 2 入館者の内訳と傾向

地域別利用状況 県内者 87.0% (うち総入館者数に占める白河市の割合 44.1%)

県外者 13.0%

年齢層別利用状況 入館者全体のうち、児童生徒(高校生以下)が26.6%、団体入館者が11.0%を占める。

### 3 団体利用者の内訳と傾向

(単位 人) (令和4年3月31日現在)

|                       |      | 4月 | 5月 | 6月  | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月  | 3月 | 計   |
|-----------------------|------|----|----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|
| 幼稚園・保育園               | 団体数  | 1  | 2  |     |    |    | 1  |     |     |     | 1  |     | 2  | 7   |
|                       | 入館者数 | 12 | 13 |     |    |    | 17 |     |     |     | 9  |     | 31 | 82  |
| 小学校                   | 団体数  | 1  |    | 11  | 2  | 1  | 3  |     | 2   | 1   |    | 3   |    | 24  |
|                       | 入館者数 | 18 |    | 323 | 41 | 13 | 76 |     | 103 | 46  |    | 124 |    | 744 |
| 中学校                   | 団体数  |    |    |     |    |    |    | 1   |     |     |    |     |    | 1   |
|                       | 入館者数 |    |    |     |    |    |    | 39  |     |     |    |     |    | 39  |
| 高等学校                  | 団体数  |    | 1  |     |    |    |    | 1   |     |     |    |     |    | 2   |
|                       | 入館者数 |    | 22 |     |    |    |    | 28  |     |     |    |     |    | 50  |
| 支援学校                  | 団体数  |    |    | 1   |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 1   |
|                       | 入館者数 |    |    | 23  |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 23  |
| 大学                    | 団体数  |    | 1  |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 1   |
|                       | 入館者数 |    | 19 |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 19  |
| 幼小中高PTA<br>(保護者のみ)    | 団体数  |    |    |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 0   |
|                       | 入館者数 |    |    |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 0   |
| 幼小中高PTA<br>(保護者と児童生徒) | 団体数  |    |    |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 0   |
|                       | 入館者数 |    |    |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 0   |
| 研究会                   | 団体数  |    |    |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 0   |
|                       | 入館者数 |    |    |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 0   |
| 子ども会                  | 団体数  |    |    |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 0   |
|                       | 入館者数 |    |    |     |    |    |    |     |     |     |    |     |    | 0   |
| 公民館等                  | 団体数  |    | 1  |     | 1  | 2  |    |     | 3   |     |    |     |    | 7   |
|                       | 入館者数 |    | 9  |     | 22 | 24 |    |     | 67  |     |    |     |    | 122 |

|                         |      | 4月   | 5月   | 6月    | 7月   | 8月   | 9月    | 10月  | 11月   | 12月  | 1月   | 2月    | 3月   | 計     |
|-------------------------|------|------|------|-------|------|------|-------|------|-------|------|------|-------|------|-------|
| 福祉施設・<br>デイケアサービス       | 団体数  | 1    |      |       | 1    | 1    |       | 1    |       |      |      |       |      | 4     |
|                         | 入館者数 | 7    |      |       | 8    | 13   |       | 18   |       |      |      |       |      | 46    |
| 資料館等                    | 団体数  |      |      |       |      |      |       |      |       |      |      |       |      | 0     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |      |      |       |      |       |      |      |       |      | 0     |
| 歴史研究団体                  | 団体数  |      |      |       |      |      |       | 1    |       |      |      |       |      | 1     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |      |      |       | 7    |       |      |      |       |      | 7     |
| 県・市町村・<br>教委・審議会等       | 団体数  |      |      | 2     |      |      |       |      |       |      |      |       | 1    | 3     |
|                         | 入館者数 |      |      | 19    |      |      |       |      |       |      |      |       | 8    | 27    |
| その他                     | 団体数  |      |      |       |      |      |       |      | 2     |      |      |       |      | 2     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |      |      |       |      | 34    |      |      |       |      | 34    |
| 計                       | 団体数  | 3    | 5    | 14    | 4    | 4    | 4     | 4    | 7     | 1    | 1    | 3     | 3    | 53    |
|                         | 入館者数 | 37   | 63   | 365   | 71   | 50   | 93    | 92   | 204   | 46   | 9    | 124   | 39   | 1,193 |
| 総入館者に占める<br>団体入館者の割合(%) |      | 5.26 | 5.34 | 31.14 | 8.24 | 4.62 | 11.55 | 9.67 | 15.61 | 6.50 | 1.78 | 17.89 | 4.53 | 11.01 |

#### 4 情報発信事業の利用者

ホームページアクセス件数 35,272 件

(令和4年3月31日現在)

(文化財データベースのほか、福島県文化財センター白河館の行事予定等をホームページで紹介している。)

#### 5 資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品等 57,272 箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理している。写真掲載・転載の申し込み 22 件、出土品借受の申し込み 11 件、収蔵庫保管品の館内閲覧 16 件であった。

#### 6 研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、文化財保護指導者、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

| 区分           | 研修対象                           | 研修内容                                                   |
|--------------|--------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 基礎研修<br>(2回) | 市町村職員<br>等                     | 市町村が直面する課題や先行実践例の検証などを通して、文化財保護法改定後の文化財保護行政のあり方を議論する。  |
| 専門研修<br>(2回) | 市町村職員、<br>市町村文化<br>財保護指導<br>者等 | 市町村文化財保護行政の実践例を現地で検証し、埋蔵文化財調査における脆弱遺物の取り扱い方法について学習を行う。 |
| 特別研修<br>(8回) | 市町村職員<br>等                     | 市町村の要望に応じて館内外において随時実施。                                 |

参加者：合計 238 名

#### 令和3年度研修実施状況

(令和4年3月31日現在)

##### ・基礎研修(2回)

「文化財保護行政実務者研修」 7月8日 参加者 7名  
「文化財活用研修」(オンライン開催) 8月16日 参加者 27名

##### ・専門研修(2回)

「文化財保護指導者研修会」10月21日～22日 参加者延べ95名  
「脆弱遺物の取り扱い」 1月20日 参加者 4名

##### ・特別研修(8回)

「古殿町文化財保護審議委員に係る研修」 6月2日 参加者 10名  
「浅川町体験学習指導員研修」 7月10日 参加者 1名  
「石川町立歴史民俗資料館移転整備に係る指導」 8月6日 参加者 4名  
「喜多市藤権現遺跡出土品に関わる指導」 9月28日 参加者 6名  
「福島県小学校教育研究協議会社会科研究部会郡山地区大会」 10月5日 参加者 71名  
「伊達市被災資料保全のための指導」12月17日 参加者 3名  
「郡山市指定文化財保存に関する指導」12月21日 参加者 4名  
「大熊町社会教育複合施設整備等に係る指導」 2月16日 参加者 6名

## 7 体験学習事業の状況

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室を設けている。また野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代の家、前方後円墳、奈良時代の家、奈良時代の倉庫、製鉄炉、室町時代の館を復元展示している。

### (1) いつでもできる体験学習

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体に体験学習を希望する場合を対象とするものを用意している。内容は、「勾玉づくり」「火おこしに挑戦」のほか、月替わりの期間限定メニューを用意している。

#### 常時体験型体験活動状況 (令和4年3月31日現在)

| 月   | 来館者数(人) | 体験者数(人) | 割合(%) |
|-----|---------|---------|-------|
| 4月  | 704     | 91      | 12.9  |
| 5月  | 1,180   | 238     | 20.2  |
| 6月  | 1,172   | 128     | 10.9  |
| 7月  | 862     | 181     | 21.0  |
| 8月  | 1,082   | 258     | 23.8  |
| 9月  | 805     | 110     | 13.7  |
| 10月 | 951     | 172     | 18.1  |
| 11月 | 1,307   | 165     | 12.6  |
| 12月 | 708     | 131     | 18.5  |
| 1月  | 506     | 165     | 32.6  |
| 2月  | 693     | 147     | 21.2  |
| 3月  | 861     | 140     | 16.3  |
| 計   | 10,831  | 1,926   | 17.8  |

※ 体験者数は1人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

### (2) 募集型体験学習

事前に参加者を募集して土器づくり、ガラスづくりなどの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間で実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

#### ・まほろん森の塾

- 第1回 「入塾式ほか」 6月20日 参加者8名
- 第2回 「縄文土器づくり」 8月1日 参加者8名
- 第3回 「土器野焼き・植物観察ほか」 9月19日 参加者8名
- 第4回 「20周年記念式典・記念企画展開幕式」  
10月16日 参加者7名
- 第5回 「修了式・火おこし・土器使用体験ほか」  
11月21日 参加者8名

#### ・実技講座

- 「大堀相馬焼に挑戦①印花づくり」 8月8日 参加者12名
- 「大堀相馬焼に挑戦②皿づくり成形」 8月29日 参加者12名
- 「土偶づくり」 10月3日 参加者8名
- 「土器づくり初級編」 10月31日 参加者8名

- 「土器づくり上級編①土器づくり」 12月11日 参加者8名
- 「土器づくり上級編②成形・施文」 12月12日 参加者8名
- 「土器づくり上級編③ミガキ調整」

12月14日～16日 参加者延べ12名

- 「実験講座ガラスづくり①坩堝づくり」 2月13日 参加者3名
- 「実験講座ガラスづくり②操業実験」 2月20日 参加者3名
- 「縄文土器づくり上級編④野焼き」 荒天のため中止

#### ・実技講座 (web 配信)

「おうちでできる土器づくり」

4月24日～7月25日 参加者延べ12名

### (3) 館外体験学習

#### ア おでかけまほろん

福島県文化財センター白河館から、小中学校等教育機関等へ職員が出向き、収蔵資料等を活用した学習や体験学習を教職員と協働で行うプログラム。令和3年度は15カ所で実施し、参加者数は合計287名であった。

- 第1回 福島県立たむら支援学校 5月13日 参加者10名  
高等部 (石崎校舎)
- 第2回 二本松市立川崎小学校 5月27日 参加者21名
- 第3回 飯館村立いいたて希望の 6月16日 参加者5名  
里学園 前期課程
- 第4回 喜多方市立駒形小学校 6月23日 参加者13名
- 第5回 南相馬市立石神小学校 7月8日 参加者44名
- 第6回 南会津町立松沢小学校 7月14日 参加者9名
- 第7回 福島県立会津支援学校 9月1日 参加者3名  
竹田校 (オンライン開催)
- 第8回 桑折中央公民館こおり 9月26日 参加者15名  
キッズスクール
- 第9回 大玉村公民館 10月23日 参加者25名
- 第10回 いわき市立長倉小学校 10月28日 参加者22名
- 第11回 会津美里町宮川生涯学習 11月6日 参加者11名  
センター
- 第12回 塙町公民館はなわ探検隊 11月14日 参加者38名
- 第13回 福島県立あぶくま支援 12月1日 参加者24名  
学校中等部
- 第14回 福島大学附属特別支援学校 12月8日 参加者30名
- 第15回 福島県立西郷支援学校 1月20日 参加者17名  
高等部

#### イ 生涯学習行事への出展

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントへの出展・体験学習プログラムの実施を中止した。

## 8 講演会・講習会

文化財に親しみ、文化財への理解を深めるために、講演会や講座を開催した。

### (1) 館長講演会

4回開催

- 第1回「人類史と酒」 7月31日 聴講者 22名
- 第2回「日本人てどんな人たちー外国人から見た過去の日本ー」  
9月18日 聴講者 17名
- 第3回「『縄文』が世界遺産になった！」  
12月18日 聴講者 23名
- 第4回「考古ニュースを解説する」 2月26日 聴講者 18名

### (2) 文化財講演会等

6回開催

- 縄文時代講座1「法正尻遺跡の特質」  
5月15日 参加者 19名
- 縄文時代講座2「福島県出土の硬玉製大珠」・「法正尻遺跡の外來系土器」  
6月6日 参加者 19名
- 文化財科学講座1 シンポジウム「鉄の道をたどる」  
8月21日・22日 参加者延べ35名
- 文化財科学講座2「文化財科学最前線」  
9月5日 中止
- 縄文時代講座3「複式炉を考える」  
10月23日 参加者 23名
- 縄文時代セミナー「縄文集落と葬制の画期」  
11月13日・14日 参加者延べ45名
- まほろん20周年記念講演会  
「まほろんの20年とこれから」「文化財を読み解き未来へ伝える科学のチカラ」「白河の歴史的風土」「史実の迫り方ー縄文前期から慶長五年までー」  
3月5日 参加者 83名

## 9 常設展事業

常設展示室では、以下のコーナーを設けて、収蔵遺物や復元品を理解しやすい形で展示している。

「暮らしのうつりかわり」「暮らしをささえた道具」「A：旧みんなの研究ひろば」「B：旧話題の遺跡」「C：旧しらかわ歴史名場面」各コーナーにおいては展示替えを積極的に行い、歴史や文化財等に関する新鮮な情報を提供した。

- 暮らしのうつりかわり（昭和～縄文時代の出土品等）
- A：旧みんなの研究ひろば（磐梯町角間遺跡・天光遺跡出土品等）
- B：旧話題の遺跡（まほろん収蔵の土偶や双葉町教育委員会所蔵の双葉高校史学部の研究成果等）
- C：旧しらかわ歴史名場面（南相馬市赤柴遺跡出土品等）
- 重要文化財公開（国指定法正尻遺跡出土品）
- プロムナードギャラリー等でのミニ展示及び展示替え  
・「まほろんの逸品」（天栄村桑名邸遺跡等）

## 10 企画展事業

特別展示室では、指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。

### (1) 収蔵資料展

「法正尻遺跡展2ー縄文人の移動と交流ー」  
4月24日～6月20日 観覧者 2,216名

### (2) 特別展

「文化財をよみとく科学のチカラ」  
7月22日～9月20日 観覧者 2,053名

### (3) 指定文化財展

「法正尻遺跡展3『複式炉の時代ー縄文集落の画期ー』」  
10月16日～12月19日 観覧者 2,512名

### (4) ふくしま歴史探訪展

「戦後ふくしまの考古学ー福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行までー」  
1月22日～5月8日 観覧者 1,749名

### (5) 移動展

教育普及機関・研究機関等と連携して、移動展を実施した。

- 「ようこそ！古墳時代へ」  
4月13日～6月2日（場所：須賀川市立博物館）  
観覧者 1,164名
- 6月4日～6月30日（場所：福島県立図書館）  
観覧者11,602名
- りぶらん祭「白河市天王山遺跡が国指定史跡へ！」  
7月24日・25日（場所：白河市立図書館）  
観覧者 1,373名

## 11 ボランティア運営事業

### (1) 「まほろんボランティア」の活動状況

縄文時代の家、奈良時代の家の燻蒸  
体験学習用器材の整備など  
ボランティア連絡会（3回開催）

### (2) 登録数

個人ボランティア 32名

## 12 市町村への技術支援の状況

文化財保護に対する個別の技術支援が必要な市町村に対して、専門職員の派遣を実施する。令和3年度は、2市に対し計3回、職員を派遣した。

- ・出土遺物保存方法指導 二本松市（1回）
- ・出土品の分析 郡山市（1回）
- ・土層断面剥ぎ取り資料保管方法指導 郡山市（1回）

## 13 その他

### (1) イベントの開催

- ・「開館20周年記念式典・記念企画展開幕式」を10月16日に開催した。
- ・「移動水族館アクアラバン」11月6日・7日 参加者 440名





# 第 11 章 福利厚生

## [教職員の健康管理・福利厚生事業]

### 第 1 節 概要

(1) 教職員の健康管理については、教職員の安全確保と健康の保持増進のため、労働安全衛生法や学校保健安全法等に基づき各種事業を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策として県立学校等に教職員用マスク等保健衛生用品の配付を行った。

(2) 保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施するとともに、教職員人間ドック等をはじめとする健診事業を県、市町村、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会等が連携を図りながら実施した。教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成事業等を実施した。

また、ふくしま教職員こころのケア事業等をはじめとする各種相談事業やストレスチェック事業を実施し、メンタルヘルス対策の充実を図った。なお、教職員の心身の健康づくりを支援するため例年実施していた各種セミナー事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部のセミナーを中止したが、オンデマンド配信を導入するなど、工夫して開催した。

主な事業と実績は、以下のとおりである。

### 第 2 節 事業実績

#### 1 教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、各種健康診断、ストレスチェック事業等を実施した。

##### (1) 雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

###### ア 健康診断実施状況

| 受診者   | 異常なし |       | 要注意者 |       | 要精密検査者 |       | 治療中 |      |
|-------|------|-------|------|-------|--------|-------|-----|------|
|       | 人数   | 割合    | 人数   | 割合    | 人数     | 割合    | 人数  | 割合   |
| 108 人 | 32 人 | 29.6% | 45 人 | 41.7% | 25 人   | 23.1% | 6 人 | 5.6% |

イ 検査項目ごとの状況 (人)

| 検査項目   | 聴力   | 血圧   | 血液   | 脂質   | 肝機能  | 血糖   | 尿    | 心電図  | 胸部   |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 受診者    | 107  | 108  | 108  | 108  | 108  | 103  | 107  | 108  | 108  |
| 異常なし   | 107  | 94   | 80   | 78   | 89   | 93   | 98   | 95   | 106  |
| 要注意者   | 0    | 9    | 24   | 20   | 11   | 10   | 0    | 13   | 2    |
| 要精密検査者 | 0    | 3    | 3    | 8    | 8    | 0    | 9    | 0    | 0    |
| 治療中    | 0    | 2    | 1    | 2    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    |
| 要精密検査率 | 0.0% | 2.8% | 2.8% | 7.4% | 7.4% | 0.0% | 8.4% | 0.0% | 0.0% |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

##### (2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

###### ア 健康診断実施状況

| 区分     |    | 受診者   | 異常なし | 要注意者  | 要精密検査者 | 治療中   |
|--------|----|-------|------|-------|--------|-------|
| 35 歳以上 | 男性 | 3,119 | 78   | 690   | 1,106  | 1,245 |
|        | 女性 | 2,256 | 178  | 723   | 830    | 525   |
|        | 計  | 5,375 | 256  | 1,413 | 1,936  | 1,770 |
| 35 歳未満 | 男性 | 623   | 122  | 267   | 183    | 51    |
|        | 女性 | 623   | 241  | 194   | 150    | 38    |
|        | 計  | 1,246 | 363  | 461   | 333    | 89    |
| 合計     | 男性 | 3,742 | 200  | 957   | 1,289  | 1,296 |
|        | 女性 | 2,879 | 419  | 917   | 980    | 563   |
|        | 計  | 6,621 | 619  | 1,874 | 2,269  | 1,859 |

イ 検査項目ごとの状況

(人)

| 検査項目   | 聴力    |       | 血圧    |       | 血液一般  |       | 血中脂質  |       | 肝機能   |       | 腎機能   |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 |
| 受診者    | 1,241 | 5,358 | 1,246 | 5,368 | 1,246 | 5,362 | 1,246 | 5,362 | 1,246 | 5,362 | 1,245 | 5,088 |
| 異常なし   | 1,230 | 4,930 | 1,072 | 3,284 | 1,023 | 4,268 | 768   | 2,119 | 984   | 3,267 | 1,087 | 4,225 |
| 要注意者   | 0     | 89    | 112   | 700   | 174   | 785   | 256   | 1,433 | 150   | 1,442 | 100   | 622   |
| 要精密検査者 | 11    | 335   | 36    | 398   | 36    | 217   | 168   | 874   | 103   | 573   | 58    | 196   |
| 治療中    | 0     | 4     | 26    | 986   | 13    | 92    | 54    | 936   | 9     | 80    | 0     | 45    |
| 要精密検査率 | 0.9%  | 6.3%  | 2.9%  | 7.4%  | 2.9%  | 4.0%  | 13.5% | 16.3% | 8.3%  | 10.7% | 4.7%  | 3.9%  |

| 検査項目   | 血糖    |       | 尿     |       | 心電図   |       | 胃エックス線 |       | 大腸がん  |       | 眼底    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満  | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 |
| 受診者    | 1,200 | 5,367 | 1,231 | 5,343 | 1,242 | 5,340 | /      | 3,824 | /     | 5,063 | /     | 5,281 |
| 異常なし   | 1,073 | 2,985 | 1,159 | 4,632 | 1,063 | 4,452 |        | 2,497 |       | 4,818 |       | 4,604 |
| 要注意者   | 120   | 1,933 | 0     | 325   | 155   | 700   |        | 1,045 |       | 3     |       | 57    |
| 要精密検査者 | 7     | 115   | 72    | 372   | 24    | 175   |        | 266   |       | 239   |       | 551   |
| 治療中    | 0     | 334   | 0     | 14    | 0     | 13    |        | 16    |       | 3     |       | 69    |
| 要精密検査率 | 0.6%  | 2.1%  | 5.8%  | 7.0%  | 1.9%  | 3.3%  |        | 7.0%  |       | 4.7%  |       | 10.4% |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

| 受診者    | 異常なし   | 要注意者 | 要精密検査者 | 治療中 | 要精密検査率 |
|--------|--------|------|--------|-----|--------|
| 6,394人 | 6,027人 | 292人 | 71人    | 4人  | 1.1%   |

(4) 教職員ストレスチェック事業（県）

教育庁及び県立学校等教職員

（令和3年7～11月実施）

検査を受けた職員数、率 6,733人、97.7%

(5) 情報機器作業従事教職員健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者数 5,742人

(6) 警戒区域等で業務に従事した職員の健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者延べ人数 1,412人

(7) 学校保健特別対策事業（県）

県立学校等教職員に対し新型コロナウイルス感染症対策用のマスク等保健衛生用品の配付を行った。

配付学校数 109校

配付衛生用品

|                  |          |
|------------------|----------|
| サージカルマスク         | 966,400枚 |
| 手指消毒液（200）       | 17,440ℓ  |
| 清拭用消毒液（1.5ℓ）     | 4,360本   |
| 消毒用手袋（使捨）100枚/1箱 | 3,706箱   |
| ペーパータオル200枚/1箱   | 9,592箱   |

## 2 保健事業

### (1) 特定健康診査等（共済組合）

令和3年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

| 対象者数<br>A | 受診者数<br>B | 受診率   | 保健指導<br>対象者 |
|-----------|-----------|-------|-------------|
|           |           | B/A   |             |
| 17,781人   | 15,456人   | 86.9% | 2,461人      |

### (2) 人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

ア 教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和3年4月1日現在、満35・38・40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む。）を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 6,761人    | 5,406人    | 5,313人    | 80.0% | 78.6% | 98.3% | 2.6% | 31.1% | 38.4% | 28.0% |

イ 配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

令和3年4月1日現在、満35歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

| 申込者数<br>A | 受診者数<br>B | 受診率   | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           | B/A   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 330人      | 256人      | 77.6% | 3.9% | 28.9% | 41.0% | 26.2% |

ウ 定年退職予定者人間ドック（互助会）

令和3年4月1日現在、満59歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 755人      | 501人      | 489人      | 66.4% | 64.8% | 97.6% | 1.4% | 25.2% | 30.1% | 43.4% |

### (3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）

令和3年4月1日現在、満35歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率  | 受診率  |       | 検診結果  |       |       |      |
|-----------|-----------|-----------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|
|           |           |           | B/A  | C/A  | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検   | 治療中  |
| 10,723人   | 785人      | 703人      | 7.3% | 6.6% | 89.6% | 60.0% | 28.9% | 10.7% | 0.4% |

### (4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和3年4月1日現在、満20歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 8,446人    | 4,037人    | 3,866人    | 47.8% | 45.8% | 95.8% | 78.6% | 13.2% | 7.4% | 0.8% |

### (5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和3年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |       |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検   | 治療中  |
| 6,038人    | 944人      | 916人      | 15.6% | 15.2% | 97.0% | 46.7% | 35.6% | 16.7% | 1.0% |

### (6) 脳検診（共済組合・互助会）

令和3年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 6,038人    | 1,762人    | 1,703人    | 29.2% | 28.2% | 96.7% | 78.3% | 16.3% | 5.0% | 0.4% |

**(7) 肺がん検診（共済組合・互助会）**

令和3年4月1日現在、満40歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

| 対象者数    | 申込者数   | 受診者数   | 受診率   |       |       | 検診結果  |       |      |      |
|---------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
|         |        |        | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| A       | B      | C      |       |       |       |       |       |      |      |
| 14,371人 | 1,509人 | 1,461人 | 10.5% | 10.2% | 96.8% | 54.2% | 36.8% | 8.4% | 0.6% |

**(8) 胃がん検診（共済組合・互助会）**

令和3年4月1日現在、満30・33歳の教職員を対象に胃がん検診を実施した。

| 対象者数 | 申込者数 | 受診者数 | 受診率   |       |       | 検診結果  |       |      |     |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-----|
|      |      |      | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中 |
| A    | B    | C    |       |       |       |       |       |      |     |
| 665人 | 112人 | 99人  | 16.8% | 14.9% | 88.4% | 86.3% | 10.5% | 3.2% | 0%  |

**3 厚生事業**

**(1) 厚生事業**

ア 管理監督者メンタルヘルス研修会（県、共済組合）

管理監督者に対し、メンタルヘルスケアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、研修会を実施した。

|      |                      |                      |
|------|----------------------|----------------------|
| 日程   | 令和3年6月16日<br>(計1回)   | 令和3年9月13日<br>～12月31日 |
| 会場   | 相双                   | オンデマンド               |
| 講師   | 東北中央病院 主任臨床心理士 古澤 あや |                      |
| 受講者数 | 計56人                 | 視聴者数 781人            |

イ 在宅介護講座（共済組合）

組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の介護講座を実施した。

|      |                          |  |
|------|--------------------------|--|
| 日程   | 令和3年7月30日、8月4日、8月5日（計3回） |  |
| 会場   | 福島県男女共生センター              |  |
| 講師   | （一社）福島県介護福祉士会            |  |
| 受講者数 | 計36人                     |  |

ウ リラックスセミナー（共済組合）

組合員の心身の健康づくりを支援するため、アロマセラピーに関する講演やアロマ実習を行うセミナーを実施した。

|      |              |  |
|------|--------------|--|
| 日程   | 令和3年7月29日    |  |
| 会場   | 飯坂保養所 あづま荘   |  |
| 講師   | エフハート 小林 香代子 |  |
| 受講者数 | 45人          |  |

エ 体質改善セミナー（共済組合）

組合員を対象に、生活習慣病の知識と予防法等に関する講話や運動指導を行うセミナーを実施した。

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 日程   | 令和3年7月26日            |  |
| 会場   | 南東北総合卸売センター          |  |
| 講師   | （株）ハートエンタープライズ 渡邊 彰宏 |  |
| 受講者数 | 30人                  |  |

オ ライフプラン講座（共済組合、互助会）

教職員一人一人が、生涯にわたり健やかで充実したゆとりある生活を送れるよう、退職後の生活を視野に入れた生涯生活設計づくりと、その実現を支援する講座をオンデマンド形式で実施した。

|      |                                   |  |
|------|-----------------------------------|--|
| 日程   | 令和3年7月26日～8月13日                   |  |
| 会場   | オンデマンド                            |  |
| 講師   | （株）FPコンサルティング                     |  |
| 受講者数 | 若年層コース59人、資産運用コース159人、退職準備コース314人 |  |

カ 保育補助（共済組合）

令和3年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児1人につき1セット交付した。

| 区分   | 内容                               | 交付件数 |
|------|----------------------------------|------|
| Aセット | 電子レンジで除菌セット<br>電動鼻吸い器<br>お風呂用湯温計 | 56件  |
| Bセット | ベビー食器セット（14点セット）<br>ベビーマグセット     | 64件  |
| Cセット | 出産お祝いカタログギフト                     | 264件 |
| 計    |                                  | 384件 |

キ 教職員健康相談事業（共済組合）

（こころとからだの健康相談）

健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられるよう、17医療機関に相談業務を委託し実施した。

延べ利用件数 8件

ク 教職員相談事業（県）

専任の相談員を配置し、教職員の各種相談に応じた。

延べ相談件数 374件

ケ メンタルヘルスサポート事業（共済組合）

日常のストレスや生活習慣をインターネットでセルフチェックできる機会を提供した。

アクセス数 13,804件

コ ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合）

東日本大震災を受けて、日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに相談できる機会を提供するため、8カウンセリング機関に業務を委託し実施した。

カウンセリング延べ利用件数 395件

講師派遣利用件数 4件

グループカウンセリングコース・

ピアカウンセリングコース利用件数 1件

サ 保養所等利用助成（共済組合）

組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した場合、利用料金の一部を助成した。

○ あづま荘利用助成

| 区分               | 助成対象                            | 助成内容                                    | 助成件数          |
|------------------|---------------------------------|-----------------------------------------|---------------|
| 宿泊利用助成           | 組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖母が宿泊したとき     | 1人1泊1食まで<br>2,000円<br>1人1泊2食<br>3,000円等 | 7,112件        |
| 平日宿泊特別割引利用助成     | 組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖母が宿泊したとき     | 1人1泊2食<br>大人500円<br>子供300円              | 1,453件<br>70件 |
| あづま荘応援宿泊特別割引利用助成 | 組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖母が宿泊したとき     | 1人1泊2食<br>2,000円                        | 589件          |
| 退職者宿泊特別割引利用助成    | 退職予定の組合員が宿泊したとき                 | 1人1泊2食<br>2,000円                        | 34件           |
| 会議室利用助成          | 組合員が開催する諸会議                     | 会議室料金の2分の1の額                            | 31件           |
| 会食利用助成           | 組合員が5名以上で、かつ1人5,000円以上の会食を行ったとき | 1人<br>1,000円                            | 0件            |
| 法要利用助成           | 組合員及び直系親族が法要を行うとき               | 利用額の30%<br>(上限70,000円)                  | 0件            |

○ 他支部保養所等利用助成

県内1、県外5の指定宿泊施設利用に対し、1人1泊1,500円、計691件の助成を行った。

シ 指定旅館等利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（24施設）、県外（9施設）の宿泊施設等を指定し、会員が利用したとき、利用料金の一部を助成した。

| 区分         | 助成件数   | 金額       |
|------------|--------|----------|
| 宿泊利用助成     | 7,228件 | 20,230千円 |
| 会食利用助成     | 0件     | 0千円      |
| アクアマリン利用助成 | 234件   | 206千円    |
| 計          | 7,462件 | 20,436千円 |

ス 弔慰供花（共済組合）

在職中に亡くなった組合員の霊前に供花を行い、哀悼の意を表した。

供花件数 8件

セ 法律相談（共済組合）

組合員が抱える民事問題を早期解決に導くため法律相談を実施した。

相談件数 5件

ソ 災害対策事業（共済組合）

災害救助法が適用された地域内で被災（地域外で同一の事由での被災を含む。）し、短期給付の災害見舞金の給付該当会員に見舞金を支給した。

給付件数 46件

タ リフレッシュ助成（互助会）

勤続10年及び20年の節目に心身のリフレッシュを図るための助成（旅行券又は宿泊施設利用券）を実施した。

実施件数 418件

チ 永年勤続リフレッシュ助成（互助会）

永年勤続表彰会員及び20年以上30年未満勤続し退職した会員等に対し、助成品（旅行券、宿泊施設利用券、図書券又は現金）を交付した。

永年勤続表彰会員 751名  
20年以上30年未満勤続し退職した会員 11名  
勤続30年以上で表彰を受けずに退職した会員 0名

ツ 国内外旅行助成（互助会）

福島空港を利用して旅行した会員に対し、旅行代金の一部を助成した。

| 区分   | 助成件数 | 金額    |
|------|------|-------|
| 国内旅行 | 42件  | 210千円 |
| 海外旅行 | 0件   | 0千円   |
| 計    | 42件  | 210千円 |

テ 教育塔合祀遺族助成（互助会）

参加者 1名

ト 会員交流促進事業（互助会）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止。

(2) 公益事業

ア へき地等教育事業助成（互助会）

県人事委員会指定の特地以上のへき地学校及び特別支援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これらの学校に図書を贈呈した。

対象校 79校

児童生徒数 4,957人

イ 互助会文庫（互助会）

県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用 1,272冊（累計 66,740冊）

## 第3節 貸付事業

### 1 共済組合

令和3年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付けをはじめ、一般、特別、教育、災害、医療、結婚、特例住宅災害の8種類の新規貸付けを行った。

#### (1) 貸付けの状況

種類別貸付けの状況は次のとおりである。

(単位：件、千円)

| 種 類 別     | 件 数 | 金 額     | 金額割合% |
|-----------|-----|---------|-------|
| 一般貸付け     | 105 | 130,669 | 37.5  |
| 特別貸付け     | 2   | 2,700   | 0.8   |
| 住宅貸付け     | 16  | 116,512 | 33.5  |
| 教育貸付け     | 68  | 83,593  | 24.0  |
| 災害貸付け     | 1   | 1,000   | 0.3   |
| 医療貸付け     | 1   | 1,200   | 0.3   |
| 結婚貸付け     | 2   | 3,400   | 1.0   |
| 特例住宅災害貸付け | 1   | 9,000   | 2.6   |
| 計         | 196 | 348,074 | 100.0 |

## 第4節 宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯坂保養所「あづま荘」を運営しているが、令和3年度の利用状況は、次のとおりである。

| 種別    | 施設                                                                                                     | あづま荘                                                                                                                                                                                                                                              |        |         |       |       |     |      |     |     |     |     |   |          |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|-------|-------|-----|------|-----|-----|-----|-----|---|----------|
|       | 利用人員                                                                                                   | <table border="1"> <tr><td>宿 泊</td><td>9,668 人</td></tr> <tr><td>会 議</td><td>508 人</td></tr> <tr><td>宴 会</td><td>25 人</td></tr> <tr><td>婚 礼</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>休 憩</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>計</td><td>10,201 人</td></tr> </table> | 宿 泊    | 9,668 人 | 会 議   | 508 人 | 宴 会 | 25 人 | 婚 礼 | 0 人 | 休 憩 | 0 人 | 計 | 10,201 人 |
| 宿 泊   | 9,668 人                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                   |        |         |       |       |     |      |     |     |     |     |   |          |
| 会 議   | 508 人                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                   |        |         |       |       |     |      |     |     |     |     |   |          |
| 宴 会   | 25 人                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                   |        |         |       |       |     |      |     |     |     |     |   |          |
| 婚 礼   | 0 人                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                   |        |         |       |       |     |      |     |     |     |     |   |          |
| 休 憩   | 0 人                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                   |        |         |       |       |     |      |     |     |     |     |   |          |
| 計     | 10,201 人                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                   |        |         |       |       |     |      |     |     |     |     |   |          |
| 利用率   | <table border="1"> <tr><td>宿 泊</td><td>31.8 %</td></tr> <tr><td>宿 泊 外</td><td>0.2 %</td></tr> </table> | 宿 泊                                                                                                                                                                                                                                               | 31.8 % | 宿 泊 外   | 0.2 % |       |     |      |     |     |     |     |   |          |
| 宿 泊   | 31.8 %                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                   |        |         |       |       |     |      |     |     |     |     |   |          |
| 宿 泊 外 | 0.2 %                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                   |        |         |       |       |     |      |     |     |     |     |   |          |

※利用率

$$\cdot \text{宿泊} = \frac{\text{利用人数 (宿泊)}}{\text{宿泊延定員 (宿泊定員} \times \text{営業日数)}} \times 100$$

$$\cdot \text{宿泊外} = \frac{\text{利用人数 (会議・宴会・婚礼)}}{\text{宿泊外延定員 (宿泊外定員} \times \text{営業日数)}} \times 100$$

## 第5節 児童手当（特例給付を含む）

次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的とする「児童手当法」に基づき、年3回、定期支給を行った。

(単位：人、千円)

|          | 支給対象者数<br>(R4.2月期) | 支給対象児童数<br>(R4.2月期) | 支給額<br>(年間) |
|----------|--------------------|---------------------|-------------|
| 本庁・教育機関等 | 111                | 174                 | 21,780      |
| 小学校      | 1,016              | 1,654               | 219,355     |
| 中学校      | 837                | 1,351               | 177,995     |
| 高等学校     | 908                | 1,508               | 204,055     |
| 特別支援学校   | 366                | 633                 | 85,635      |
| 計        | 3,238              | 5,320               | 708,820     |

## 第6節 財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、令和3年度における契約状況は次のとおりである。

財産形成貯蓄契約状況（契約者数 6,920人）

◎貯蓄種類別契約件数（令和4年3月31日現在）

|      | 期日指定<br>定期預金 | 金銭<br>信託 | 公 社 債<br>投資信託 | 積立<br>保険 | 計     |
|------|--------------|----------|---------------|----------|-------|
| 一般貯蓄 | 6,227        | 34       | 85            | 409      | 6,755 |
| 年金貯蓄 | 1,330        | 15       | 31            | 204      | 1,580 |
| 住宅貯蓄 | 302          | 4        | 7             | 33       | 346   |
| 計    | 7,859        | 53       | 123           | 646      | 8,681 |

## [福利給付事業]

## 第7節 概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会において、組合員（会員）に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、厚生（共済）年金及び恩給の支給を行った。

なお、令和3年度の年金額は令和2年度から0.1%マイナスで改定された。

## 第8節 短期給付

### 1 共済組合

令和3年度末現在における組合員数は、現職組合員数20,813人（前年同期比67人減）、任意継続組合員372人（同37人増）の計21,185人（同30人減）である。

また、被扶養者数は、15,455人（同486人減）、組合員1人当たりの被扶養者数は、0.73人となっている。

令和3年度の共済組合短期給付の給付総額は、5,487,095千円で、前年度対比212,795千円の増加となった。

総額に占める割合は、法定給付97.49%、附加給付2.51%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

共済組合短期給付内訳表

| 法定給付     |         |           |               | 附加給付           |             |         |        |
|----------|---------|-----------|---------------|----------------|-------------|---------|--------|
| 種別       | 件数(件)   | 給付額(千円)   |               | 種別             | 件数(件)       | 給付額(千円) |        |
| 医療給付     | 本人医療費   | 189,383   | 2,092,401     | 医療給付<br>その他の給付 | 家族療養費       | 850     | 27,426 |
|          | 家族医療費   | 123,719   | 1,279,770     |                | 家族訪問看護療養費   | 4       | 14     |
|          | 高額療養費   | 3,000     | 329,239       |                | 出産費         | 303     | 15,150 |
|          | 薬剤      | 140,631   | 919,215       |                | 家族出産費       | 92      | 4,600  |
|          | 移送費     | 0         | 0             |                | 埋葬料         | 18      | 450    |
|          | 小計      | 456,733   | 4,620,625     |                | 家族埋葬料       | 7       | 175    |
| その他の給付   | 出産費     | 322       | 128,431       |                | 直営保健給付家族療養費 | 0       | 0      |
|          | 家族出産費   | 96        | 40,168        |                | 傷病手当金       | 44      | 10,058 |
|          | 埋葬料     | 18        | 900           |                | 災害見舞金       | 0       | 0      |
|          | 家族埋葬料   | 7         | 350           |                | 結婚手当金       | 0       | 0      |
|          | 傷病手当金   | 324       | 77,521        |                | 入院附加金       | 0       | 0      |
|          | 出産手当金   | 8         | 789           |                |             |         |        |
|          | 休業手当金   | 2         | 39            |                |             |         |        |
|          | 育児休業手当金 | 2,563     | 453,054       |                |             |         |        |
|          | 介護休業手当金 | 74        | 5,953         |                |             |         |        |
|          | 弔慰金     | 0         | 0             |                |             |         |        |
|          | 家族弔慰金   | 0         | 0             |                |             |         |        |
|          | 災害見舞金   | 47        | 21,695        |                |             |         |        |
|          | 小計      | 3,461     | 728,900       |                |             |         |        |
| ① 法定給付 計 | 460,194 | 5,349,525 | ② 附加給付 計      | 1,318          | 57,873      |         |        |
|          |         |           | ③ 一部負担金払戻金    | 2,882          | 79,697      |         |        |
|          |         |           | 短期給付合計(①+②+③) | 464,394        | 5,487,095   |         |        |

### 2 互助会

令和3年度末現在の互助会の会員数は、18,042人（前年同期比8人減）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次のとおりである。

#### (1) 短期給付金

| 種別           | 件数(件)  | 給付額(千円) |
|--------------|--------|---------|
| 医療補助金 (被扶養者) | 11,916 | 46,947  |
| 死亡弔慰金 (会員)   | 9      | 450     |
|              | (被扶養者) | 9       |
| 災害見舞金        | 45     | 2,350   |
| 出産見舞金 (会員)   | 225    | 11,250  |
|              | (被扶養者) | 62      |
| 計            | 12,266 | 63,207  |

#### (2) 厚生給付金

| 種別      | 件数(件)  | 給付額(千円) |
|---------|--------|---------|
| 医療給付金   | 46,592 | 172,028 |
| 死亡給付金   | 609    | 18,010  |
| 出産給付金   | 132    | 3,990   |
| 結婚祝金    | 317    | 15,850  |
| 入学祝金    | 490    | 14,700  |
| 入院療養見舞金 | 1,269  | 13,305  |
| 障害見舞金   | 68     | 3,400   |
| 育児休業給付金 | 2,047  | 30,417  |
| 介護休暇給付金 | 58     | 2,577   |
| 計       | 51,582 | 274,277 |

## 第9節 長期給付

令和3年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

### 1 恩給

#### (1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

令和3年度末現在の受給者数は29人（前年度比2人減）、令和3年度における支給総額は37,805千円（同5,232千円減）となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

| 学校種別    | 普通恩給      |             | 扶助料       |             | 退隠料       |             | 遺族扶助料     |             | 計         |             |
|---------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
|         | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) |
| 小学校     | 0         | 0           | 20        | 25,419      | 0         | 185         | 0         | 0           | 20        | 25,604      |
| 中学校     | 0         | 0           | 7         | 10,693      | 1         | 1,395       | 0         | 0           | 8         | 12,088      |
| 特別支援学校  | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 1         | 113         | 1         | 113         |
| 高等学校    | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           |
| 教育庁・その他 | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           |
| 計       | 0         | 0           | 27        | 36,112      | 1         | 1,580       | 1         | 113         | 29        | 37,805      |

イ 裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。（単位：人）

| 恩給種別  | 裁定 | 失権 | 左のうち<br>完全失権 |
|-------|----|----|--------------|
| 普通恩給  | 0  | 0  | 0            |
| 扶助料   | 0  | 1  | 1            |
| 退隠料   | 0  | 1  | 1            |
| 遺族扶助料 | 0  | 0  | 0            |
| 計     | 0  | 2  | 2            |

#### (2) 恩給の改定について

恩給は、国民年金改定率（国民年金法第27条で規定する改定率）を基準に毎年度改定し、当該年度の4月以降に適用される。

直近の改定としては、平成21年度に0.9%の引き上げがされているが、平成22年度以降は実施していない。

なお、被用者年金一元化法により、平成28年4月分以後の支払額について端数処理の方法が変更された。

### 2 退職手当

#### (1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別    | 人員（人） | 支給額（千円）    |
|---------|-------|------------|
| 教育庁・その他 | 18    | 243,252    |
| 小学校     | 557   | 8,445,939  |
| 中学校     | 328   | 5,271,223  |
| 高等学校    | 245   | 3,267,104  |
| 特別支援学校  | 76    | 836,068    |
| 計       | 1,224 | 18,063,586 |

#### (2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別    | 人員（人） | 支給額（千円） |
|---------|-------|---------|
| 教育庁・その他 | 0     | 0       |
| 小学校     | 30    | 6,131   |
| 中学校     | 20    | 2,988   |
| 高等学校    | 11    | 1,649   |
| 特別支援学校  | 4     | 818     |
| 計       | 65    | 11,586  |



### 3 年金

#### (1) 進達件数

老齢厚生（退職共済）年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

（単位：件）

| 進達<br>区分 | 旧共済法による年金 |      | 新共済法・一元化法による年金       |                          |                          |                    |                    | 計   |
|----------|-----------|------|----------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|-----|
|          | 退職年金      | 障害年金 | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金 | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金(特別) | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金(繰上) | 障害厚生<br>(共済)<br>年金 | 遺族厚生<br>(共済)<br>年金 |     |
| 決定請求     | 0         | 0    | 91                   | 225                      | 7                        | 9                  | 23                 | 355 |
| 改定請求     | 0         | 0    | 79                   | 73                       | 0                        | 0                  | 0                  | 152 |

#### (2) 支給人員及び支給額

老齢厚生（退職共済）年金等の令和3年度末現在における支給人員は29,666人で、令和3年度における支給額は、35,919,041千円である。

平成27年10月の被用者年金一元化以降は、新たに厚生年金、職域加算額の年金及び年金払い退職給付の年金が決定されることになったが、一人の者に厚生年金と職域加算額の年金など複数の年金受給権が発生することになるため、年金種別ごとの受給者数が増加している。

前年度に比較して人員で2,106人の増加、支給額で296,299千円の減少となっている。

| 年金種別       |                  | 受給者数<br>(人) | 平均年金額<br>(円)   | 支給額<br>(円)     |
|------------|------------------|-------------|----------------|----------------|
| 厚生年金       | 老齢厚生年金           | 3,636       | 1,271,460      | 4,623,028,560  |
|            | 老齢厚生年金(特別)       | 1,543       | 1,189,766      | 1,835,808,938  |
|            | 障害厚生年金           | 78          | 1,044,113      | 81,440,814     |
|            | 遺族厚生年金           | 554         | 1,195,579      | 662,350,766    |
|            | 小計               | 5,811       | —              | 7,202,629,078  |
| 年金払給付      | 終身退職年金           | 928         | 3,547          | 3,291,616      |
|            | 有期退職年金           | 829         | 5,722          | 4,743,538      |
|            | 公務障害年金           | 0           | 0              | 0              |
|            | 公務遺族年金           | 0           | 0              | 0              |
|            | 小計               | 1,757       | —              | 8,035,154      |
| 新共済年金・職域加算 | 退職共済年金(既裁定)      | 8,943       | 1,746,478      | 15,618,752,754 |
|            | 退職共済年金(職域加算額)    | 3,586       | 223,877        | 802,822,922    |
|            | 退職共済年金(特別・職域加算額) | 1,523       | 216,276        | 329,388,348    |
|            | 退職共済年金(追加費用)     | 0           | 0              | 0              |
|            | 障害共済年金(既裁定)      | 271         | 1,142,440      | 309,601,240    |
|            | 障害共済年金(職域加算額)    | 53          | 175,731        | 9,313,743      |
|            | 遺族共済年金(既裁定)      | 3,363       | 1,668,665      | 5,611,720,395  |
|            | 遺族共済年金(職域加算額)    | 1,572       | 141,424        | 222,318,528    |
|            | 遺族共済年金(追加費用)     | 1,021       | 1,680,785      | 1,716,081,485  |
| 小計         | 20,332           | —           | 24,619,999,415 |                |
| 旧共済年金      | 退職年金             | 1,296       | 2,618,734      | 3,393,879,264  |
|            | 減額退職年金           | 120         | 1,985,558      | 238,266,960    |
|            | 通算退職年金           | 7           | 577,219        | 4,040,533      |
|            | 障害年金             | 34          | 2,027,487      | 68,934,558     |
|            | 遺族年金             | 308         | 1,243,895      | 383,119,660    |
|            | 通算遺族年金           | 1           | 136,781        | 136,781        |
|            | 小計               | 1,766       | —              | 4,088,377,756  |
| 合計         | 29,666           | —           | 35,919,041,403 |                |

- ※ 支給額は平均年金額に受給者数を乗じた額である。
- ※ 受給者数について、1人の者に厚生年金及び職域加算額が裁定された場合はそれぞれ1件の年金受給権が発生するものとして合計している。
- ※ 既裁定とは一元化前に裁定された共済年金であり、職域加算とは一元化後に裁定された厚生年金等の旧職域部分の年金である。
- ※ 追加費用とは一元化後に受給権が発生した共済年金であり、厚生年金保険法が適用される。

### (3) 年金額の改定

年金額の改定は、名目手取り賃金変動率がマイナスで、名目手取り賃金変動率が物価変動率を下回る場合、年金を受給し始める際の年金額（新規裁定年金）、受給中の年金額（既裁定年金）ともに名目手取り賃金変動率を用いることが法律により定められている。

令和3年度年金額は、新規裁定年金・既裁定年金ともに、名目手取り賃金変動率（ $\Delta 0.1\%$ ）によって改定された。

また、賃金や物価による改定率がマイナスの場合には、マクロ経済スライドによる調整は行わないこととされているため、令和3年度の年金額改定においては、マクロ経済スライドによる調整は行われなかった。

なお、マクロ経済スライドの未調整分（ $\Delta 0.1\%$ ）は翌年度以降に繰り越された。

# 第12章 福島県教育センター

## 第1節 概要

教育センターは、本県の教育に関する研究と研修を担う機関である。具体的には教育全般にわたる専門的・技術的事項の調査と研究、基本研修、職能研修、専門研修からなる教員の研修、教育相談及び教育図書・資料の作成・収集・提供等、本県の学校教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

なお、事業概要は、次のとおりである。

### 1 調査・研究事業

教育センターの使命と役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとしての期待にこたえとともに、本県の教育推進上の課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の諸課題の解決に役立つ先導的、実証的な調査・研究を進めてきた。

#### (1) 調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。さらに、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

#### (2) 研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、調査・研究のためのチームを組織し、また、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。また、調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそれぞれ共同研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センターWebサイト」、「研究紀要」、「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、令和3年11月25日（木）に実施した「福島県教育研究発表会」（オンライン開催）においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

### 2 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「令和3年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

基本研修、職能研修（職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ）、専門研

修について、令和3年度の実績は次のとおりである。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、一部の講座は実施することができなかったが、講座数及び講座実施数、講座研修者数とも前年比で増加した。

|        |                    |
|--------|--------------------|
| 講座数    | 74講座               |
| 講座実施数  | 146回               |
| 講座研修者数 | 5,033人（延べ人数）       |
| 講座開設期間 | 令和3年4月5日～令和4年2月10日 |

前年度比

|        |     |
|--------|-----|
| 講座数    | 7増  |
| 講座実施数  | 9増  |
| 講座研修者数 | 66増 |

### 3 情報教育事業

情報教育事業では、学習指導要領に対応した研修の充実を図り、「教科指導におけるICT活用」、「児童生徒の情報活用能力の育成」、「校務の情報化」を3つの柱とした「教育の情報化」の推進に向けて取り組んだ。

専門研修では、「校務処理に生かす表計算活用講座」や「授業力向上のためのICT活用基礎講座」、「グループウェアで活用するG Suite実践講座」、「ワークショップで学ぶ情報モラル教育講座」を行った。また、基本研修での講義等を通して、「情報モラル教育」及び「教科指導におけるICT活用」の研修の充実を図った。さらに、職能研修では「教育の情報化」の講義を行い、教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう努めた。

### 4 教育相談事業

教育相談事業では、児童生徒の教育上の諸課題について来所及び電話で相談を受け、課題の改善・解決を目指した。

主訴別では、来所相談は不登校傾向に関するもの、電話相談は学校への不満、不登校、進路に関するものが多かった。また、上記の相談として、新型コロナウイルス感染症に起因するものも少なくなかったが、前年度比では減少傾向である。

これらの相談については、相談者の話をよく聞き、思いを受け止めるとともに、今後の対応を一緒に考えたり、身近な相談機関を紹介したりした。

また、来所相談では、精神保健指定医や心理判定員などを活用し、効果的で具体的な支援を行った。

### 5 教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努め、データベース化して教育センターWebサイトに掲載し、図書検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸出し等のサービスを行い、教職員の研修・研究活動を援助した。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第181号、182号及び「研究紀要」第51集を発行した。

## 第2節 調査・研究事業

### 1 調査・研究

令和3年度は、教育センターにおける実施要項に基づき、教育庁より承認を得た調査研究課題について、調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームで取り組んだ。

#### (1) 調査研究チームによる研究

小・中学校におけるカリキュラム・マネジメント推進に関する研究（第二年次）－研究協力校におけるカリキュラム・マネジメントの支援－

新学習指導要領においては、子どもたちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示された。そのため、学習指導要領の枠組みが見直され、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と、各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現が求められている。また、「カリキュラム・マネジメント」の3つの側面として、①教科横断的な視点、②PDCAサイクルの確立、③人的・物的資源等の活用が挙げられている。各学校においては、これら3つの側面を通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図ることが求められている。

本研究では、学校として育成を目指す資質・能力を明確にし、教育活動に必要な様々な資源を活用しながらPDCAサイクルを機能させ、教育活動の質的向上を図るカリキュラム・マネジメント推進の在り方を、研究協力校における実践事例を通して県内外に発信していきたいと考えた。

第二年次は、管理職等のリーダーシップを進める組織としてのカリキュラム・マネジメント（「大きなカリ・マネ」）だけでなく、教職員が学級経営や教科指導を基軸として進めるカリキュラム・マネジメント（「小さなカリ・マネ」）を推進することに重きを置いて研究を進めた。なお、研究協力校として、伊達市立堰本小学校と伊達市立梁川中学校の協力を得て研究を進めた。

以上の実践結果から、次のような成果と課題が確認された。

#### (成果)

- 教職員一人一人が、学校の重点目標を踏まえ、学級経営や教科指導を基軸とした資質・能力を育む「小さなカリ・マネ」を行うことで、組織としての「大きなカリ・マネ」に相互作用を生み、学校全体としての教育活動の質の向上が図られることを検証することができた。
- D-CAPサイクルを基軸としたカリキュラム・マネジメント推進のための戦略を、リーフレット「児童生徒の資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントGUIDE」としてまとめることができた。また、それを県内公立学校に配付したり、Webサイト等で発信したりすることで、研修等で活用することができた。

- 養護教諭や事務職員の専門性や立場を生かした視点を取り入れた「チーム学校」としての組織的な取組を推進することができた。

#### (課題)

- 「社会に開かれた教育課程」実現のためには、学校と保護者や地域の連携が必要不可欠であるが、新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、十分に行うことができなかった。今後は、学校の取組を継続的に発信・共有することが必要である。

#### (2) 情報教育チームによる研究

教育の情報化の推進に向けた1人1台端末活用の在り方（第一年次）－新しい文房具として日常的に活用することを通して－

学習指導要領では、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力に位置付けられ、学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実について明記された。本研究では、GIGAスクール構想で示す学びの変容イメージ「ステップ1」の準備段階を「ステップ0」と位置付けて、日常的なICT活用を提案することにより、1人1台端末活用の在り方について研究を進めた。

#### (成果)

- 「ステップ0」と位置付けた、校内体制づくり、校内研修、日常使いの成果は以下のとおりである。
  - ア 校内体制づくり
    - ・ 小グループごとにリーダーを配置して校内研修を行ったことで、ICT校内研修リーダーと一緒に操作する姿や、班員に気軽に尋ねる姿が研修を重ねるごとに多く見られるようになった。
  - イ 校内研修
    - ・ ICT活用のスキルアップを図るために授業支援ソフトとクラウドサービスの体験を行った。実践後のアンケートでは、研修内容を基に活用場面を構想し「授業でICTを活用できた」「授業以外の場面で活用できた」は少数であった。しかし、授業や日常で活用してみたいと感じており、ICT活用の意欲向上に繋がっていたことが分かった。
  - ウ 日常使い
    - ・ 教員や児童生徒が少しずつ日常使いを行うことで、ICT活用のスキルアップに繋がっている。
    - ・ 多くの教員が日常使いの効果を実感するとともに、今後の日常使いについて構想している姿が見られた。

#### (課題)

- これまでのICTは授業のみで活用されていたため、日常使いの有効性を理解したり、その活用場面を構想したりするまでには予想以上に時間がかかり、教員及び児童生徒がICTを日常的に活用できていない。二年次は、成果をまとめたリーフレット「1人1台端末の日常的な利活用に向けて」を活用し「ステップ0」から段階的に教員全体のICT活用のスキルアップを図る必要がある。

- 教員にICT活用のスキルや意識に差があるため、講義、グループ演習、模擬授業等を取り入れながら校内研修を展開していく必要がある。

### (3) 教育相談チームによる研究

メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方(第二年次)～ピア・サポートを踏まえたOJLを通して～

本県では、令和元年度から初任者研修においてメンター方式が導入され、今後は県内でメンター方式による初任者研修実施校が増える見込みである。そこで、本研究においては、第一年次研究の成果をもとに、ピア・サポートを踏まえたOJLの要素を4つに絞り込み、その4つの要素を初任者研修における校内研修に取り入れることを通して、初任者研修を充実させる校内研修の在り方を提案した。

#### (成果)

- 一年次研究の結果から、本研究におけるピア・サポートを踏まえたOJLの要素を明確化し、メンター方式導入校におけるメンターチームによる校内研修に生かしながら実践してきた。メンターチームによる校内研修が初任者の心理的・職務的な支援となり、併せて、支援する側である教職員にとっても学びの場となっていることを確認することができた。
- 校内研修の実践において、ピア・サポートを踏まえたOJLの要素である「本音」「対話」「相互の学び」が把握できた。校内研修がきっかけとなり、学校全体における「個と組織」の成長が促進されるよい循環を生み出していることも確認することができた。
- 二年間の研究で、4つの研究協力校それぞれの実態に応じた工夫を立案・計画・実践に生かし、4通りのモデルとなる校内研修の在り方を提案することができた。改善が必要な場合の軌道修正なども含め、実践的なモデルを示すことができた。

#### (課題)

- メンター方式導入校において、メンターチームによる校内研修をより充実したものにするため、今後も、具体的な研修の形態やメンターチームの編成、研修の内容など、多くの実践例を共有していくことが望まれる。

## 2 長期研究員制度による研究

長期研究員は、年間を通じて各自が研究テーマを設定して計画、実践、評価、まとめを行うこととしている。令和3年度は、14名が研究に取り組み、福島県教育研究発表会では5名が成果を発表した。また、研究結果を『研究紀要』にまとめるとともにWebサイトに掲載した。

## 第3節 研修事業

### 1 研修講座の概要

#### (1) 基本研修

- ア 初任者研修、新規採用者研修  
教職員としての基礎・基本を習得する研修である。
- (7) 幼稚園等教諭
  - a 園内における研修(10日)
  - b 園外における研修(10日)  
宿泊研修(2泊3日)、地区別研修(3日)(各地区)、参観研修(3日)、選択研修(1日)
- (4) 小・中学校教諭
  - a 校内における研修(120時間以上)
  - b 校外における研修(22日)
    - (a) 宿泊研修(6日)  
宿泊研修A(2泊3日)、宿泊研修B(2泊3日)
    - (b) 地区別研修(16日)
      - ・地区別研修A(7日)(各地区)  
一般研修、授業研修、へき地校研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修
      - ・地区別研修B(9日)  
(市町村教育委員会、各学校による計画)  
研究発表集会等研修、一般研修、社会奉仕体験活動研修、他校種園参観研修
  - (7) 高等学校教諭
    - a 校内における研修(150時間以上)
    - b 校外における研修(22日)
      - (a) 宿泊研修(8日)  
基本研修(1泊2日)、一次研修(2泊3日)、二次研修(2泊3日)
      - (b) 教科別研修(3日)  
(教科ごとに初任者配置校を会場として実施)
      - (c) 地区別研修(11日)
        - ・地区別研修A(7日)(各地区)  
一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
        - ・地区別研修B(4日)(各学校による計画)  
特別支援学校研修、他校種及び他校での授業参観等研修
  - (エ) 公立学校実習助手  
(高校教育課所管 高等学校初任者研修と合同開催)
    - a 校内における研修(2日程度)
    - b 校外における研修(9日)
      - (a) 基本研修(1泊2日)
      - (b) 地区別研修(7日)(各地区)  
一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
  - (4) 養護教諭(小・中・高・特別支援)
    - a 校内における研修(15日)
    - b 校外における研修(14日)

- (a) 宿泊研修（6日）  
 宿泊研修A（2泊3日）、宿泊研修B（2泊3日）  
 <小・中学校>
- (b) 地区別研修（8日）
- ・地区別研修A（6日）（各地区）  
 一般研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修、学校訪問研修
  - ・地区別研修B（2日）  
 （市町村教育委員会、各学校による計画）  
 一般研修、企業等体験研修
- <高等学校>
- (b) 地区別研修（8日）
- ・地区別研修A（6日）（各地区）  
 一般研修、カウンセリング研修、社会奉仕体験研修、企業等体験研修
  - ・地区別研修B（2日）（各学校による計画）  
 特別支援学校研修、学校訪問研修
- <特別支援学校>
- (b) 特別支援教育センター等における研修（8日）
- ・特別支援教育センター研修（5日）  
 （特別支援教育センターによる計画）  
 基本研修、カウンセリング研修、特別支援学校教育課程研修
  - ・地区別研修（3日）  
 （特別支援教育センター、各学校による計画）  
 企業等体験研修、学校訪問研修
- (カ) 学校栄養職員
- a 学校等内における研修（15日）
- b 学校等外における研修（13日）
- (a) 宿泊研修（6日）
- ・宿泊研修A（共通研修）（2泊3日）
  - ・宿泊研修B（専門研修）（2泊3日）
- (b) 地区別研修（7日）
- ・地区別研修A（4日）（各地区）  
 一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研修、共同調理場実地研修
  - ・地区別研修B（3日）  
 （市町村教育委員会による計画）  
 一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修
- イ 2年次教員フォローアップ研修
- 初任者研修を修了した教諭に対して、初年度に培った基礎的な力を、日々の教育実践に生きる確かな資質や能力へと高める研修である。
- (ア) 小学校・中学校教諭
- a 校内研修（30時間以上）
- b 校外研修（3日）
- (イ) 高等学校教諭
- a 校内研修（30時間以上）
- b 校外研修（3日）
- (ウ) 公立学校実習助手（高校教育課所管 高等学校2年次教員フォローアップ研修と合同開催）
- a 校外における研修（2日程度）
- ウ 5年経験者研修
- 在職期間が5年に達した教職員を対象とし、専門的知識と技能を高め、資質の向上を図る研修である。
- (ア) 小・中学校教諭
- a 校内研修（5日）
- b 校外研修（3日）  
 宿泊研修（2泊3日）
- (イ) 高等学校教諭
- a 校内研修（5日）
- b 校外研修（3日）  
 宿泊研修（2泊3日）
- (ウ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
- a 校内研修（3日）
- b 校外研修（3日）  
 宿泊研修（2泊3日）
- (エ) 学校栄養職員（隔年実施）
- a 校内研修（2日）
- b 校外研修（2日）  
 宿泊研修（1泊2日）
- エ 中堅教諭等資質向上研修
- 在職期間が10年に達した教職員を対象とし、幅広い識見と豊かな社会性を得させ、併せて学校組織マネジメントに資する能力の育成を図るとともに、組織の中核として運営に資する人材の育成と職能の更なる向上を図る研修である。
- (ア) 幼稚園等教諭
- a 園内研修（7日）
- b 園外研修（5日）  
 保育専門研修（1泊2日）、共通研修（1日）（各地区）、社会体験研修（1日）、選択研修（1日）
- (イ) 小・中学校教諭
- a 校内における研修（15日）
- b 校外における研修（10日）  
 共通研修（各地区）（1日）、教科指導研修（2泊3日）、生徒指導研修（各地区）（1日）、社会体験研修Ⅰ（2日）、選択研修（3日）
- (ウ) 高等学校教諭
- a 校内における研修（15日）
- b 校外における研修（10日）  
 共通研修（1日）、生徒指導研修（1日）、教科指導研修Ⅰ（1日）、教科指導研修Ⅱ（2日）、社会体験研修Ⅰ（2日）、選択研修（3日）
- (エ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
- a 校内研修（4日）
- b 校外研修（6日）  
 共通研修（1日）、宿泊研修（2泊3日）、社会体験研修Ⅰ（1日）、選択研修（1日）

- (オ) 学校栄養職員（隔年実施、令和3年度は実施せず）
  - a 校内研修（4日）
  - b 校外研修（6日）
    - 共通研修（1日）、宿泊研修（2泊3日）、
    - 社会体験研修Ⅰ（1日）、選択研修（1日）

オ 中核教諭研修

学校管理運営の中核となる教務主任、学年主任等の中堅教員に対する学校管理運営上の諸問題の解決や、専門的な職能の向上を図る研修である。

- (ア) 市町村立学校教諭（隔年実施）
  - 教育センター（2泊3日）
- (イ) 県立学校教諭
  - 教育センター（2泊3日）

(2) 職能研修

新任の校長・副校長・教頭・主幹教諭・教務主任に対する職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱがある。

ア 職能研修Ⅰ

- (ア) 市町村立小・中・特別支援学校新任校長・副校長研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (イ) 県立学校新任校長・副校長研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (ウ) 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (エ) 県立学校新任教頭研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (オ) 新任主幹教諭研修会
  - 教育センター（1日）
- (カ) 新任教務主任研修会（小・中・高・特別支援）
  - 各地区（1日）（関係各教育事務所または各中核市教育委員会による計画）

イ 職能研修Ⅱ

- (ア) 複式指導（国語・算数）担当教員研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (イ) 免許外教科担任教員研修会
  - 教育センター（2泊3日）
- (ウ) 校長のためのマネジメント講座
  - 教育センター（1泊2日）
- (エ) 教頭のためのマネジメント講座
  - 教育センター（1泊2日）
- (オ) 小・中学校におけるキャリア教育実践講座
  - 教育センター（1泊2日）
- (カ) 養護教諭専門研修講座（隔年実施、令和3年度は実施せず）
- (キ) 学校栄養職員専門研修講座（隔年実施）
  - 教育センター（2泊3日）

(3) 専門研修

個に即応した指導力の向上を図るために、教科教育、教育相談、情報教育、教科外教育の各講座を設けている。

2 研修講座

(1) 令和3年度研修講座数・受講者数

ア 基本研修

|        | 基本研修  |     |     |     |     | 計     |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|
|        | 初任研   | 2年次 | 5年研 | 中堅研 | 中核研 |       |
| 講座数    | 6     | 3   | 5   | 6   | 2   | 22    |
| （延べ数）  | 51    | 5   | 8   | 22  | 2   | 88    |
| 延べ受講者数 | 2,674 | 321 | 229 | 719 | 47  | 3,990 |

イ 職能研修

|        | 職能研修  |       | 計   |
|--------|-------|-------|-----|
|        | 職能研修Ⅰ | 職能研修Ⅱ |     |
| 講座数    | 6     | 2     | 8   |
| （延べ数）  | 8     | 2     | 10  |
| 延べ受講者数 | 356   | 48    | 404 |

ウ 専門研修

|        | 専門研修 | 計   |
|--------|------|-----|
| 講座数    | 45   | 45  |
| （延べ数）  | 48   | 48  |
| 延べ受講者数 | 639  | 639 |

エ 総計

|        | 基本研修  | 職能研修 | 専門研修 | 計     |
|--------|-------|------|------|-------|
| 講座数    | 22    | 8    | 45   | 75    |
| （延べ数）  | 88    | 10   | 48   | 146   |
| 延べ受講者数 | 3,990 | 404  | 639  | 5,033 |

(2) 令和3年度研修講座実施状況

ア 基本研修

| 講座名                | 会場     | 期日            | 受講者数                                             |       |
|--------------------|--------|---------------|--------------------------------------------------|-------|
| 初任者研修              | 幼稚園等   | 所属園           | 所属園で定めた日程                                        | 77    |
|                    | 小学校    | 所属校<br>教育センター | 所属校で定めた日程<br>7月27日                               | 392   |
|                    | 中学校    | 所属校           | 所属校で定めた日程                                        | 160   |
|                    | 高等学校   | 所属校<br>教育センター | 4月5日、<br>4月15日、4月21日<br>4月28日、5月12日<br>2月2日、2月4日 | 106   |
|                    | 養護教諭   | 所属校<br>教育センター | 所属校で定めた日程<br>11月9日                               | 55    |
|                    | 栄養職員   | 所属校           | 所属校で定めた日程                                        | 4     |
|                    | 地区別研修  | 各地区で開催        | 各地区で定めた日程                                        | 1,880 |
| 2年次教員<br>フォローアップ研修 | 小学校    | 教育センター        | 6月29日、7月30日                                      | 143   |
|                    | 中学校    | 教育センター        | 6月30日                                            | 90    |
|                    | 高等学校   | 教育センター        | 7月5日                                             | 41    |
|                    | 地区別研修  | 各地区で開催        | 各地区で定めた日程                                        | 47    |
| 5年経験者研修            | 小学校    | 教育センター        | 6月9日、6月11日<br>6月15日、6月17日                        | 93    |
|                    | 中学校    | 教育センター        | 10月6日、10月18日                                     | 46    |
|                    | 高等学校   | 教育センター        | 10月6日、10月18日                                     | 61    |
|                    | 養護教諭   | 所属校           | 所属校で定めた日程                                        | 23    |
|                    | 学校栄養職員 | 所属校           | 所属校で定めた日程                                        | 6     |
| 中堅教諭等<br>資質向上研修    | 幼稚園等   | 所属園           | 所属園で定めた日程                                        | 10    |
|                    | 小学校    | 教育センター        | 6月21日、6月23日                                      | 67    |
|                    | 中学校    | 所属校           | 所属校で定めた日程                                        | 44    |
|                    | 高等学校   | 教育センター        | 4月16日、7月2日<br>2月9日                               | 262   |
|                    | 養護教諭   | 所属校           | 所属校で定めた日程                                        | 16    |
|                    | 学校栄養職員 | 教育センター        | 隔年実施                                             | 0     |
|                    | 地区別研修  | 各地区で開催        | 各地区で定めた日程                                        | 320   |
| 中核教諭研修             | 小・中学校  | 教育センター        | 隔年実施                                             | 0     |
|                    | 県立学校   | 所属校<br>教育センター | 10月27日、10月28日                                    | 47    |



イ 職能研修

| 講 座 名 |                           | 期 日         | 受講者数 |
|-------|---------------------------|-------------|------|
| 職能研修Ⅰ | 市町村立小・中・特別支援学校新任校長・副校長研修会 | 4月22日、5月6日  | 105  |
|       | 県立学校新任校長・副校長研修会           | 5月6日        | 11   |
|       | 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会     | 4月27日、5月10日 | 115  |
|       | 県立学校新任教頭研修会               | 5月10日       | 10   |
|       | 新任主幹教諭研修会                 | 5月13日       | 16   |
|       | 新任教務主任研修会                 | 各教育事務所の日程   | 99   |
| 職能研修Ⅱ | 複式指導（国語・算数）担当教員研修会        | 中止          | 0    |
|       | 免許外教科担任教員研修会              | 5月12日       | 46   |
|       | 校長のためのマネジメント講座            | 中止          | 0    |
|       | 教頭のためのマネジメント講座            | 中止          | 0    |
|       | 小・中学校におけるキャリア教育実践講座       | 中止          | 0    |
|       | 養護教諭専門研修講座                | 隔年実施        | 0    |
|       | 学校栄養職員専門研修講座              | 所属校で定めた日程   | 2    |

ウ 専門研修

| 講 座 名 |                                    | 期 日                | 受講者数 |
|-------|------------------------------------|--------------------|------|
| 教科教育系 | 「言葉による見方・考え方」を働かせる小学校国語科指導力向上講座    | 10月4日              | 21   |
|       | 「言葉による見方・考え方」を働かせる中学校国語科指導力向上講座    | 所属校で定めた日程          | 2    |
|       | 授業改善に結び付く国語科の評価問題作成・研究講座           | 所属校で定めた日程          | 3    |
|       | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた国語科の授業づくり講座     | 10月21日             | 9    |
|       | 社会的な見方・考え方を働かせた社会科の授業づくり講座         | 7月20日              | 10   |
|       | 地理歴史科における地理総合・歴史総合の授業づくり講座         | 所属校で定めた日程          | 3    |
|       | 社会科・地理歴史科・公民科における主権者教育の授業づくり講座     | 所属校で定めた日程          | 2    |
|       | 算数科「数学的活動の充実を図る授業づくり」講座            | 所属校で定めた日程          | 1    |
|       | 教える授業から子どもが学ぶ授業に変わる数学科授業改善講座       | 6月18日              | 11   |
|       | 新学習指導要領に対応する単元・授業づくりに生かす数学科評価問題講座  | 7月21日              | 9    |
|       | 生徒の問題解決や意思決定につながる中学校・高等学校統計授業づくり講座 | 10月1日              | 10   |
|       | 理科の見方・考え方やプログラミングを生かした小学校理科講座      | 10月22日             | 15   |
|       | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた中学校理科講座         | 7月21日              | 11   |
|       | 高等学校理科観察・実験・授業づくり講座                | 10月5日              | 13   |
|       | 実習助手のための理科観察・実験講座                  | 7月14日              | 6    |
|       | 発問で授業を活性化させる英語指導講座                 | 10月5日              | 13   |
|       | 統合的な言語活動で伸ばすスピーキング・ライティング指導講座      | 所属校で定めた日程          | 1    |
|       | 教科書を活用して表現力を高める英語指導講座              | 7月21日              | 6    |
|       | I C Tで変わる音楽の授業づくり講座                | 10月14日             | 18   |
|       | 日本伝統音楽のよさを味わう授業づくり講座               | 10月26日             | 12   |
|       | 思考力・判断力・表現力を育む器楽指導法講座（ギター編）        | 6月18日              | 18   |
|       | 楽しみながら力を伸ばす図画工作科指導法講座              | 6月18日              | 12   |
|       | 創造性を育む図画工作・美術の鑑賞指導法講座              | 所属校で定めた日程<br>11月2日 | 18   |
|       | 創造性を育む美術の表現指導法講座                   | 10月14日             | 11   |
|       | 発想と技法を学ぶ書道実技講座                     | 10月29日             | 10   |
|       | 運動が苦手な児童生徒のための体育指導講座               | 所属校で定めた日程          | 7    |
|       | I C Tを活用した保健体育の授業づくり講座             | 11月8日              | 22   |

|        | 講座名                           | 期日                  | 受講者数 |
|--------|-------------------------------|---------------------|------|
| 教科教育系  | 実践力を高める技術科講座（情報・エネルギー変換編）     | 7月29日               | 8    |
|        | 家庭科の指導力向上をめざす基礎・基本講座（被服編）     | 所属校で定めた日程           | 4    |
|        | 消費生活・環境に関する指導の充実をめざす家庭講座（食物編） | 11月11日              | 9    |
|        | 「考え、議論する」小学校道徳科授業づくり講座        | 6月24日               | 6    |
|        | 「考え、議論する」中学校道徳科授業づくり講座        | 7月6日                | 8    |
| 教育相談系  | 学校教育相談基礎講座                    | 6月28日               | 35   |
|        | 学校教育相談実践講座                    | 7月6日、10月12日<br>2月8日 | 15   |
|        | 人間関係づくりに生かす予防・開発的教育相談講座       | 所属校で定めた日程           | 19   |
|        | いじめの理解と対応講座                   | 10月1日               | 31   |
| 情報教育系  | 校務処理に生かす表計算活用講座               | 10月13日              | 27   |
|        | 授業力向上のためのICT活用基礎講座（義務系）       | 11月11日              | 54   |
|        | 授業力向上のためのICT活用基礎講座（県立系）       | 11月2日               | 30   |
|        | グループウェアで活用するG Suite実践講座       | 7月21日               | 30   |
|        | ワークショップで学ぶ情報モラル教育講座           | 所属校で定めた日程           | 12   |
| 教科外教育系 | 子どもたちが支え合い、高め合う学級をつくる学級活動講座   | 所属校で定めた日程           | 15   |
|        | 放射線・防災教育指導力向上講座               | 中止                  | 0    |
|        | 養護教諭のための指導力向上講座（救急処置編）        | 所属校で定めた日程           | 10   |
|        | 養護教諭のための指導力向上講座（保健教育編）        | 11月12日              | 22   |

### 3 指導主事派遣等

令和3年度の指導主事派遣の概要は次のとおりである。

（ ）内は昨年度比。「出前講座」での指導主事派遣件数は、指導主事派遣件数に含む。

|                  |            |
|------------------|------------|
| 指導主事派遣件数         | 117件（43件増） |
| （内訳）小学校          | 23件（5件減）   |
| 中学校              | 12件（増減なし）  |
| 高等学校             | 15件（8件増）   |
| 教育委員会等           | 24件（5件増）   |
| 各種教育団体等          | 43件（35件増）  |
| 「出前講座」での指導主事派遣件数 | 50件        |
| （内訳）小学校          | 15件        |
| 中学校              | 7件         |
| 高等学校             | 11件        |
| 教育委員会等           | 9件         |
| 各種教育団体等          | 8件         |

## 第4節 情報教育事業

### 1 研修講座の概要

小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修（専門研修）の概要は以下のとおりである。

#### (1) ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）

ア グループウェアで活用するG Suite実践講座

#### (2) 授業実践講座（小・中・高・特支）

ア 授業力向上のためのICT活用基礎講座

イ ワークショップで学ぶ情報モラル講座

#### (3) 校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）

ア 校務処理に生かす表計算活用講座

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報扱いや情報セキュリティについても、その重要性・緊急性に言及した。

自主講座においては、6月5日に「基礎から学ぶ表計算入門講座」、8月7日に一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携した、小・中学生対象の「子どものためのロボットワークショップ」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止と研修受講者および関係者の健康と安全を最優先に考慮し、開催を中止した。

また、GIGAスクール構想によるPC1人1台時代に対応するため、これまでの授業実践に1人1台端末を活用するなどデジタルを組み込み、学習活動を一層充実させる校内体制の実現に向けた方法論について理解を深めるために、11月9日と12月9日に「1人1台端末を活用した学習活動を充実させる校内体制づくり講座」を実施した。また、教科情報に関し、新学習指導要領に沿った指導内容及び指導方法についての研修を行うことによって、各学校の教科情報の授業の充実を図るために、11月12日と11月18日に「高等学校「情報I」研修」を実施した。

## 2 施設利用概況

コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習活動の充実を図るために、パソコン研修室の利用は多く、その状況は以下のとおりであった。

### パソコン研修室利用状況

| 利用区分     | 講座数  | 利用日数 | 利用人数 |
|----------|------|------|------|
| 教育センター研修 | 23   | 69   | 692  |
| 講座       | 基本研修 | 11   | 44   |
|          | 専門研修 | 12   | 25   |
|          | 職能研修 | 0    | 0    |
| 教育庁研修    | 2    | 4    | 110  |
| 合計       | 25   | 73   | 802  |

## 第5節 教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による教育相談を受けている。令和3年度の来所相談・電話相談の概要は、以下のとおりである。

### 1 対象別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談日数は119日、電話相談日数は242日であった。

| 種別   | 対象 | 幼    | 小  | 中  | 高   | 一般 | 教員 | 計   |
|------|----|------|----|----|-----|----|----|-----|
|      |    | 来所相談 | 件数 | 0  | 1   | 1  | 6  |     |
|      | 人数 | 0    | 14 | 8  | 33  | 0  | 0  | 55  |
| 電話相談 | 回数 | 0    | 94 | 85 | 109 | 96 | 7  | 391 |

### 2 区分別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」、「学校への不満」の相談が含まれる。

| 種別   | 対象 | 知能<br>学業 | 性格<br>行動 | 身体<br>神経 | 進路<br>適性 | 教育<br>一般 | その<br>他 | 計   |
|------|----|----------|----------|----------|----------|----------|---------|-----|
|      |    | 来所相談     | 件数       | 1        | 19       | 2        | 3       |     |
|      | 人数 | 2        | 21       | 3        | 3        | 26       | 5       | 60  |
| 電話相談 | 回数 | 0        | 47       | 3        | 15       | 177      | 149     | 391 |

### 3 地区別来所相談件数

| 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 県外 | 計  |
|----|----|----|----|-----|----|-----|----|----|
| 17 | 5  | 11 | 13 | 0   | 0  | 9   | 0  | 55 |

## 4 月別相談件数・回数

| 種別   | 月  | 4    | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 1  | 2  | 3  | 計   |
|------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|      |    | 来所相談 | 件数 | 0  | 2  | 1  | 15 | 1  | 1  | 15 | 1  | 2  | 0  |     |
|      | 人数 | 0    | 3  | 1  | 15 | 2  | 2  | 15 | 2  | 2  | 0  | 17 | 1  | 60  |
| 電話相談 |    | 38   | 35 | 37 | 38 | 25 | 30 | 38 | 37 | 26 | 25 | 36 | 26 | 391 |

## 第6節 教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や「所報ふくしま『窓』」を刊行した。

### 1 教育図書・教育資料の収集

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 教育図書購入冊数                | 68冊 |
| 寄贈教育図書等（DVD等を含む、教科書は除く） | 2冊  |
| 定期刊行図書購入冊数              | 26冊 |
| 研究紀要等寄贈冊数               | 91冊 |
| 恵贈定期刊行物数                | 30冊 |

### 2 教育資料の刊行

|           |             |
|-----------|-------------|
| 研究紀要      | 第51集        |
| 所報ふくしま「窓」 | 第181号～第182号 |

### 付記

平成16年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成20年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。令和3年度は研修者なし。



# 第13章 福島県特別支援教育センター

## 第1節 概要

昭和61年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・教育研究、図書・資料の収集と情報提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

今年度は、第6次福島県総合教育計画（改訂版）に基づき、早期からの教育的支援、小・中学校及び高等学校等に在籍する発達障がいを含む特別な支援を必要とする児童生徒等への支援、特別支援学校の専門性の向上と特別支援教育におけるセンター的機能の充実に向けた支援、関係機関との連携等の充実に努めてきた。

### 1 教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの適切な支援策や指導法について共に見つけだすようにした。また、面接、行動観察等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センターでの相談受理件数は160件（昨年度比90.9%）、延べ件数は716件（昨年度比118.5%）であった。障がい種別による相談実件数では、発達障がいの相談が最も多く38.8%、続いてその他（医師による診断のない者）が37.5%であった。これらを合わせると実件数の76.3%を占めている。知的障がいに関する相談は約11.9%であり、合わせると実件数全体の88.2%を占める。相談者は、本人、保護者、教員、関係機関等である。

その他、学校等のニーズに応じて学校・地域等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、教職員が適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言、ケース検討会、校内研修会等の開催・運営等への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉の関係機関、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

### 2 教職員研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「令和3年度福島県公立学校教職員現職計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

特別支援学校の基本研修においては、初任者研修、2年次教員フォローアップ研修、5年経験者研修・中堅教諭等資質向上研修と教職経験年数に応じて、基礎的・基本的な事項を中心とした研修や教員の専門的な知識・能力の深化と授業力・職務遂行能力の向上を図る研修、実践的授業能力の向上と

職務を遂行する上で必要とされる資質・能力の育成を図る研修など、教職経験と一人一人の課題に応じた指導力の向上を目指した研修等を実施した。また、小・中学校や高等学校、特別支援学校等の教員を対象とする職能研修では、特別支援学級等新任担当教員研修会や特別支援教育コーディネーター研修会など、教員一人一人の職責・職能に応じた教育活動に求められる資質・力量の向上を目指した研修を行った。さらに、専門研修の各講座では、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の基礎的な理解と対応、各教科の指導の充実につながる研修を行うなど社会の変化に対応し、複雑化・多様化する教育課程に応じた各種講座を設け実施した。

基本研修の受講者総数は延べ462名（初任者研修、2年次教員フォローアップ研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修）であった。職能研修の受講者総数は延べ483名（特別支援学級等新任担当教員研修会、特別支援学級担当教員（経験3年）研修会、小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会、高等学校特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援学校教務主任・学部主事研修会、特別支援学校実習助手等研修会、通級指導教室担当教員研修会）であった。そして、専門研修講座（16講座）については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、会場収容人数を30名に制限して実施し、受講者総数は延べ428名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（6講座）の聴講者総数は18名であった。

### 3 プロジェクト研究・教育研究事業

本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の研究等を行った。

#### (1) プロジェクト研究

「児童生徒一人一人の資質・能力を育む交流及び共同学習～小・中学校の通常の学級と特別支援学級における実践研究～（一年次）」

インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進において、障がいのある子どもとない子どもが可能な限り共に学ぶことのできる教育環境の整備が求められている。小・中学校においては、教育環境の一つとして、交流及び共同学習を実施しており、その質や効果について実践的な検証の必要性が示されている。

そこで、令和3・4年度プロジェクト研究として、小・中学校において、通常の学級と特別支援学級で行っている交流及び共同学習を取り上げ、特に「共同学習」に焦点を当て、児童生徒一人一人の資質・能力を育むための効果的な指導、支援の在り方を探ることを目指している。

令和3年度は、田村市と会津坂下町の2地区をモデル地区とし、2つの小学校を推進校として共同で実践研究を行い、交流及び共同学習において、児童生徒一人一人の資質・

能力を育むための授業づくりのポイントを整理した。

## (2) 教育研究

「特別支援学校におけるICTの効果的な活用～情報活用能力の育成を踏まえた各教科等の指導の充実～（一年次）」

GIGAスクール構想により、県内の特別支援学校に高速通信環境が実現し、1人1台端末の整備が進められている。学習の基礎となる資質・能力である情報活用能力をどのように育成し、各教科の学習に活用できるようにしていくか、具体的な取組がさらに求められている。

そこで、令和3・4年度の教育研究では、「特別支援学校の授業におけるICTの効果的な活用を通して、情報活用能力を育成し、各教科等の指導の充実を目指す」ことを目的とし、ICTの効果的な活用として、①障がいの状態や特性等を踏まえた個別の支援ツールとしての活用と、②主体的・対話的で深い学びの授業を実践するための工夫としての活用について焦点を当てて進めることとした。授業実践や校内体制の工夫、指導計画の検討などの研究を通して、目標である各教科等の指導の充実や、主体的・対話的で深い学びの充実へとつなげていくことを目指している。

令和3年度は、障がい種の異なる5校の研究協力校の実践とアンケート結果を踏まえ、授業の目的達成に向けて、学習場面における効果的な活用の在り方について整理するとともに、必要な環境や校内体制の整備などについて検討した。

## 4 教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実を目指して広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備・充実を図った。

本年度も特別支援教育の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Webサイトによる紹介等を推進した。

なお、3月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は6,987冊、定期刊行物6種、教育資料数5,188点である。

## 5 広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報及び資料、並びに本センターの事業内容を広報誌や各種発行物として関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓発や理解推進を図った。併せて、事業内容を多くの方々に伝えるため、Webサイトでも情報提供に努めた。

## 6 情報教育事業

専門研修講座を中心に、GIGAスクール構想の実現を踏まえた特別支援教育におけるICT活用に関する研修の企画運営を行った。障がいのある児童生徒の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るためのICT活用を推進できるよう努めた。

# 第2節 教育相談事業

## 1 相談対象

相談は、障がいのある、又はその心配のある乳幼児、児童、生徒及びその保護者や関係者を対象として実施した。相談の障がい種別は次のとおりである。

- 視覚障がいにかかわる相談
- 聴覚障がいにかかわる相談
- 知的障がいにかかわる相談
- 肢体不自由にかかわる相談
- 病弱・身体虚弱にかかわる相談
- 言語障がいにかかわる相談
- 情緒障がい（場面緘黙等）にかかわる相談
- 発達障がいにかかわる相談
- その他（医師による診断のない者）の相談

## 2 形態

### (1) センターでの相談

電話での申込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、新型コロナウイルス感染症防止に努めながら、相談者の来所による教育相談を行った。また、相談の内容等によっては電話のみによる相談も行った。

### (2) 要請を受けての学校・地域支援

困難な事例や特に必要な場合には保育所・幼稚園、認定こども園、小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校から支援要請を受けて学校等に出向き、現地においての授業参観やケース会議を通しての相談を行った。

## 3 現状と課題

特別支援教育については、教育的支援や合理的配慮の提供を組織的に実施している園や学校も増えている印象がある。教育相談を通して、よりよい支援の目的や支援の内容の見直し等で本センター教育相談と連携を図り、適切な指導や必要な支援を考えている。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが本センターを紹介して相談につながっているケースもある。一方で、本人・保護者と学校との情報共有や話し合いが十分ではなく、学びの場の変更に関する情報提供が十分とはいえない事例や、本人の困難な点の理解や合理的配慮の提供について建設的対話の場が設定されにくい事例なども複数見られる。本センターの教育相談においては、そのような学校・地域等の組織と共に、困難さの背景・要因及び支援内容等を検討するケース会議等の取組をしているが、今後、学校等の支援体制の整備に向け校内の教員の理解や連携についても充実させていくために、学校や地域等がどのように寄与していくのか、さらに検討が必要である。

相談の主訴は、幼児については、養育や就学に関連した多様な学びの場の情報提供が多く、小学生では、養育や学習面の対応についての相談が多い。また、小学生から高校生までの幅広い年齢層で、学校生活への不適応による、「登校しぶり」「不登校」の相談や、「合理的配慮の理解や提供内容」につい

での相談がある。子どもが困難を感じている背景・要因を探り、本人の考えを確認しながら、必要な支援内容を整理している。また、小学校高学年から高校生については、できていることやがんばっていること、自分の考え方の傾向や周囲の

人の多様な考え方を知り、自分はどのようになりたいか、困難な場面でどのように対応するとよいかなどの自己理解を促す相談も重ねていく必要があり、そのことを意識的に保護者や学校関係者と共有することも大切にしている点である。

<年齢・学校別相談件数>

| 年齢・学校      |     | 乳幼児(歳) |    | 小学校(学年) |    |    |    |    |     | 中学校(学年) |    |    | 高等学校(学年) |    |    | 一般他 | 計   |
|------------|-----|--------|----|---------|----|----|----|----|-----|---------|----|----|----------|----|----|-----|-----|
|            |     | 0～4    | 5  | 1       | 2  | 3  | 4  | 5  | 6   | 1       | 2  | 3  | 1        | 2  | 3  |     |     |
| センター<br>相談 | 実件数 | 8      | 5  | 12      | 6  | 7  | 14 | 15 | 18  | 10      | 16 | 7  | 9        | 8  | 5  | 20  | 160 |
|            | 延件数 | 18     | 33 | 74      | 56 | 33 | 76 | 50 | 101 | 22      | 59 | 49 | 29       | 70 | 12 | 34  | 716 |

<障がい種別相談件数>

| 障がい種       |     | 視覚障がい | 聴覚障がい | 知的障がい | 肢体不自由 | 病弱 | 言語障がい | 情緒障がい | 発達障がい | その他 | 計   |
|------------|-----|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-----|-----|
| センター<br>相談 | 実件数 | 2     | 9     | 19    | 2     | 2  | 4     | 0     | 62    | 60  | 160 |
|            | 延件数 | 2     | 18    | 109   | 9     | 2  | 5     | 0     | 401   | 170 | 716 |

<地区別相談件数>

| 地区  | 県北  | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | その他 | 計   |
|-----|-----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|
| 延件数 | 268 | 355 | 20 | 38 | 0   | 0  | 22  | 13  | 716 |

### 第3節 教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上を目指し、講座内容の一層の充実を図った。

- 専門研修講座を16講座設け、そのうち6講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。
- 講義、演習、協議という流れで進めることで、理論から実践へ内容を展開することができ、研修者の理解を深めることができた。演習での話し合い活動や協議では、新

型コロナウイルス感染防止に配慮し、受講者同士の間隔を密にならないよう工夫して実施した。

- 特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。
- 調査研究や教育研究等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

#### 1 教職員の研修講座

##### (1) 専門研修

| 講座名                                                                | 期日及び期間 | 受講者数(人) |
|--------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 発達障がいのある幼児児童生徒の基礎的な理解と対応                                           | 7月1日   | 29      |
| 発達障がいのある児童生徒のライフステージに応じた支援を考える                                     | 10月13日 | 29      |
| 障がいのある子どもを支える保護者や関係機関との連携                                          | 9月29日  | 26      |
| 通常の学級に在籍する多様な児童生徒が共に学ぶための指導の充実<br>～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりと合理的配慮～ | 9月22日  | 22      |
| 多様な学びを支えるアセスメント                                                    | 9月14日  | 27      |
| 生徒の進路実現と生涯にわたる支援の充実 ～生涯にわたる支援のために～                                 | 8月24日  | 28      |
| チーム力向上のための知識・理論 ～チームづくりのヒント：OJL～                                   | 10月7日  | 23      |
| 自立活動の指導の充実 ～新学習指導要領を踏まえて～                                          | 7月15日  | 25      |
| 知的障がい教育における各教科の指導の充実 ～特別支援学校の各教科(国語科編)～                            | 8月27日  | 30      |
| 特別支援学校における重度・重複障がいのある児童生徒の理解と授業づくり                                 | 7月8日   | 21      |
| 特別支援学校における授業力向上 ～学習指導要領を踏まえた指導と評価～                                 | 9月10日  | 27      |
| チーム力向上のためのメンタルヘルス                                                  | 10月12日 | 28      |
| 特別支援教育に活かすICT                                                      | 9月16日  | 29      |

| 講座名                                                            | 期日及び期間 | 受講者数(人) |
|----------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 連続性のある多様な学びの場のための小・中学校、高等学校、特別支援学校の連携<br>～切れ目のない支援のための学校間の引継ぎ～ | 7月27日  | 28      |
| 特別支援学級の学級経営 ～教育課程と自立活動の授業づくり～                                  | 8月6日   | 30      |
| 幼児期から児童期への支援を継続する幼小連携 ～子どもの発達を支える～                             | 8月17日  | 26      |
| 計                                                              |        | 428     |

(他に公開講座に18名が参加)

## (2) 基本研修

| 研修名                         | 期日及び期間                                      | 受講者数(人) |
|-----------------------------|---------------------------------------------|---------|
| 特別支援学校初任者研修一般研修             | 4月14日～15日                                   | 49      |
| 特別支援学校初任者研修カウンセリング研修        | 6月8日～10日                                    | 44      |
| 特別支援学校初任者研修宿泊一次研修           | 7月28日～30日                                   | 41      |
| 特別支援学校初任者研修教育課程別研修          | 9月8日                                        | 42      |
| 特別支援学校初任者研修学部別研修            | 11月10日                                      | 41      |
| 特別支援学校初任者研修宿泊二次研修           | 2月2日～4日                                     | 41      |
| 特別支援学校2年次教員フォローアップ研修教科等指導研修 | 8月18日<br>8月20日                              | 64      |
| 特別支援学校5年経験者研修               | 6月14日～15日(1班)<br>6月16日(合同)<br>6月17日～18日(2班) | 61      |
| 特別支援学校中堅教諭等資質向上研修 共通研修      | 6月21日～22日(1班)<br>6月24日～25日(2班)              | 40      |
| 特別支援学校中堅教諭等資質向上研修 教科等指導研修   | 1月11日～12日(1班)<br>1月13日～14日(2班)              | 39      |
| 計                           |                                             | 462     |

## (3) 職能研修

| 研修名                     | 期日及び期間        | 受講者数(人) |
|-------------------------|---------------|---------|
| 特別支援学級等新任担当教員研修会        | (共通) 4月       | 98      |
|                         | (地区別) 10月～11月 | 83      |
| 特別支援学級担当教員(経験三年)研修会     | (地区別) 8月～9月   | 45      |
| 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会  | (地区別) 5月      | 125     |
| 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会   | 5月12日         | 43      |
| 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会 | 5月18日         | 24      |
| 特別支援学校実習助手等研修会          | 8月3日          | 6       |
| 通級指導教室担当教員研修会           | 7月13日         | 36      |
| 特別支援学校教務主任・学部主事研修会      | 6月29日         | 23      |
| 計                       |               | 483     |



## 第4節 プロジェクト研究・教育研究事業

### 1 プロジェクト研究

「児童生徒一人一人の資質・能力を育む交流及び共同学習～小・中学校の通常の学級と特別支援学級における実践研究～（一年次）」

#### (1) 研究の趣旨と目的

インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進において、障がいのある子どもとない子どもが可能な限り共に学ぶことのできる教育環境の整備が求められている。小・中学校においては、教育環境の一つとして、交流及び共同学習を実施しており、小・中学校の学習指導要領にもその必要性が示されている。一方で、国立特別支援教育総合研究所研究成果報告書「交流及び共同学習の推進に関する研究」（令和3年3月）では、「小・中学校における通常の学級と特別支援学級との交流の実践記録、実践研究については少ない状況があり、交流及び共同学習の質や効果について実践的、実証的な検証が課題となっている」との概観が述べられている。

そこで本研究では、小・中学校において通常の学級と特別支援学級で行っている交流及び共同学習を取り上げ、児童生徒の学びの充実に向けた実践的な研究に取り組むこととした。特に、「共同学習」の側面に焦点を当て、ユニバーサルデザインの視点による授業づくりや合理的配慮の提供など、児童生徒一人一人の資質・能力を育むための効果的な指導及び支援の在り方を探り、授業の充実を図ることで、障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が「共に学ぶ」環境の構築を目指すこととした。

#### (2) 研究の経過

2つのモデル地区の市町教育委員会、研究協力校（推進校・協力校）と連携を図りながら実践研究を行った。

【田村市】 田村市立滝根小学校（推進校）  
田村市立滝根中学校（協力校）

【会津坂下町】 会津坂下町立坂下南小学校（推進校）  
会津坂下町立坂下中学校（協力校）

また、県教育庁特別支援教育課、当該地区を管轄する各教育事務所、域内の県立特別支援学校の各関係機関とも連携しながら研究を行った。

さらに、研究アドバイザーを宮城学院女子大学教授 梅田真理氏に依頼し、指導助言をいただきながら研究を進めた。

ア 小・中学校における交流及び共同学習の現状と課題の把握

##### (ア) 関係機関による情報収集

地区ごとに、実施検討協議会を開催し、推進校・協力校から、交流及び共同学習の各校の現状と課題について報告いただき、各関係機関と情報を共有した。

##### (イ) 実践している教員からの聞き取り

各推進校で特別支援学級を担任している教員に、交流及び共同学習に参加する児童の状況や学習の進め方と評価、取組の感想等について聞き取りを行った。

##### (ウ) アンケートの実施

推進校・協力校の4校で、交流及び共同学習に関する教員の意識や現状に関する調査を行い、今後の交流及び共同学習の推進に向けた課題を明確にした。

イ 児童生徒一人一人の資質・能力を育む交流及び共同学習の授業づくり

##### (ア) 田村市立滝根小学校の交流及び共同学習の取組

テーマ：特別支援学級（知的障がい）の児童が共に学ぶための理科の授業づくり

##### (イ) 会津坂下町立坂下南小学校の交流及び共同学習の取組

テーマ：特別支援学級（自閉症・情緒障がい）の児童が共に学ぶための外国語科の授業づくり

ウ 小・中学校における交流及び共同学習の組織的・計画的な取組

##### (ア) 交流及び共同学習を支える校内体制の整備

○ 推進校や協力校において、交流及び共同学習の現状や課題について、当センターが研修を行った。

○ 各推進校においては、通常の学級や特別支援学級の担任、支援員との連携を密にして、特別支援学級の児童が通常の学級で学ぶときに必要な支援や適切な指導について検討し、授業に生かした。

##### (イ) 推進校研究公開による研究成果の波及

各推進校においては研究公開を実施し、地域の幼稚園、保育所、小学校、中学校の先生方への授業公開やパネルディスカッションを実施し、本研究について周知を図る機会を設けた。

### (3) 研究のまとめ

ア 成果

##### (ア) 小・中学校における交流及び共同学習の現状と課題の把握

アンケートや聞き取りを通して、交流及び共同学習についての現状の把握と課題の整理を行った。

○ 実際に指導に当たる教員は、「交流の側面」は意識しているが、「共同学習の側面」についてはあまり意識が向いていない現状がある。

○ 学年が上がるにつれて、学習内容の理解に差が生じることで、教員も児童生徒も難しさを感じる人が多い。

○ 児童生徒の障がいに応じた支援方法や評価についての校内での共通理解が不十分である。

##### (イ) 児童生徒一人一人の資質・能力を育む交流及び共同学習の授業づくり

○ 対象児童は、適切な配慮があることで、見通しをもって安心して学習する姿が見られた。また、友達と学ぶことで、学習への意欲が高まり、学習したことへの満足感や達成感を味わっている姿も見られた。

○ ユニバーサルデザインの視点の授業により、通常学級、特別支援学級の児童生徒とも学習内容の理解を深めている様子が見られた。教員が、特別支援学級の児童を含めて、どの児童にとっても分かりやす

い授業を心がけてきたことや、学びやすい学習環境のための配慮を大切にしながら、交流及び共同学習に取り組んだ成果と考える。

(ウ) 小・中学校における交流及び共同学習の組織的・計画的な取組

- 交流及び共同学習の授業づくりに関わっている教員が、対象児童の教育的ニーズ等の情報を共有し、連携して対象児童に適切な指導や必要な支援を行う姿が見られた。交流及び共同学習のこれまでの良い取組を整理し、学校として継続して取り組むことが大切であると考え。

## イ 課題

(ア) 学びの充実に向けて

- 「共同学習の側面」に焦点を当てた実践事例についての整理
- 特別支援学級の児童生徒の実態に応じた適切な指導目標や評価の在り方についての検討
- 各教科等の学習状況を捉えた授業の改善

(イ) 体制の整備に向けて

- 児童生徒の情報を共有し、連携するための校内体制の在り方の検討
- 特別支援学級の教育課程、個別の教育支援計画・個別の指導計画を踏まえた計画、実践、評価・改善のプロセスの整理

## 2 教育研究

「特別支援学校におけるICTの効果的な活用～情報活用能力の育成を踏まえた各教科等の指導の充実～（一年次）」

### (1) 研究の趣旨と目的

GIGAスクール構想によりタブレット端末が配当され、特別支援学校小中学部では1人1台端末環境が実現した。学習指導要領に明記されている、学習の基盤となる資質・能力の1つである情報活用能力をどのように育成し、各教科等の学習に活用できるようにしていくか、具体的な取組がさらに求められることとなった。

また、本県としても「教育のICT化」を進めており、ふくしまICTデータ利活用社会推進プランにおいて、「学習活動において児童生徒が積極的にICTを活用することで、情報を活用していく能力の向上に努める。」と示されている。

このような背景を踏まえ、ICTをどのように活用し学びの充実を図るかについて、本県の特別支援学校が、教科等横断的な視点で効果的にICTを活用することによって、情報活用能力を育成し、主体的・対話的で深い学びの充実を目指すことができるよう、令和3・4年度の教育研究として特別支援学校におけるICT活用の在り方を探ることとした。

本研究を通して、特別支援学校においてICTを効果的に活用するための授業づくりに関する教員の指導力向上や、情報活用能力を教科等横断的に育成する教育課程の工夫、ICTを学校全体で活用するための校内体制の整備・

充実が促進されると期待される。

### (2) 研究の経過

ア 授業づくりによるICTの効果的な活用の検討

研究に当たり、障がい種の異なる視覚支援学校、聴覚支援学校、郡山支援学校、あぶくま支援学校、須賀川支援学校の5校を研究協力校とし、研究協力校連絡協議会を中心として、授業におけるICTの効果的な活用の検討を行った。

研究授業の実施に当たっては、授業実施前に、授業者が授業構想をシートにまとめ、それをもとにオンラインで打合せを行った。検討の際には、授業者のとらえた児童生徒の実態と授業でねらいたいこと、ICT活用でどのような効果を期待しているかを聞いた上で、授業者の意図や授業の目標をより達成に向かわせるようなICTの活用について、質問や確認をしたり、アイデアを出し合ったりすることで整理を行った。事前打合せで確認したことを踏まえ、授業者が当日までに必要な修正・改善を加え、研究授業を実施した。授業後には、授業者を中心に事後検討を行い、授業の目標の達成状況や、ICT活用の効果について確認するとともに、よりよい指導に向けた工夫について、話し合う機会を設けた。

各研究協力校との協議をもとに、授業におけるよりよいICT活用について、以下のようにまとめた。

(ア) 授業の目標にせまるICTの活用について、「意図を明確にする」「使用するポイントをしぼる」「児童生徒からのフィードバックを生かす」ことができたとき、より効果的だった。

(イ) 児童生徒の活用状況から、「分かって取り組める環境設定や準備」「分からないときのフォロー」「自分から操作したくなる簡単さ、面白さ」が整っているときに、よりよい学びの姿が見られた。

(ウ) 主体的な学びを考えると、「やるべき活動が明示されている」「どのように活用するかが分かっている」「十分に活動できる時間や量が確保されている」ときに、より主体的に学ぶことができた。

ICTの活用により学びの質を向上させるためには、とにかく使えばよいというのではなく、個々の教育的ニーズを踏まえた上で、「授業の構想段階で活用を意図的に設定する」「個々の使用を支える環境や支援体制を整える」「主体的な活用・協働的な活用を心がける」といったことが重要であることが分かった。

イ アンケートによるICT活用の促進要因／阻害要因の分析

研究協力校の教諭・講師を対象として、ICT活用についての現状を調査するアンケートを実施した。対象が全487名で有効回答が287件だった。質問から分かったことの概要は、以下の通りである。なお、アンケート全体を通して、障がい種別の影響は確認されず、ICT活用についての傾向は、障がい種別が異なっても共通していることが確認された。

(ア) 学習場面によるICTの活用状況

- 「一斉学習での教員による教材の提示」「個別学習での個に応じる学習」「個別学習での調査活動」は半数以上の教員が活用していた。

- 極端に少ない項目は「個別学習での家庭学習」と「協働学習での協働での意見整理」で、活用している教員は1割を下回った。

(イ) 主体的・対話的で深い学びを実現する工夫

- 主体的な学びのうち「興味や関心を高める」工夫や、対話的な学びのうち「多様な情報を収集する」について、半数以上の教員が行っていた。

(ウ) 優先課題の分析

- (ア)と(イ)の回答を組み合わせ、重回帰分析を行うと、優先的に行うと効果的と思われる項目として、以下の学習活動が挙げられた。本県の特別支援学校においては、これらの活動により多く取り組むことで、ICT活用が促進されると考えられる。

- ・ 一斉学習での教員による教材の提示
- ・ 個別学習での調査活動
- ・ 個別学習での表現・制作
- ・ 協働学習での発表や話し合い
- ・ 協働学習での協働での意見整理

(エ) 記述部分の整理から

- ICTの授業での活用の量や質は、教員のICTスキルと関連している傾向が示唆された。また、学習場面での活用が多い教員ほど、課題が明確で具体的になる傾向がある。
- ICTを活用していない教員ほど授業や活用のモデル提示を望み、活用している教員ほど、自由で自主的な使用ができる環境を望む傾向がある。

ウ 課題分析による効果的な促進に向けての方向性の検討

(ア) 第2回研究協力校連絡協議会から

- 「授業づくりの体制に関すること」の協議の中では、ICT活用に関する全体計画の作成や、情報活用能力についての校内での確認が必要であるという意見が出された。

- 「ICT活用指導力の向上に関すること」では、「全職員が必要なときに抵抗なくICTを使える」校内体制を考えたとき、マニュアル作成や研修の工夫や、使ってみたいという意欲を喚起する取組の重要性などが挙げられた。

### (3) 研究のまとめ

ア 成果（研究協力校との取組から）

(ア) 授業実践から

- ICTを活用した授業づくりの実践と振り返りの協議から、特別支援学校においてICTを活用した授業を行う際の要点を整理することができた。

- 障がいの種類や程度に関わらず、授業者が授業の中で児童生徒に何を身に付けさせたいか、また、そのために学習環境や教材をどのように整理するかが

重要になることが、実践から明らかになった。

(イ) アンケートから

- 特別支援学校の障がい種別に関わらず、本県の特別支援学校において、主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用の方向性を示すことができた。

- 教員の授業におけるICT活用の量によって、重点を置くポイントが異なることが、分析から見えてきた。

イ 課題

(ア) 授業における活用と校内体制の充実

- 授業づくりの視点の整理と、授業における活用についての検証（情報活用能力を生かした授業のブラッシュアップ）

- 情報活用能力の育成を学校全体で行うための全体計画の作成

- ICT活用を促進する校内体制の工夫

## 3 長期研究員制度による研究

平成29年度より長期研究員制度が復活した。長期研究員は、各自が研究テーマを設定して、計画、実践、評価をして2年次に研究をまとめ、発表・報告を行うこととしている。令和3年度は4名が研究に取り組み、福島県特別支援教育センター研究発表会では2年次の2名が研究のまとめを発表し、1年次の2名がポスター発表で中間報告した。また、研究成果を「研究紀要」にまとめた。

## 第5節 教育図書・資料の収集・提供事業

### 1 教育図書・資料の収集・整理

#### (1) 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度23冊の新規購入及び受贈の結果、蔵書数は6,943冊になった。その種類は、特別支援教育関係図書が2,022冊、その他の図書が4,921冊である。特別支援教育関係図書については、利用しやすいように障がい別（視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語障がい、情緒障がい、重複障がい等）に配架している。

#### (2) 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は6種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

#### (3) 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した273冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

## 第6節 広報・啓発事業

### 1 所報「特別支援教育」(74号)

#### (1) 内容

- ア 巻頭言  
「学ぶことの意味」  
福島県特別支援学校長会 会長 橋本 淳一
  - イ 特集「学びの連続性や切れ目のない支援体制の充実に  
向けて」
    - (ア) プロジェクト研究から「交流及び共同学習の推進校  
の取組について」
    - (イ) 教育研究から「特別支援学校におけるICTの効果  
的な活用の在り方」
    - (ウ) 実践報告(教育相談)「不登校児童生徒の思いや願  
いを大切にされた教育相談」
  - ウ 研修ノート
    - (ア) 研修講座から「特別支援教育コーディネーターの役  
割について」
    - (イ) 学校教育指導委員から
  - エ 随想
    - (ア) 各学校の先生方から
    - (イ) 2年間の長期研究を通して
  - オ 研修報告
    - (ア) 福島大学教職大学院での研修から
  - カ インフォメーション
    - (ア) 教育相談「相談者の思いに寄り添った教育相談」
    - (イ) 教員研修「安心と充実を目指して」
    - (ウ) 学校・地域支援「子どもたちのより良い学びの実現  
に向けて」
    - (エ) 指導主事の業務紹介
  - キ 編集後記
- (2) 規格、ページ等
- ア 規格A4判
  - イ ページ数25ページ
  - ウ Webサイトで公開
  - エ 各関係機関へ配付

### 2 研究紀要「第35号」

#### (1) 内容

- ア プロジェクト研究  
「児童生徒一人一人の資質・能力を育む交流及び共同  
学習～小・中学校の通常の学級と特別支援学級における  
実践研究～(一年次)」
- イ 教育研究  
「特別支援学校におけるICTの効果的な活用～情報  
活用能力の育成を踏まえた各教科等の指導の充実～  
(一年次)」
- ウ 長期研究員研究
  - 「図形領域につまづきの見られる児童への算数科の  
指導の在り方～つまづきの要因の把握と図形の感覚を

育む指導と支援～(一年次)」

- 「特別支援教育の視点を取り入れた国語科の指導の  
在り方～『読むこと』につまづく要因をとらえた支援  
の検討～(一年次)」
- 「対人関係に困難さを抱える児童の背景をとらえた  
支援の在り方～児童の行動の見方の整理と支援策の検  
討～(二年次)」
- 「特別な教育的支援を必要とする子どもに『できた』  
という実感を生み出す指導・支援の在り方～達成可能  
な目標づくりの支援と『できた』を実感できる場面の  
意図的設定～(二年次)」

#### (2) 規格、ページ、部数

- ア 規格A4判
- イ ページ数70ページ
- ウ Webサイトで公開
- エ 各関係機関へ配付

## 第7節 情報教育事業

### 1 ICT活用支援

専門研修講座において、「特別支援教育に活かすICT」を  
実施し、講義や教材・支援機器・ICT等の活用についての演  
習を行い、特別支援教育における教材・支援機器等の活用促  
進と実践力や専門性の向上を図った。

また、初任者研修の基本研修において、情報モラルに関す  
る講義を実施した。

### 2 情報機器活用

専門研修講座を中心に、支援機器に関する情報提供やWeb  
カメラ等の貸出を行った。また、所内の機器の拡充を行い、オ  
ンライン配信等への対応を行った。

### 3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実

GIGAスクール構想で導入された学校の高速度インターネット  
環境と同等の光回線のWi-Fiネットワークを構築した。

Webサイトで本センターの事業内容を多くの方々に伝え  
るため、研修や研究の広報充実に努めた。

相談係と協力し、「教育相談だより」の掲載を行った。また、  
教育研究担当者と協力し、「教材・支援機器ポータル」に  
ICT教材の活用事例の追加を行った。

- 本センターWebサイトへのアクセス状況  
Googleアナリティクスの計測による、閲覧されたペー  
ジ総数 33,542 ページビュー  
(令和3年4月26日～令和4年3月31日)



---

---

## 令和3年度実績 教育年報

発行 令和4年12月6日  
編集発行 福島県教育委員会  
福島市杉妻町2-16  
TEL (024) 521-7759

---

---